

川  
端  
山  
下  
遺  
跡

川 端 山 下 遺 跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書



一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

二〇一七・三

国土交通省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2017.3

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 川 端 山 下 遺 跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

2017.3

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団





1. 川端山下遺跡遠景(○印 南西から)



2. B5区2面細ヶ沢川旧流路右岸屋敷跡と推定される3、4号溝(北西から)

## 口絵 2



3. 中世の出土遺物



4. 吊り金具(拡大) 表(左) 裏(右)

5. 南鏡二朱銀形土製品 表(左) 裏(右)



6. 前橋藩窯製の陶磁器

## 序

群馬県の幹線道路である一般国道17号は、埼玉県深谷バイパスから伊勢崎・前橋の赤城山南麓を經由する「上武道路」として整備が進められてきました。「上武道路」は、物流の効率化、生活圏の拡大など産業、経済、観光の発展を担う道路として県民のみならず首都圏の人々の期待を集めています。

本道路の整備地域には、多くの遺跡が所在しており、改築工事の推進に伴い発掘調査が実施されてきました。発掘調査は79遺跡におよび65冊の報告書が刊行されています。本書は、平成24・25年度の川端山下遺跡における発掘調査の成果をまとめたものです。

川端山下遺跡は、群馬県の中央部、赤城山南西麓にある広瀬川低地帯に立地しています。発掘調査では、古墳時代の水田、古代の住居跡、中・近世の竪穴状遺構、溝等が確認されており、当時の人たちの土地利用と生活の様相を明らかにすることができました。

発掘調査から報告書刊行に至るまでに、国土交通省、群馬県教育委員会文化財保護課、前橋市教育委員会文化財保護課をはじめとする関係機関及び地元関係者の皆さまには、多大なご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり衷心より感謝申し上げます。合わせて本報告書が地域の歴史を学ぶ資料として多くの皆様に活用されることを願いまして、序といたします。

平成29年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 中野三智男



# 例 言

1. 本書は、一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)による、川端山下遺跡の発掘調査報告書である。
2. 川端山下遺跡は、群馬県前橋市川端町根岸30-1・4、31、32-1、34-1・2、36-1・4・5、38-1、39-1、40-1、46-1、52-1、53-1、54-1・4、道東163-1、164-1・3・4・6・7、165、山下177-1、178-1他に所在する。
3. 事業主体 国土交通省関東地方整備局
4. 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 整理主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
6. 発掘調査の体制と期間は次のとおりである。

平成24年度

調査担当 麻生敏隆(上席専門員) 長澤典子(主任調査研究員)

遺跡掘削請負工事 技研測量設計株式会社

地上測量 技研測量設計株式会社

履行期間 平成24年4月1日～平成25年3月31日

調査期間 平成24年12月1日～平成25年3月31日

調査面積 2,279.76㎡

平成25年度

調査担当 関根徹二(上席専門員・調査統括) 麻生敏隆(上席専門員)

遺跡掘削請負工事 技研測量設計株式会社

地上測量 技研測量設計株式会社

履行期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日

調査期間 平成25年4月1日～平成25年6月30日

調査面積 5,752.00㎡

7. 整理事業の体制と期間は次のとおりである。

平成28年度

整理担当 都木直人(主任調査研究員)

履行期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日

整理期間 平成28年4月1日～平成28年9月30日及び平成28年12月1日～平成29年3月31日

8. 本報告書作成関係者

編集 都木直人(主任調査研究員)

本文執筆 第1章1～3節 小島敦子(事業局長)・都木直人(主任調査研究員)

第1章4節・第2～4章 都木直人(主任調査研究員)

デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)

遺構写真 発掘調査担当者

遺物写真 石坂茂(専門調査役)、大西雅広(上席専門員・資料統括)、関邦一(補佐(総括))、津島秀章(資料2課長(総括))、都木直人(主任調査研究員)



遺物観察・観察表執筆

縄文・弥生土器	石坂 茂(専門調査役)
土師器・須恵器・土製品	神谷佳明(専門調査役)
陶磁器	大西雅広(上席専門員・資料統括)
石器・石製品	津島秀章(資料2課長(総括))
金属製品・木製品	関 邦一(補佐(総括))
保存処理	関 邦一(補佐(総括))

9. 石器・石製品の石材同定については飯島静男氏(群馬地質研究会会員)をお願いした。
10. 発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
11. 発掘調査および報告書の作成にあたっては、次の方々に有益な助言と指導を賜った。記して感謝の意を表する次第である。(五十音順、敬称略)

群馬県教育委員会文化財保護課、前橋市教育委員会文化財保護課

# 凡 例

1. 本書で使用した遺構平面図の座標は、全て国家座標「世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第IX系)」を用いている。挿入中に使用した方位は、座標北を表している。
2. 遺構平面図や遺構断面図に示した数値は標高であり、単位はメートルである。
3. 遺構平面図、遺物実測図の縮尺は各図にそれぞれ示した。遺物写真の縮率は原則として遺物実測図と同率とした。
4. 遺物番号は出土遺構ごとの通し番号とし、器種・分類順に記載した。番号は遺構図、遺物実測図、遺物観察表、遺物写真図版とも一致している。
5. 本書の図版に使用したスクリーントーン及びマークは、次のことを示す。

遺構平面図 灰  炭  焼土  粘土  硬化面  攪乱 

遺物実測図 灰釉  土器断面接合痕 ▼

石器実測図 摩耗痕の範囲 ▼ 摩耗痕の範囲(断面図) ~~~ 火打石潰れ部 …

6. 遺構平面図中の遺物記号は、次のことを示す。

● 土器・陶磁器 ○ 土製品 ▲ 石器・石製品 ■ 鉄・金属製品

7. 遺構の主軸方位・走向は、長軸方向で北から東西90°以内を主軸とした。表記は北を基準とし、東に傾いた場合N—○°—Eとした。遺構の面積は、下端を計測した。遺構・遺物の計測値で、全体を計測できないものについては、現存の値を記載し( )で表し、途中で途切れている溝等の全長を推測した場合は[ ]で表した。
8. 住居の主軸方位については、カマドのある住居については、カマドの設置された方向を主軸として捉えた。カマドのない住居については、長軸方向を主軸とした。住居面積の計測はプランメーターで3回行いその平均値を採用した。
9. 土層断面の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖1988年版』に基づいている。

10. 遺物観察表の記載方法は以下のとおりである。

・計測値の( )は現存値を、[ ]は推定値を示す。

・計測値は、口：口径、底：底径、台：高台径、高：器高、長：長さ、厚：厚さ、幅：幅み径、孔：孔径、脚：脚底部径(以上単位はcm)、重：重量(単位はg) 最：最大径と略記した。

・胎土観察における砂粒の表現は、0.2mm以下を細砂粒、0.2～2mmを粗砂粒、2mm以上を小礫とした。

色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖1988年版』に基づいている。

11. 降下火山灰の名称と年代は以下の通りである。

As-A：浅間山Aテフラ(天明三(1783)年)、As-B：浅間山Bテフラ(天仁元(1108)年)、As-Kk：浅間川川テフラ(12

世紀前半か)、Hr-FP：榛名山二ツ岳軽石(6世紀中葉)、Hr-FA：榛名山二ツ岳火山灰(5世紀末～6世紀初頭)、

As-C：浅間山Cテフラ(3世紀末～4世紀初頭)

12. 本書で掲載した地図は、下記のものを使用した。

国土地理院 地勢図1:200,000「長野」(平成18年11月1日発行) 「宇都宮」(平成18年4月1日発行)

国土地理院 地勢図1:50,000「前橋」(平成10年3月1日発行)

国土地理院 地形図1:25,000「前橋」(平成22年12月1日発行)

国土地理院 地形図1:25,000「渋川」(平成14年10月1日発行)

前橋市 1:2,500前橋市現況図(平成21年測図)

# 目次

口絵	
序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
表目次	
写真図版目次	
第1章 調査の経過	
第1節 上武道路について	1
第2節 上武道路と埋蔵文化財	2
第3節 調査に至る経緯	2
第4節 調査方法と経過	5
第2章 周辺的环境	
第1節 地理的環境	13
第2節 歴史的環境	13
第3節 土層堆積状況	23
第3章 調査の内容	
第1節 調査の概要	29
第2節 A区の遺構と遺物	30
I 近世(第1面)	30
1 A1区の遺構と遺物	30
2 A2区の遺構と遺物	30
II 中・近世(第2面)	37
1 A1区の遺構と遺物	37
2 A2区の遺構と遺物	37
III 古代(第3面)	46
1 A1区の遺構と遺物	46
2 A2区の遺構と遺物	46
第3節 B・C区の遺構と遺物	51
I 近世(第1面)	51
1 B4区の遺構と遺物	51
2 B5区、C1・4区の遺構と遺物	69
II 中・近世(第2面)	72
1 B4・5区、C1・4区の遺構と遺物	72
2 C2・3区の遺構と遺物	93
III 古代(第3面)	95
1 B5区、C1区の遺構と遺物	95
2 B4・6区、C3区の遺構と遺物	107
IV 古墳時代(第4面)	109
1 B4区、C1区の遺構と遺物	109
2 B1・2区の遺構と遺物	111
3 B6区、C3・4区の遺構と遺物	111
V 古墳時代以前(第5面)	113
1 B4区の遺構と遺物	113
2 B2・3区の遺構と遺物	115
3 B5区、C1区の遺構と遺物	115
VI 古墳時代以前(第6面)	117
1 B5区の遺構と遺物	117
2 C1区の遺構と遺物	121
第4章 総括	
第1節 調査の成果	122
第2節 旧流路右岸に位置する中・近世の屋敷跡	122
1 はじめに	122
2 屋敷堀と推定される溝について	123
3 屋敷跡と推定される遺構について	123
4 旧流路左岸に位置する中・近世の屋敷跡と推定される遺構について	125
5 まとめ	125
第3節 前橋藩窯によって焼成された陶磁器	126
第4節 南鏡二朱銀を模した銭形土製品	127
土坑計測表	129
ビット計測表	130
遺物観察表	133
写真図版	
発掘調査報告書抄録	

# 挿図目次

第1図	上武道路と道跡の位置(国土地理院1/200,000地勢図「長野」「宇都宮」平成18年発行を縮小して使用)・・・・・・・・・・・・・・・・	第45図	B 4区1面	旧道路左岸のビッド(2)・・・・・・・・・・・・・・・・	68
第2図	上武道路調査道跡一覧(国土地理院1/200,000地勢図「宇都宮」平成18年発行を拡大して使用)・・・・・・・・・・・・・・・・	第46図	B 4・C 1区1面	道構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・	69
第3図	上武道路8工区の道跡(国土地理院1/50,000地形図「前橋」平成10年発行を使用)・・・・・・・・・・・・・・・・	第47図	B 4区2面	北東部全体図・・・・・・・・・・・・・・・・	70
第4図	川端山下道跡周辺図(前橋市役所1/2,500前橋市現形図平成21年調図を使用)・・・・・・・・・・・・・・・・	第48図	B 5区2面	北西部全体図・・・・・・・・・・・・・・・・	71
第5図	大・中グリッド設定図(国土地理院1/25,000地形図「渋川」平成14年発行、「前橋」平成22年発行を使用)・・・・・・・・・・・・・・・・	第49図	C 1・4区2面	全体図・・・・・・・・・・・・・・・・	72
第6図	中・小グリッド設定図・・・・・・・・・・・・・・・・	第50図	B 5区2面	3・4・13～16号溝・・・・・・・・・・・・・・・・	75
第7図	調査区細分図・・・・・・・・・・・・・・・・	第51図	B 5区2面	3・4・13～16号溝断面・・・・・・・・・・・・・・・・	76
第8図	川端山下道跡周辺地形分類図(群馬県史編纂委員会「群馬県史」通史編1・付図2を改変)・・・・・・・・・・・・・・・・	第52図	C 1区2面	9号溝と出土遺物、B 5区2面 19号溝・・・・・・・・	77
第9図	川端山下道跡周辺道跡分布図(国土地理院1/25,000地形図「渋川」平成14年発行、「前橋」平成22年発行を使用)・・・・・・・・	第53図	B 5区2面	3・4号溝出土遺物(1)・・・・・・・・・・・・・・・・	78
第10図	土層堆積状況・・・・・・・・・・・・・・・・	第54図	B 5区2面	3・4号溝出土遺物(2)・・・・・・・・・・・・・・・・	79
第11図	川端山下道跡全体図・・・・・・・・・・・・・・・・	第55図	B 5区2面	3・4号溝(3)、13・15号溝出土遺物・・・・・・・・	80
第12図	A 1・2区1～3面 全体図・・・・・・・・・・・・・・・・	第56図	C 1区2面	1号畑、出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・	81
第13図	A 2区1面 1号溝、出土遺物(1)・・・・・・・・・・・・・・・・	第57図	B 4区2面	1号井戸・・・・・・・・・・・・・・・・	82
第14図	A 2区1面 1号溝出土遺物(2)・・・・・・・・・・・・・・・・	第58図	C 1区2面	26号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・	84
第15図	A 2区1面 1号溝出土遺物(3)・・・・・・・・・・・・・・・・	第59図	C 1区2面	27号土坑、B 5区2面 30～34号土坑・・・・・・・・	85
第16図	A 2区1面 1号溝出土遺物(4)・・・・・・・・・・・・・・・・	第60図	B 5・C 1区2面	土坑出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・	86
第17図	A 2区1面 1号溝出土遺物(5)・・・・・・・・・・・・・・・・	第61図	B 4区2面	ビッド(1)・・・・・・・・・・・・・・・・	88
第18図	A 2区1面 1号溝出土遺物(6)・・・・・・・・・・・・・・・・	第62図	B 5区2面	ビッド(1)・・・・・・・・・・・・・・・・	89
第19図	A 2区1面 道構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・	第63図	B 5区2面	ビッド(2)、出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・	90
第20図	A 2区2面 1号壑穴状道構・・・・・・・・・・・・・・・・	第64図	C 4区2面	石垣・・・・・・・・・・・・・・・・	91
第21図	A 2区2面 2・4号溝・・・・・・・・・・・・・・・・	第65図	B 4・5区2面	道構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・	92
第22図	A 2区2面 2号溝断面・・・・・・・・・・・・・・・・	第66図	B 5・C 1区2面	道構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・	93
第23図	A 2区2面 2・4号溝断面・・・・・・・・・・・・・・・・	第67図	B 5・C 1区3面	全体図・・・・・・・・・・・・・・・・	94
第24図	A 2区2面 4号溝断面、2・4号溝出土遺物・・・・・・・・	第68図	C 1区3面	12号溝、B 5区3面 13・18号溝・・・・・・・・	96
第25図	A 2区2面 1号地下式土坑・・・・・・・・・・・・・・・・	第69図	B 5区3面	1号断面・・・・・・・・・・・・・・・・	97
第26図	A 2区2面 2号地下式土坑・・・・・・・・・・・・・・・・	第70図	B 5区3面	1号耕作痕・・・・・・・・・・・・・・・・	98
第27図	A 2区2面 1・2号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・	第71図	B 5区3面	35～37号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・	99
第28図	A 2区2面 1・2号地下式土坑出土遺物・・・・・・・・	第72図	B 5区3面	38・39号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・	100
第29図	A 2区3面 1号住居・・・・・・・・・・・・・・・・	第73図	B 5区3面	ビッド群・・・・・・・・・・・・・・・・	101
第30図	A 2区3面 3号溝、出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・	第74図	B 5区3面	ビッド(1)・・・・・・・・・・・・・・・・	102
第31図	A 2区3面 道構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・	第75図	B 5区3面	ビッド(2)・・・・・・・・・・・・・・・・	103
第32図	B 4区1面 南西部全体図・・・・・・・・・・・・・・・・	第76図	B 5区3面	260号ビッド出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・	104
第33図	B 4区1面 北東部全体図・・・・・・・・・・・・・・・・	第77図	B 5区3面	道構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・	105
第34図	B 4区1面 1号壑穴状道構、出土遺物・・・・・・・・	第78図	B 5・C 1区3面	道構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・	106
第35図	B 4区1面 1号溝・・・・・・・・・・・・・・・・	第79図	B 6区3面	道構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・	107
第36図	B 4区1面 2～8号溝・・・・・・・・・・・・・・・・	第80図	B 4・C 1区4面	全体図・・・・・・・・・・・・・・・・	108
第37図	B 4区1面 2号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・	第81図	B 4区4面	1号水田・・・・・・・・・・・・・・・・	109
第38図	B 4区1面 4・6号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・	第82図	B 4区4面	1号水田断面・・・・・・・・・・・・・・・・	110
第39図	B 4区1面 1～7・9号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・	第83図	C 1区4面	2号水田・・・・・・・・・・・・・・・・	110
第40図	B 4区1面 8・10・11・15・16・18～20・25号土坑・・	第84図	B 4区・C 4区4面	道構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・	111
第41図	12～14・17・21～24・28号土坑・・・・・・・・・・	第85図	B 4区5面	全体図・・・・・・・・・・・・・・・・	112
第42図	B 4区1面 2・11・16・20号土坑出土遺物・・・・・・・・	第86図	B 4区5面	10・11・17号溝断面・・・・・・・・・・・・・・・・	114
第43図	B 4区1面 旧道路右岸のビッド・・・・・・・・・・	第87図	B 4区5面	道構外出土遺物(1)・・・・・・・・・・・・・・・・	114
第44図	B 4区1面 旧道路右岸のビッド(1)・・・・・・・・・・	第88図	B 4区5面	道構外出土遺物(2)・・・・・・・・・・・・・・・・	115
		第89図	B 5区6面	全体図・・・・・・・・・・・・・・・・	116
		第90図	B 5区6面	20～22号溝断面、20・21号溝出土遺物・・	118
		第91図	B 5区6面	40・41号土坑、278～283号ビッド・・・・・・・・	120
		第92図	B 5・C 1区6面	道構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・	121
		第93図	B 4・5区の調査全体図・・・・・・・・・・・・・・・・	124	
		第94図	南郷二朱廻を模した銭形土製品の群馬県内出土例	128	

# 表目次

第1表	上武道路の調査道跡一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・	第4表	土坑計測表・・・・・・・・・・・・・・・・	129
第2表	上武道路8工区調査道跡一覧表・・・・・・・・・・	第5表	ビッド計測表・・・・・・・・・・・・・・・・	130
第3表	周辺道跡一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・			

# 写真図版目次

PL. 1	1. A 2区全景(南東から)	5.	B 4区1面18号ビット全景(南から)
	2. B 4区2面全景(南から)	6.	B 4区1面25号ビット全景(南から)
PL. 2	1. B 4区1面調査風景(南東から)	7.	B 4区1面30号ビット全景(東から)
	2. B 5区2面全景(南から)	8.	B 4区1面33号ビット全景(南から)
PL. 3	1. B 5区3面全景(南東から)	9.	B 4区1面44号ビット全景(南から)
	2. B 5区6面全景(北西から)	10.	B 4区1面46号ビット全景(南から)
PL. 4	1. B・C区調査区全景(北から)	11.	B 4区1面50号ビット全景(南から)
	2. C 1区2面調査風景(南から)	12.	B 4区1面51号ビット全景(南から)
PL. 5	1. A 2区1面1号溝全景(南から)	PL. 16	1. B 4区1面51号ビット上層断面(南から)
	2. A 2区1面1号溝上層断面(南から)	2.	B 4区1面52号ビット上層断面(西から)
	3. A 1区調査区全景(北から)	3.	B 4区1面53号ビット上層断面(南から)
	4. A 1区調査区確認面(北から)	4.	B 4区1面53号ビット礎石出土状況(南から)
	5. A 1区調査区確認面(北から)	5.	B 4区1面54号ビット全景(南から)
PL. 6	1. A 2区2面2号溝全景(西から)	6.	B 4区1面54号ビット礎石出土状況(南から)
	2. A 2区2面2号溝全景(東から)	7.	B 4区1面55号ビット全景(南から)
	3. A 2区2面2号溝遺物出土状態(東から)	8.	B 4区1面58号ビット全景(西から)
	4. A 2区2面2号溝上層断面(東西から)	9.	B 4区1面59号ビット全景(南から)
	5. A 2区2面2号溝遺物出土状態(西から)	10.	B 4区1面65号ビット上層断面(南西から)
PL. 7	1. A 2区2面2号溝全景(南東から)	11.	B 4区1面65号ビット全景(南西から)
	2. A 2区2面2号溝調査風景(西から)	12.	B 4区1面67号ビット全景(南から)
	3. A 2区2面4号溝全景(南西から)	13.	B 4区1面70号ビット全景(東から)
	4. A 2区2面4号溝全景(北から)	14.	B 4区1面70号ビット全景(東から)
	5. A 2区2面2・4号溝全景(南から)	15.	B 4区1面72号ビット全景(南から)
PL. 8	1. A 2区2面1号壑穴状遺構、1号土坑全景(北から)	PL. 17	1. B 5区2面全景(西から)
	2. A 2区2面2号土坑全景(西から)	2.	B 5区2面溝(北西から)
	3. A 2区2面1号地下式土坑全景(南から)	3.	B 5区2面溝とビット群(北から)
	4. A 2区2面2号地下式土坑全景(南から)	4.	B 5区2面ビット群(西から)
PL. 9	1. A 2区3面1号住居全景(南西から)	5.	B 5区2面ビット群(北から)
	2. A 2区3面3号溝全景(北から)	PL. 18	1. B 5区2面3・4号溝全景(西から)
PL. 10	1. B 4区1面旧流路左岸全景(南から)	2.	B 5区2面3・4号溝上層断面(西から)
	2. B 4区1面調査区北東部全景(南から)	3.	B 5区2面3・4・15号溝上層断面(南から)
	3. B 4区1面調査区北東部全景(西から)	4.	C 1区2面9号溝全景(北から)
	4. B 4区1面6号溝全景(南から)	5.	C 1区2面9号溝上層断面(南東から)
	5. B 4区1面1号壑穴状遺構上層断面(南から)	PL. 19	1. B 5区2面13号溝全景(南から)
PL. 11	1. B 4区1面旧流路右岸全景(南から)	2.	B 5区2面13号溝上層断面(北から)
	2. B 4区1面1号溝全景(北から)	3.	B 5区2面14号溝上層断面(北から)
	3. B 4区1面1号溝全景(南から)	4.	B 5区2面15号溝、33号土坑上層断面(北から)
	4. B 4区1面1～4号溝全景(北から)	5.	B 5区2面16号溝全景(北から)
PL. 12	1. B 4区1面1～4号溝全景(南から)	6.	B 5区2面19号溝全景(東から)
	2. B 4区1面2号溝、2号土坑上層断面(南から)	7.	B 5区2面19号溝全景(北西から)
	3. B 4区1面3・4号溝上層断面(南から)	8.	B 5区2面3・4・15号溝全景(南から)
	4. B 4区1面4号溝上層断面(東から)	PL. 20	1. C 1区2面1号畑全景(西から)
	5. B 4区1面5号溝上層断面(南から)	2.	C 1区2面1号畑全景(北から)
PL. 13	1. B 4区1面1号土坑全景(南から)	3.	C 1区2面1号畑全景(南から)
	2. B 4区1面2号土坑全景(西から)	4.	C 1区2面1号畑上層断面(西から)
	3. B 4区1面3号土坑全景(西から)	5.	C 1区2面1号畑上層断面(西から)
	4. B 4区1面4号土坑全景(東から)	PL. 21	1. B 4区2面1号井戸上部全景(南から)
	5. B 4区1面5号土坑全景(南西から)	2.	B 4区2面1号井戸上部全景(西から)
	6. B 4区1面6号土坑全景(西から)	3.	B 4区2面1号井戸上部上層断面(西から)
	7. B 4区1面7号土坑全景(南から)	4.	B 4区南部旧流路(西から)
	8. B 4区1面8号土坑全景(西から)	5.	B 4区南部旧流路(東から)
PL. 14	1. B 4区1面9号土坑上層断面(南から)	PL. 22	1. C 1区2面26号土坑全景(北から)
	2. B 4区1面10号土坑全景(南から)	2.	C 1区2面26号土坑全景(北から)
	3. B 4区1面11号土坑全景(南から)	3.	C 1区2面26号土坑遺物出土状態(西から)
	4. B 4区1面12号土坑上層断面(東から)	4.	C 1区2面27号土坑遺物出土状態(東から)
	5. B 4区1面13号土坑上層断面(東から)	5.	C 1区2面27号土坑遺物出土状態(東から)
	6. B 4区1面14号土坑全景(東から)	PL. 23	1. B 5区2面30号土坑全景(北から)
	7. B 4区1面15号土坑全景(南東から)	2.	B 5区2面31号土坑全景(北から)
	8. B 4区1面16号土坑全景(南東から)	3.	B 5区2面31号土坑遺物出土状態(南から)
PL. 15	1. B 4区1面16号土坑遺物出土状態(南東から)	4.	B 5区2面31号土坑遺物出土状態(東から)
	2. B 4区1面28号土坑全景(南から)	5.	B 5区2面32号土坑全景(北から)
	3. B 4区1面2号ビット全景(南から)	6.	B 5区2面31・32号土坑全景(北西から)
	4. B 4区1面14号ビット全景(南から)	7.	B 5区2面34a・b・c号土坑全景(南から)

PL. 24	8.	B 5区2面34 a・b・c号土坑全景(西から)	7.	B 5区3面195号ピット土層断面(南から)		
	1.	B 4区2面107路左岸全景(南から)	8.	B 5区3面195号ピット全景(南から)		
	2.	B 4区2面77号ピット全景(南西から)	9.	B 5区3面196号ピット全景(南から)		
	3.	B 4区2面78号ピット全景(南から)	10.	B 5区3面197号ピット全景(南から)		
	4.	B 4区2面94号ピット全景(南から)	11.	B 5区3面199号ピット全景(南から)		
PL. 25	5.	B 4区2面102・103号ピット全景(南から)	12.	B 5区3面200号ピット全景(南から)		
	1.	B 5区2面112号ピット全景(南から)	PL. 33	1.	B 5区3面205・260号ピット全景(東から)	
	2.	B 5区2面113号ピット全景(南から)		2.	B 5区3面200号ピット礎石出土状態(東から)	
	3.	B 5区2面114号ピット全景(南から)		3.	B 5区3面260号ピット礎石出土状態(西から)	
	4.	B 5区2面115号ピット全景(南から)		4.	B 5区3面204号ピット全景(南から)	
	5.	B 5区2面116号ピット全景(南から)		5.	B 5区3面204号ピット礎石出土状態(南から)	
	6.	B 5区2面117号ピット全景(南から)		6.	B 5区3面205号ピット全景(南から)	
	7.	B 5区2面118号ピット全景(南から)		7.	B 5区3面206号ピット全景(南から)	
	8.	B 5区2面119号ピット全景(南から)		8.	B 5区3面208号ピット全景(南から)	
	9.	B 5区2面120・121号ピット全景(南から)		9.	B 5区3面224号ピット全景(南から)	
	10.	B 5区2面122号ピット全景(南から)		10.	B 5区3面263号ピット礎石出土状態(南から)	
	11.	B 5区2面123号ピット全景(南から)		11.	B 5区3面263号ピット全景(南から)	
	12.	B 5区2面124号ピット全景(南から)		12.	B 5区3面ピット群(東から)	
	13.	B 5区2面125号ピット全景(南から)		PL. 34	1.	B 4区4面1号水田全景(西から)
	14.	B 5区2面ピット群全景(南から)			2.	B 4区4面1号水田全景(南から)
15.	B 5区2面調査区全景(南から)	3.			B 4区4面1号水田畦土層断面(南から)	
PL. 26	1.	C 4区2面1号石垣全景(東から)	4.		B 4区4面北壁土層断面(南から)	
	2.	C 4区2面1号石垣断面(南東から)	PL. 35	1.	C 1区4面2号水田畦土層断面(北から)	
	3.	C 4区2面1号石垣上部(南から)		2.	C 1区4面2号水田畦土層断面(東から)	
	4.	C 4区北壁土層断面(南から)		3.	C 1区4面2号水田畦土層断面(西から)	
5.	C 4区2面調査区全景(南東から)	4.		C 1区4面2号水田畦土層断面(南から)		
PL. 27	1.	B 5区3面調査区全景(南から)	5.	C 1区土層断面(北から)		
	2.	B 5区3面全景(北から)	PL. 36	1.	B 4区5面全景(北から)	
	3.	B 5区3面全景(南から)		2.	B 4区5面全景(南から)	
	4.	B 5区3面調査区北西ピット群(南西から)		3.	B 4区5面全景(西から)	
5.	B 5区3面調査区北西ピット群(西から)	4.		B 4区5面10号溝全景(南から)		
PL. 28	1.	C 1区3面12号溝全景(南から)	PL. 37	1.	B 4区5面11号溝全景(南から)	
	2.	C 1区3面12号溝全景(西から)		2.	B 4区5面11号溝土層断面(西から)	
	3.	B 5区3面13号溝全景(南西から)		3.	B 4区5面17号溝全景(北から)	
	4.	B 5区3面13号溝全景(北東から)		4.	B 4区5面17号溝全景(南から)	
	5.	B 5区3面13号溝土層断面(南から)		5.	B 4区5面調査区北東部全景(西から)	
	6.	B 5区3面18号溝全景(東から)		6.	B 4区5面17号溝土層断面(南西から)	
	7.	B 5区3面18号溝全景(北東から)		7.	B 4区5面北壁土層断面(南から)	
	8.	B 5区3面18号溝土層断面(南から)		PL. 38	1.	B 4区5面遺物出土状態(南から)
PL. 29	1.	B 5区3面1号畦全景(南東から)	2.		B 4区5面遺物出土状態(西から)	
	2.	B 5区3面1号畦全景(北から)	3.		B 4区5面遺物出土状態(北西から)	
	3.	B 5区3面1号畦全景(南東から)	4.		B 4区5面遺物出土状態(西から)	
	4.	B 5区3面1号畦全景(北から)	5.	B 4区5面遺物出土状態(東から)		
PL. 30	5.	B 5区3面1号畦土層断面(南から)	PL. 39	1.	B 4区5面遺物出土状態(西から)	
	1.	B 5区3面耕作痕全景(北東から)		2.	B 4区5面遺物出土状態(南から)	
	2.	B 5区3面耕作痕検出状況(東から)		3.	B 4区5面遺物出土状態(西から)	
	3.	B 5区3面耕作痕検出状況(南から)		4.	B 4区5面遺物出土状態(南から)	
	4.	B 5区3面耕作痕検出状況(南から)		5.	B 4区5面遺物出土状態(西から)	
	5.	B 5区3面耕作痕検出状況(西から)		6.	B 4区5面遺物出土状態(東から)	
	6.	B 5区3面耕作痕検出状況(南から)		7.	B 4区5面全景(南から)	
	7.	B 5区4面耕作痕検出状況(南から)		8.	B 4区5面北壁土層断面(南から)	
PL. 31	8.	B 5区3面耕作痕検出状況(西から)	PL. 40	1.	B 5区6面全景(北西から)	
	1.	B 5区3面耕作痕検出状況(西から)		2.	B 5区6面全景(北から)	
	2.	B 5区3面耕作痕検出状況(東から)		3.	B 5区6面全景(西から)	
	3.	B 5区3面35号土坑全景(南から)		4.	B 5区6面全景(南東から)	
	4.	B 5区3面35号土坑土層断面(西から)		5.	B 5区6面全景(南から)	
	5.	B 5区3面36号土坑全景(南から)		PL. 41	1.	B 5区6面20～22号溝全景(北西から)
	6.	B 5区3面37号土坑全景(南から)			2.	B 5区6面20号溝全景(東から)
	7.	B 5区3面38号土坑全景(東から)			3.	B 5区6面20号溝全景(北西から)
8.	B 5区3面39号土坑全景(南から)	4.	B 5区6面20号溝土層断面(南から)			
PL. 32	1.	B 5区3面ピット群(南から)	5.		B 5区6面21号溝全景(北西から)	
	2.	B 5区3面190号ピット全景(南から)	6.		B 5区6面21号溝土層断面(南から)	
	3.	B 5区3面191号ピット全景(南から)	7.		B 5区6面21号溝、40号土坑土層断面(北から)	
	4.	B 5区3面192号ピット全景(南から)	PL. 42		1.	B 5区6面22号溝全景(北西から)
	5.	B 5区3面193号ピット全景(南から)		2.	B 5区6面22号溝土層断面(南西から)	
	6.	B 5区3面194号ピット土層断面(南から)		3.	B 5区6面遺物出土状態(西から)	

- 4. B5区6面遺物出土状態(南から)
- 5. B5区6面遺物出土状態(北西から)
- 6. B5区6面遺物出土状態(南東から)
- 7. B5区6面21号溝、40号土坑遺物出土状態(北西から)
- 8. B5区6面40号土坑全景(南から)
- PL. 43 1. B5区6面41号土坑全景(南から)
- 2. B5区6面41号土坑全景(西から)
- 3. B5区6面278号ピット全景(南から)
- 4. B5区6面279号ピット全景(南から)
- 5. B5区6面280号ピット全景(南から)
- 6. B5区6面281号ピット全景(南から)
- 7. B5区6面282号ピット全景(南から)
- 8. B5区6面283号ピット全景(南から)
- PL. 44 1. B5区トレンチ全景(南から)
- 2. B5区東トレンチ(南から)
- 3. B5区中央トレンチ(北から)
- 4. B5区西トレンチ(北から)
- 5. B5区東トレンチ遺物出土状態(南西から)
- 6. B5区西トレンチ遺物出土状態(東から)
- 7. B5区西トレンチ遺物出土状態(南から)
- PL. 45 1. B5区6面東トレンチ遺物出土状態(南東から)
- 2. B5区6面東トレンチ遺物出土状態(南から)
- 3. B5区6面東トレンチ遺物出土状態(東から)
- 4. B5区6面東トレンチ遺物出土状態(東から)
- 5. B5区6面西トレンチ遺物出土状態(東から)
- 6. B5区6面西トレンチ遺物出土状態(東から)
- 7. B5区6面調査風景(北西から)
- 8. B5区上層断面(南から)
- PL. 46 1. A1区調査区全景(南から)
- 2. B1区調査区全景(北から)
- 3. B2区調査区全景(北東から)
- 4. B6区調査区全景(北から)
- 5. C1区調査区全景(南から)
- 6. C2区調査区全景(南西から)
- 7. C3区調査区全景(西から)
- 8. C4区調査区全景(南東から)
- PL. 47 1. B4区上層堆積状況№2
- 2. B4区上層堆積状況№4
- 3. B4区上層堆積状況№5
- 4. C1区上層堆積状況№9
- 5. C1区上層堆積状況№10
- 6. C3区上層堆積状況№12
- 7. C4区上層堆積状況№13
- PL. 48 A2区1面1号溝出土遺物
- PL. 49 A2区1面1号溝、A2区2面2・4号溝、1・2号地下式土坑、A2区3面3号溝、遺構外出土遺物
- PL. 50 B4区1面1号聖穴状遺構、2・4・6号溝、2・11・20号土坑、B4・C1区1面遺構外、C1区2面9号溝、B5区2面3・4号溝出土遺物
- PL. 51 B5区2面3・4・13号溝、C1区2面27号土坑、1号畑出土遺物
- PL. 52 B5区2面30・31号土坑、B4・5区2面遺構外、C1・4区2面遺構外、B5区3面290号ピット、C1区3面遺構外、B6区3面遺構外、B区4面遺構外出土遺物
- PL. 53 B5区3面遺構外、B4区5面遺構外出土遺物
- PL. 54 B5区6面20・21号溝、B5・C1区6面遺構外出土遺物

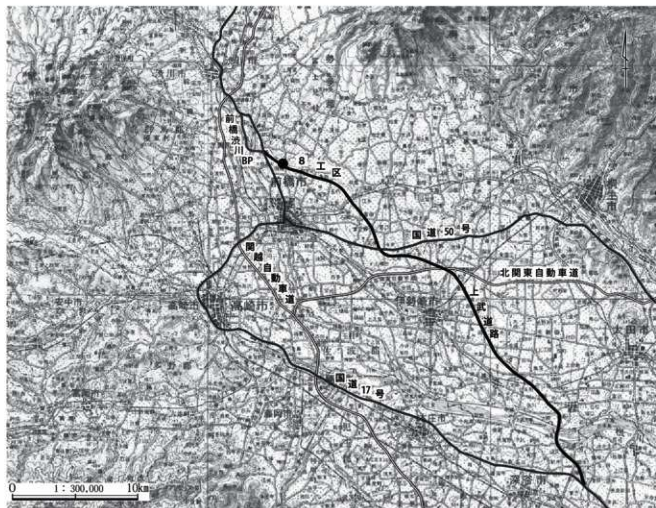
## 第1章 調査の経過

### 第1節 上武道路について

上武道路は一般国道17号の交通混雑の緩和及び地域活性化を目指して計画された大規模バイパスである。埼玉県熊谷市で深谷バイパスから分岐してから、群馬県前橋市田口町で現道に接続するまでの延長40.5kmの道路である。現道の西には、前橋渋川バイパス、鯉沢バイパス、計画中的上信自動車道が続いており、県北西部の新たな交通幹線網整備事業として期待を集めている。平成10(1998)年には、前橋渋川バイパスを含む地域高規格道路「熊谷渋川連絡道路」として計画路線の指定を受け、群馬県では「幹線交通乗り入れ30分構想」の中で主要幹線のひとつに位置づけられている。

上武道路の建設事業は、昭和45(1970)年度に着手され、平成4(1992)年2月までには起点から国道50号までの延長27.4km区間の供用が開始された。その後、供用区間が延伸するとともに交通量は増大し、平成元(1989)年度に着手された国道50号から前橋市上泉町までの4.9km区間(7工区)が、平成20(2008)年6月に暫定2車線で供用が開始された。

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)が対象とする8工区は、平成17(2005)年度に事業が着手され、平成24(2012)年度に主要地方道前橋赤城線までの4.7km区間が暫定開通し、全線開通までの最終3.5km区間の工事と発掘調査された遺跡の整理作業が進められている。



第1図 上武道路と遺跡の位置(国土地理院1/200,000地勢図「長野」「宇都宮」平成18年発行を縮小して使用)



## 第2節 上武道路と埋蔵文化財

上武道路が通過する地域は、群馬県内において有数の埋蔵文化財包蔵地が多く分布する地域である。群馬県は、昭和48(1973)年に文化財保護室を文化財保護課に拡充して調査にあたり、昭和53(1978)年度からは財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(現公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団)が調査事業を受託して、現在に至っている。

上武道路の建設事業は起点側から段階的に進められてきた。その工程はおおむね①埼玉県境から国道50号まで、②国道50号から前橋市上泉町まで、③前橋市上泉町から前橋市田口町の現国道17号までの3つの区間に分けることができる。現在は、③の中程まで供用が開始されている。

埼玉県境から国道50号までの区間では、35箇所の遺跡の発掘調査が行われ、調査の成果は26冊の発掘調査報告書として刊行されている。この区間の事業が完了した平成7(1995)年には、埋蔵文化財調査の成果をより広く公開するため、冊子総集編『地域をつなぐ 未来へつなぐ—上武道路埋蔵文化財22年の軌跡—』が刊行された。この総集編では、「弥生時代の開拓者」といった平野部での発掘調査や「芳郷」の墨書土器出土で話題となった古代勢多部の芳賀郷、東山道駅路のひとつにも推定されていた中世「あずま道」など、この地域の歴史的課題に対する検討の結果がまとめられており、今後取り組むべき考古学的課題も特記されている。

国道50号から前橋市上泉町までは7工区にあたる。ここでは17箇所の遺跡が発掘調査の対象となり、16冊の発掘調査報告書が刊行されている。この区間の発掘調査では、荒砥川の東で確認された古墳時代の集落が周辺の今井神社古墳や大室古墳群の築造と関連する可能性があること、荒砥前田Ⅱ遺跡では県内でも希少な巴形銅器破片が出土したこと、女堀の調査では浅間川テフラが確認されたことで開削年代を特定する手掛かりが得られたこと等が成果としてあげられている。荒砥川の西では、帯状低地に分断された台地ごとに縄文時代前期の集落が立地し、旧石器時代の遺物も暗色帯および上位の複数の土層から出土したこと等も注目されている。

前橋市上泉町から現国道17号までは8工区にあたり、31箇所の遺跡、約40万㎡が埋蔵文化財の調査対象となっている。工区名称は県道前橋赤城線を境界にして東が8—1工区、西が8—2工区と呼ばれている。調査は、平成18(2006)年度に8—1工区の東端から始められ、工事工程との調整により、平成23(2011)年度からは8—2工区の西端である終点の田口下田尻遺跡の調査も開始された。

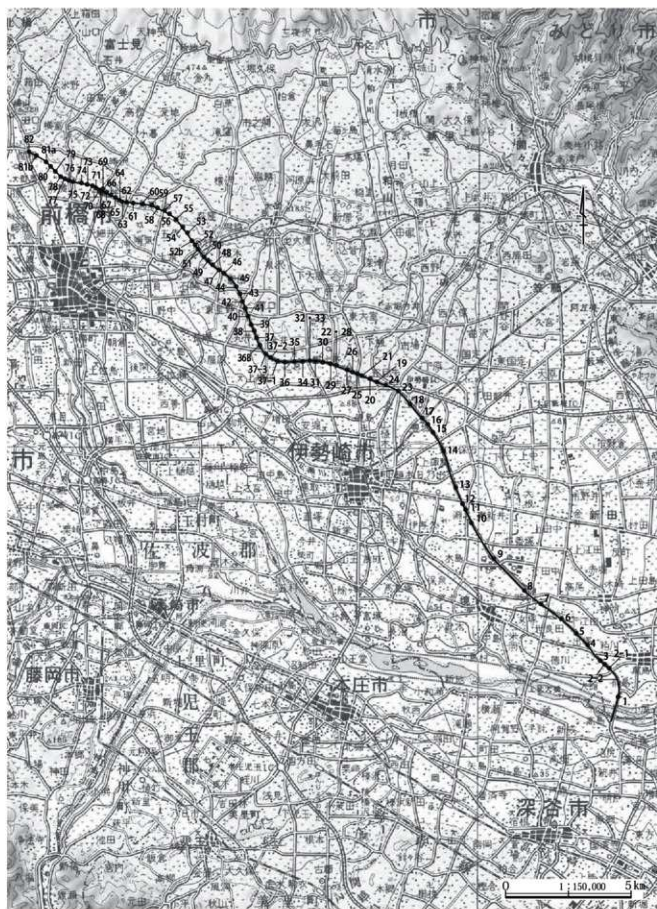
8—1工区は、これまでと同様に旧石器時代や縄文時代の遺構・遺物が多いのに対して、8—2工区では縄文時代より新しい遺跡の存在が明らかになってきている。

遺跡の実態が未知数であった赤城白川流域の白川扇状地では、予想外の縄文時代の埋没谷や旧石器時代までの遺物が確認されている。特に広瀬川低地帯では最西端の田口下田尻遺跡で竪穴住居280軒の大集落が調査され、従来の広瀬川低地帯の遺跡分布の理解を見直す資料が得られている。

これまで、群馬県内の上武道路関連で発掘調査を実施してきた遺跡には、Jが上武、Kが国道を指すJ Kを冠した遺跡略号が、南側の起点から順次算用数字を1から付している。8工区も、7工区最終番号J K52に続けて、この略号を使用している。ただし、J K52だけは、上泉唐ノ堀遺跡が供用部分の関係で7工区と8工区で分割されたことから、8工区分の上泉唐ノ堀遺跡にはJ K52bをつけて7工区と区別している。また、J K59鳥取塚田遺跡は、水田遺構が想定されていたが、試掘調査で遺構の無いことが判明し、発掘調査対象から除外したものの略号は欠番としなかった(第1表)。また、関根遺跡群は、田口下田尻遺跡、関根細ケ沢遺跡、関根赤城遺跡に細分されたが、平成23(2011)年度に開始された田口下田尻遺跡を先行してJ K82としたことから、関根細ケ沢遺跡はJ K81a、関根赤城遺跡はJ K81bとした。

## 第3節 調査に至る経緯

上武道路7工区の発掘調査は、上泉唐ノ堀遺跡を最後に平成16(2004)年度末で終了した。その後の工事は順調に進み、県道前橋大胡線までの供用が間近に迫っていた。また、同16年度には、国道17号の現道から西の前橋洩川バイパスが着工された結果、8工区は、東の開通部



第2図 上武道路調査道路一覧(国土地理院1/200,000地勢図「宇都宮」平成18年発行を拡大して使用)



分と西の前橋渋川バイパスとの間に残された格好となり、早期着工を待ち望む声が一段と強まった。

8工区が建設に向けて動いたのは、平成18年度に入ってからである。国土交通省による路線測量、関係機関との調整や地元への協力要請を経て、用地取得等の工事着工準備が起点側から始まった。これまでの調査状況によると、埋蔵文化財が用地内にあることは明確であったことから、埋蔵文化財の発掘調査実施のための調整がおこなわれたのである。

埋蔵文化財の発掘調査について実施に向けての協議が、国土交通省関東地方整備局長と群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で行われ、平成18(2006)年2月16日付で「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)の実施に関する協定書」(以下、「協定書」という。)が三者の間で締結された。これによって、群馬県教育委員会の調整を経て、埋蔵文化財の発掘調査を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が受託することとなった。

協定書では、協定の適用区間、発掘調査の実施場所・対象面積が示され、平成18(2006)年10月1日～平成29(2017)年3月31日に発掘調査を完了させることが明記された。なお、「協定書」は、平成18(2006)年6月20日付で、調査期間の開始を3ヶ月前倒しとする変更のための「変更協定書」が締結されて、現在に至っている。この「変更協定書」に基づいて、平成18(2006)年7月から起点側から、上泉唐ノ堀遺跡・上泉新田塚遺跡群の発掘調査が開始された。

また、各遺跡が発掘調査に入る前に、調査範囲と調査面積の確定、調査期間や経費算定のため、群馬県教育委員会文化財保護課により、8工区の試掘調査が、平成18(2006)年4月25・26日、同年5月17・18日、同年8月11日、同年12月5～7日、平成19(2007)年8月16～27日、同年12月10～14日、平成21(2009)年1月6日～8日、同年4月20日～5月7日、同年9月25～29日、平成22(2010)年12月6～20日、平成23(2011)年5月12～23日、同年8月22日～24日、同年10月18日の13回にわたって実施された。

川端山下遺跡を含む川端町地区の試掘調査は、平成23(2011)年5月12～23日に青柳町地区とともに行われた。川端山下遺跡においては、奈良・平安時代の竪穴住居を

複数確認したが、近世以降の大規模な河道跡により大きく削られていた。試掘調査により竪穴住居が確認されたことから、群馬県教育委員会文化財保護課は、本遺跡の事業区域内で本調査が必要と判定した。

## 第4節 調査方法と経過

### 1. 発掘調査の方法

#### (1) 座標・グリッドの設定

発掘調査に用いた座標は、国家座標「世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第Ⅸ系)」を用いた。第Ⅸ系の原点は、北緯36°00'00"、東経139°50'00"(千葉県野田市)である。グリッドは第Ⅸ系を用いて上武道路8工区全域を網羅できるようにX=45,000、Y=-63,000を起点に、上武道路8工区調査遺跡の統一仕様とした。統一仕様では、1km四方を大グリッドとして1～100の番号を振り、第〇区と呼称した。中グリッドは大グリッド内を100m四方に区切り、1～100の番号を振り、〇区と呼称した。小グリッドは中グリッド内を5m四方に区切り、中グリッド南東隅を起点にX軸を1～20、Y軸をA～Tとし、YX交点名と呼称した。

#### (2) 調査の方法

調査の方法は、標準的な方法を用いた。表土除去は重機(バックホー)を用い、重層する遺構調査面も必要に応じて重機(バックホー)で掘削を行った。

表土及び各文化層除去後、発掘作業員がジョレンを用いて直下の露出面(遺構面)の平面精査を行い、遺構確認を行った。確認された遺構は、埋没土層確認用ベルトを任意に設定した後、発掘作業員が移植鏡等で掘削し、測量・写真等で記録した。A区とB・C区の遺構番号は、通し番号とせず、B区とC区は通し番号とした。埋め戻しは重機(バックホー)を用いて行った。

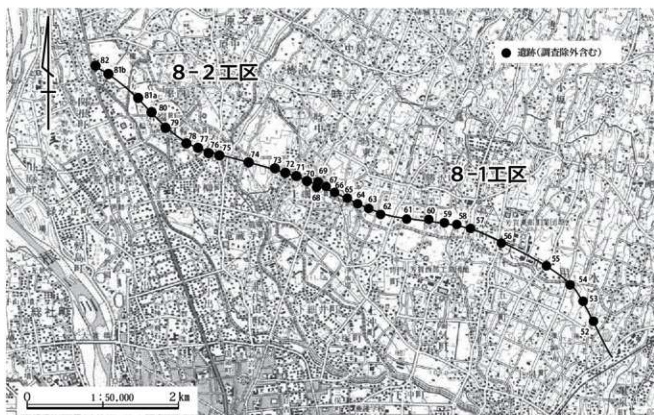
#### (3) 遺構測量

遺構等の測量は、断面図は発掘作業員によるアナログ測量を行ったものを測量会社にデジタル化を委託し、平面図は測量会社にデジタル測量を委託して調査期間の短縮を図った。遺構図の縮尺は断面図・平面図とも1/20を基本とし、遺構の状況に応じて縮尺1/10・1/40等とした。

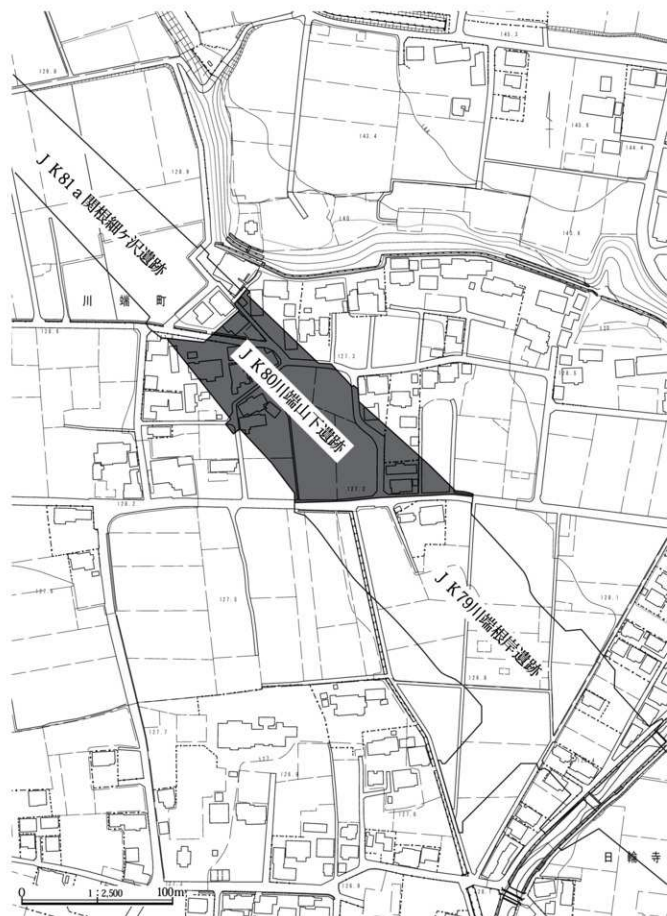
# 第1章 調査の経過

## 第2表 上武道路8工区調査道跡一覧表

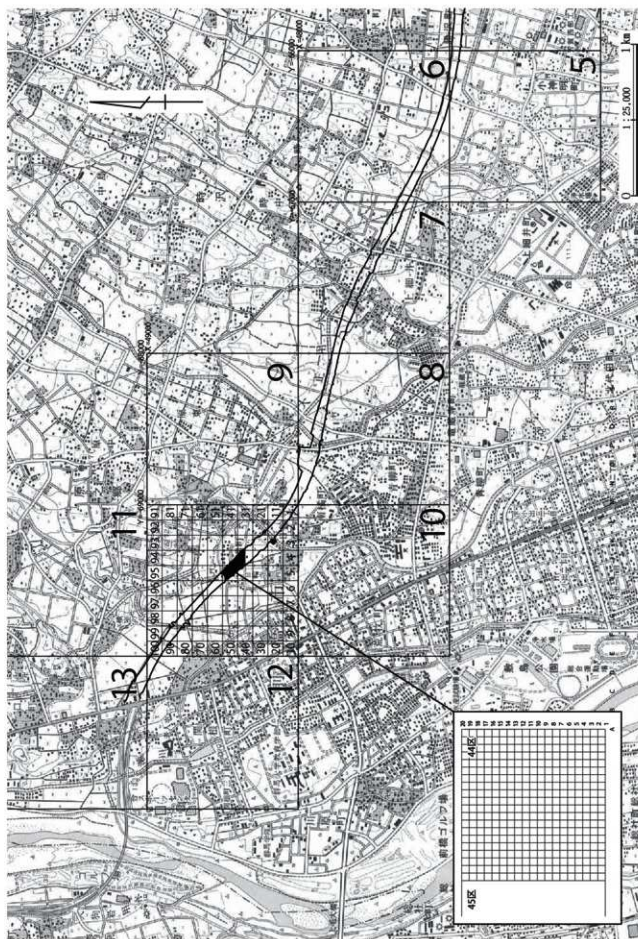
J K No.	道跡名	所在地	旧市町村 道跡番号	新市町村道跡番号 (道跡名)	調査年度	報告書発行 年度
52b	上泉唐ノ瓶道跡	前橋市上泉町	00774	前橋市0543道跡	平成18・19・20年度	平成23年度
53	上泉新田塚道跡群	前橋市上泉町	00775	—	平成18・19・20年度	—
54	上泉武田道跡	前橋市上泉町	00773	前橋市0074道跡	平成19年度	平成24年度
55	五代砂留道跡群	前橋市五代町	00772	前橋市00055道跡	平成19年度	平成23年度
56	芳賀東部池道跡	前橋市五代町・鳥取町	00357	前橋市00053道跡	平成18・19・20年度	平成24年度
57	鳥取松合下道跡	前橋市鳥取町	00776	—	平成20年度	—
58	銅城道跡	前橋市鳥取町	00041	前橋市00023道跡	平成19・20・21年度	平成23年度
59	鳥取塚田道跡	前橋市勝沢町	—	—	調査除外	—
60	堤道跡	前橋市勝沢町	00034	前橋市00045道跡	平成20年度	平成24年度
61	小神明勝沢地道跡	前橋市小神明町	00778	前橋市00046道跡	平成20年度	—
62	小神明富士塚道跡	前橋市小神明町・上廻井町	00403	前橋市00043道跡	平成20・21年度	平成23年度
63	東田之口道跡	前橋市上廻井町	00125	前橋市00039道跡	平成20年度	平成23年度
64	丸子道跡	前橋市上廻井町	00134	前橋市00038道跡	平成20年度	—
65	上廻井五十嵐道跡	前橋市上廻井町	00777	—	平成20・21年度	平成24年度
66	天王・東屋谷戸道跡	前橋市上廻井町	00131	前橋市00037道跡	平成20・21年度	—
67	—	前橋市富士見町時沢	90094	—	平成20・21年度	平成25年度
68	—	前橋市上廻井町	00798	—	平成21年度	—
69	上町・時沢西廻屋谷戸道跡	前橋市富士見町時沢	90097	前橋市00035道跡	平成21年度	平成24年度
70	王久保道跡	前橋市上廻井町・富士見町時沢	00794	—	平成21・24年度	平成24年度
71	新田上道跡	前橋市上廻井町	00128	前橋市00034道跡	平成24年度	平成26年度
72	上廻井中島道跡	前橋市上廻井町	00787	—	平成21・24年度	平成25年度
73	上廻井神山道跡	前橋市上廻井町	00786	前橋市00015道跡	平成21・24年度	平成24年度
74	山王・柴道跡群	前橋市青柳町	00795	前橋市00013道跡 前橋市00014道跡 前橋市00783道跡	平成21・22・23・25年度	平成27年度
75	引切塚道跡	前橋市青柳町	00434	前橋市00013道跡	平成24年度	—
76	青柳宕上道跡	前橋市青柳町	00325	前橋市00013道跡	平成24年度	平成26年度
77	日輪寺諏訪前道跡	前橋市日輪寺町	—	—	調査除外	—
78	諏訪道跡	前橋市日輪寺町	00144	前橋市00016道跡	調査除外	—
79	川端相岸道跡	前橋市川端町・日輪寺町	00807	—	平成24年度	平成28年度
80	川端山下道跡	前橋市川端町	00808	前橋市00903道跡	平成24・25年度	平成28年度
81a	間根堀ケ沢道跡	前橋市間根町	00802	—	平成24年度	平成20年度
81b	間根赤城道跡	前橋市間根町	00803	—	平成24年度	平成25年度
82	田口下田尻道跡	前橋市田口町	00804	前橋市00008道跡	平成23・25年度	平成28年度



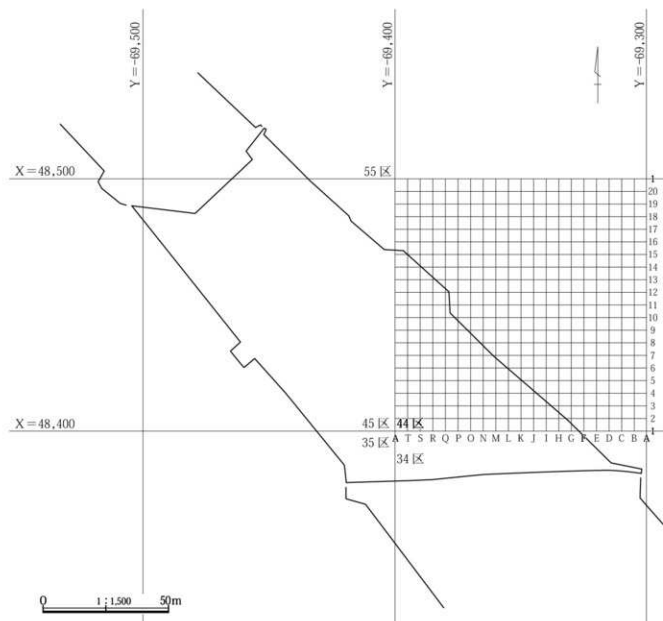
第3図 上武道路8工区の道跡(国土地理院1/50,000地形図「前橋」平成10年発行を使用)



第4図 川端山下遺跡周辺図(前橋市役所 1/2,500前橋市現形図平成21年測図を使用)



第5図 大・中グリッド設定図(国土地理院1:25,000地形図「波川」平成14年発行、「前編」平成22年発行を使用)



第6図 中・小グリッド設定図

#### (4) 遺構写真撮影

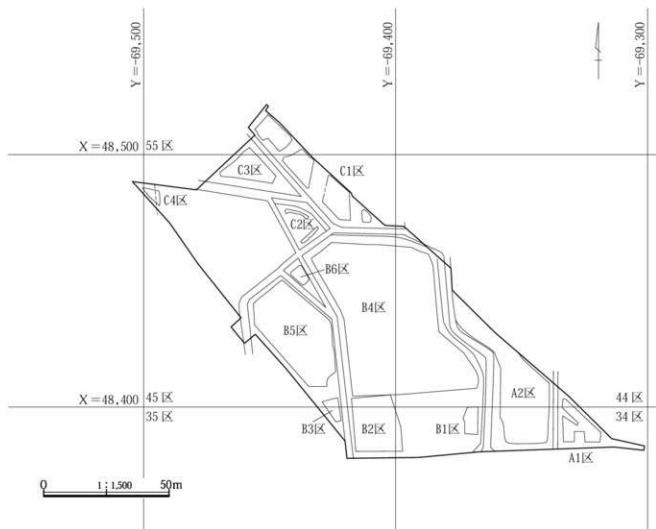
遺構等の写真撮影は、調査担当者が撮影した。プロローニー版モノクロフィルム6×7cm判サイズ、デジタルカメラで撮影した。デジタルデータは、HDやDVD-ROM等のメディアに保存し、データのファイル名は、遺構略号・番号・撮影方向・内容を記号化したものに置き換えるリネーム作業を行った。遺構ごとに土層断面、遺物出土状態、全景等を撮影し、さらに必要に応じて接写を行った。

#### 2. 発掘調査の経過

川端山下遺跡の発掘調査は、平成24(2012)年12月1日から平成25(2013)年6月30日までの7ヶ月間、8,031.76㎡を対象として実施した。

調査区内は、道路及び水路により分割されているため、その区画に従いA～C区を設定した。また、工事用道路によりさらに分割されることとなったため、枝番号を付し、A1区、A2区・・・などと呼称した。発掘調査は、12月12日にA区(A1区)の表土除去から着手し、6月11日にC区(C4区)の埋め戻しをもって終了した。そ





第7図 調査区分分図

の結果、第1面(近世面)、第2面(中・近世面)、第3面(古墳時代～平安時代面)、第4面(古墳時代・5世紀洪水堆積層下位面)、第5面(古墳時代以前・As-C層下位面)、第6面(古墳時代以前)が確認された(5世紀洪水堆積層・As-C層については第3章第3節参照)。A区では、第1～3面、B・C区では、第1～6面が、部分的または全面的に重複した状況であった。そのため、重複して調査されたのは、A区であり、B・C区については、ほぼ単独面として調査された。

なお、調査面として確認した調査区のうち、遺構・遺物が認められた調査区、遺物包含層が認められた調査区、遺構・遺物が認められなかった調査区は以下の通りである。

遺構・遺物が認められた調査区  
第1面：A 2区、B 4区、C 1区

第2面：A 2区、B 4・5区、C 1・4区  
第3面：A(1)・2区、B 5・6区、C 1区  
第4面：B 4区、C 1・4区  
第5面：B 4・5区、C 1区  
第6面：B 5区、C 1区  
遺物包含層が認められる調査区  
第4面：B 1・2区、洪水堆積土層に遺物包含層  
第5面：B 2・3区、As-C軽石層下面に遺物包含層  
遺構・遺物が認められなかった調査区  
第1面：A 1区、B 5区、C 4区、  
第2面：A 1区、C 2・3区  
第3面：B 4区、C 3区  
第4面：B 6区、C 3区

また、C4区がある区画の中央から南東を占める用地は、埋蔵文化財試掘・確認のトレンチ調査の結果から遺構・遺物が発見されなかったため発掘調査が不要となり、調査を行わなかった。また、B1区とB2区の間用地は、埋蔵文化財試掘・確認のトレンチ調査の結果、及び現場の発掘調査の結果により各々の内側に細々沢川の旧流路の存在が推定されるため、調査を行わなかった。調査日誌抄録は以下の通りである。

平成24年度

平成24年12月

- 1日 調査担当2名着任
- 3～11日 調査着手、器材搬入、調査準備
- 12日 A1区表土掘削、調査
- 13日 B1区表土掘削、調査
- 14日 A2区表土掘削
- 18日 B2区全景写真撮影
- 19日 B3区全景写真撮影
- 26日 A2区トレンチ調査

平成25年1月

- 24日 A2区遺構調査継続 遺構確認作業

同年2月

- 27日 A2区遺構調査継続 遺構掘削作業

同年3月

- 1日 A1区全景写真撮影
- 5日 A2区2号溝調査
- 6日 A2区全景写真撮影
- 7日 A2区遺構写真撮影
- 12日 A2区2・4号溝全景写真
- 19日 埋め戻し開始
- 22日 A2区トレンチ調査
- 25日 埋め戻し完了
- 26～28日 撤収作業
- 29日 調査終了
- 31日 調査担当2名離任

平成25年度

平成25年4月

- 1日 調査担当2名着任
- 3～10日 調査着手、器材搬入、調査準備
- 4日 国土交通省会議

11日 B4区表土掘削開始

12日 遺構調査開始

18日 C1区表土掘削開始、遺構調査開始

23日 B4区全景写真撮影

24日 B5区表土掘削開始

25日 B5区遺構調査開始

C1区全景写真撮影

26日 B4区洪水層上面(4面)遺構全景写真撮影

同年5月

1日 B4区全景写真撮影

8日 B4区C黒土(5面)全景写真撮影

B6区掘削開始

9日 B6区調査開始 写真撮影

16日 B6区、埋め戻し

17日 B5区 全景写真撮影

C1区(東部)埋め戻し

22日 C1(中央部)写真撮影

23日 B4区、C1区(南部)埋め戻し

27日 C1区(中央部分)埋め戻し

28日 B5区5面全景写真撮影

31日 C3区表土掘削、調査

同年6月

4日 B5区6面全景写真撮影

C2区表土掘削、調査、埋め戻し C3区埋め戻し

5日 B5区埋め戻し

C4区表土掘削開始

10日 C4区調査

11日 C4区埋め戻し

12～14日 写真整理 図面整理

24・25日 器材撤収作業

26日 プレハブ撤収作業

30日 調査担当2名離任

### 3. 整理作業の経過と方法

整理作業は、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団がこれにあたることとなり、平成28(2016)年度に4月から9月までの6ヶ月間および12月から平成29(2017)年3月までの4ヶ月間の合計10ヶ月間実施した。

遺構図は、点検・修正・編集を行い、掲載図をデジタ

## 第1章 調査の経過

ルデータとして作成した。遺物は、接合・復元したものを写真撮影・実測・トレースした。遺構写真は、デジタル写真から編集を行った。また、これらの作業と並行して、本文原稿・遺物観察表等を執筆した。遺構図・遺物図・遺構写真・遺物写真・本文原稿・遺物観察表等のレイアウトを作成した後にデジタル編集を行い、本報告書を作成した。遺物・図面・写真等の記録資料については、遺物管理台帳および写真管理台帳を作成し、今後の活用に備えて遺物や図面の収納作業を行い群馬県埋蔵文化財調査センターに保管した。

なお、整理作業において、遺構名の変更、及び新たに遺構名を付したものが生じたため下記のとおり示す。これに伴う遺物注記について書きかえは行っていない。

遺構名(変更)

B 4区2面 旧 29号土坑 新 1号井戸

遺構名(新規)

B 5区2面 284号ピット 285号ピット

## 第2章 周辺の環境

### 第1節 地理的環境

川端山下遺跡は前橋市の北西部、前橋市川端町に所在する。群馬県庁から北へ約4.9km、赤城山南西麓から平野部へ移行したところに位置している。

前橋市は、平成の市町村合併において平成16(2004)年12月に旧勢多郡大胡町・宮城村・粕川村と、平成21(2009)年5月に旧勢多郡富士見村と合併した。また、前橋市は、平成13(2001)年4月1日に国から特別市に指定され、平成21年4月には群馬県内初の中核市に移行している。なお、富士見村の合併により、古代から親しまれてきた「勢多郡」の名称は事実上消滅した。

前橋市は、かつて「関東の華」と称された前橋城跡に県庁が所在しており、群馬県内における政治・経済・文化の中心都市である。県関連機関・施設はもとより、裁判所、営林局など国の出張機関、大学も集中しており、地方都市における司法・行政・立法機関が整備されている。さらに、金融保険業、民間の主要産業、新聞社、出版社等も集中しており、県内では高崎市と共に第3次産業の人口比率が高く、北関東の主要都市でもある。

また、前橋市は、関東平野の北西部に位置し、利根川が市街地の中央を北西から南東へ流れている。前橋市周辺の地形は、北東部に赤城山斜面、北西部に榛名山斜面、南西部の洪積台地の前橋台地、斜面と台地に挟まれた沖積低地の広瀬川低地、および現利根川氾濫原からなる。

赤城山の火山活動は、約50万年前からの「古期成層火山形成期」、約20万年前からの「新期成層火山形成期」、約4.5万年前からの「中央火口形成期」の3つの形成期からなる。「古期成層火山形成期」には溶岩流出やスコリア噴出により大規模な成層火山が形成され、最盛期には標高2,000m以上に達したと推定される。その後、山体崩落による岩屑なだれが発生し、赤城南麓の多田山や権現山、南西麓の桶山や箱田山などの流れ山が形成された。その後は、長い活動休止期があり河川等による山体の浸食が進んだ。「新期成層火山形成期」の山体は、浸食の進んだ古期成層火山を主に溶岩流とテフラが覆っていた。

火砕流と噴火が特徴であった。「中央火口形成期」には、カルデラの形成が進み大沼が生まれた。約4.5万年前以降、カルデラ内で大規模な軽石噴火が発生し、噴出された軽石は偏西風に乗って太平洋岸にまで達していた。その後、長七郎山・地蔵岳などの中央火口丘群が形成された。小沼はその際水蒸気爆発によって生じた火口湖である。その後、活発な火山活動は確認されておらず、現在に至るまで浸食・堆積作用が続き、火山麓扇状地が形成されている。

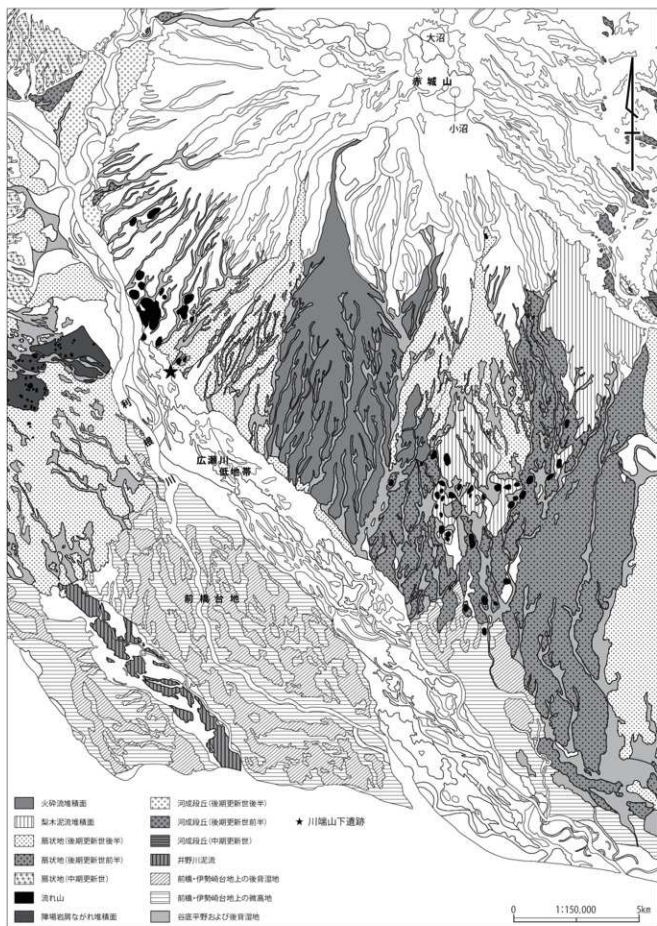
前橋台地は、浅間山の山体崩壊によって引き起こされた火山泥流堆積物である前橋泥流堆積物とそれを覆うローム層から形成されており、利根川が赤城・榛名山麓間から関東平野に流れ出たところに広がる緩傾斜の台地である。前橋泥流堆積物の上下からはAs-BPが確認されており、前橋泥流の堆積年代は約2.4万年前と推定される。広瀬川低地帯(沖積低地)は、前橋台地の北東側崖線と赤城山南麓斜面との間に挟まれ、市街地の北西から南東に走っている。広瀬川低地帯の幅は3km前後で、前橋台地との比高差は数mである。現在、利根川は前橋台地の中央を流下しているが、広瀬川の流量が、広瀬川低地帯を形成するには不足であると考えられることから、広瀬川低地帯が利根川の旧流路であったと推定されている。

本遺跡は、赤城山南西麓の広瀬川低地帯に位置している。細ヶ沢川、大堰川、桃ノ木川などの河川が密集しており、遺跡はそれらの後背湿地上にある。これらの河川は、遺跡の周辺でそれぞれ桃ノ木川に合流する。なお、本遺跡内には近代以前の細ヶ沢川の旧流路が存在している。

桃ノ木川左岸にあたる本遺跡周辺は、主に水田・畑地として利用されているが、南下するに従って桃ノ木川流域は市街地化が進んでいる。

### 第2節 歴史的環境

川端山下遺跡が立地する赤城山南西麓には、約3万年前の旧石器時代から中・近世に至るまで多くの遺跡が残されている。従来から継続されてきた上武道路建設に伴



第8図 川端山下遺跡周辺地形分類図(群馬県史編纂委員会「群馬県史」通史編1・付図2を改変)

う発掘調査により、その様相が明らかになりつつある。以下、周辺遺跡について各時代の概要を述べる。

## 1. 旧石器時代

赤城山南西麓に位置する本遺跡周辺の旧石器時代遺跡は、これまで確認されてこなかったが、上武道路建設に伴う発掘調査で旧石器時代の石器群が出土しており、分布は希薄なもの、その様相が明らかになってきている。

前橋市0013遺跡(青柳宿上遺跡、第9図11)においてAs-YP下から黒色頁岩製石器2点が出土した。前橋市0015遺跡(上細井嶺山遺跡、第9図12)においてはAs-OKを含む層から黒色頁岩製の石器2点が出土した。前橋市0023遺跡(胴城遺跡、第9図範囲外)においてはAs-YP下～As-OK1から黒曜石製を中心に石器79点が出土した。前橋市0034遺跡(新田上遺跡、第9図18)においてはAs-YP下から硬質頁岩製と黒色安山岩製の石器109点が出土した。前橋市0049遺跡(鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡、第9図範囲外)においてはAs-YP下から硬質頁岩製を中心に石器350点が出土した。以上のように、川端山下遺跡周辺では、旧石器時代の遺跡が赤城山南西麓に位置している。

## 2. 縄文時代

本遺跡周辺の縄文時代の遺跡は、扇状地内の藤沢川右岸と細ヶ沢川左岸に分布する傾向にある。前期遺跡が多く中期以降は減少する傾向は、県内の傾向と矛盾しない。

草創期の遺跡は前橋市0045遺跡(堤遺跡、第9図範囲外)で石棺の製作跡が見つかっている。前橋0045遺跡(小神明遺跡群湯気遺跡)、前橋市0046遺跡(湯気遺跡群、小神明勝沢境遺跡、第9図範囲外)から有茎尖頭器が出土している。草創期の集落は城山遺跡(第9図範囲外)から確認されている。

早期の遺物は、前橋市0037遺跡(上細井五十嵐遺跡、第9図範囲外)、前橋市0046遺跡(湯気遺跡群、第9図範囲外)から標系文土器が、前橋市0038遺跡(庄子遺跡、第9図範囲外)から条痕文土器が出土した。前橋市0013遺跡(青柳宿上遺跡、引切塚遺跡、第9図11)・前橋市0015遺跡(上細井中島遺跡、第9図13)から早期遺物包含層が確認されており、標系文系から条痕文系の土器が出土し

ている。

前期の遺跡は赤城山南西麓に分布している。前橋市0004遺跡(下庄司原西遺跡、下庄司原東遺跡、上庄司原東遺跡、富士見地区遺跡群陣場遺跡、第9図5)、前橋市0015遺跡(上細井嶺山遺跡、第9図13)、前橋市0037遺跡(上細井五十嵐遺跡、第9図範囲外)、芝山遺跡(第9図範囲外)、前橋市0748遺跡(富士見地区遺跡群愛宕山遺跡、第9図39)、前橋市0749遺跡(富士見地区遺跡群田中田遺跡、第9図40)、下箱田向山遺跡(第9図範囲外)などから集落が確認されている。

中期の遺跡は、前橋市0015遺跡(上細井中島遺跡、第9図13)、前橋市0034遺跡(新田上遺跡、第9図18)、瓜山遺跡(第9図74)などから集落が確認されている。前期に比すると遺跡数は減少している。

後期の遺跡は、前橋市0045遺跡(堤遺跡、小神明遺跡群九料遺跡、第9図範囲外)、前橋市0049遺跡(鳥取福蔵寺遺跡、第9図範囲外)などから集落が確認されている。遺跡数は少ない。

晩期の遺跡は、前橋市0013遺跡(青柳宿上遺跡、引切塚遺跡、第9図11)から晩期千綱式土器が出土している。これらの遺跡は河川性氾濫堆積物下で確認されたものである。遺跡数は後期と同様に少ない。

## 3. 弥生時代

弥生時代の遺跡は、赤城山南西麓においては少ない。縄文時代晩期から、その傾向は続いている。発見された遺跡は後期の遺跡が多い。

前橋市0034遺跡(新田上遺跡、第9図18)から中期、前橋市0045遺跡(小神明遺跡群湯気遺跡・倉本遺跡、第9図範囲外)から中期～後期、前橋市0038遺跡(庄子遺跡、第9図範囲外)から後期の集落が確認されている。前橋市0013遺跡(青柳宿上遺跡、第9図11)、前橋市0903遺跡(川端根岸遺跡・川端山下遺跡、第9図1)からは中期の遺物が出土している。

## 4. 古墳時代

古墳時代に移行し、本遺跡周辺の遺跡数は急増する。大規模集落が形成され、平野部において水田の分布が確

認められる。『上毛古墳総覧』によれば、旧富士見村に29基、旧南橋村に45基、旧芳賀村に64基、旧桂萱村に79基の古墳があったとされている。

前期は、前橋市0004遺跡(下庄司原東遺跡、第9図5)・前橋市0013遺跡(引切塚遺跡、第9図11)・前橋市0749遺跡(富士見地区遺跡群田中田遺跡、第9図40)などから集落が確認されている。田中田遺跡では、S字状口縁台付裏や単口縁裏が出土した。また、前橋市0008遺跡(田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡、第9図6)では、古墳時代初頭の大規模集落が形成されており水田遺構が見つかる。前橋市0004・0847遺跡(上庄司原西遺跡、第9図5・68)からは集落の近くに周溝墓も確認されている。前橋市0013・0014遺跡(山王・柴遺跡群、第9図11・12)からは畠4群があり、As-C軽石降下前後であると確認されている。古墳時代初頭の生産域を示すものとして特筆される。

中期は、前橋市0008遺跡(田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡、第9図6)・前橋市0749遺跡(富士見地区遺跡群田中田遺跡、第9図40)などから集落が確認されている。前橋市0783遺跡(山王・柴遺跡群、第9図65)からは小石塚墓・方墳が確認されている。方墳の主体部は失われており、堀内にはHr-FAの堆積が見られた。これらは青柳古墳群とされるものであり5世紀後半～6世紀初頭と推定される。

後期から終末期にかけては、前橋市0004遺跡(下庄司原東遺跡、第9図5)・前橋市0008遺跡(田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡、第9図6)・前橋市0013遺跡(青柳宿上遺跡、引切塚遺跡、第9図11)・前橋市0016遺跡(南橋東原遺跡、第9図14)・前橋市0749遺跡(富士見地区遺跡群田中田遺跡、第9図40)などから6世紀から7世紀の集落が確認されている。

また、古墳は、前橋市0764遺跡(九十九山古墳(富士見村16号古墳)、第9図55)から6世紀前半の前方後円墳が確認されている。前橋市0783遺跡(山王・柴遺跡群、第9図65)から6世紀後半～7世紀の円墳が確認され、横穴式石室の一部が認められた。赤城白川右岸では、前橋市0847遺跡(第9図68)、前橋市0858遺跡(引切塚古墳、第9図69)でも終末の古墳が確認されており、後期群集墳を形成していたと考えられる。

## 5. 奈良・平安時代

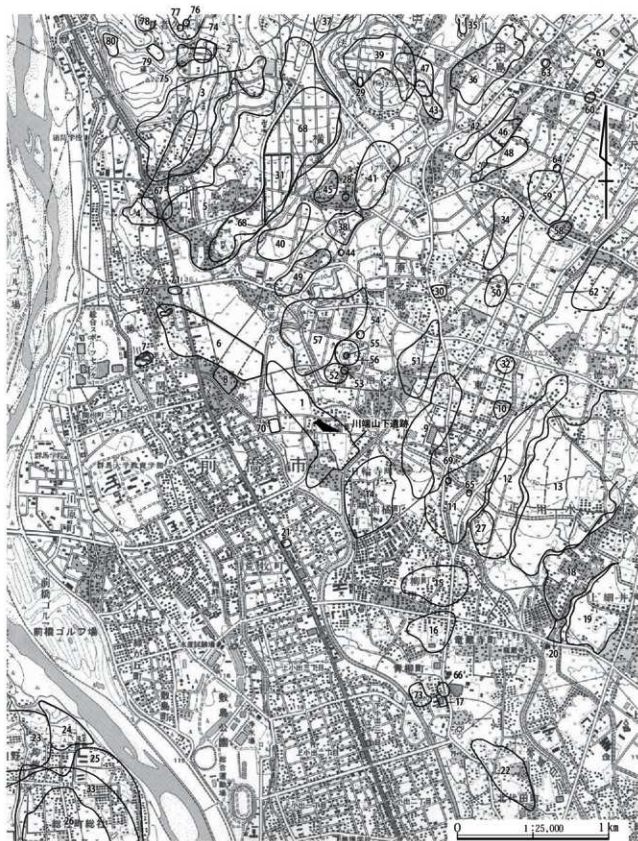
群馬県は律令期においては、ほぼ上毛野国にあたり、国内には「碓氷・片岡・甘楽・多胡・緑野・那波・群馬・吾妻・利根・勢多・佐位・新田・山田・邑楽」の14郡が置かれた。前橋市域はおおよそ利根川左岸側が勢多郡、利根川右岸側が群馬郡に属した。古代において赤城山南西麓には古代勢多郡が設置されていた。『和名類聚抄』によれば、古代勢多郡には「深田、田邑、芳賀、桂萱、真壁、深栗、深澤、時澤、藤澤」の9郷があったとされている。本遺跡周辺では、真壁郷が荒川市北橋町真壁、時澤郷が前橋市富士見町沢付付近にそれぞれ比定される。群馬郡には国府・国分寺が置かれ、上野園の中心であった。

本遺跡周辺においては、前橋市0008遺跡(田口下田尻遺跡、田口上田尻遺跡、第9図6)・前橋市0011遺跡(旭久保遺跡、第9図9)・前橋市0016遺跡(南橋東原遺跡、第9図14)から、集落が確認されている。前橋市0008遺跡(田口下田尻遺跡、第9図6)、前橋市0035遺跡(王久保遺跡、上町・時沢西紺屋谷遺跡、第9図19)からは集落のほか鍛冶遺構が確認されている。前橋市0034遺跡(新田上遺跡、第9図18)では、集落の中心を道路状遺構が東西に走る様相が確認されている。前橋市0843遺跡(青柳寄居遺跡、第9図66)からは平安時代の水田とその下層から集落が確認されている。前橋市0013・0014遺跡(山王・柴遺跡群、第9図11・12)では、As-Bに覆われたもの、及び、その下位から2面の水田が確認されている。

本遺跡の南西には、朝天山新禰院日輪寺が位置している。日輪寺は弘仁2(811)年創立とされ、観音堂に十一面観世音像がまつられており県重要文化財に指定されている。寺域の区画南西隅に菅原神社が祀られており、日輪寺の鎮守であったとされる。

## 6. 中・近世

中世には、赤城山南麓に荘園、公領の展開が見られた。特定の地域が荘園の変形として、荘(庄)、御厨、保などの私有地となり、他の土地は公領の郷であった。本遺跡周辺は、拝志荘(林荘)または青柳御厨に相当すると思われる。『富士見村誌』続編は、関連資料が、拝志荘の勢力下にあったと思われる旧細ヶ沢川以西の赤城山南西



第9図 川端山下遺跡周辺道跡分布図(国土地理院 1/25,000地形図「渋川」平成14年発行、「前橋」平成22年発行を使用)



第3表 周辺遺跡一覧表

遺跡No.・ID・名称		旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	種別・概要	文献	
1	前橋市0903遺跡	04564	川端山下遺跡				○	○	○	○	集落。平安住居1、溝1、中世堅穴1、溝2、土坑2、地下式土坑2。近世溝1。	本報告書	
		04563	川端根岸遺跡		○		○	○	○	○	集落。古墳溝9、水田2。平安住居4、土坑10、中世堅穴7、掘立柱2、溝3、※1道1、水田1。近世馬廄。	※1	
		04572	間根堀ヶ沢遺跡				○	○	○	○	○	集落。生産遺跡。古墳溝7、水田2。平安住居149、溝36、製鉄炉3、鍛冶1、中世近世溝22、サケ葺8、組作痕4など。	13
2	前橋市0001遺跡	02245	分布調査			○	○				散布地。		
3	前橋市0002遺跡	02235	岡市遺跡			○					散布地。		
4	前橋市0003遺跡	04275	分布調査			○	○	○	○		散布地。		
5	前橋市0004遺跡	00312	千手堂遺跡		○							集落。	
		00313	田口八幡Ⅰ遺跡					○	○			集落。平安住居14など。	52
		00314	田口八幡Ⅱ遺跡					○	○			集落。生産遺跡。平安住居24など。	53
		00317	天神塚遺跡		○							集落。	
		00332	八幡遺跡		○		○					集落。	
		02917	富士見地区遺跡群 陣場遺跡						○	○		集落。縄文前期住居7、中期住居15、後期住居2。終末期円墳2、平安住居73など。	20
		02920	下庄司原西遺跡		○	○			○			集落。縄文前期住居4、土坑5、終末期円墳1、平安住居20、溝2、土坑、ヒット。	
		04306	下庄司原東遺跡		○		○	○				集落。縄文前期住居5、中期住居1、古墳前期方形周溝墓3、前方後方形周溝墓1、古墳住居10、奈良平安住居41など。	
		02923	上庄司原西遺跡		○	○	○	○				集落。古墳前期方形周溝墓1、中期溝1、古墳住居6、奈良平安住居6など。	
		02925	上庄司原東遺跡		○	○			○			集落。縄文住居4、後期円墳2、平安住居7など。	
		02928	上庄司原北遺跡		△	○						集落。縄文中期包含層、終末期円墳1。	
		02942	米野下原遺跡		○	○						散布地。	
00344	試掘			○	○	○				集落。			
6	前橋市0008遺跡	04605	田口上田尻遺跡		○	○	○	○	○		集落。生産遺跡。古墳～平安住居311、畑26、近世復旧堀59、水田6など。	6	
		04606	田口下田尻遺跡		○	○	○	○	○		集落。生産遺跡。	※2	
		04570	田口下田尻遺跡		○	○	○	○	○		集落。生産遺跡。古墳畑1、平安住居39、溝12。中近世溝7など。	11	
		04571	間根赤城遺跡				○	○	○		集落。生産遺跡。江戸堀9、溝1など。	42	
7	前橋市0009遺跡	02126	間根内山遺跡						○	生産遺跡。江戸堀9、溝1など。	42		
8	前橋市0010遺跡	00309	間根の寄居							○	城館。中世物。	55	
9	前橋市0011遺跡	02955	旭久保遺跡		○	○	○	○	○		集落。	24	
		02956	旭久保B遺跡		○	○	○	○	○		集落。縄文中期包含層。古墳住居1、中近世溝1など。	24,27	
		02957	旭久保B遺跡		○	○					集落。	28	
		02958	旭久保C遺跡		○	○	○	○	○		集落。		
		02959	旭久保C遺跡		○	○	○	○	○		集落。		
		02960	旭久保D遺跡		○	○					集落。	32	
		02961	旭久保D遺跡		○	○	○	○	○		集落。		
		02975	旭久保Ⅱ・Ⅲ遺跡		○	○		○			集落。縄文住居、溝、平安住居、溝。	31	
		02973	旭久保Ⅲ遺跡	—	—	—	—	—	—	—	—	集落。	23,34
		02974	旭久保Ⅲ遺跡	—	—	—	—	—	—	—	—	集落。	
02980	原之郷新田遺跡		○							散布地。	34		
02247	分布調査		○		○	○				散布地。			
04593	試掘		○		○	○				散布地。			
10	前橋市0012遺跡	02986	原之郷下白川遺跡								散布地。	28,30,31	
11	前橋市0013遺跡	00283	青柳遺跡				○				集落。古墳住居1。	46	
		00284	青柳宿上遺跡		○	○	○	○			集落。旧石器、縄文住居1、古墳住居29、縄文早期包含層など。	14,46	
		04554	宿上遺跡				○				集落。古墳住居29、横六式石室1、奈良住居3、縄文早期包含層など。	14,36	
		00336	引切塚遺跡		○	○	○	○			集落。古墳住居2など。		
		04557	引切塚遺跡		○	○	○	○			集落。古墳住居2など。		
		00338	引切塚Ⅱ遺跡				○				集落。古墳住居2など。	37	
		03705	引切塚Ⅱ遺跡				○				集落。古墳住居2など。		
		03866	山王・集遺跡群				○					集落。As-非下木田？	15

	道跡No・I D・名称	旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	種別・概要	文献	
12	前橋市0014道跡	00302	神明A道跡			○					集落。		
		00303	神明B道跡			○					集落。		
		03052	念仏道跡					○				散布地。	
		04555	山王・柴道跡群	○	○			○	○			集落。As-#下木田?	15
		02248	分布調査	○	○	○	○					散布地。	
13	前橋市0015道跡	03075	時沢西森林道跡			○	○				集落。	34,35	
		03076	時沢西森林道跡			○	○				集落。		
		04492	時沢西森林B道跡					○				集落。	
		03864	上欄井中島道跡	○	○			○	○			集落。縄文住居7、配石道槽、平安住居8、中近世掘立柱1、井戸3。	9
		03865	上欄井嶺山道跡	○	○	○	○					集落。旧石器、縄文前期集落、古墳1基、奈良・平安住居27など。	8
14	前橋市0016道跡	02320	分布調査	○	○	○							
		00305	諏訪道跡			○						集落。	
15	前橋市0031道跡	02127	南橋東原道跡			○	○	○	○		集落。古墳～平安住居52、掘立柱1、柱穴群、中世溝、土坑、道路2など。	54	
		02250	分布調査		○	○	○				散布地。		
16	前橋市0032道跡	00285	青柳宿前道跡					○			集落。	39	
		02798	青柳宿前道跡					○			集落。平安住居、溝。	40	
17	前橋市0033道跡	01311	青柳宿前B道跡					○			集落。平安住居12、水田址など。	48	
		00288	青柳宿前道跡					○			集落。平安住居10、柱穴30。	27,28,31	
18	前橋市0034道跡	00300	新田上道跡	○	○	○	○	○	○		集落。旧石器、縄文住居、配石、弥生住居、古墳住居、奈良・平安住居など。	12	
		04561	新田上道跡		○	○	○				散布地。		
		03049	時沢四ヶ塚道跡		○	○					集落。	32	
		03081	時沢原谷戸道跡					○			集落。		
		00293	王間久保道跡		○	○					集落。		
		00343	葉師道跡		○	○					集落。		
		03068	時沢宮東道跡				○	○			集落。	33,35	
		03069	時沢宮東道跡				○	○			集落。		
		03070	時沢西高田道跡				○	○			集落。平安住居10、柱穴30。	27,28,31	
		03071	時沢西高田道跡				○	○			集落。平安住居、溝、土坑、柱穴。	28	
19	前橋市0035道跡	03072	時沢西高田道跡	--	--	--	--	--	--	--			
		03073	時沢西高田B道跡					○			集落。奈良・平安集落、道路。	30	
		03077	時沢西組屋谷戸道跡					○			集落。古墳～平安住居47など。	10	
		03078	時沢西組屋谷戸道跡					○	○		集落。古墳～平安住居25、掘立柱1、平安鍛冶1など。中近世溝8。	7	
		03862	上町・時沢西組屋谷戸道跡			○	○	○		○	集落。		
		03863	王久保道跡				○	○	○		集落。		
20	前橋市0036道跡	00334	八幡山の菅					○		城跡。五輪塔、板碑。	55		
21	前橋市0063道跡	01312	八幡前道跡				○	○		散布地。			
22	前橋市0068道跡	02253	分布調査	○	○	○				散布地。			
23	前橋市0115道跡	00263	若宮道跡				○				集落。平安住居14、溝3など。	49	
		04599	植野小園上道跡			○					集落。		
24	前橋市0116道跡	00043	勝山城					○			城跡。	5	
		00078	元聖寺経塚道跡					○	○		城跡。		
25	前橋市0124道跡	00154	総社城					○	○		城跡。	55	
		01383	試掘					○	○		城跡。	43	
		03879	総社町屋敷南道跡	○	○						集落。	45	
26	前橋市0125道跡	04509	宝塔山古墳(総社村9号古墳)				○				古墳後期。	3,44	
		02797	南橋村41号古墳				○				古墳。	3	
27	前橋市0126道跡	04615	神明古墳				○				古墳。		
		02943	横家古墳(富士見村13号古墳)								古墳(円墳10)。	3	
29	前橋市0591道跡	02950	初室古墳(富士見村7号古墳)				○				古墳。	22	
		04351	試掘				○				集落。		
30	前橋市0595道跡	04352	試掘				○				集落。		

	道跡No.・I D・名称	巨石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	種別・概要	文献
31	前橋市0596道跡	02953	陣場					○			城跡。	5
32	前橋市0599道跡	02983	原之郷白川道跡			○					散布地。	
33	前橋市0603道跡	04444	湯見山古墳(総社村6号古墳)			○					古墳。	3
		04443	能穴山古墳(総社村8号古墳)			○					古墳。	3, 38
		04447	宝塔山古墳(総社村9号古墳)			○					古墳。	3, 47
		04445	愛宕山古墳(総社村10号古墳)			○					古墳。	3, 46
		04446	総社二子山古墳(総社村11号古墳)			○					古墳。	3, 4
		00016	福前山古墳(総社村12号古墳)			○					古墳。	3, 51
34	前橋市0639道跡	04454	分布調査			○					散布地。	
35	前橋市0725道跡	02843	引田高塚道跡	○			○		○		集落。縄文住居1、平安住居1など。	29, 30
		02844	引田高塚道跡	○			○				集落。	16
		02850	引田谷原道跡	○		○					集落。	
		02851	引田諏訪三反田道跡	○		○					散布地。	
36	前橋市0726道跡	02845	富士見地区道跡群赤城道跡	○			○		○		集落。	21
		02938	富士見地区道跡群長泉寺道跡	○			○				集落。縄文住居2、平安住居4など。	
		02913	富士見地区道跡群由森道跡	○		○	○		○		集落。縄文住居2、平安住居23、掘立10など。	19
		02940	引田高橋道跡	○		○					その他。	
37	前橋市0727道跡	02854	米野江町道跡	○						散布地。		
38	前橋市0741道跡	02909	横室寄居					○			城跡。その他。	55, 56
		02914	富士見地区道跡群青回道跡	○		○	○	○	○		城跡。その他。中近世溝4など。	18
39	前橋市0748道跡	02910	富士見地区道跡群愛宕山道跡	○			○				集落。生産。縄文住居12、土坑150、平安掘立1など。	22
		02931	富士見地区道跡群愛宕道跡	○					○		生産道跡。近世探石跡1。	
40	前橋市0749道跡	02915	横室中道跡	○							生産道跡。	27
		02930	富士見地区道跡群田中道跡	○	○		○				集落。縄文住居9、古墳前期住居37、後期住居24、溝1など。	17
41	前橋市0750道跡	02936	富士見地区道跡群田中道跡			○					集落。縄文住居2、配石1など。	18
42	前橋市0751道跡	02911	富士見地区道跡群久保田道跡	○		○	○				集落。縄文住居6、古墳住居1、奈良平安住居13など。	19
		02912	富士見地区道跡群白川道跡	○		○	○	○			集落。縄文住居2、古墳住居20、奈良平安住居14、掘立11など。	
43	前橋市0752道跡	02944	森山古墳(富士見村6号古墳)			○					古墳。	3
		02945	道上古墳			○					古墳。	
44	前橋市0753道跡	02946	荒井古墳(富士見村14号古墳)			○					古墳。	3, 16
45	前橋市0754道跡	02948	横室前道跡	○							散布地。	16, 31
46	前橋市0755道跡	02952	田島城					○			城跡。	55
47	前橋市0756道跡	02939	富士見地区道跡群白向道跡					○			城跡。	22
		02954	森山城(引田城)					○			城跡。	56
48	前橋市0757道跡	02949	原之郷鎌塚道跡	○		○					集落。散布地。	
		02951	田島上の台道跡			○					散布地。	
49	前橋市0758道跡	02977	富士見地区道跡群岩之下道跡	○		○	○				集落。縄文土坑3、古墳住居9、奈良平安住居15、掘立2など。	18
		02982	横室東沢口道跡	○		○					散布地。	
50	前橋市0759道跡	02962	原之郷御沢道跡	△			○				集落。縄文土器片。平安住居2、掘立1、惣穴1、土坑、柱穴など。	26
		04597	試掘				○				集落。	
51	前橋市0760道跡	02976	原之郷東原道跡	○		○	○				集落。縄文前期住居。奈良平安住居。	23
		02978	原之郷後原道跡	○		○					集落。	
52	前橋市0761道跡	02984	原之郷善養寺道跡		○	○					集落。	28
53	前橋市0762道跡	03724	富士見麓1号古墳			○					古墳。	

道跡No・I D・名称		旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	種別・概要	文献
54	前橋市0763道跡	02985	原之郷山ノ後道跡		○						散布地。	
55	前橋市0764道跡	02987	九十九山古墳(富士見村16号古墳)		○						古墳。前方後円墳。6世紀前半。上毛古墳総覧16号墳。	3
56	前橋市0765道跡	02988	九十九山の岩					○			城跡。	5
57	前橋市0766道跡	02989	金山城					○			城跡。	55
58	前橋市0767道跡	02995	小沢の場道跡		○			○	○		集落。古墳溝1、平安住居2、中近世溝1など。	25
58	前橋市0767道跡	02996	小沢の場道跡		○							
59	前橋市0769道跡	03001	原之郷奥向弥道跡	○	○	○					集落。	
60	前橋市0773道跡	03011	田島跡廻林道跡		○						散布地。	
61	前橋市0776道跡	03016	十二道跡	○							集落。	
62	前橋市0777道跡	03051	時沢中島道跡		○	○					墳墓。	
63	前橋市0778道跡	03015	田島清水道跡	○	○						散布地。	
64	前橋市0779道跡	03012	鎌塚古墳(富士見村15号古墳)			○					古墳。	3
65	前橋市0783道跡	04488	山王・柴道跡群		○						古墳。	15
66	前橋市0843道跡	03950	青柳寄居道跡				○				生産道跡。水田。	48
		00258	塩原塚古墳		○						古墳。	46
67	前橋市0846道跡	01245	田口冠木道跡・田口冠木道跡1号古墳(南橋村24号古墳)			○					古墳。	3, 41
		00340	富士塚古墳(南橋村28号古墳)			○					古墳。	
		02233	南橋村32号古墳			○					古墳。	
		02234	南橋村33号古墳			○					古墳。	
		02236	諏訪古墳群			○					古墳。	
		02237	諏訪古墳群B(南橋村34・36・37号古墳)			○					古墳。	
		02238	諏訪古墳群C			○					古墳。	
		02239	冠木古墳群A(南橋村16~22号古墳)			○					古墳。	
02240	冠木古墳群B(南橋村24~26号古墳)			○					古墳。			
		02241	南橋村35号古墳			○				古墳。	3	
68	前橋市0847道跡	02921	下庄司原1号古墳・富士見村狐塚古墳(富士見村10号古墳)			○					古墳。円墳。上毛古墳総覧14号墳。	
		03955	上庄司原1号古墳(富士見村8号古墳)			○					古墳。	
		02929	上庄司原2号古墳(富士見村9号古墳)			○					古墳。	3, 20
		02926	上庄司原3号古墳			○					古墳。	
		02924	上庄司原4号古墳(富士見村11号古墳)			○					古墳。	
		02918	陣場1号古墳(富士見村12号古墳)			○					古墳。	
		02919	陣場2号古墳			○					古墳。	
		03952	富士見地区道跡群陣場道跡			○					古墳(円墳2)。	
		03953	上庄司原西道跡			○					古墳(円墳1)。	
		03954	上庄司原東道跡			○					古墳(円墳2)。	
		04428	上庄司原北道跡			○					古墳(円墳1)。	
		04603	田口八幡1道跡			○				古墳(円墳1)。	52	
		04450				○				古墳。		
69	前橋市0858道跡	00339	引切塚古墳(南橋村4号古墳)			○				古墳。	36	
		04329	引切塚道跡			○				古墳。		
70	前橋市0865道跡	04169	試掘	—	—	—	—	—	—	—	散布地。	43
71	前橋市0901道跡	04583	試掘	—	—	—	—	—	—	—	生産、その他。	

	道跡No.・I・D・名称	旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	種別・概要	文献
72	前橋市0913道跡 04604 田口上田尻道跡				○	○	○	○	○		水田、生産。	6
73	前橋市0943道跡 04670 青柳寄居							○			城跡。	56
74	瓜山道跡		○		○						散布地、集落、縄文住居など。	1, 2
75	崎峠道跡		○		○						散布地。	
76	道跡名無し				○						古墳。	
77	道跡名無し				○						古墳。	
78	道跡名無し		○			○					散布地。	
79	道跡名無し		○								散布地。	
80	道跡名無し		○								散布地。	

文献

1	北橋村教育委員会1990『東藤道跡・瓜山道跡』
2	北橋村教育委員会2000『北橋村村内道跡』Ⅷ
3	群馬県1938『上毛古墳総覧』
4	群馬県史編さん委員会1981『群馬県史』資料編3
5	群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城館跡』
6	群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『田口上田尻道跡・田口下田尻道跡』
7	群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『久久保道跡』
8	群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上堀井脚山道跡』
9	群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上堀井中島道跡』
10	群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上野・時沢西園塚谷ノ道跡』
11	群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『関根赤城道跡』
12	群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『新田上道跡』
13	群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『関根堀ヶ沢道跡』
14	群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『引切塚道跡・青柳宿上道跡』
15	群馬県埋蔵文化財調査事業団2016『山王・集落跡群』
16	富士見村誌編さん委員会1979『富士見村誌』続編
17	富士見村教育委員会1986『田中田道跡・窪谷ノ道跡・見附道跡』
18	富士見村教育委員会1987『富士見地区道跡群 向吹笠道跡・田中道跡・岩之下道跡・寄居道跡』
19	富士見村教育委員会1989『富士見地区道跡群 白川道跡・由森道跡・久保田道跡』
20	富士見村教育委員会1991『富士見地区道跡群 陣崎・庄司原古墳群』
21	富士見村教育委員会1993『富士見地区道跡群 赤城道跡・長榮寺道跡』
22	富士見村教育委員会1994『富士見地区道跡群 愛宕山道跡・初家古墳・愛宕道跡・日向道跡』
23	富士見村教育委員会1997『平成8年度村内道跡』
24	富士見村教育委員会1998『久久保B道跡』
25	富士見村教育委員会1998『小沢の場道跡』
26	富士見村教育委員会1998『原之郷湖沼道跡』
27	富士見村教育委員会1998『平成9年度村内道跡』
28	富士見村教育委員会1999『平成10年度村内道跡』
29	富士見村教育委員会2001『引田高塚道跡』
30	富士見村教育委員会2001『平成12年度村内道跡』
31	富士見村教育委員会2002『平成13年度村内道跡』
32	富士見村教育委員会2004『平成15年度村内道跡』
33	富士見村教育委員会2006『時沢宮東道跡』
34	富士見村教育委員会2007『時沢西萩林道跡』
35	富士見村教育委員会2009『平成16～19年度村内道跡』
36	前橋市教育委員会1985『引切塚道跡』
37	前橋市教育委員会1993『引切塚Ⅱ道跡』
38	前橋市教育委員会1996『市内道跡発掘調査報告書』
39	前橋市教育委員会2000『市内道跡発掘調査報告書』
40	前橋市教育委員会2001『市内道跡発掘調査報告書』
41	前橋市教育委員会2004『年報』35
42	前橋市教育委員会2007『市内道跡発掘調査報告書』
43	前橋市教育委員会2008『市内道跡発掘調査報告書』
44	前橋市教育委員会2009『市内道跡発掘調査報告書』
45	前橋市教育委員会2009『年報』40
46	前橋市史編さん委員会1971『前橋市史』1
47	前橋市文化財研究会1976『蛇穴山古墳調査概報』
48	前橋市埋蔵文化財発掘調査団1984『青柳寄居道跡』
49	前橋市埋蔵文化財発掘調査団1989『若宮道跡』
50	前橋市埋蔵文化財発掘調査団1996『稲村愛宕山道跡』
51	前橋市埋蔵文化財発掘調査団1998『稲荷山古墳』
52	前橋市埋蔵文化財発掘調査団2000『田口八幡Ⅰ道跡』
53	前橋市埋蔵文化財発掘調査団2000『田口八幡Ⅱ道跡』
54	前橋市埋蔵文化財発掘調査団2008『南橋東原道跡』
55	山崎一1971『群馬県古城址地の研究』上
56	山崎一1979『群馬県古城址地の研究』補遺編上

※1 平成28年度発行予定

※2 平成28年度発行予定

麓から西麓にかけて分布することから、現在の利根郡昭  
和村から赤城村を中心にして、北橋村、富士見村西部、  
前橋市田口町から日輪寺町へかけての広大な地域を拝志  
荘(林荘)としている。また、『南橋村誌』によると、青柳  
の鎮守は神明宮であり、龍蔵寺にも神明宮が祀られてい  
る。荒牧神社はかつて伊勢宮と称していた。現在も伊  
勢、伊勢東等の地名が残る。このことにより、青柳、龍  
蔵寺、日輪寺、荒牧の地は、いずれも青柳御厨としてい  
る。延文5(1360)年成立の『神風抄』という伊勢皇大神宮  
の所領を書き上げた記録には、「青柳御厨 布州段百廿  
町 建永符八十町」とある。建永年間(1206~07年)に官  
符が出され、その田数は80町であったことが読み取れ  
る。さらに、『前橋市史』によると青柳御厨は赤城白川が  
旧利根川に合流する沖積堆土上に位置していたとされて  
いる。『氏経御記』は、貞和3(1347)年と宝徳4(1452)年  
の2度にわたり、青柳御厨関係の文書が遠江国蒲原内  
安間郷の文書とともに焼失した旨を証明する筋失状が作  
成されている。

関東地方が戦国時代に入ると、本遺跡周辺にもこの時  
期の城館が存在する。『富士見村誌』続編によると、前橋  
市0596遺跡(陣場、第9図31)は、文明9(1477)年に太田  
道灌が長尾景春と対陣した際の陣跡としている。また、  
本遺跡周辺には、前橋市0010遺跡(関根の寄居、第9図  
8)、前橋市0741遺跡(横室寄居、第9図38)・前橋市  
0943遺跡(青柳寄居、第9図73)などの寄居が分布してい  
る。寄居は、当時の統御組織に関連する呼称であり、長  
尾氏や桐生氏関係に限定して用いられた。本遺跡周辺の  
ものは長尾氏に關係するものである。その他、本遺跡周  
辺には前橋市0036遺跡(八幡山の砦、第9図20)・前橋市  
0755遺跡(田島城、第9図46)・前橋市0756遺跡(森山城(引  
田城)、第9図47)・前橋市0765遺跡(九十九山の砦、第  
9図56)・前橋市0766遺跡(金山城、第9図57)などが存  
在する。これら城館は、16世紀のものが主体である。徳  
川家康が関東に入封後、前橋藩主は平岩氏にはじまり、  
酒井氏、松平氏と名門の大名に引き継がれていった。そ  
れに伴い本遺跡周辺の川端村付近は前橋藩領となる。

### 第3節 土層堆積状況

本遺跡は河川による浸食及びカスリン台風による洪水  
の影響を受けた土地にある。弥生時代から中・近世に至  
る土層において、調査区全体がカスリン台風による洪水  
層で覆われており、カスリン台風による影響がうかがえ  
る。また、洪水層下の堆積状況は場所により異なるが、  
旧表土、耕作土が埋没している。

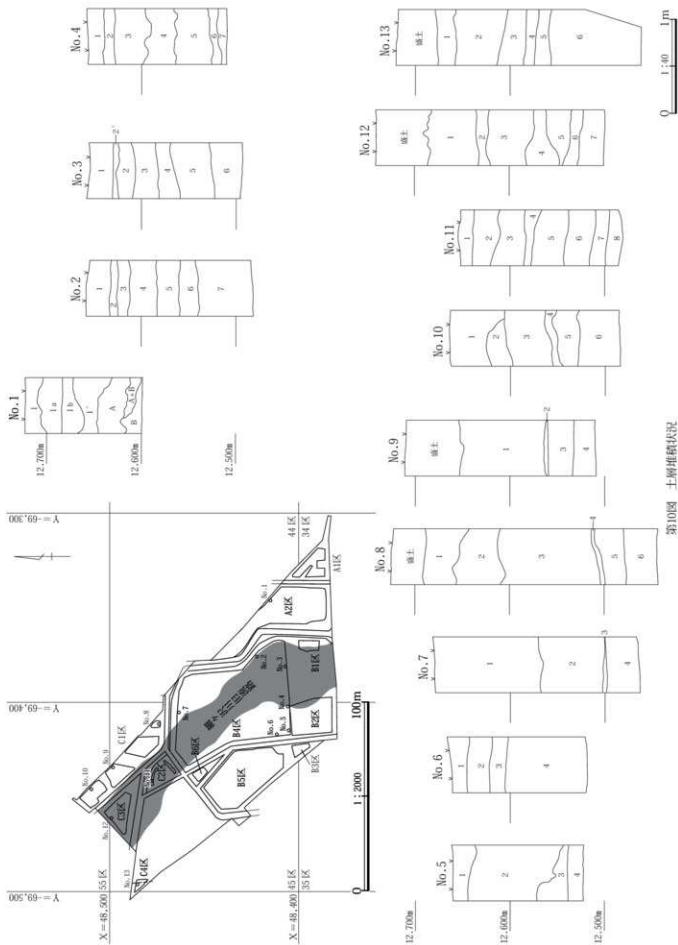
細ヶ沢川旧流路左岸にあるA区、B区東部、C東部の  
標高がやや高いのに対して、右岸にあるB区西部、C区  
西部の標高が低い傾向が観察された。現表土以下の土層  
堆積状況(柱状図)を第10図に示した。本遺跡では、統一  
した基本土層の設定は困難であり、各調査区における代  
表的な土層堆積状況を記載する。

本遺跡では、後世の削平が進んでおり浅間山噴火に伴  
うAs-B軽石がほとんど見られない。本来ならこの地域の  
地層の特徴的な堆積である。鍵層となるAs-C軽石は、遺  
跡全域で安定的に確認されており、黒褐色土、暗褐色土  
等、本遺跡の主体を成す土層に覆拌された状況で存在し  
ていることが多く、土層堆積状況として位置付けている。

土層堆積状況は、A区とB区及びC区では、層位の厚  
さや高さを主体として様相が異なる。これも一重に、カ  
スリン台風の影響の軽重と旧流路の氾濫の様相の違いに  
よるものが大きいと考えられる。A区は、調査区のほと  
んどが旧流路の左岸に位置しており、B区・C区は、調  
査区のほぼ中央を旧流路が通過していると思われる。

土層堆積状況は、A区で1か所、B区で6か所、C区  
で6か所において確認した。土層堆積状況は、細ヶ沢川  
旧流路の右岸と左岸で異なる傾向が見られた。細ヶ沢川  
旧流路の左岸に位置するB区のNo.7、C区のNo.8・9・  
10については、Ac-C軽石を含む黒色土より土層は、洪水  
起源の砂質土が堆積しており、比較的土壌堆積が安定し  
ていた。これらの地点は、旧流路左岸の微高地に位置し  
ており、カスリン台風、旧流路の影響が少なかったと考  
えられる。事実、道を挟んで同じ旧流路左岸にあるNo.7  
とNo.8では、近くから複数面に及ぶ遺構が確認されてい  
る。本調査区において、この付近は自然災害による遺構  
の損失が免れたと推察される。それに対して細ヶ沢川旧  
流路の右岸に位置するB区の4・5・6については、掘

第2章 周辺の環境



第10図 土層堆積状況

## 川端山下道跡 土層堆積状況

## 土層堆積状況№1

- 1 現表土、耕作土
  - 1a カスリン台風による洪水層(シルト質)
  - 1b カスリン台風による洪水層
  - 1' 旧表土
- A層 暗褐色土(10YR3/3) 細粒軽石若干含む。  
B層 5世紀洪水層。

## 土層堆積状況№2

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石含む。(表土)
- 2 褐色土(10YR4/1) 砂粒主体。鉄分付着著しい。
- 3 褐色土(10YR4/1) 砂粒主体。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 小礫含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 小礫多く含む。砂粒主体。(洪水砂層)
- 6 にぶい黄褐色土(10YR7/2) 鉄分付着する。
- 7 にぶい黄褐色土(10YR6/3) 白色軽石含む。鉄分付着著しい。

## 土層堆積状況№3

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 小礫含む。(表土)
- 2 褐色土(10YR4/1) 砂粒主体。
- 2' 褐色土(10YR4/1) 砂粒主体。鉄分付着著しい。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石含む。砂粒主体。
- 4 褐色土(10YR4/1) 砂粒主体。均質。白色軽石含む。
- 5 にぶい黄褐色土(10YR6/4) 砂粒主体。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR6/4) 小礫含む。砂粒主体。

## 土層堆積状況№4

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 均質土。(表土)
- 2 褐色土(10YR4/1) 砂粒主体。鉄分付着する。
- 3 褐色土(10YR4/1) 白色軽石含む。砂粒主体。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石、小礫含む。砂粒主体。
- 5 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 鉄分付着する。均質土。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 砂粒主体。
- 7 灰黄褐色土(10YR5/2) 砂粒主体。均質土。

## 土層堆積状況№5

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石含む。(表土)
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 白色軽石、小礫含む。
- 3 浅黄褐色土(10YR8/3) 鉄分付着著しい。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 小礫多く含む。砂粒主体。(洪水砂層)

## 土層堆積状況№6

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石含む。(表土)
- 2 褐色土(7.5YR4/1) 白色軽石含む。砂粒主体。
- 3 暗褐色土(7.5YR3/3) 白色軽石、小礫含む。砂粒主体。
- 4 浅黄褐色土(10YR3/3) 鉄分付着著しい。

## 土層堆積状況№7

- 1 灰黄褐色土(10YR6/2) 上半部は表土層、下半部はHr-PP粒・浅黄褐色砂粒層に含む。
- 2 浅黄褐色土(10YR8/3) 鉄分付着著しい。
- 3 黄褐色粘土(10YR8/6) 洪水最下層。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 上半部はAs-C少量、下半部はAs-C多量含む。粘性強い。

## 土層堆積状況№8

- 1 褐色土(10YR6/1) 上半部は表土、下半部はHr-PP少量含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2) 砂質土。
- 3 浅黄褐色土(10YR8/3) 鉄分付着著しい。
- 4 黄褐色土(10YR8/6) 粘質土。洪水最下層。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) 上半部はAs-C少量、下半部はAs-C多量含む。粘性強い。
- 6 黒褐色土(10YR2/2) やや砂質。

## 土層堆積状況№9

- 1 黄色土(2.5YR/8) 洪水砂主体。
- 2 黄褐色粘質土(10YR8/6) 粘性強い。As-C混黒色土上面の水田面に最初に堆積。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 上半部より下半部にAs-Cの混入が多い。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 3層より粘性が高い。

## 土層堆積状況№10

- 1 極暗褐色土(7.5YR2/3) 白色粒子含む。
- 2 明暗灰色砂質土(7.5YR7/2) 鉄分やや付着する。
- 3 褐色土(7.5YR6/1) As-C少量含む。やや粘性。鉄分やや付着する。砂質土。
- 4 にぶい褐色土(7.5YR7/3) Hr-PP細粒・細礫層に含む。上半部やや粘性、下半部やや砂質。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) As-C混入。
- 6 灰褐色土~黒褐色土(7.5YR4/2~3/2) As-C混入なし。灰褐色土は粘質土。

## 土層堆積状況№11

- 1 表土
- 2 褐色土(7.5YR4/1) 砂粒主体。軽石多い。
- 3 暗褐色土(7.5YR3/3) 砂粒、軽石多量。
- 4 黒褐色土(7.5YR3/1) 砂主体。
- 5 黒褐色土(10YR3/1) 粘質土。
- 6 褐色土(10YR4/1) 砂質土。
- 7 灰黄褐色土(10YR4/2) 砂質土。
- 8 褐色土(10YR5/1) 砂礫層。

## 土層堆積状況№12

- 1 にぶい褐色土(7.5YR5/3) 近世洪水層か。上部に鉄分の付着が多く、水田床の可能性。
- 2 暗褐色土(7.5YR3/4) 砂礫を多く含む。
- 3 褐色土(7.5YR6/1) 浅黄褐色砂をブロック状に少量、カーボン細粒層に含む。砂質土。洪水層か?
- 4 褐色土(7.5YR4/1) 粘質土。
- 5 灰褐色土(7.5YR4/2) 4層に類似するが、4層よりも砂の混入が多い。
- 6 灰褐色土(7.5YR4/2) 鉄分付着著しい。
- 7 暗褐色土(7.5YR3/4) 砂礫層。

## 土層堆積状況№13

- 1 褐色土(7.5YR4/3) 表面。砂礫含む。
- 2 褐色土(7.5YR4/4) 3層の土混入。(すき込み)
- 3 褐色土(7.5YR4/6) 暗褐色土ブロック少量含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 砂利と小石の混在。
- 5 暗褐色土(10YR3/4) 砂・砂礫主体。川の堆積物。
- 6 灰黄褐色砂(10YR5/2) 砂主体。鉄分付着。川の堆積物。



乱が広範囲に及び、さらに、後世の耕作等により削平の結果、安定した土壌堆積が観察できない傾向にある。これは本調査区の特徴である。

各土層堆積状況を概観して調査面の設定をするときの方法である。第10図No.1は、A2区北東壁の土層堆積状況である。整地面は確認されなかった。1層は、現代の耕作土である。Ia・bはカスリン台風による砂層である。I'は、シルト質の黒褐色土、旧表土である。Aは暗褐色土で細粒軽石を含み、Bは5世紀の洪水層である。指標となるテフラ等により、各年代の比定は、次の通りである。5世紀洪水層上面の上から古代から中・近世まで(1～3面)の遺構が確認されている。5世紀洪水層上面(4面)、5世紀洪水層下面(5・6面)は、本調査区では遺構が確認できなかった。

第10図No.2～7は、B区各壁の土層堆積状況である。No.2は東壁、No.3～5は南壁、No.6は西壁、No.7は北壁の土層堆積状況である。整地面は確認されなかった。No.2～6の1層及びNo.7の1層上部は、表土である。No.2の2～5層、No.3・4の2～4層、No.5の2層、No.6の2・3層は、No.7の1層下部は、褐色土、暗褐色土及び黒褐色土で、砂粒や小礫が混入している。旧流路による影響を受けている。年代の比定としては、1～3面に相当する。No.2の6・7層、No.3・4の5・6層、No.5の3層、No.6の4層、No.7の2層は、小礫を含む砂質土で鉄分の付着が著しい5世紀洪水層である。5世紀洪水層上面は4面に相当する。No.7の4層は、5世紀洪水層下のAs-Cを含む黒褐色土である。5面に相当する。6面に相当する土層が確認できなかった。

第10図No.8～13は、C区各壁の土層堆積状況である。No.8はC1区南壁、No.9・10はC1区東壁、No.11はC2区北壁、No.12はC3区北壁、No.13はC4区北壁の土層堆積状況である。整地面は確認されなかった。No.8・11の1層、No.13の1層は、表土である。No.8の2層、No.11の2・3層、No.13の2～5層は、褐色土、暗褐色土で、砂粒や小礫が混入している。旧流路による影響を受けている。年代の比定としては、1～3面に相当する。No.8の3層、No.9の1・2層、No.10の2・3層、No.12の4・5層、No.13の6層は、鉄分の付着が著しい5世紀洪水層である。5世紀洪水層上面は4面に相当する。No.8の5層、No.9の3層、No.10の5層は、5世紀洪水層下のAs-C

を含む黒褐色土である。この上面は5面に相当する。No.8の6層、No.9の4層、No.10の6層はAs-Cを含まない黒褐色土であり、6面に相当すると思われる。

## 参考文献

- 北橋村誌編纂委員会1975『北橋村誌』  
 群馬県文化事業振興会1977『上野国形村誌』1  
 勢多郡誌編纂委員会1958『勢多郡誌』  
 群馬県史編さん委員会1990『群馬県史』通史編1  
 群馬県史編さん委員会1989『群馬県史』通史編3  
 富士見村誌編纂委員会1954『富士見村誌』  
 富士見村誌編纂委員会1979『富士見村誌』続編  
 前橋市史編さん委員会1971『前橋市史』1  
 前橋市史編さん委員会1971『前橋市史』2  
 前橋市史編さん委員会1971『前橋市史』5  
 南橋村誌編纂委員会1955『南橋村誌』  
 群馬県1950『カスリン颱風の研究』  
 群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城館跡』  
 飯森康広2015『環濠屋敷をめぐる研究動向と地域状況』『群馬県玉村中世史研究』1 玉村中世史研究会  
 今井善一郎1943『邦志庄考』『上毛文化』71 上毛文化会  
 今井善一郎1959『邦志庄の位置について』『群馬文化』27 群馬文化の会  
 久保田順一2009『中世前期上野の地域社会』岩田書院  
 須藤聡2015『上野国周辺の伊勢神宮面形についての一考察』『群馬県玉村中世史研究』1 玉村中世史研究会  
 谷口寛次1995『邦志牧と邦志荘』『群馬歴史散歩』132 群馬歴史散歩の会  
 都丸十九一1995『邦志牧(荘)の位置について』『群馬文化』241 群馬地域文化研究協議会  
 山崎一1971『群馬県古城界址の研究』上巻  
 山崎一1978『群馬県古城界址の研究』下巻  
 山崎一1979『群馬県古城界址の研究』補遺編上  
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『関根赤城遺跡』  
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『新田上遺跡』  
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『関根横ヶ沢遺跡』  
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『引切塚遺跡・青柳宿上遺跡』  
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2016『山王・築道跡群』  
 群馬県総務部市町村課2015『平成27年度群馬県市町村変遷』  
 群馬県地質図作成委員会1995『群馬県10万分の1地質図』  
 前橋市教育委員会2013『前橋市道路分布地図』  
 マッピングぐんま  
<http://mapping-gunma.pref-gunma.jp/pref-gunma/top>



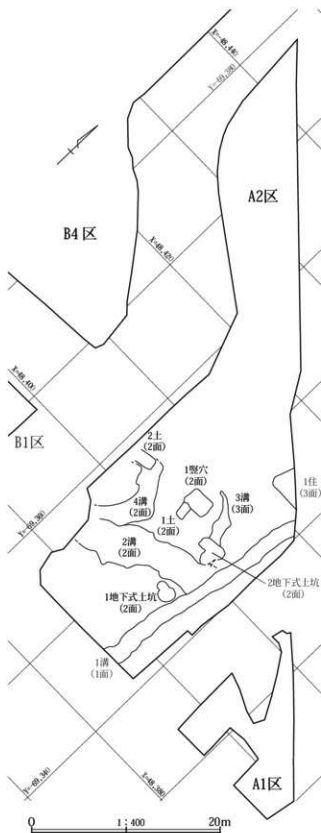


## 第3章 調査の内容

### 第1節 調査の概要

川端山下遺跡A2区では、近世(江戸時代)の溝1条、中世(室町時代)の竪穴状遺構1基・溝2条・地下式土坑2基・土坑2基、及び古代(平安時代)の竪穴住居1軒・溝1条を検出した。出土遺物においては、中世(室町時代)の溝から在地系土器の灯火台、地下式土坑から銅製品の太刀の吊り金具が出土している。灯火台からは特殊な遺構の存在が推測される。12世紀後半には、赤城山南麓地帯に秀郷流の藤原氏の一族が分散していた。藤原氏は東福寺建立とゆかりが深く、調査区北接周辺には「東福寺」の口伝が残っており関係が考慮される。

川端山下遺跡B1・2・3区では、古墳時代の洪水堆積土層、及びAs-C下層に2枚の遺物包含層が想定されたが遺構は検出されなかった。川端山下遺跡B4・5・6区、及びC1・2・3・4区では、近世、中世、古代(5世紀洪水層上面、古墳時代前期、4世紀以前と面調査が行われている。全体で、井戸1基、溝22条、土坑40基、ピット278基、畑1枚、水田2面、耕作痕1条の遺構が検出されている。上面から概観していくと、中・近世においては、複数の土坑やピットが集中している。ピットの中には礎石の存在や形状などから柱穴と考えられるものがあり、掘立柱建物の基礎と推察され、屋敷の規模が推定される。これらは出土遺物から中・近世と考えられる。B4区南西部、B5区で検出された溝の中には、ピットや土坑を囲むようにコの字状を呈する溝があることから、屋敷に伴う周堀であると推察される。調査区域のほぼ中央に細ヶ沢川の旧流路が残筋も見られ、その東西の両端に微高地が存在しており、ここに溝や屋敷が存在していた景観が想定される。また、C1区では畑が検出されている。時期は埋没土の様相及び出土遺物から中世以降と考えられる。B5区・C1区からは、古代の用水路と考えられる溝、水田の畦、耕作痕も検出されており、奈良・平安時代においては、生活の様相を伝える遺構や遺物が認められた。古墳時代においては、B4区北東部、C1区から、5世紀に発生した洪水下から水田の



第12図 A1・2区1～3面 全体図

畦などが見つかった。B5区の際に下面の包含層からは、弥生時代中期の土器の破片と石鎌などの石器が僅かに出土した。溝や土坑等の遺構も検出されたが、これらは土器の時代に伴うか明瞭でない。縄文時代においては、明確な遺構は確認に至っていない。

本遺跡においては、発掘段階では面調査が行われており、本稿の掲載については発掘時の面調査を基準としている。ただし、遺構によっては、面を重複して検出されているものがあり、その旨は本文において指摘した。

## 第2節 A区の遺構と遺物

### I 近世(第1面)

本項で報告するのは、5世紀洪水層及び細粒軽石を含む暗褐色土の上にあるシルト質の黒褐色土を確認面とした遺構と遺物であり、A区の1面として調査を行った。細ヶ沢川の旧流路の左岸の微高地に位置している。全体的には遺構に乏しく削平も進んでいるため、検出されたのは近世の溝1条のみであった。遺構面の大半はシルト質の黒褐色土で埋没しており、細ヶ沢川の旧流路の影響を多く受けていると考えられる。出土遺物は近世の陶磁器が多く含まれており、時期の想定に矛盾はない。

#### 1 A1区の遺構と遺物

遺構や遺物は認められなかった。

#### 2 A2区の遺構と遺物

##### (1) 溝

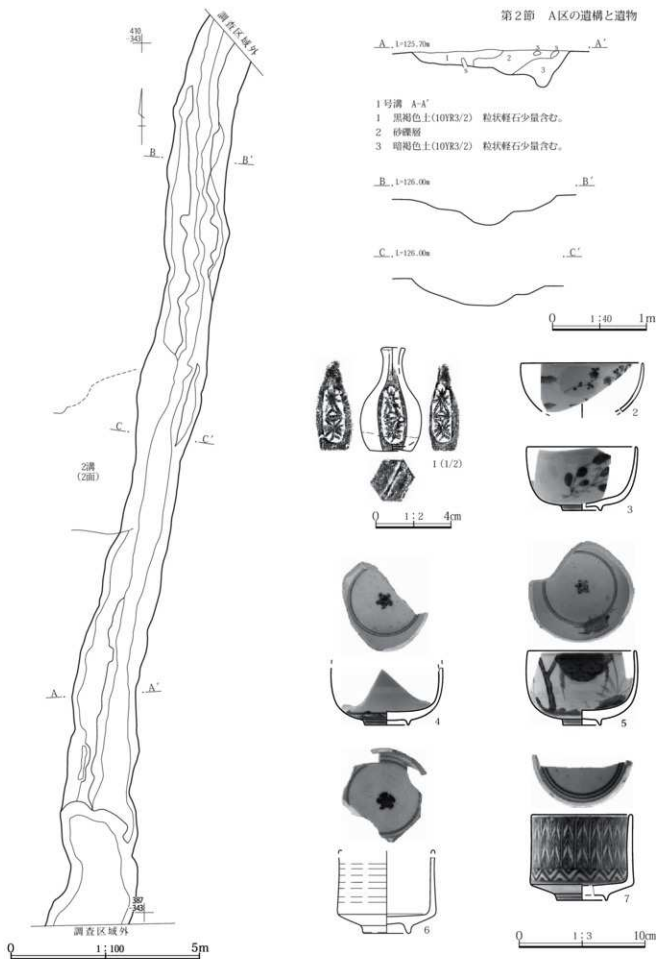
本調査区の1号溝は、ほぼ南北に直進する。地形は細ヶ沢川の旧流路方向に傾斜しており、傾斜方向に垂直に位置する。溝幅は一定で、形状は整っている。出土遺物より、近年まで使用されていたと推察される。埋没土に細粒軽石を含む土層が観察される。近世以降の溝であると考えられるが、溝の使用時期及び使用期間等について明瞭にするための資料は得られていない。

##### 1号溝(第13~18図 PL. 5・48・49)

位置：387~410・-343

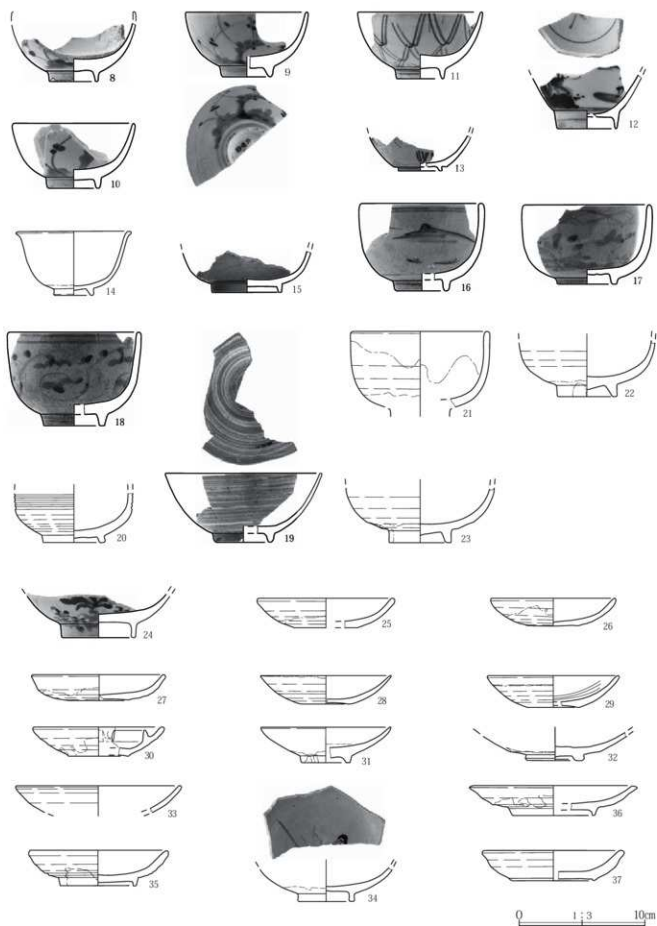
規模：長さ(23.82) m × 幅1.25 ~ 1.95m 残存深度：0.12~0.38m 走行方位：N-10°-E 遺物：陶磁器・土器87点、ミニチュア(徳利)2点(1・46)、染付丸碗1点(2)、染付小丸碗2点(3・5)、染付碗5点(4・8・9・10・11)、青磁染付筒形碗1点(6)、染付筒形碗1点(7)、染付広底碗1点(12)、小杉碗1点(13)、碗1点(14)、京焼風碗1点(15)、陶胎染付碗3点(16・17・18)、刷毛目碗1点(19)、腰鎗碗1点(20)、尾呂碗3点(21・22・23)、染付鉢1点(24)、灯火皿5点(25・26・27・28・29)、灯火受皿1点(30)、白磁皿1点(31)、青緑釉皿2点(32・33)、京焼風皿1点(34)、皿7点(35・36・38・39・40・41・42)、鉄絵皿1点(37)、菊皿2点(44・45)、輪髷皿1点(43)、小香炉2点(47・48)、筒形香炉2点(49・50)、瀬戸・美濃陶器(不詳)3点(51・57・58)、土瓶3点(52・53・54)、平碗1点(55)、瓶1点(56)、すり鉢5点(60・61・62・63・64)、糞5点(65・66・67・68・69)、皿2点(70・71)、内耳鍋4点(72・73・76・77)、片口鉢2点(74・75)、鍋4点(78・79・80・81)、焙烙6点(82・83・84・85・86・87)、鉢1点(88)、耳壺1点(59)、須恵器1点(糞89)、銅製品2点(キセル97・98)、鉄製品3点(小刀99・鎌100・火打ち金101)、石製品7点(砥石7点90・91・92・93・94・95・96)を図示した。すべてが埋没土からの出土であった。上記の出土遺物の中で土瓶3点(52・53・54)、すり鉢1点(60)は、前橋藩窯で焼成されたものである。非掲載遺物として、灰軸陶器(杯類1片)、石製品12片(砥石)、石造物3点(板碑片)、礫石器1点(鉞石)、剥片石器2点(剥片)が出土している。重複：2号溝(2面)と重複している。1号溝が新しいと考える。所見：細粒軽石を含む暗褐色土が、その上部に細粒軽石を含む黒褐色土が埋没していた。形状は、およそ直線であり、ほぼ南北に直行しており、おおよそ北から南へ傾斜している。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は基本的には、逆台形で、底面は丸底である。幅はほぼ変わらない。残存深度は一部深いところもあるが、およそ一定である。南北方向を示す走行の溝はB4・5区でも見られるが、それらの溝と並行するものではない。また、区画を呈しているか明瞭でない。この溝の機能等は、用排水路の一つと考えられる。出土遺物・溝の形状及び埋没土等より、近世以降の溝であると推察される。

第2節 A区の遺構と遺物

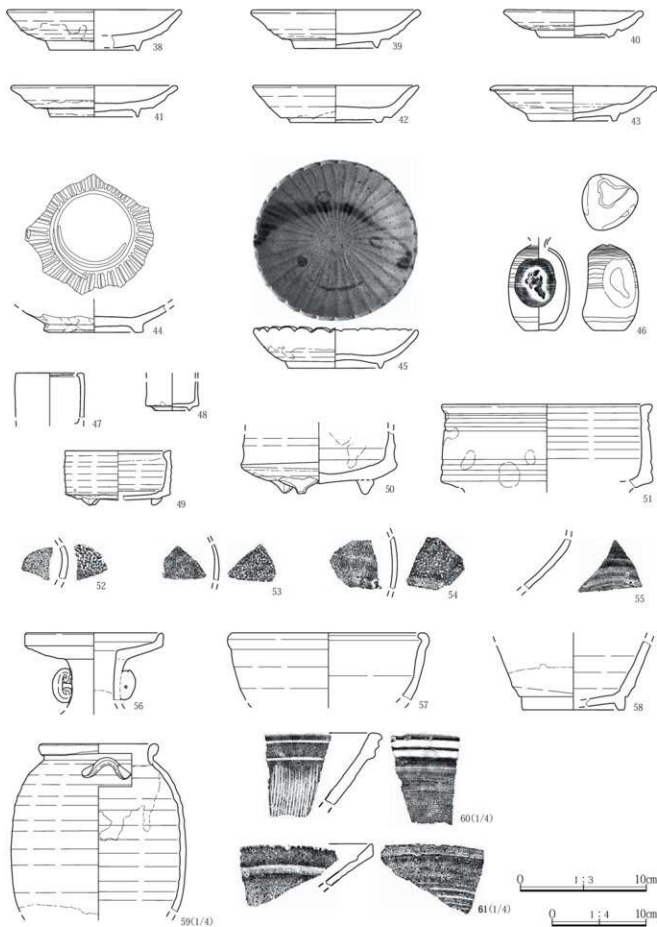


第13図 A2区1面 1号溝、出土遺物(1)

第3章 調査の内容



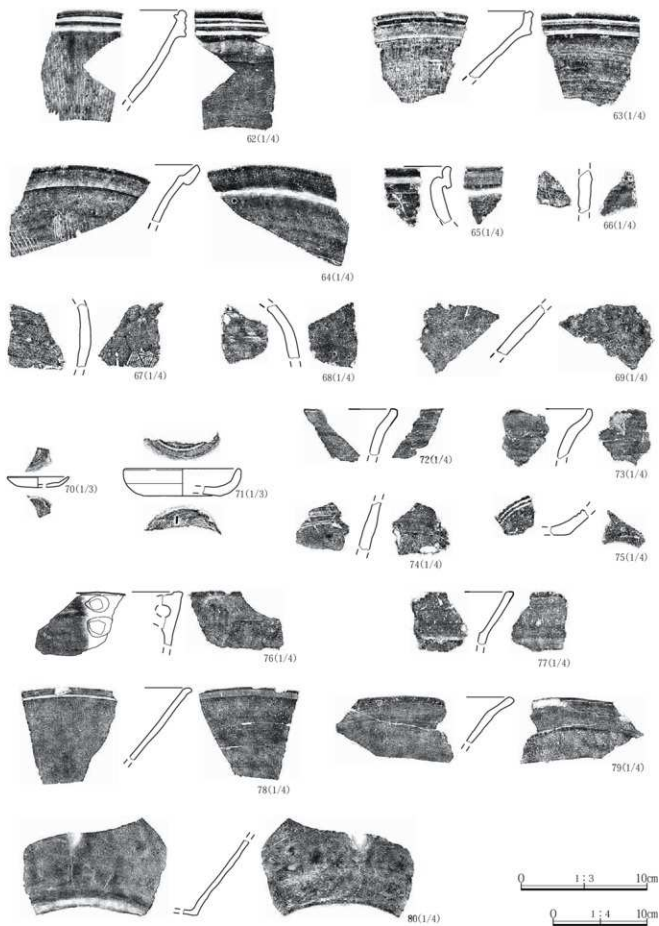
第14図 A2区1面 1号溝出土遺物(2)



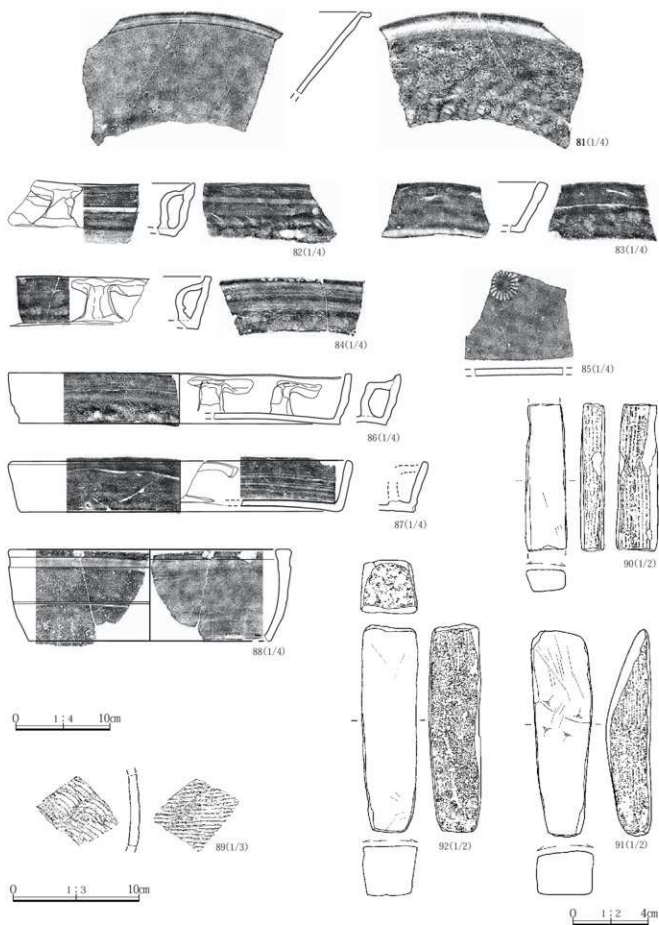
第15図 A2区1面 1号溝出土遺物(3)



第3章 調査の内容

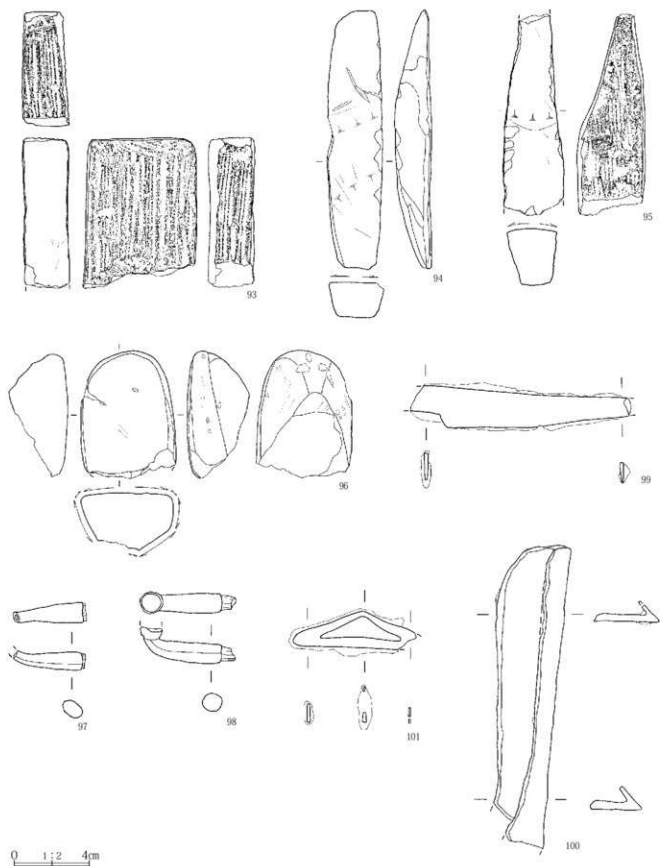


第16図 A2区1面 1号溝出土遺物(4)



第17図 A2区1面 1号溝出土遺物(5)

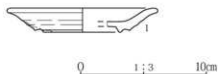
第3章 調査の内容



第18図 A2区1面 1号溝出土遺物(6)

## (2)遺構外出土遺物(第19図)

A2区1面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物が出土した。ここでは出土した遺物のうち、陶磁器1点(皿1)を掲載した。出土遺物は近世の陶器であり、本調査面の時期におおむね矛盾しない。非掲載遺物として、土師器(杯類1片、甕類2片)、須恵器(杯類1片、甕類1片)、剥片石器2点(剥片)、石造物1点(板碑片)が出土した。



第19図 A2区1面 遺構外出土遺物

## II 中・近世〔第2面〕

本項で報告するのは、5世紀洪水層及び細粒軽石を含む暗褐色土の上、シルト質の黒褐色土を確認面とした遺構と遺物であり、A区の2面として調査を行った。細ヶ沢川の旧流路の左岸の微高地に位置している、竪穴状遺構1軒、溝2条、地下式土坑2基、土坑2基が検出された。遺構面の大半はシルト質の黒褐色土で埋没しており、細ヶ沢川の旧流路の影響を受けていると考えられる。出土遺物は少量であった。古代から続いている2号溝の底部では、土師器・須恵器に加え灰軸陶器等が含まれているものの、調査面の時期の想定に矛盾はない。

## 1 A1区の遺構と遺物

遺構や遺物は認められなかった。

## 2 A2区の遺構と遺物

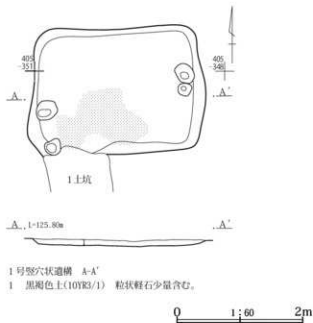
## (1)竪穴状遺構

本調査区における1号竪穴状遺構は、微高地上に立地している。南には2号溝が、周囲には土坑や地下式土坑が位置している。2号溝を中心に、竪穴状遺構、地下式土坑、土坑の遺構が構成されている。

## 1号竪穴状遺構(第20図 PL.8)

位置：403～406・-348～-351

規模形状：各辺はやや曲線を描く。特に東辺、南辺、西辺は外側に張り出している。東西に長い隅丸長方形を呈している。長軸長2.74m、短軸長1.98mである。埋没土：黒褐色土で埋没している。粒状軽石を少量含む。同一土層で一気(一)に埋没しており、人為的な埋め戻しである



第20図 A2区2面 1号竪穴状遺構

## (2) 溝

本調査区の溝は、低地に位置しており、細々沢川の旧流路方向から流れ込んでいる。自然の流路を使用して、底部に石を敷き詰めることにより流路を調節している。水の取り入れ施設の可能性が指摘できる。埋没土にAs-Bを含むことが多い。中世以降の溝であると考えられる。下層にAs-Bを含まない砂礫、シルト層、砂層があり、部分的に、古代から使用されていた痕跡が見て取れる。各々の溝の時期及び時期差等については、明瞭にするための資料は得られていない。

## 2号溝(第21~24図 PL. 6・7・49)

位置：393~401・343~356

規模：長さ(3.84)m×幅2.84~4.44m 残存深度：0.83~1.75(中世までは0.85)m 走行方位：N-67°-E

遺物：土師器2点(羽釜4・5)、須恵器1点(甕6)、灰釉陶器2点(碗2・3)、土器1点(灯火台1)、鉄製品1点(7)、古銭1点(8)を図示した。非掘載遺物として、土師器(甕類2片)、灰釉陶器(甕類1片)が出土している。灯火台は出土例が少なく、周辺に特殊な遺構の存在が推定される。重複：1・3・4号溝と重複している。1号溝(1面)は後出しており関連はないと考える。4号溝から2号溝へ流れ込んでいたと推察される。3号溝(3面)については、古代に使用されていた時期の2号溝に流れ込んでいたと考えられる。所見：底部は砂礫、シルト層、砂層で埋没しており、上部の暗褐色土を含んで浸食を受けている。浸食後、As-Bが多量に混入した黒褐色土で埋没している。浸食前は中世に使用された溝であると考えられる。浸食以前の層が観察されるところからは、羽釜が出土しており古代から使用されていたと推察される。やや蛇行しているものの、流れは一定の方向を示している。ほぼ東西に走行しており、溝の東西両端の高低差を見ると、西が高く東が低い。西から東へ傾斜方向に流れる。溝の断面形は基本的には、すり鉢状で、底面は丸底を呈する。幅は若干の広狭はあるものの安定している。残存深度は一部深いところもあるが、およそ一定である。4号溝からの流れを、2号溝の流れとは逆方向に鋭角で受け止めている。底部に礫が多量に確認されており、自然の流路に手を加え、安定した流れを確保していたと推察される。この溝の機能等は、施設規模や底

部に石を敷き詰める等の施工の仕方から、区画溝の可能性は低く、用水路として設けられたものであると考えられる。また、3号溝との合流付近の底面には、断面より古代と推察される土層が確認された。古代には、3号溝との合流があったと推察される。本溝の形状及び埋没土等より、おおよそ中世以降に使用された溝であると思われるが、一部には、古代より使用された形跡を残す。

## 4号溝(第21・23・24図 PL. 7・49)

位置：396~405—352~357

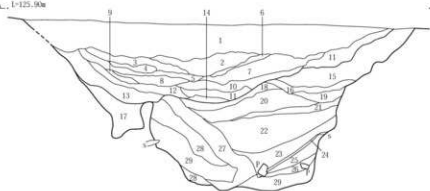
規模：長さ(9.48)m×幅1.94~2.56m 残存深度：0.86~0.98m 走行方位：N-33°-W、N-30°-E 遺物：土器1点(皿9)を図示した。重複：2号溝、2号土坑と重複している。4号溝から2号溝へ流れ込んでいたと推察される。所見：埋没土は、上部がAs-Bが多量に混入した黒褐色土で、下部は粒状軽石を含むシルト質の暗褐色土及び褐色土である。底部は、砂礫を含むシルト質の灰黄褐色土である。2号溝の上部の埋没土と類似している。溝の主体は、時計回りに湾曲しながら南北に走行しており、傾斜方向に流れる。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南東が低い。溝の断面形は基本的には、すり鉢状で、底面は丸底を呈する。幅は若干の広狭はある。残存深度は一部深いところがある。中央の湾曲部を境に、北部に比べて南部は幅が広がっている。4号溝からの流れは、2号溝の流れとは逆方向に鋭角で交わっている。2号溝同様、底部には礫が多量に敷き詰められており、自然の流路に手を加え、安定した流れを確保していたと推察される。この溝の機能等は、2号溝同様、施設規模や底部に石を敷き詰める等の施工の仕方から、区画溝の可能性は低く、用水路として設けられたものであると考えられる。溝の形状及び埋没土等より、中世以降の溝であると考えられる。



第21図 A2区之面 2・4号溝

### 第3章 調査の内容

A, 1-125.0m

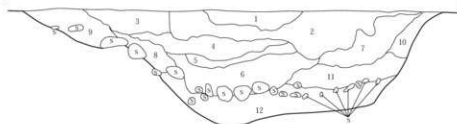


A'

2号溝 A-A'

- |  |  |
|--|--|
| <p>1 黒褐色土(10YR3/1) As-B極多量、粒状軽石少量含む。</p> <p>2 黒褐色土(10YR3/1) As-B極多量、粒状軽石含む。</p> <p>3 黒褐色土(10YR3/1) As-B多量、細粒状軽石若干含む。</p> <p>4 黒褐色土(10YR3/1)とにぶい褐色土(7.5YR5/4)砂質塊状の混土。</p> <p>5 黒褐色土(10YR3/1) As-B多量、細粒状軽石若干含む。(3層に近い質)</p> <p>6 黒褐色土(10YR3/1) As-B多量、塊状As-C混入。</p> <p>7 黒褐色土(10YR3/1) As-B含む砂混入。(砂質土)</p> <p>8 黒褐色土(10YR3/1) As-B少量含む砂混入。(砂質土)</p> <p>9 黒褐色土(10YR3/1)とにぶい褐色土(7.5YR5/4)砂質塊状の混土。4層より暗い。</p> <p>10 砂層 砂の堆積層離により分層。</p> <p>11 砂層 砂の堆積層離により分層。</p> <p>12 黒褐色土(10YR3/1) 砂質土。As-B、砂多量、粒状炭化物含む。</p> <p>13 黒褐色土(10YR3/2) 砂質土。As-B、にぶい褐色土(7.5YR5/4)砂質塊状を含む。</p> | <p>14 細砂層</p> <p>15 暗褐色土(10YR3/3) 粗粒軽石少量含む。シルト質土。</p> <p>16 砂礫</p> <p>17 砂礫(水流により28層の下部がオーバーハング状態になり、その際生じた空間に砂礫が流入したのか)</p> <p>18 シルト層 シルト層の堆積層離により分層。</p> <p>19 シルト層 シルト層の堆積層離により分層。</p> <p>20 砂層</p> <p>21 シルト層 シルト層の堆積層離により分層。</p> <p>22~26 砂層 砂の堆積層離により分層。24層までは斜位に流入し、23~22層はレンズ状に、21・20層は平らに堆積。</p> <p>27 黒褐色土(7.5YR3/1) シルト質土。夾雑物ない。</p> <p>28 褐色土(7.5YR5/1) シルト質土。夾雑物ない。</p> <p>29 径1mm前後の小礫層</p> |
|--|--|

B, 1-125.0m



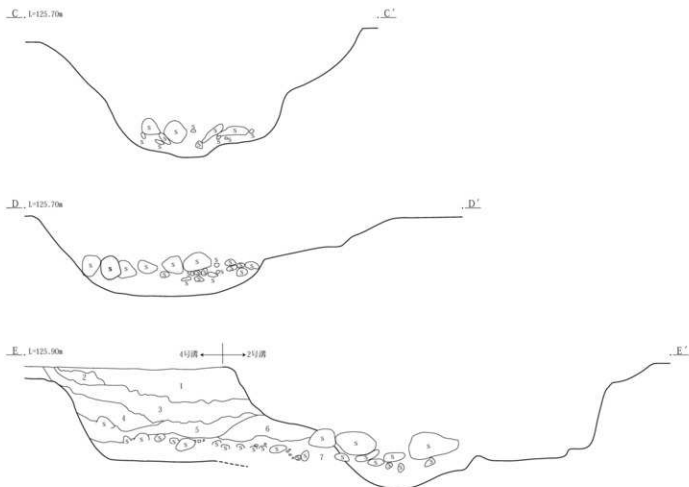
B'

2号溝 B-B'

- |  |   |
|--|---|
| <p>1 黒褐色土(10YR3/1) As-B極多量、粗大塊状暗褐色土(10YR3/3)含む。</p> <p>2 黒褐色土(10YR3/1) As-B極多量、細粒状軽石少量含む。</p> <p>3 黒褐色土(10YR3/2) As-B多量、塊状にぶい褐色土(7.5YR7/3)含む。</p> <p>4 黒褐色土(10YR3/2) As-B多量、塊状にぶい褐色土(7.5YR7/3)含む。砂(河砂状)混入。</p> <p>5 黒褐色土(10YR3/2) 砂(河砂状)主体。</p> <p>6 砂とシルトのラミネー</p> <p>7 灰黄褐色土(10YR4/2) 粒状軽石含む。シルト質。</p> | <p>8 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 地山にぶい黄褐色土(7.5YR7/3)が混った状態。シルト質。</p> <p>9 黒褐色土(10YR3/2) As-B多量、粗粒・小塊状にぶい黄褐色土(7.5YR7/3)シルト含む。</p> <p>10 灰黄褐色土(10YR4/2) 粒状軽石、にぶい黄褐色土(7.5YR7/3)塊状含む。シルト質。</p> <p>11 灰黄褐色土(10YR4/2) 粒状軽石少量、細礫含む。</p> <p>12 砂礫層</p> |
|--|---|

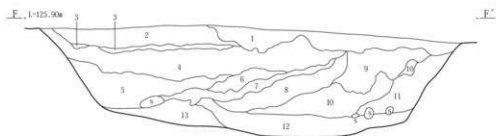
0 1:40 1m

第22図 A 2区2面 2号溝断面



2・4号溝 E-E'

- |  |  |
|--|--|
| <p>1 黒褐色土(10YR3/2) As-B主体、塊状のAs-B多量含む。(追分火砕流など塊状化している)</p> <p>2 黒褐色土(10YR3/2) As-B混入。</p> <p>3 黒褐色土(10YR2/2) 粗粒軽石若干、粒状軽石含む。シルト質。</p> | <p>4 暗褐色土(10YR3/3) 粒状軽石含む。シルト質。</p> <p>5 暗褐色土(10YR3/3) 粒状軽石微量含む。シルト質。</p> <p>6 褐色土(10YR4/4) 塊状のふい黄褐色土(7.5YR3/2)若干、粒状軽石微量含む。</p> <p>7 灰黄褐色土(10YR6/2) 砂礫含む。シルト質。</p> |
|--|--|



2号溝 F-F'

- |   |  |
|---|--|
| <p>1 灰黄褐色土(10YR5/2) As-B多量含む。</p> <p>2 黒褐色土(10YR2/2) As-B多量、粒状軽石少量含む。</p> <p>3 黒褐色土(10YR2/2) As-B混入。硬質。路面上の礫化層。</p> <p>4 黒褐色土(10YR2/2) 小塊状褐灰色土(10YR4/1)、As-B混入。</p> <p>5 黒褐色土(10YR3/1) にふい黄褐色土(7.5YR3/2)小塊、礫含む。</p> <p>6 黒褐色土(10YR2/2) As-B極多量含む。</p> <p>7 As-B純層</p> <p>8 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石含む。シルト質。</p> | <p>9 暗褐色土(10YR3/3) 粒状軽石少量含む。シルト質。</p> <p>10 暗褐色土(10YR3/4) 地山のふい黄褐色土(7.5YR7/2)の二次堆積。濁った発色。シルト層。</p> <p>11 灰黄褐色土(10YR4/2) 地山のふい黄褐色土(7.5YR7/2)ブロック混入。シルト層。</p> <p>12 砂礫層</p> <p>13 暗褐色土(10YR3/3) 砂含む。シルト質層。</p> |
|---|--|

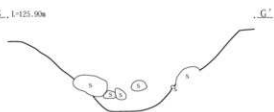
0 1:40 1m

第23図 A2区2面 2・4号溝断面

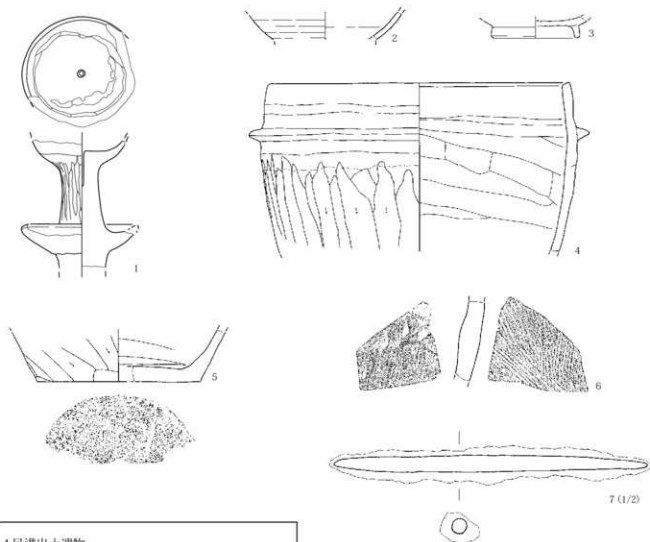


第3章 調査の内容

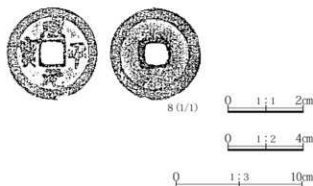
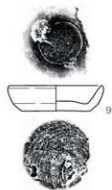
G\_1-125.90m



2号溝出土遺物



4号溝出土遺物



第24図 A 2区2面 4号溝断面、2・4号溝出土遺物

## (3) 土坑

## A区の土坑(第25～28図 PL. 8・49)

概要：A 2区では2基の地下式土坑と2基の土坑を調査した。地下式土坑は、溝との関係を推察させるように、溝の兩岸に位置している。また、土坑内部に出入りする際の控えと推測される施設が観察されている。地下式土坑、土坑ともに、形態は、大きく2種類に分類できる。一つは、平面形が隅丸長方形であり断面形が逆台形を呈し、底面が平坦なものである。もう一つは、平面形が楕円形であり断面形がやはり逆台形を呈し、底面が平底のものである。これらの地下式土坑、及び土坑は、近接する竪穴状遺構や溝と主軸方位が一致または直交している場合が多い。

所見：埋没土は粒状軽石、粗粒状軽石を含む黒褐色土及び暗褐色土であることから、溝や竪穴状遺構等、周囲の遺構と時期差が少ないと考えられる。ただし、1・2号土坑が、周囲の遺構に関連した施設であるか明瞭でない。

## 1号地下式土坑(第25・28図 PL. 8・49)

位置：395・-345

形状：楕円形を2つ組み合わせたものである。主体部・従属部共に、平底で断面形は逆台形を呈する。

規模：全体の長さ2.34m幅1.78m(主体部)、幅1.03m(従属部)

深度：0.98m(主体部)、0.92m(従属部)

主軸方位：N-57°-W

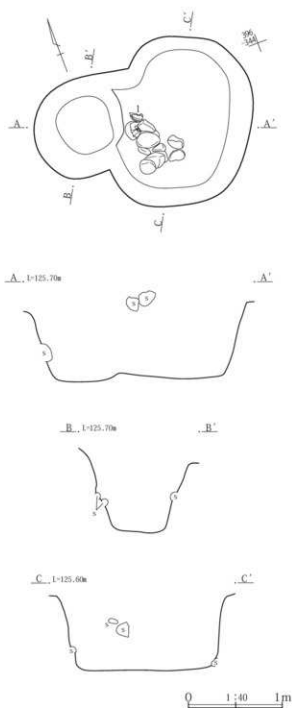
埋没土層：不明である。主体部の土層の底部、中層部、上部の各々に礫が観察された。従属部は中層部に礫が観察された。

重複：なし

遺物：石製品1点(石白(上)(1))を掲載した。非掲載遺物として、石製品1点(石白)が出土した。

所見：本地下式土坑は、主体部と従属部の2つの部分に分かれる。使用目的は明確に確認できなかったが、主体部を貯蔵施設として、従属部を主体部の入口の導入部として、使用した可能性を指摘する。本地下式土坑から2号溝にかけて掘り込み及び平坦な部分を溝際に確認できる。作業時における溝との関連を推察させる。確認面及び形状から、おおむね中世以降の可能性を有すると思われる。その他、近接する1号竪穴状遺構、1・2号土坑、

4号溝との関連が想定されるが、明瞭な資料は得られていない。時期は矛盾しないと考える。ただし、2号地下式土坑については、2号溝を挟んで対称的に位置しているため、2号溝とともに関連が推察される。



第25図 A 2区 2面 1号地下式土坑

2号地下式土坑(第26・28図 PL. 8・49)

位置: 402・-345

形状: 隅丸長方形を2つ組み合わせたものである。主体部、従属部共に、平底で断面形は逆台形を呈する。

規模: 全体の長さ2.68m幅2.88m(主体部)、幅1.34m(従属部)

深度: 0.71m(主体部)、0.61m(従属部)

主軸方位: N-82°-E

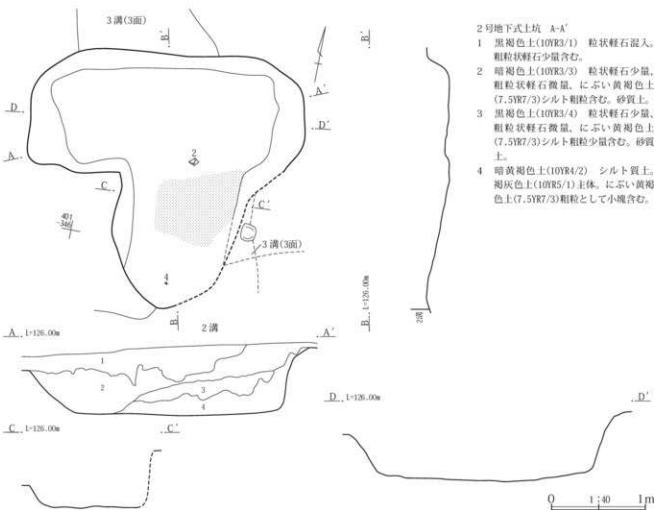
埋没土層: 主体部の床面付近は、シルト質の暗黄褐色土で埋没している。その後は、粒状軽石を含んだ黒褐色土と暗褐色土が交互に埋没している。従属部の入口付近には硬化面が観察される。

重複: 3号溝(3面)に後出している。

遺物: 土器1点(皿3)、陶磁器1点(皿2)、銅製品1点(4)を図示した。銅製品は吊り金具である。足金物や帯取り金具ともいい、太刀(刀剣)の鞘を構成する一部である。佩用のため鞘の前半の位置に施した固定設備である。

前後に2釦あるのを原則としており、革緒が紐を持って帯から垂下した。吊り金具は古代より始まるとされている。本遺物は、それらより新しいと考えられるものの、明確な時期は不明である。

所見: 本地下式土坑は、主体部と従属部の2つの部分に分かれる。使用目的は明確に確認できなかったが、主体部を貯蔵施設として、硬化面が観察されることから従属部を主体部入口の導入部として使用した可能性を指摘する。従属部は、2号溝に接しており、作業する上で、2号溝との関連が推察できる。確認面、埋没土及び形状から、おおむね中世以降の可能性を有すると思われる。近接する1号竪穴状遺構や1・2号土坑、4号溝との関連が想定されるが、明確な資料は得られていない。時期は矛盾しないと考える。ただし、1号地下式土坑については、2号溝を挟んで対症的に位置しているため、2号溝とともに関連が推察される。



## 1号土坑(第27図 PL. 8)

位置: 403・-350

形状: 隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模: 1.67×0.96m 深度: 0.46m

主軸方位: N-6°-W

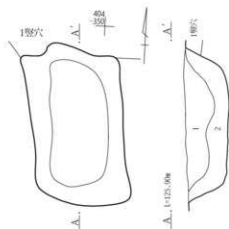
埋没土層: 黒褐色土で埋没している。粒状軽石を含むが、上部の土層は、1号竪穴状遺構の土層に類似する。

重複: 1号竪穴状遺構に後出する。

遺物: 認められなかった。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中世以降の可能性を有すると思われる。重複する竪穴状遺構及び近接する地下式土坑、溝とは時期が矛盾せず、関連が想定されるものの、明確にするための資料は得られていない。

## 1号土坑



1号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 粒状軽石含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 粒状軽石少量含む。

## 2号土坑(第27図 PL. 8)

位置: 403・-356

形状: 隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模: (2.12)×1.35m 深度: 0.43m

主軸方位: N-78°-E

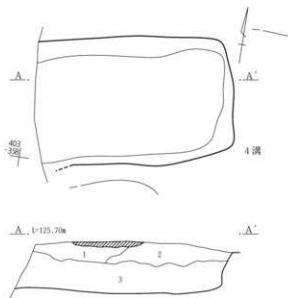
埋没土層: 黒褐色土で埋没している。下部は小塊状である。上部は、ロームブロックと粒状軽石を含む。西部を旧流路に侵食されている。

重複: 4号溝と重複する。

遺物: 認められなかった。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中世以降の可能性を有すると思われる。近接する竪穴状遺構及び土坑、地下式土坑、溝とは時期が矛盾せず、関連が想定されるものの、明確にするための資料は得られていない。

## 2号土坑

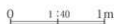


2号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 小塊少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石微量含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 小塊含む。

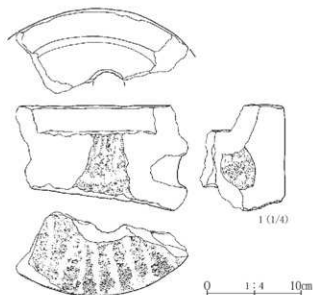
## (4)遺構外出土遺物

A 2区 2面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物は確認できなかった。

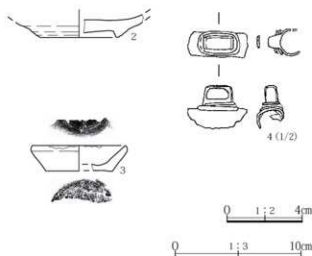


第27図 A 2区 2面 1・2号土坑

1号地下式土坑



2号地下式土坑



第28図 A2区2面 1・2号地下式土坑出土遺物

Ⅲ 古代(第3面)

本項で報告するのは、5世紀洪水層の上、細粒軽石を含む暗褐色土を確認面とした遺構と遺物であり、A区の3面として調査を行った。細ヶ沢川の旧流路の左岸の微高地に位置している、竪穴住居1軒、溝1条が検出された。遺構面の大半は細粒軽石を含む暗褐色土で埋没しており、細ヶ沢川の旧流路の影響は受けていないと考えられる。遺物は豊富ではないが、土師器、須恵器が出土しており調査面の時期の想定に矛盾はない。

1 A1区の遺構と遺物

人の足跡が検出された。時期については、古代に比定する明確な資料がないが、土層より本項に位置づけた。(写真図版PL.5-4・5参照)

2 A2区の遺構と遺物

(1)住居

本調査区における住居は、細ヶ沢川の旧流路東の微高地に立地している。確認された住居は、旧流路に対して微高地の縁辺部にあたると考えられる。調査区の北東方向へ集落が展開していた可能性が推察できる。

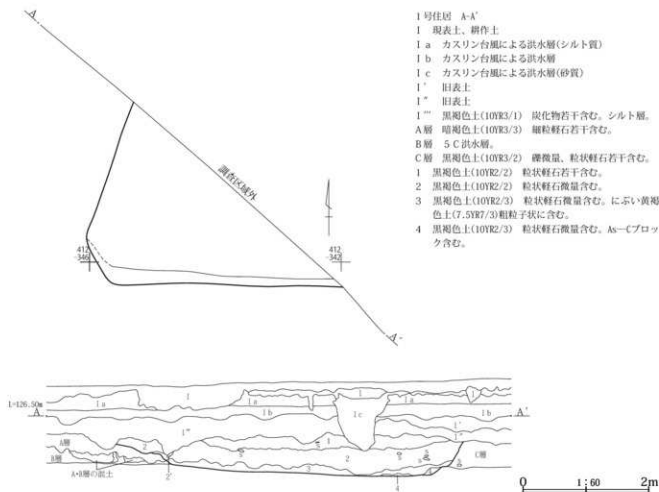
1号住居(第29図 PL.9)

調査区東部の微高地に立地している。住居中央部から北東部にかけて調査区域外にあるため、全容が明らかでない。残存状態は良好でない。

位置：411~415・-342~-346にある。

規模形状：東西長：3.92m以上 南北長：2.58m以上である。西辺、南辺共に直線的で、南西隅でやや鋭角に交わっている。方形を呈すると推察されるが、明瞭でない。

埋没土・壁：黒褐色土で埋没している。全体的に粒状軽石を僅かに含む。床面近くにはAs-Cブロックを、中位にはローム粗粒子を含む。壁際から流れ込み、レンズ状に重なっている。自然堆積であると思われる。壁高0.55mである。方位：N-109°-E 面積：(4.84)㎡ 床面：北西から南東に傾斜している。確認される範囲で北西部が、12cm程高い。中央付近が若干レンズ状に落ち込んでいる。床面は起伏がなく滑らかである。掘り方：確認されない。壁溝：認められなかった。ピット(柱穴)：認められなかった。貯蔵穴：認められなかった。床下土坑：認められなかった。カマド：認められなかった。調査区域外に位置すると推察される。重視遺構：認められない。遺物：認められない。所見(帰属時期)：確認面、住居の形状から、平安時代の住居であると推察するが、時代を明確に比定するための資料が得られなかった。



第29図 A2区3面 1号住居

## (2)溝

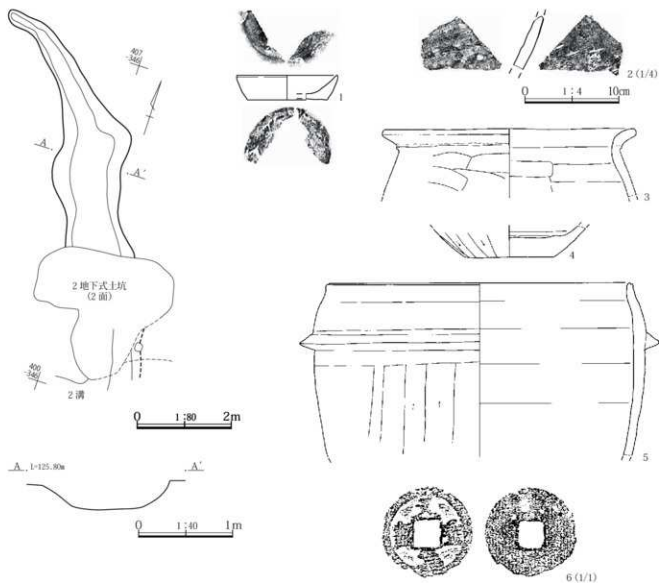
本調査区の溝は、傾斜方向に対して、垂直に位置する。削平が進んでおり、全容が明瞭でない。自然流路を生かして利用されていたと推察される。埋没土にAs-Bを含んでおり、古代以降の溝であると考えられる。溝の時期及び同調査区他の溝との時期差等について明瞭にするための資料は得られていない。

## 3号溝(第30図 PL. 9・49)

位置：401～407・-344～-349 規模：長さ(8.50)m×幅0.30～1.42m 残存深度：0.32m 走行方位：N-48°-W, N-27°-W 遺物：土師器2点(甕(3・4))、須恵器1点(羽釜(5))、土器1点(皿(1))、陶磁器1点(甕1点(2))、古銭1点(6)を図示した。非掲載遺物として、土師器(甕類10片、杯類9片)、須恵器(甕類3片、杯類2片)が出土している。重複：2号地下式土坑(2

面)に前出しており、2号溝(2面)と重複している。3号溝が古代の2号溝に流れ込んでいる可能性が高い。3号溝は、古代の2号溝より新しく、2面の2号溝より古いと考えられる。所見：埋没土は不明である。調査区中央から傾斜方向の南南東に流れ出し、古代に使用されていた部分の2号溝に合流すると推察される。南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は逆台形で、底面は平らである。幅は、流れ出しは狭く、南下するに従って広がる。残存深度は、2号溝に近づくに従って深くなる。2号溝に合流すると思われるものの、本溝に平行、直交する他の溝は存在せず、区画溝の可能性は低い。4号溝(2面)と同様に時計回りにやや湾曲して2号溝に合流する傾向にある。この溝の機能等は、4号溝(2面)同様、区画溝の可能性は低く、用水路として設けられたものであると考えられる。溝の形状及び出土遺物より、10世紀前半の溝であると思われる。

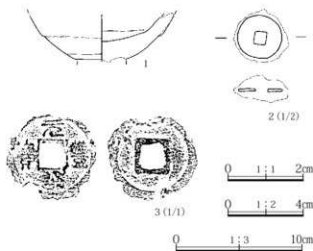
第3章 調査の内容



第30図 A 2区3面 3号溝、出土遺物

(3) 遺構外出土遺物(第31図 PL.49)

A 2区3面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物が出土した。ここでは出土した遺物のうち、土師器1点(高杯(1))、古銭2点(2・3)を掲載した。ただし、(2)については、2面から3面にかけての出土であった。出土遺物は主に10世紀代の土器であり、本調査面の時期におおむね矛盾しない。

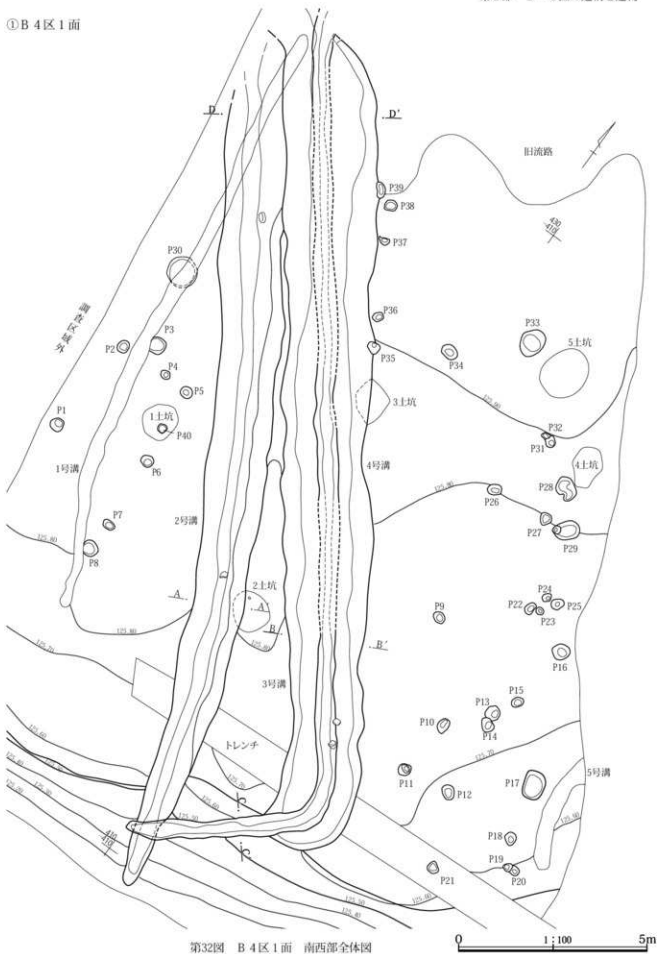


第31図 A 2区3面 遺構外出土遺物

参考文献

- 前橋市史編さん委員会1973『前橋市史 第2巻』
- 群馬県史編さん委員会1991『群馬県史』通史編2
- 群馬県史編さん委員会1989『群馬県史』通史編3
- 末永雅雄1981『日本上代の武器』

① B 4区1面



第32図 B 4区1面 南西部全体図





## 第3節 B・C区の遺構と遺物

## I 近世〔第1面〕

本項で報告するのは、5世紀洪水層及び細粒軽石を含む暗褐色土の上、シルト質の黒褐色土を確認面とした遺構と遺物であり、B・C区の1面として調査を行った。遺構は、細ヶ沢川の旧流路の左岸と右岸の微高地に位置している、竪穴状遺構1軒、溝8条、土坑26基、ピット78基が検出された。遺構面の大半はシルト質の黒褐色土で埋没しており、細ヶ沢川の旧流路の影響を受けていると考えられる。遺構の検出状況から、微高地に建物が位置し、特に旧流路の右岸には周囲に堀が巡っている様相が想定される。遺物は少なくとも一部下層からの流入があるが、調査面の時期の想定に矛盾はない。

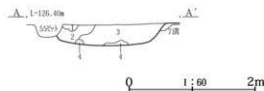
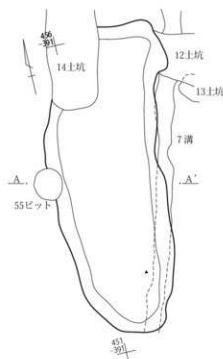
## I B4区の遺構と遺物

## (1) 竪穴状遺構

本調査区における竪穴状遺構は、細ヶ沢川の旧流路左岸の微高地に位置している。本遺構は、6・7号溝に平行に走行している。周囲には、土坑やピットが確認され、屋敷跡と推察されるものの、復元ができるまでの資料が見つからなかった。本竪穴状遺構は屋敷跡に関連する施設の可能性がある。

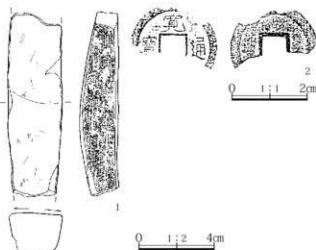
## 1号竪穴状遺構(第34図 PL.10・50)

位置：451～456・～389～391 規模形状：南北に長い隅丸長方形を呈している。北辺・東辺はほぼ直線であり、西辺は湾曲している。南辺は西辺が湾曲しているため短い。長軸長4.86m、短軸長1.74mである。埋没土・壁：おおよそ褐色土で埋没している。その後、西壁際に暗褐色土、黒褐色土が埋没する。白色粒子、黄褐色・黄褐色砂粒を含んでいる。主体の褐色土は一気に埋没しており、人為的な埋め戻しであると思われる。壁高は0.35mである。長軸方位：N-11°-E 床面：短軸方向はレンズ状に掘り下げられている。表面は滑らかである。中央が低く、西壁、東壁際が高い。掘り方は認められなかった。施設：確認できない。重複：14号土坑、55号ピットに前出しており、7号溝、12号土坑と重複している。



## 1号竪穴状遺構 本A'

- 1 黒褐色土(10YR2/3) 白色粒子少量、黄褐色砂粒僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子・黄褐色砂粒少量含む。
- 3 褐色土(10YR4/4) 白色粒子少量、黄褐色砂粒僅かに含む。
- 4 黄褐色土(10YR5/8) 白色粒子・黄褐色砂粒少量含む。



第34図 B4区1面 1号竪穴状遺構、出土遺物

### 第3章 調査の内容

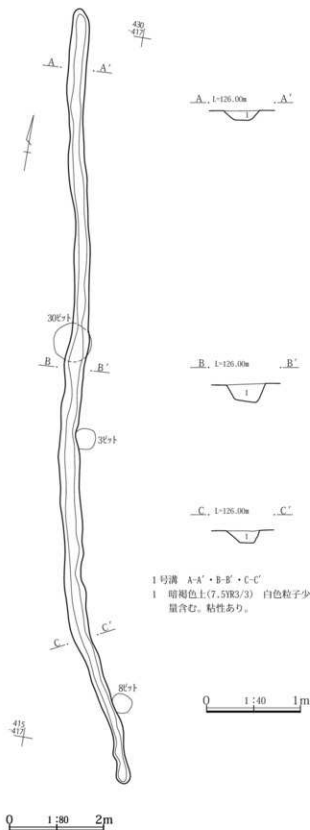
**遺物**：石製品1点(砥石1)、古銭1点(2)を図示した。非掲載遺物として、剥片石器1点(打製石斧)が出土している。**所見**：南北に長い隅丸の方形で大型の掘り込みではあるが、床面の硬化はなく、枡等の施設も見られないことから竪穴状遺構とした。本竪穴状遺構の使用目的は明確にできなかったが、微高地に位置する建物に由来するものであると推察する。時期は、形状及び埋没土等から中・近世以降に位置付けられる。

#### (2) 溝

本調査区のほぼ中央に細ヶ沢川の旧流路が幾筋も見られ、その東西の両端に微高地が確認される。溝はその微高地上に位置している。流路の左岸の微高地には、ほぼ平行に区画溝の様相を呈している溝が確認されている。流路の右岸には、屋敷を囲むと推察される形状の溝が認められた。埋没土にAs-Bを含むことが多く、Hr-FPを僅かに含むこともある。中・近世以降の溝であると考えられるが、各々の溝の時期及び時期差等について明確にするための資料は得られていない。

#### 1号溝(第35図 PL.11・12)

**位置**：414~431・-415~-419 **規模**：長さ(16.56)m×幅0.22~0.44m **残存深度**：0.10~0.19m **走行方位**：N-9°-W **遺物**：認められない。 **重複**：2・3・4号溝、3・8号ピットに後出している。30号ピットと重複している。 **所見**：暗褐色土で埋没していた。白色粒子を含み、粘性がある。南北方向に走行しており、傾斜方向に流れる。ほぼ直線を呈しており、南端がやや東側に曲がって消滅しており、その先は確認できない。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は逆台形である。幅は中央部がやや広いが全体としては一定である。残存深度はやや浅い。本溝と、2・3・4号溝との関連の可能性は低いと思われる。B5区2面の19号溝は、本溝にほぼ直交すると思われるが、関連は不明でない。この溝の機能等は、区画溝の一つと考えられる。溝の形状及び埋没土等より、近世以降の溝であると推察される。



1号溝 A-A'・B-B'・C-C'  
1 暗褐色土(7.5%R3/3) 白色粒子少量含む。粘性あり。

第35図 B4区1面 1号溝

## 2号溝(第32・36・37図 PL.11・12・50)

**位置:** 409~430・-408~-419 **規模:** 長さ(22.04)m×幅0.64~1.64m **残存深度:** 0.68m **走行方位:** N-28°-W **遺物:** 陶磁器2点(鎗蓮弁文碗1点(1)、口禿皿1点(2))、石製品1点(石鉢(3))、鉄製品1点(4)を図示した。 **重複:** 土層の状況より、3・4号溝に前出、2号土坑に後出している。 **所見:** おおよそ黒褐色土で埋没している。白色粒子、黄橙色砂粒、Hr-PPを含む。レンズ状に埋没しており、自然堆積であると考えられる。溝は、東側にやや膨らむが、ほぼ直線である。北北西方向から南南東方向に走行しており、傾斜方向に平行に流れるもの、底面の高さは調整されていると考える。形状より3・4号溝は屋敷の周堀の可能性ある。本溝は3・4号溝以前の屋敷の周堀と推定され、3・4号溝は、新しく掘り直したものであると考える。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は基本的には、すり鉢状で、底面は丸底である。幅は北部より途中まで一定であるが、南部にいくほど削平により狭くなり、谷の手前で消滅している。本溝の残存深度は3・4号溝より深く、機能等は、区画を呈するものである。土層や形状、微高地に土坑やピット等屋敷の痕跡を思わせる周囲の状況から、屋敷堀に推定される施設であると考える。溝の形状及び埋没土等より、中・近世以降の溝であると推察される。

## 3・4号溝(第32・36・38図 PL.11・12・50)

**位置:** 412(3号溝410)~431・-405~-419 **規模:** 3号溝長さ(25.88)m×幅0.44~0.56m、4号溝長さ(22.16)m×幅1.72~2.48m **残存深度:** 3号溝0.08~0.25m、4号溝0.36~0.54m **走行方位:** N-36°-W(3号溝一部N-53°-E) **遺物:** 4号溝から石製品1点(砥石(5))、鉄製品1点(6)を図示した。非掲載遺物として、土師器(甕類1片、杯類3片)、灰釉陶器(杯類1片)が出土している。(3号溝) **重複:** 2号溝、3号土坑に後出している。35・39号ピットに前出している。 **所見:** 底部の溝(3号溝)は、黒褐色土で埋没している。白色粒子、黄橙色砂粒、Hr-PPを含む。4号溝部分の底部は、暗褐色土で、その後黒褐色土で埋没している。やはり、白色粒子、黄橙色砂粒、Hr-PPを含む。レンズ状に埋没しており、自然堆積であると思われる。北西から南東へ

直線的に走行しており、南東隅でほぼ直角に南西方向へ曲がり、傾斜方向に走行している。その先は確認できない。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南は低い。溝の断面形は基本的には、レンズ状で、底面は丸底である。幅は一定で南東隅で曲がるのを機に狭くなり傾斜と共に消滅する。残存深度は、2号溝に比べると浅いが、2号溝と同様に、区画を呈している溝であると推定される。この溝の機能等は、土層や南東隅が直角に曲がる形状、及び微高地に土坑やピット等屋敷の痕跡を思わせる周囲の状況等より、屋敷の周堀の可能性ある。さらに、2号溝を掘り直したのものであると思われる。また、4号溝底部における3号溝の役割は、明瞭ではない。埋没土及び形状より、B5区2面の3・4号溝と繋がる可能性を示唆しているが、南北方向の主軸方位が一致していないため、別施設と考えたほうが自然である。溝の形状及び埋没土等より、中・近世以降の溝であると推察される。

## 5号溝(第36図 PL.12)

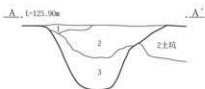
**位置:** 416~419・-401 **規模:** 長さ(3.00)m×幅0.36~0.48m **残存深度:** 0.16m **走行方位:** N-15°-W **遺物:** 認められない。 **重複:** なし **所見:** 褐色土で埋没している。白色粒子、黄橙色砂粒を含む砂質土である。南北に走行し西側にやや湾曲している。傾斜方向に平行に流れる。南端で消滅しており、その先は確認できない。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は半円形で、底面は丸底である。幅は一定である。残存深度は浅い。同一面の溝、ピット、土坑との関連は明瞭でない。また、区画を呈している溝が明瞭でない。この溝の機能等を明確にする資料は見つからなかった。溝の形状及び埋没土等より、中・近世以降の溝であると推察される。

## 6号溝(第33・36・38図 PL.10・50)

**位置:** 447~461・-391~-395 **規模:** 長さ(14.26)m×幅0.36~0.52m **残存深度:** 0.12~0.44m **走行方位:** N-16°-E **遺物:** 陶磁器1点(青緑釉皿(7))、土器1点(焙烙1点(8))、銅製品1点(9)、鉄製品1点(10)を図示した。 **重複:** 10・18・19・20号土坑、54号ピットに後出している。 **所見:** 暗褐色土で埋没している。白

### 第3章 調査の内容

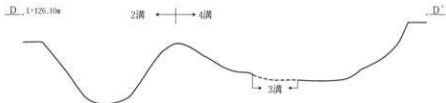
#### 2号溝



#### 3・4号溝



#### 3号溝



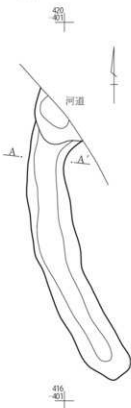
#### 2号溝 A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒子多量、黄褐色砂粒少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/3) 白色粒子多量、黄褐色砂粒少量含む。やや粘性あり。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) 白色粒子多量、黄褐色砂粒・Hr-FP細粒僅かに含む。粘性強い。

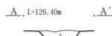
#### 3・4号溝 B-B'・C-C'

- 1 黒褐色土(10YR3/3) 白色粒子少量、黄褐色砂粒・Hr-FP細粒僅かに含む。2層よりやや粘性あり。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子、黄褐色砂粒少量、Hr-FP細粒僅かに含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 白色粒子少量、黄褐色砂粒・Hr-FP細粒僅かに含む。やや粘性あり。

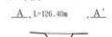
#### 5号溝



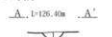
#### 6号溝



#### 7号溝



#### 8号溝



#### 5号溝 A-A'

- 1 褐色土(10YR4/4) 白色粒子少量、黄褐色砂粒僅かに含む。やや砂質。

#### 6号溝 A-A'

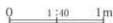
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒子多量、黄褐色砂粒少量含む。

#### 7号溝 A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒子多量、黄褐色砂粒少量含む。

#### 8号溝 A-A'

- 1 明黄褐色土(10YR7/6) やや砂質。



第36図 B4区1面 2～8号溝

色粒子、黄橙色砂粒を含む。形状はほぼ直線であり、北北東方向から南南西方向に走行しており、傾斜方向に平行に流れる。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は基本的には、半円形で、底面は丸底である。幅は一定である。残存深度はやや浅い。7号溝が平行に、8号溝が垂直に走行している。この溝の機能等は、7・8号溝と類似しており、区画溝及び側溝の一つと考えられる。溝の形状及び埋没土等より、近世以降の溝であると推察される。

## 7号溝(第33・36図 PL.10)

位置：451～458・388～390 規模：長さ(7.66)m×幅0.22～0.36m 残存深度：0.14m 走行方位：N-14°-E 遺物：認められない。重複：1号竪穴状遺構、12号土坑に前出している。28号土坑と重複している。

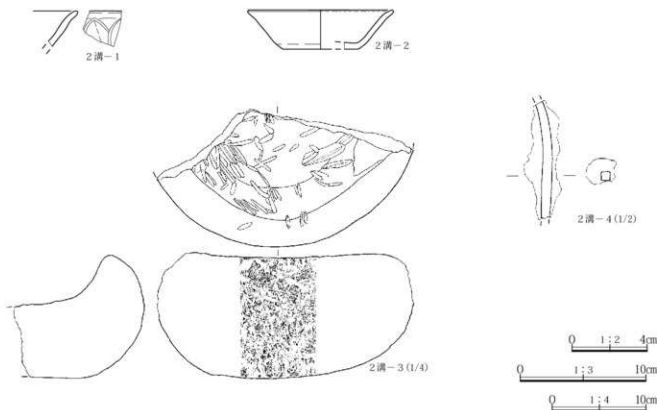
所見：埋没土は、暗褐色土であり、白色粒子、黄橙色砂粒を含む。形状はほぼ直線であり、北北東方向から南南西方向に走行しており、傾斜方向に平行に流れる。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は基本的には半円形で、底面は丸底である。幅は

一定である。残存深度はやや浅い。6号溝が平行に、8号溝が垂直に走行している。この溝の機能等は、6・8号溝と類似しており、区画溝、及び側溝の一つと考えられる。溝の形状及び周囲の様相より、近世以降の溝であると推察される。

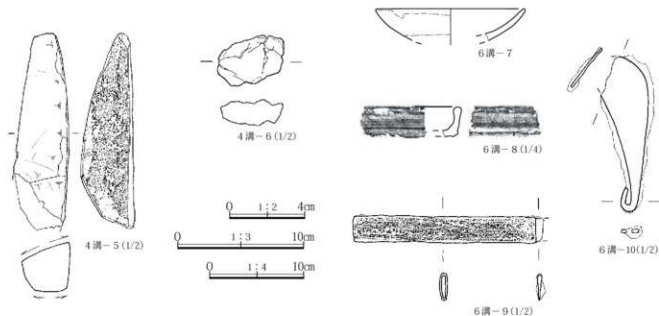
## 8号溝(第33・36図 PL.10)

位置：453・386～389 規模：長さ(2.74)m×幅0.14～0.28m 残存深度：0.08m 走行方位：N-79°-W

遺物：認められない。重複：62号ピットに前出している。所見：埋没土は、明黄褐色土であり、やや砂質である。形状はほぼ直線であり、ほぼ東西に走行しており、傾斜方向に平行に流れる。溝の東西両端部の高低差を見ると、東が高く西が低い。溝の断面形は基本的には、半円形で、底面は丸底である。幅は一定である。残存深度はやや浅い。6・7号溝にほぼ垂直に走行している。この溝の機能等は、6・7号溝と類似しており、区画溝及び砂質のため用排水路の一つと考えられる。溝の形状及び周囲の様相より、近世以降の溝であると推察される。



第37図 B4区1面 2号溝出土遺物



第38図 B4区1面 4・6号溝出土遺物

(3)土坑

B4区の土坑(第39～42図 PL.12～15・50)

**概要：**B4区1面では、26基の土坑を調査した。土坑が検出された位置は細ヶ沢川の旧流路の左岸と右岸に分けられる。細ヶ沢川の旧流路右岸では、屋敷に伴うと推察される溝の内外に観察できる。平面形は楕円形が多く、断面形は逆台形を呈している。一方、細ヶ沢川の旧流路左岸には、微高地の屋敷跡と思われる遺構群の中に集中して確認できる。形態は、大きく2種類に分類できる。一つは、平面形が隅丸長方形であり断面形が逆台形を呈し、底面が平坦なものである。もう一つは、平面形が楕円形であり断面形が逆台形を呈し、底面がやや丸みを帯びたものである。隅丸長方形の土坑の方位は、互いに一致している場合が多い。(詳細については第4表に記した。)

**所見：**旧流路右岸の微高地においては、屋敷堀と推察される溝周辺に1～5号土坑が検出されている。埋没土は、黒褐色土、暗褐色土、にぶい黄褐色土などである。白色粒子、黄褐色砂粒、Hr-FPなどを含んでおり、周囲の遺構の埋没土と矛盾していない。特に、1・2号土坑は3・4号溝の内側に位置しており、屋敷に直接関連する施設であると推察される。3・4・5号土坑は溝の外側にあり、使用目的は明瞭でない。旧流路左岸の微高地においては、屋敷跡を構成していると推察される竪穴状

遺構、溝、土坑、ピットが集中して検出されている。6～25・28号土坑の埋没土は、暗褐色土、褐色土、黄褐色土などである。白色粒子、黄褐色砂粒などを含んでおり、周囲の遺構の埋没土と矛盾していない。特に、6・14・18・22号土坑、及び1号竪穴状遺構は主軸方位が合っており、互いに関連する施設の可能性を窺わせる。ピット群も含めて建物の可能性があるが、復元には至らなかった。

1号土坑(第39図 PL.13)

**位置：**419・417

**形状：**楕円形である。断面形はレンズ状を呈する。底面は丸底である。

**規模：**0.95×0.91m 深度：0.13m

**主軸方位：**N-34°-E

**埋没土層：**黒褐色土、及び灰黄褐色土で埋没している。黒色砂を含む。

**重複：**40号ピット

**遺物：**認められなかった。

**所見：**本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

## 2号土坑(第39・42図 PL.12・13・50)

位置: 417・-410

形状: 楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面はレンズ状である。

規模: 1.08×(0.94)m 深度: 0.37m

主軸方位: N-49°-W

埋没土層: 黒褐色土、暗褐色土で埋没している。白色粒子、Hr-FP細粒含む。粘性あり。

重複: 2号溝に前出している。

遺物: 陶磁器1点(山茶碗(1))を図示した。非掲載遺物として、土師器1片(襷類)が出土している。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

## 3号土坑(第39図 PL.13)

位置: 423・-411

形状: 平面形は明瞭でない。断面形はレンズ状を呈する。底面は明瞭でない。

規模: (1.23)×(0.91)m 深度: 0.35m

主軸方位: 不明

埋没土層: 暗褐色土で埋没している。白色粒子、Hr-FP細粒を含む。粘性あり。

重複: 4号溝に前出している。

遺物: 認められなかった。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

## 4号土坑(第39図 PL.13)

位置: 425・-405

形状: 平面形は不整形である。断面形はレンズ状を呈する。底面は平底である。

規模: 1.08×0.81m 深度: 0.20m

主軸方位: N-24°-W

埋没土層: にぶい黄褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。

重複: なし

遺物: 認められなかった。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

## 5号土坑(第39図 PL.13)

位置: 427・-407

形状: 楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模: 1.38×1.15m 深度: 0.25m

主軸方位: N-10°-E

埋没土層: にぶい黄褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。

重複: なし

遺物: 認められなかった。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

## 6号土坑(第39図 PL.13)

位置: 457・-395

形状: 長楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模: 1.99×0.57m 深度: 0.30m

主軸方位: N-14°-W

埋没土層: 褐色土、暗褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。

重複: 41号ピットに後出している。

遺物: 認められなかった。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

## 7号土坑(第39図 PL.13)

位置: 455・-394

形状: 楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。



### 第3章 調査の内容

規模：0.77×0.43m 深度：0.14m

主軸方位：N—82°—E

埋没土層：褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。

重複：47号ピットに前出しており、57号ピットに後出している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

#### 8号土坑(第40図 PL.13)

位置：454・-394

形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：0.84×(0.50)m 深度：0.16m

主軸方位：N—77°—W

埋没土層：黄褐色土、暗褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。

重複：58号ピットに前出している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

#### 9号土坑(第39図 PL.14)

位置：458・-389

形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：1.56×1.28m 深度：0.32m

主軸方位：N—43°—W

埋没土層：壁際は黒褐色土、黄褐色土で埋没している。本体は、暗褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。

重複：56号ピットに後出している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、

おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

#### 10号土坑(第40図 PL.14)

位置：453・-392

形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面はレンズ状である。

規模：(0.73)×0.66m 深度：0.21m

主軸方位：N—70°—W

埋没土層：おおむね暗黒褐色土で埋没している。底部は、褐灰色土、黄褐色土で埋没している。炭化物粒、白色粒子を含む。砂質である。

重複：6号溝に前出しており、19号土坑に後出している。

遺物：非掲載遺物として、土師器1片(裏類)が出土している。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

#### 11号土坑(第40・42図 PL.14・50)

位置：452・-392

形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面には段差がある。

規模：1.53×1.36m 深度：0.33m

主軸方位：N—71°—W

埋没土層：底部や壁際を灰白色土やにぶい黄褐色土の粘質土を貼っている。全体は褐色土で埋没しているが、中央部分は炭化物を含んだ暗褐色土で埋没している。白色粒子を含み、砂質である。

重複：19・25号土坑に後出している。

遺物：土器1点(焙烙(2))、鉄製品1点(3)を図示した。非掲載遺物として、礫石器1点(敲石)が出土している。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかったが、一旦埋め戻して、掘り返した形跡がある。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

## 12号土坑(第41図 PL.14)

位置: 455・-388

形状: 不整形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模: (1.50)×0.86m 深度: 0.25m

主軸方位: N-65°-W 埋没土層: 暗褐色土で埋没している。白色粒子を含み、砂質である。

重複: 13号土坑、71号ピットに後出しており、1号竪穴状遺構、7号溝、68号ピットに前出している。

遺物: 認められなかった。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

## 13号土坑(第41図 PL.14)

位置: 454・-388

形状: 楕円形である。断面形は半円形を呈する。底面は丸底である。

規模: 0.60×(0.40)m 深度: 0.28m

主軸方位: N-55°-W

埋没土層: 暗褐色土で埋没している。白色粒子を含み、砂質である。

重複: 12号土坑に前出している。

遺物: 認められなかった。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

## 14号土坑(第41図 PL.14)

位置: 456・-390

形状: 隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模: 2.11×0.84m 深度: 0.74m

主軸方位: N-10°-E

埋没土層: 暗褐色土、褐色土で埋没している。白色粒子含み、砂質である。

重複: 1号竪穴状遺構に後出している。

遺物: 認められなかった。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね近世以降の新しい土坑の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

## 15号土坑(第40図 PL.14)

位置: 450・-393

形状: 楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模: 1.22×(1.10)m 深度: 0.19m

主軸方位: N-75°-E

埋没土層: 褐色土で埋没している。白色粒子を含み、砂質である。

重複: 16・20号土坑に後出している。

遺物: 認められなかった。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

## 16号土坑(第40・42図 PL.14・15・50)

位置: 450・-392

形状: 楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模: 1.37×(0.88)m 深度: 0.15m

主軸方位: N-56°-E

埋没土層: 褐色土で埋没している。白色粒子を含み、砂質である。

重複: 15号土坑に前出している。

遺物: 陶磁器1点(碗(4))を図示した。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

17号土坑(第41図)

位置：460・-389

形状：不整形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：(0.99)×1.38m 深度：0.22m

主軸方位：不明

埋没土層：不明

重複：なし

遺物：非掲載遺物として土器片1点が出土した。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。形状から掘り直しをしている形跡がうかがえる。時期は明らかにできなかったが、確認面及び形状からおおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

18号土坑(第40図)

位置：454・-393

形状：平面形は不明である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：3.03×(0.51)m 深度：0.19m

主軸方位：N-12°-E

埋没土層：不明

重複：6号溝、70号ピットに前出している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

19号土坑(第40・42図)

位置：453・-392

形状：平面形は不明である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：不明 深度：0.24m

主軸方位：不明

埋没土層：不明

重複：6号溝、10・11号土坑に前出していると考えられる。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面及び形状から、おおむね

中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

20号土坑(第40図)

位置：452・-393

形状：隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：2.05×0.14m 深度：0.14m

主軸方位：N-13°-W

埋没土層：不明

重複：6号溝、15号土坑に前出している。

遺物：陶磁器1点(すり鉢(5))を図示した。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

21号土坑(第41図)

位置：449・-387

形状：平面形は不明である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：1.19×(0.42)m 深度：0.29m

主軸方位：N-11°-E

埋没土層：褐色土で埋没している。白色粒子を含み、砂質である。

重複：22号土坑に前出している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

22号土坑(第41図)

位置：449・-387

形状：隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：(3.08)×0.70m 深度：0.48m

主軸方位：N-9°-E

埋没土層：暗褐色土で埋没している。白色粒子を含み、砂質である。

重複：21号土坑に後出している。

遺物：非掲載遺物として、土師器1片(甕類)が出土している。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

#### 23号土坑(第41図)

位置：447・-386

形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：1.53×0.81m 深度：0.08m

主軸方位：N-9°-E

埋没土層：暗褐色土で埋没している。白色粒子を含み、砂質である。

重複：なし

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない

#### 24号土坑(第41図)

位置：449・-385

形状：不整形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：1.76×(0.85)m 深度：0.29m

主軸方位：N-7°-E

埋没土層：不明

重複：なし

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。形状から掘り直しをしている形跡がうかがえる。時期は明らかにできなかったが、確認面及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

#### 25号土坑(第40図)

位置：451・-392

形状：不整形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：(0.76)×0.78m 深度：0.14m

主軸方位：N-0°

埋没土層：不明

重複：11号土坑に前出している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

#### 28号土坑(第41図)

位置：451・-389

形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：0.77×0.48m 深度：0.22m

主軸方位：N-49°-W

埋没土層：暗褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。

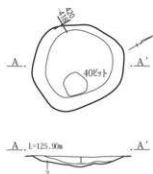
重複：7号溝と重複している。

遺物：認められなかった。

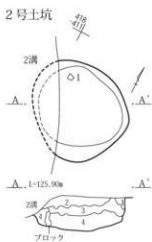
所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

第3章 調査の内容

1号土坑



2号土坑



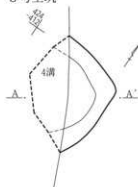
1号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR2/3) 黒色砂多量、黄褐色砂粒少量含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2) 黒色砂少量含む。

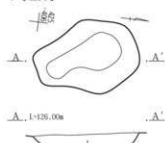
2号土坑 A-A'

- 1 黄褐色土(10YR5/6) 暗褐色土層かを含む。砂質土。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒子多量、黄褐色砂粒・Hr-PP細粒層かを含む。やや粘性あり。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子・黄褐色砂粒少量、Hr-PP細粒層かを含む。やや粘性あり。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 褐色土塊少量含む。粘性締まり層かあり。

3号土坑



4号土坑



3号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒子少量、黄褐色砂粒層かを含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子僅か、黄褐色砂粒少量含む。やや粘性あり。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子・黄褐色砂粒少量、Hr-PP細粒層かを含む。

4・5号土坑 A-A'

- 1 にふい黄褐色土(10YR4/3) 白色粒子僅か、黄褐色砂・黄褐色砂粒少量含む。

6号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒子・黄褐色砂粒層かを含む。
- 2 褐色土(10YR4/4) 白色粒子・黄褐色砂粒少量含む。

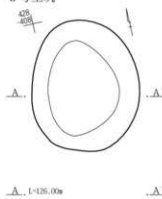
7号土坑 A-A'

- 1 褐色土(10YR4/6) 白色粒子少量、黄褐色砂粒層かを含む。

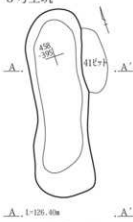
9号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒子・黄褐色砂粒層かを含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒子・黄褐色砂粒・砂礫少量含む。
- 3 黄褐色土(10YR7/8) 黄褐色砂粒多量含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 細礫・黄褐色砂粒少量含む。

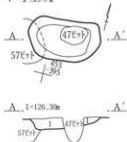
5号土坑



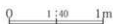
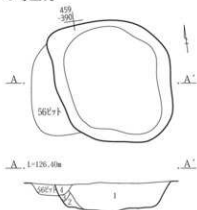
6号土坑



7号土坑

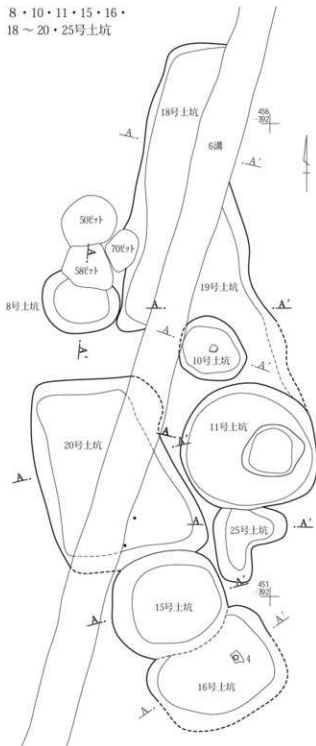


9号土坑



第39図 B4区1面 1～7・9号土坑

8・10・11・15・16・  
18～20・25号土坑



8号土坑



10号土坑



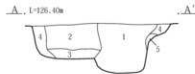
8号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子僅か、黄褐色砂粒少量含む。
- 1' 黄褐色砂粒ブロック
- 2 黄褐色土(10YR7/8) 黄褐色砂粒多量含む。

10号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 炭化物粒・黄褐色砂粒少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子・黄褐色砂粒少量含む。
- 3 褐灰色土(10YR4/1) 白色粒子・黄褐色砂粒僅かに含む。
- 4 黄褐色土(10YR7/8) 黄褐色砂粒多量含む。

11号土坑



11号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子・炭化物粒僅かに含む。
- 2 褐色土(10YR4/4) 白色粒子・黄褐色砂粒・灰白色粘土粒少量含む。
- 3 灰白色粘土(10YR8/2) 粘質土。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR7/4) 灰白色粘土多量含む。粘土質。
- 5 黄褐色土(10YR7/6) 砂質土。

15号土坑



16号土坑



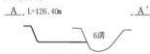
15号土坑 A-A'

- 1 褐色土(10YR4/6) 白色粒子・黄褐色砂粒少量含む。

16号土坑 A-A'

- 1 褐色土(10YR4/4) 白色粒子少量、黄褐色砂粒僅かに含む。

18号土坑



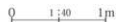
19号土坑



20号土坑



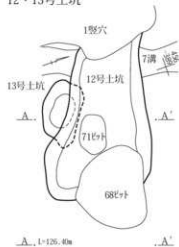
25号土坑



第40図 B4区1面 8・10・11・15・16・18～20・25号土坑

### 第3章 調査の内容

#### 12・13号土坑



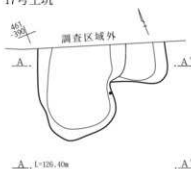
#### 12・13号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子・黄褐色砂粒少量含む。(12号土坑)
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子少量・黄褐色砂粒僅かに含む。(13号土坑)
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 塊。(13号土坑)

#### 14号土坑



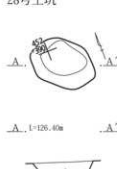
#### 17号土坑



#### 14号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子少量・黄褐色砂粒僅かに含む。
- 2 褐色土(10YR4/4) 白色粒子・黄褐色砂粒少量含む。
- 2' 褐色土(10YR4/4) 白色粒子含まない。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子・黄褐色砂粒少量・細礫僅かに含む。

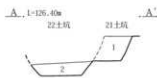
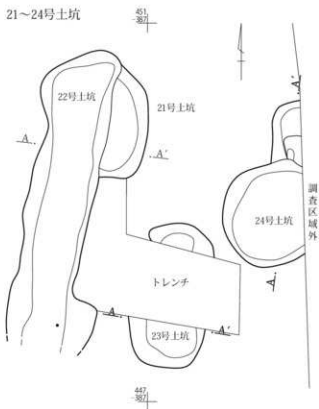
#### 28号土坑



#### 28号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子僅か・黄褐色砂粒少量含む。

#### 21～24号土坑



#### 21・22号土坑 A-A'

- 1 褐色土(10YR4/4) 白色粒子少量・黄褐色砂粒僅かに含む。(21号土坑)
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子僅かに・黄褐色砂粒少量含む。(22号土坑)

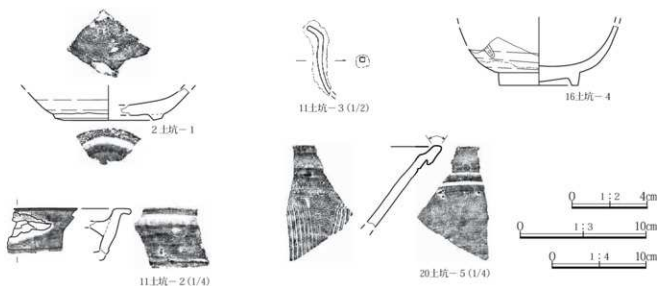
#### 23号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒子・黄褐色砂粒僅かに含む。

#### 24号土坑



第41図 B4区1面 12～14・17・21～24・28号土坑



第42図 B4区1面 2・11・16・20号土坑出土遺物

## (4)ピット

## B4区のパット群(第32・33・43～45図 PL.15・16)

**概要：**B4区1面の遺構は、細ヶ沢川の旧流路の左岸と右岸の微高地に位置している。竪穴状遺構1軒、溝8条、土坑26基が確認されている。また、ピット72基が検出された。そのうち40基は、細ヶ沢川の旧流路の右岸の屋敷堀と推定される溝の内外にある。一方32基は、細ヶ沢川の旧流路の左岸の微高地の屋敷跡一帯にある。両調査区共に、ピット群の中には、建物の柱穴として可能性を否定できないものもあるが、柱穴の規模形状、柱間、建物全体の形状等、建物を復元するための資料が見つからなかった。また、竪穴状遺構、溝、土坑等周辺の遺構も微高地において屋敷を構成する要素である可能性が高いと思われる。旧流路右岸のパット群は、屋敷堀と推察される溝の内外に位置しているのに対して、旧流路左岸のパット群は、竪穴状遺構や土坑、溝と一体となるように位置している。旧流路の右岸と左岸で、屋敷の様相が異なっていると思われる。さらに、旧流路右岸の溝は、B5区2面の溝とつながる可能性があるものの、同一施設としては不自然であるとする。旧流路右岸の屋敷の構成はB5区まで広がる可能性が指摘できるのである。一方、旧流路左岸の屋敷跡の奥C1区の2面では、畑が検出されており、旧流路左岸の様相が推察される。ただし、屋敷の全体的な構成を具体的に指摘するだけの資料には欠けている。(詳細については第5表に記載した。)

## 旧流路右岸のパット群

**位置：**屋敷堀と推察される溝の内側に1～8・30・40号ピットが、その他9～29・31～39号ピットが屋敷堀と推定される溝の外側から検出された。溝の内側のピット群は建物の可能性があるものの復元には至らなかった。溝の外側のピット群については使用目的が確認できなかった。

**重複：**3・8号ピットは1号溝に前出しており、30号ピットは1号溝と重複している。35・39号ピットは3・4号溝に後出している。13号ピットが14号ピットに、19号ピットが20号ピットに後出している。

**規模形状：**多くが小型で楕円形を呈する。

**埋没土：**埋没土は、主に暗褐色土、黒褐色土である。稀にぶい黄褐色土である。全体的に埋没土は類似している。白色粒子、黄褐色砂粒を含むことが多く、溝、土坑等周囲の遺構の埋没土と矛盾しない。

**その他：**柱穴の可能性が高いという観点から特筆すべきピットについて図示し、その理由を分類した結果を以下の通り解説する。

- ・形状が整っており深さもあることから、柱穴であった可能性が高いものとして、18・25号ピットがあげられる。
- ・柱穴を新規に掘り直した様相が伺え、柱穴だった可能性が高いものとして、13・14、19・20号ピットがあげられる。
- ・同じ規模または同じ形状のピットが等間隔で並んでおり、住居に関連する造作の可能性のあるものとして、



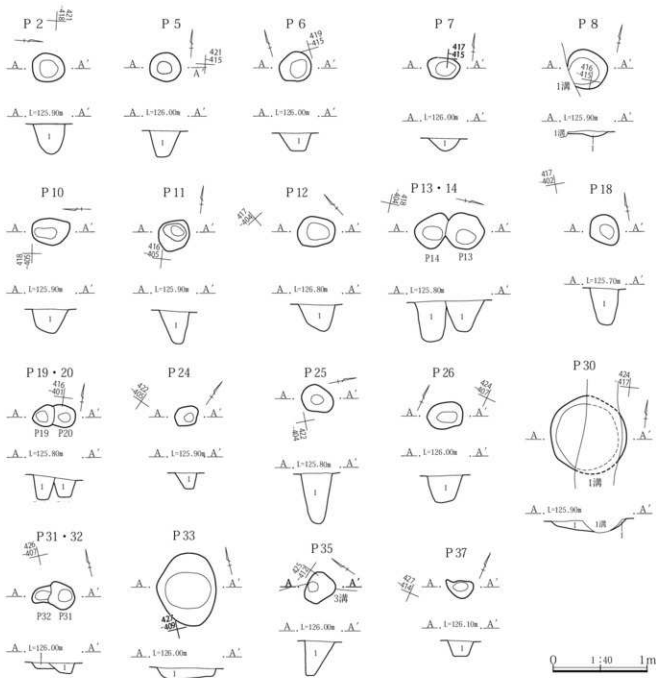
### 第3章 調査の内容

2・5・6・7、10・12、24・27・31号ピットがあげられる。中でも、P2・5・6・7については、辺P2・5と辺P5・6・7が直行している。互いの間隔も2m程で一定しており、建物の一部であった可能性を示す。また、3・4号溝東に位置するP24・27・31は約2mの間隔で柱穴列の可能性がある。

・上部が大きく削平を受けているが、底部が形良く残存していると思われ、柱穴の可能性のあるものとして、2・37号ピットがあげられる。

**遺物：**認められない。

**所見：**埋没土に、洪水層の影響が推察される黄褐色砂粒を多く含むことから、近世以降に属すると思われる。



2・5・6・7・10~14・18~20・24~26号ピット A-A'  
 1 黒褐色土(10YR2/2) 白色粒子多量、黄褐色砂粒少量含む。  
 8号ピット A-A'  
 1 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒子少量含む。粘性あり。

30~32号ピット A-A'  
 1 黒褐色土(10YR2/2) 白色粒子多量、黄褐色砂粒少量含む。  
 33・35・37号ピット A-A'  
 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 白色粒子僅か、黄褐色砂・黄褐色砂粒少量含む。砂質上。

第43図 B4区1面 旧流路右岸のピット

## 旧流路左岸のピット群

位置：ピット群のほとんどは微高地の中央部分に集中するように確認された。土坑、溝等周囲の遺構と共に、屋敷を構築していたと推察されるが、具体的な形に復元することはできなかった。

重複：52号ピットが72号ピットに後出している。57号ピットが7号土坑に前出しており、47号ピットが7号土坑に後出している。41号ピットが6号土坑に前出している。58号ピットが50号ピット・8号土坑に後出している。56号ピットが9号土坑に前出している。70号ピットが18号土坑に後出している。55号ピットが1号竪穴状遺構に後出している。71号ピットが12号土坑に前出し、68号ピットが12号土坑に後出している。62号ピットが8号溝に後出している。

規模形状：多くが小型で楕円形を呈する。

埋没土：埋没土は一様ではないが、主に暗褐色土、黒褐色土である。稀に、褐色土、にぶい黄橙色土、黄橙色土で埋没している。全体的に埋没土は類似している。白色粒子、黄橙色砂粒を含むことが多く、溝、土坑等周囲の遺構の埋没土と矛盾しない。

その他：柱穴の可能性が高いという観点から特筆すべきピットについて図示し、その原因を分類した結果を以下

の通り解説する。

- ・柱痕が推測される形状で、柱穴であった可能性が高いものとして、44・46・65・70号ピットがあげられる。

- ・形状が整っており深さもあることから、柱穴であった可能性が高いものとして、59・63・66号ピットがあげられる。

- ・柱穴を新規に掘り直した様相が伺え、柱穴だった可能性が高いものとして、52・72、64号ピットがあげられる。

- ・柱穴の底に礫を伴っており柱穴の可能性のあるものとして、51・53・58号ピットがあげられる。

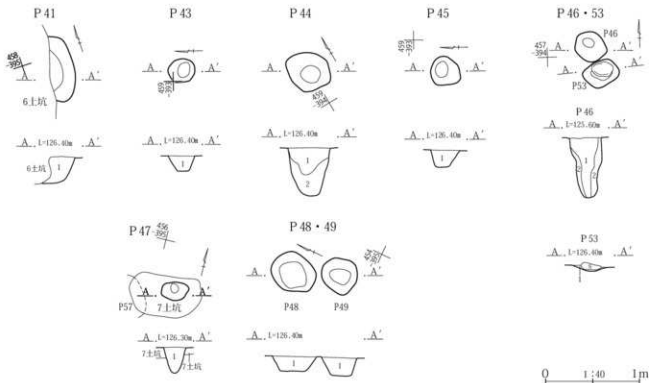
- ・同じ規模または同じ形状のピットが等間隔で並んでおり、住居に関連する造作の可能性のあるものとして、43・45、46・70号ピットがあげられる。

- ・柱の元を固めた様相が伺え、柱穴であった可能性があるものとして、67号ピットがあげられる。

- ・上部が削平を受けており、底部が形良く残存していると思われ、柱穴の可能性のあるものとして、47・67・57号ピットがあげられる。

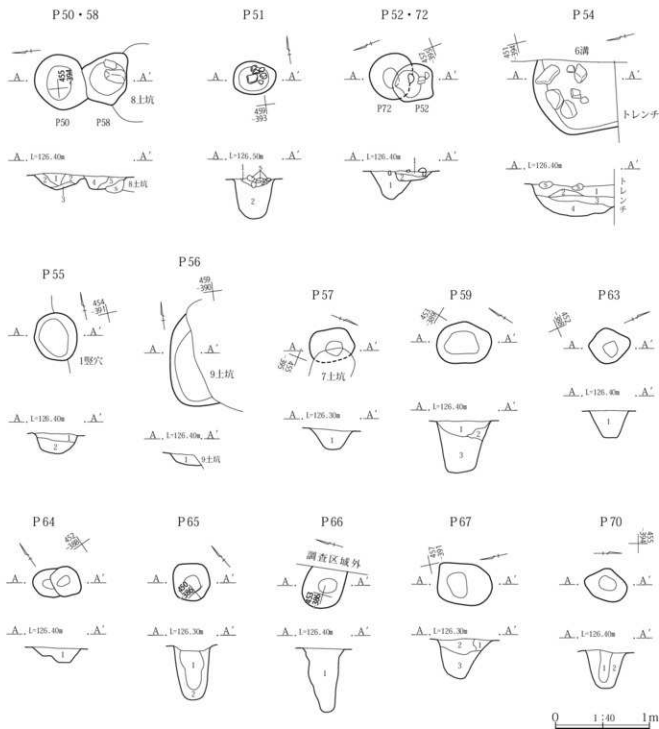
遺物：非掲載遺物として、54号ピットから土器片が1点、57号ピットから土器片が1点出土した。

所見：埋没土に、洪水層の影響が推察される黄橙色砂粒を多く含むことから、近世以降に属すると思われる。



第44図 B4区1面 旧流路左岸のピット(1)

第3章 調査の内容



第45図 B4区1面 旧流路左岸のビット(2)

45・48・49・53・57・63・64・66号ビット A-A'

1 黒褐色土(10YR2/2) 白色粒子多量、黄褐色砂塊少量含む。

41・43号ビット A-A'

1 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色砂粒僅かに含む。

44号ビット A-A'

1 黒褐色土(10YR2/2) 白色粒子多量、黄褐色砂塊少量含む。

2 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒子・黄褐色砂塊少量含む。

46号ビット A-A'

1 黒褐色土(10YR2/2) 白色粒子多量、黄褐色砂塊少量含む。

2 黒褐色土(10YR2/2) 白色粒子多量、黄褐色砂塊中量含む。

47号ビット A-A'

1 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色砂粒僅かに含む。柱穴か？

50・58号ビット A-A'

1 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色砂粒僅かに含む。(50号ビット)

2 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子・黄褐色砂粒僅かに含む。(50号ビット)

3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 白色粒子僅か、黄褐色砂少量含む。(50号ビット)

4 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色砂粒僅かに含む。(58号ビット)

5 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 白色粒子僅か、黄褐色砂少量含む。(58号ビット)

51・52号ビット A-A'

1 褐色土(10YR4/6) 白色粒子・黄褐色砂粒僅かに含む。

2 黄褐色土(10YR5/6) 白色粒子・黄褐色砂粒少量含む。

## 54号ピット A-A'

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 白色粒子多量、黄褐色砂粒少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 白色粒子多量含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 白色粒子少量含む。均質。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒子・黄褐色砂粒少量含む。

## 55号ピット A-A'

- 1 黒褐色土(10YR2/3) 白色粒子少量、黄褐色砂粒僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子・黄褐色砂粒少量含む。

## 56号ピット A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 細礫・黄褐色砂粒少量含む。やや砂質。

## 59号ピット A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒子多量、黄褐色砂少量含む。
- 2 黄褐色土(10YR7/8) 白色粒子少量、黄褐色砂多量含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子僅か、黄褐色砂少量含む。

## (5) 遺構外出土遺物(第46図 PL.50)

B4区1面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物が出土した。ここでは出土した遺物のうち、B4区Aトレンチから出土した陶磁器1点(片口鉢(1))、銅製品1点(キセル(3))、B4区Bトレンチから石製品1点(火打石(2))を掲載した。出土遺物は、本調査面の時期におおむね矛盾しない。非掲載遺物として、土師器(杯類2片、甕類4片)、剥片石器1点(打製石斧)、石製品1点(砥石)が出土している。これらは、下層からの混入であると思われる。

## 2 B5区、C1・4区の遺構と遺物(第46図、PL.50)

C1区から、弥生土器1点(甕(4))を掲載した。非掲載遺物として弥生土器(中期後半1片)が出土した。その他は、調査面は確認できたものの、遺構や遺物は認められなかった。

## 65・70号ピット A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子少量、黄褐色砂粒僅かに含む。柱穴。
- 2 黄褐色土(10YR5/6) 白色粒子・黄褐色砂粒少量含む。

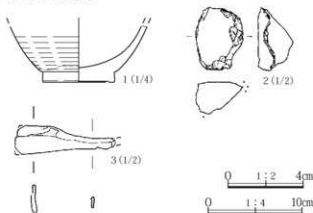
## 67号ピット A-A'

- 1 黄褐色土(10YR7/8) 白色粒子少量、黄褐色砂多量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒子・黄褐色砂粒少量含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子少量、黄褐色砂粒僅かに含む。

## 72号ピット A-A'

- 1 黄褐色土(10YR5/6) 白色粒子・黄褐色砂粒少量含む。柱穴。

## B4区出土遺物



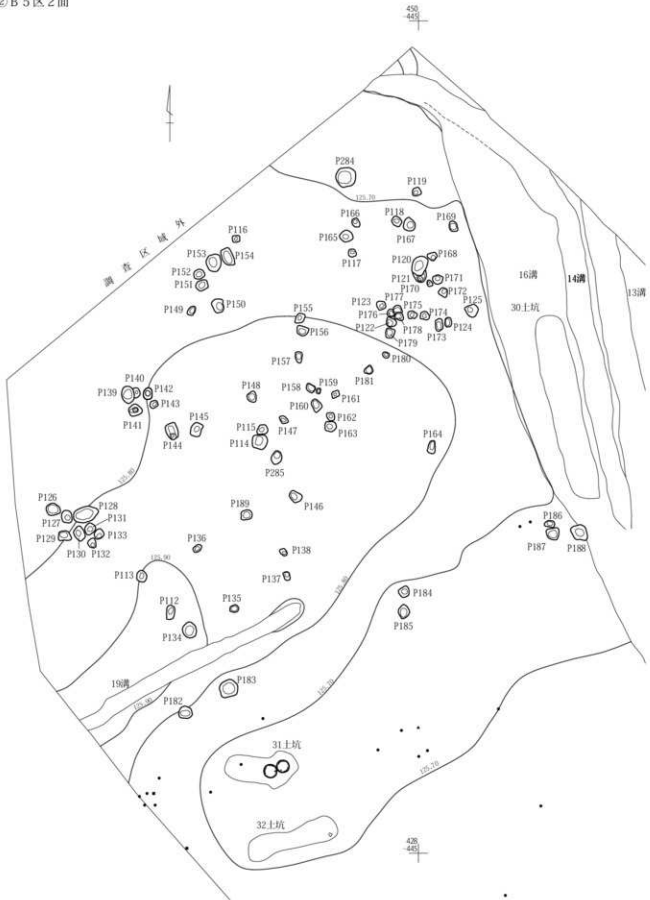
## C1区出土遺物



第46図 B4・C1区1面 遺構外出土遺物



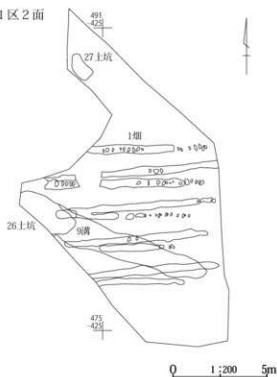
## ② B5区2面



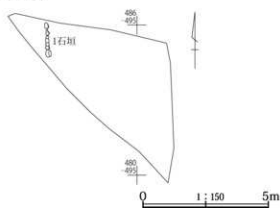
第48図 B5区2面 北西部全体図

0 1:100 5m

③C1区2面



③C4区2面



第49図 C1・4区2面 全体図

II 中・近世[第2面]

本項で報告するのは、5世紀洪水層及び細粒軽石を含む暗褐色土の上、シルト質の黒褐色土を確認面とした遺構と遺物であり、B・C区の2面として調査を行った。細ヶ沢川の旧流路の左岸と右岸の微高地に位置している。溝8条、畑1枚、井戸1基、土坑9基、ピット106基、石垣1基が検出された。遺構面の大半はシルト質の黒褐色土で埋没しており、細ヶ沢川の旧流路の影響を受けていると考えられる。遺構の検出状況から、微高地に建物や位置し周囲に堀が巡り、畑などの生産域が近くにある様相が想定できる。遺物は豊富ではなく一部下層からの流入もあるが、調査面の時期の想定に矛盾はない。

1 B4・5区、C1・4区の遺構と遺物

(1)溝

本調査区の溝は、細ヶ沢川の旧流路の右岸と左岸に位置している。右岸の溝は、微高地に位置しており、屋敷に伴う溝であると思われる。溝付近には、ピットや土坑が確認されており、建物跡の様相を呈している。B5区の3・4号溝については、B4区の3・4号溝(1面)と繋がる可能性があるものの、同一施設としては不自然であることを指摘しておく。左岸の溝は、微高地にあり、畑の中に位置している。

埋没土にAs-Bを含むことが多く、Hr-FPを僅かに混入している。中・近世以降の溝であると考えられるが、各々の溝の時期及び時期差等について明確にするための資料は得られていない。

B5区3・4号溝(第50・51・53~55図 PL.18・50)

位置：409・438・429~437 B5区にある。規模：長さ(28.8m)×3号溝幅1.12~1.58m、4号溝幅3.25~4.65m 残存深度：3号溝0.4m、4号溝1.03m 方位：N-9°-W、N-65°-E 遺物：須恵器1点(椀(33))、陶磁器・土器32点(京焼風碗1点(1)、陶胎染付碗1点(2)、染付碗1点(3)、碗1点(4)、呉器手碗1点(5)、尾呂碗2点(6・7)、折縁皿1点(8)、灯火皿1点(9)、皿3点(10・11・12)、菊皿1点(13)、染付皿1点(14)、京焼風皿1点(15)、盤類1点(16)、筒形香炉1点(17)、筒形香炉か鉢1点(18)、陶胎染付鉢1点(19)、鉢1点(20)、すり鉢3点(21・22・23)、鍋2点(24・25)、甕1点(26)、片口鉢1点(27)、焙烙4点(28・29・30・32)、内耳鍋1点(31)、石製品3点(砥石(35・36・37))、石造物1点(板碑片(39))、鉄製品1点(38)、縄文土器1点(深鉢(34))を図示した。なお、板碑片は、4号溝からの出土であった。非掲載遺物として、土師器(甕類6片、杯類16片)、須恵器(甕類1片、杯類3片)(4号溝)、石製品2点(砥石)、石造物2点(板碑片)が出土している。また、弥生土器(中期1片)が出土している。下層からの混入であると思われる。重複：15号溝と重複しており、34号土坑に前出している。また、13・14・16号溝が、3・4号溝の北西角で3・4・15号溝に合流している。所見：底部の溝3号溝は、黒褐色土で埋没している。砂層と粘土層の互層であり、鉄分が付着して

いる。4号溝部分の底部は、黒褐色土で埋没している。砂層と粘土層の互層で、礫を含んでいる。その後、明黄褐色土、黒褐色土、褐色灰色土、にぶい黄褐色土、灰黄褐色土で埋没している。粘質土で、ロームブロックを含む。上部はHr-PPを含む。レンズ状に埋没しており、自然堆積であると思われる。南北に走行しており、北西隅ではほぼ直角に東へ曲がり、調査区域外に続いている。溝の南北両端部の高低差を見ると、南が高く北が低い。東西両端部の高低差を見ると、西が高く東が低い。溝の断面形は基本的には、レンズ状で、底面は丸底である。幅は南部が広く北西の角がやや狭い。東に向けて再び広がる様相を呈する。残存深度は深く、明確な目的を持った施設であると考えられる。区画を呈している溝であると推測される。本溝は、土層や北西隅が直角に曲がる形状、及び溝の内側の微高地に土坑等屋敷の痕跡を思わせる周囲の状況等より、屋敷堀の可能性がある。また、4号溝底部における3号溝の役割は、明瞭ではない。埋没土及び形状より、B4区1面の3・4号溝と繋がる可能性を示唆するが、南北方向の主軸方位が一致していないため、別施設を考えるほうが自然である。溝の形状・出土遺物及び埋没土等より、中・近世以降の溝であると推察される。

#### C1区9号溝(第52図 PL.18・50)

**位置:** 477~482・-419~-429 C1区にある。 **規模:** 長さ(10.64)m×幅1.18~1.64m **残存深度:** 0.35m  
**走行方位:** N-70°-W **遺物:** 鉄製品1点(1)を掲載した。 **重複:** 1号堀、26号土坑と重複している。土層から、9溝より26号土坑が古く、9溝より1号堀が新しいと考える。 **所見:** 黄褐色土、明黄褐色土、暗褐色土で埋没していた。ロームブロック、Hr-PPを含む。形状はほぼ直線であり、東南東から西北西に走行しており、傾斜方向に平行に流れる。溝の東西両端部の高低差を見ると、西が高く東が低い。溝の断面形は基本的には、すり鉢状で、底面は丸底である。幅はほぼ一定であるが、南部ほど狭くなり消滅している。残存深度はやや浅い。同一面では、走行が、平行及び垂直の関係を呈する溝が確認できないため、区画を呈しているか明瞭でない。この溝の機能等を明確にすることはできなかった。溝の形状及び埋没土等より、中・近世以降の溝であると推察される。

#### B5区13号溝(第50・51・55図 PL.19・51)

**位置:** 436~445・-438~-441 B5区にある。 **規模:** 長さ(8.25)m×幅0.71~0.79m **残存深度:** 0.29m **走行方位:** N-9°-W **遺物:** 須恵器1点(碗(40))を掲載した。 **重複:** 3・4・14・15・16号溝と合流している。 **所見:** 主に褐色土及び暗褐色土で埋没していた。シルトブロック及びHr-PPを含む。ほぼ直線であり、北北西方向から南南東方向に走行しており、傾斜方向に平行に流れる。14・16号溝と合流した後、3・4号溝の北西隅に流れ込んでいる。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は基本的には、すり鉢状で、底面は丸底である。幅は、合流するまでほぼ一定である。残存深度はやや浅い。南北方向の走行は3・4・14・15・16号溝と一致しており、3・4号溝の東方向の走行とは垂直に交わる。区画を呈している可能性がある。溝の形状及び埋没土等より、中・近世以降の溝であると推察される。

#### B5区14号溝(第50・51図 PL.19)

**位置:** 437~448・-439~-447 B5区にある。 **規模:** 長さ(14.95)m×幅0.48~0.78m **残存深度:** 0.27m **走行方位:** N-11°-W(一部) **遺物:** 非掲載遺物として、土師器(杯類1片)が出土している。 **重複:** 16号溝と重複しており、3・4・13・15号溝と合流している。土層より14号溝が16号溝より新しい。 **所見:** 主に暗褐色土で埋没していた。シルトブロック及びHr-PPを含む。西から弧を描き、13号溝と並走しながら北北西方向から南南東方向に走行している。傾斜方向に平行に流れる。16号溝に沿うように後出しており、13号溝と合流した後、3・4号溝の北西隅に流れ込んでいる。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は基本的には、すり鉢状で、底面は整っていない。幅は、弧を描く前は狭いが、13溝と並走と同時に一定を呈する。残存深度はやや浅い。南北方向の走行は3・4・13・15・16号溝と一致しており、3・4号溝の東方向の走行とは垂直に交わる。区画を呈している可能性がある。この溝の機能等は、土層や西側の微高地に対して北東隅がほぼ直角に曲がる形状、及び微高地に土坑やピット等屋敷の痕跡を思わせる周囲の状況等より、屋敷堀を補充する可能性が指摘できる。また、16号溝に付属しているこ



とから、16号溝をより有効に機能させる役割を持っていると推察される。溝の形状及び埋没土等より、中・近世以降の溝であると推察される。

**B 5区15号溝(第50・51・55図 PL.18・19・51)**

**位置:** 436~439・-412~434 B 5区にある。 **規模:** 長さ(21.90)m×幅0.94~1.22m **残存深度:** 0.37m  
**走行方位:** N-3°-W **遺物:** 陶磁器1点(皿(41))を  
 図示した。 **重複:** 3・4号溝と重複しており、13・  
 14・16号溝と合流している。土層より15号溝が3・4号  
 溝より新しい。 **所見:** 主に褐灰色土で埋没していた。  
 ほぼ直線であり南北に走行している。傾斜方向に平行  
 に流れる。3・4号溝に沿うように後出しており、13・  
 14・16号溝と3・4号溝の北西隅で合流している。溝の  
 南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の  
 断面形は基本的には、逆台形で、底面は平坦である。幅  
 は、狭いが一定である。残存深度はやや浅い。南北方向  
 の走行は3・4・13・14・16号溝と一致しており、3・  
 4号溝の東方向の走行とは垂直に交わる。区画溝を呈し  
 ている可能性がある。また、3・4号溝に付属している  
 ことから、3・4号溝をより有効にいかす役割を持って  
 いたと推察される。溝の形状及び埋没土等より、中・近  
 世以降の溝であると推察される。

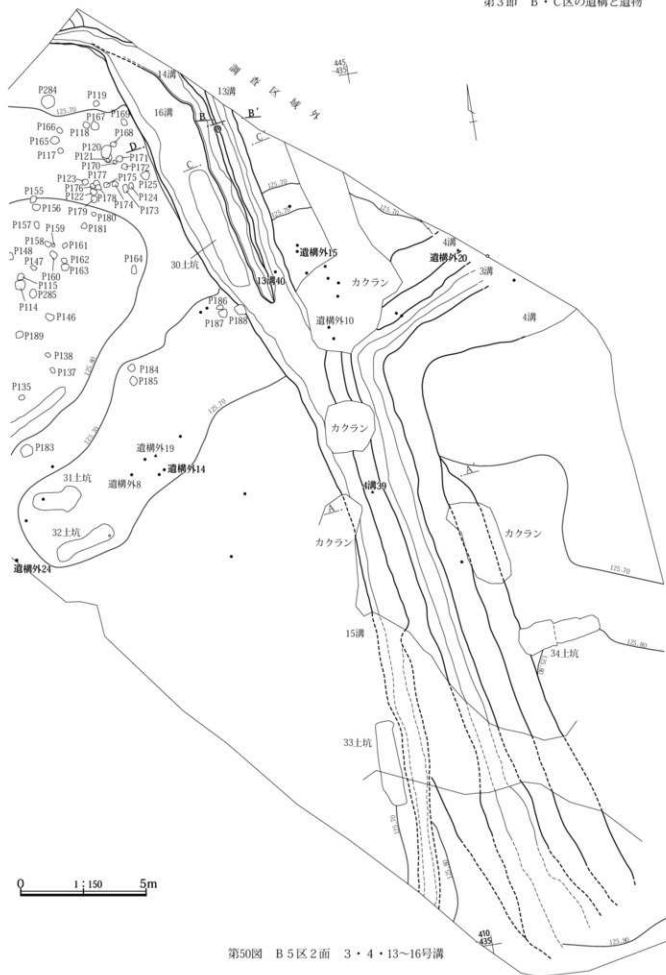
**B 5区16号溝(第50・51図 PL.19)**

**位置:** 433~448・-438~444 B 5区にある。 **規模:** 長  
 さ(14.95)m×幅1.10~2.06m **残存深度:** 0.32m **走  
 行方位:** N-18°-W(一部) **遺物:** 認められない。  
**重複:** 14号溝と重複しており、3・4・13・15号溝と合  
 流している。土層より14号溝が16号溝より新しい。30号  
 土坑に前出している。 **所見:** 主に灰褐色土で埋没して  
 いた。砂質層を呈している。西から14号溝とともに弧を  
 描き、13号溝と並走しながら北北西方向から南南東方向  
 に走行している。傾斜方向に平行に流れる。14号溝に沿  
 うように前出しており、13号溝と合流した後、3・4号  
 溝の北西隅に流れ込んでいる。溝の南北両端部の高低差  
 を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は基本的には、  
 レンズ状で、底面は平底である。幅は、弧を描く前は狭  
 いが、中盤で広がり13・14溝と並走し合流地点では再び  
 狭くなる。残存深度はやや浅い。南北方向の走行は、3・

4・13・14・15号溝と一致しており、3・4号溝の東方  
 向の走行とは垂直に交わる。区画を呈している可能性が  
 ある。この溝の機能等は、土層や西側の微高地に対して  
 北東隅がほぼ直角に曲がる形状、及び微高地に土坑や  
 ビット等屋敷の痕跡を思わせる周囲の状況等より、屋敷  
 堀を補充する可能性が指摘できる。また、14号溝を伴っ  
 ていることから、機能を強化していったと推察される。  
 溝の形状及び埋没土等より、中・近世以降の溝であると  
 推察される。

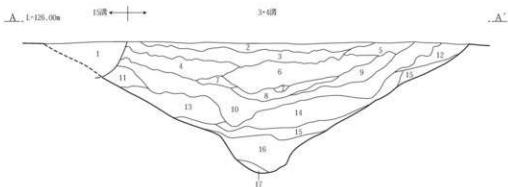
**B 5区19号溝(第52図 PL.19)**

**位置:** 432~435・-448~454 B 5区にある。 **規模:**  
 長さ(6.55)m×幅0.32~0.50m **残存深度:** 0.28m **走  
 行方位:** N-61°-E **遺物:** 認められない。 **重複:**  
 認められない。 **所見:** 埋没土は、暗褐色土であり、白  
 色粒子、黄褐色砂粒を含む。ほぼ直線であり、西南西方  
 向から東北東方向に走行しており、傾斜方向に平行に流  
 れる。西部は調査区域外にあり、東部は途中で消滅して  
 おり、その先は確認できない。溝の東西両端部の高低差  
 を見ると、西が高く東が低い。溝の断面形は基本的には、  
 逆台形で、底面は平底である。幅は南部一定している。  
 残存深度は西部が深く、東部にいくほど浅くなる。同一  
 面上に、走行が一致する溝はない。屋敷跡と推定される  
 遺構がある微高地に関連する14・16号溝に、ほぼ垂直に  
 位置する。区画を呈している可能性がある。この溝の機  
 能等は、屋敷内を仕切るものと考えられる。溝の形状及  
 び埋没土等より、中・近世以降の溝であると推察される。



第50図 B5区2面 3・4・13~16号溝

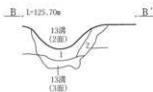
### 第3章 調査の内容



#### 3・4・15号溝 A-A'

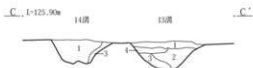
- 1 褐灰色土(10YR5/1)
- 2 灰黄褐色土(10YR6/2)
- 3 灰黄褐色土(10YR6/2) 白色軽石含む。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2) 白色軽石含む。
- 5 灰黄褐色土(10YR5/2)
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2)
- 7 にぶい黄褐色土(10YR7/3) 粘性土。
- 8 にぶい黄褐色土(10YR6/3) 粘性土。
- 9 にぶい黄褐色土(10YR7/2) 粘性土。

- 10 黒褐～褐灰色土(10YR3/1～10YR4/1)
- 11 明黄褐色土(10YR6/8)
- 12 明黄褐色土(10YR7/6)
- 13 黒褐色土(10YR3/2) 粘質土。
- 14 明黄褐色土(10YR7/6) 鉄分凝集。
- 15 黒褐色土(10YR3/1) 粘質土。
- 16 黒色土(10YR2/1) 鉄分凝集。
- 17 黒色土(10YR2/1) 粘質土。



#### 13号溝 B-B'

- 1 暗褐色土(7.5YR4/3) Hr-PP細粒少量、シルト含む。
- 2 暗赤褐色土(5YR3/2) シルト含む。



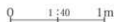
#### 13・14号溝 C-C'

- 1 暗褐色土(7.5YR3/3) 径2～3mmのHr-PP粒を少量含む。
- 2 褐色土(7.5YR4/3) 径2～3mmのHr-PP粒を少量含む。シルト含む。
- 3 暗褐色土(5YR3/2) シルト含む。
- 4 灰褐色土(5YR4/2) シルトブロック含む。



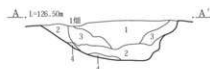
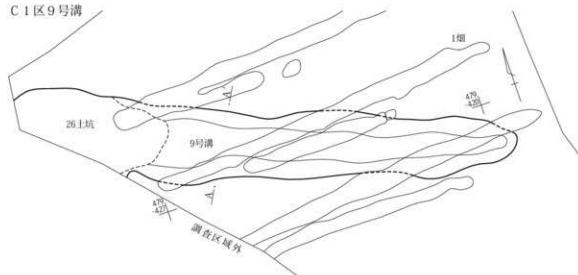
#### 14・16号溝 D-D'

- 1 黄褐色土(10YR5/6) 砂主体。Hr-PP粒多量含む。
- 2 明褐色土(10YR3/4) 砂多量、Hr-PP粒僅か含む。
- 3 灰褐色土(7.5YR4/2) 砂質土。
- 4 黄褐色土(7.5YR5/6) 黄褐色砂ブロック少量含む。



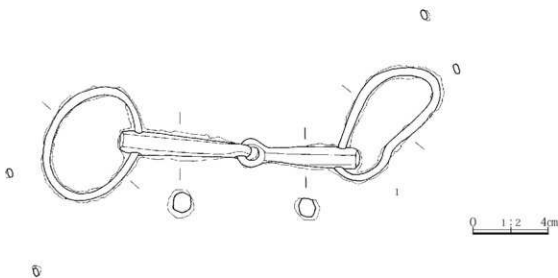
第51図 B5区2面 3・4・13～16号溝断面

C1区9号溝

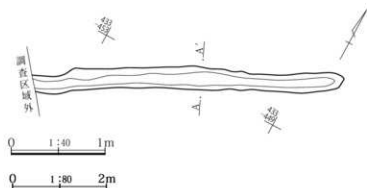


9号溝 A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒子多量、黄褐色砂粒少量、Hr-FP細粒僅か、褐色土塊少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色土、Hr-FP粒少量含む。
- 3 明黄褐色土(10YR5/6) 黄褐色砂粒多量、Hr-FP細粒僅か含む。
- 4 黄褐色土(10YR5/6) 黄褐色砂、黄褐色土少量含む。



B5区19号溝

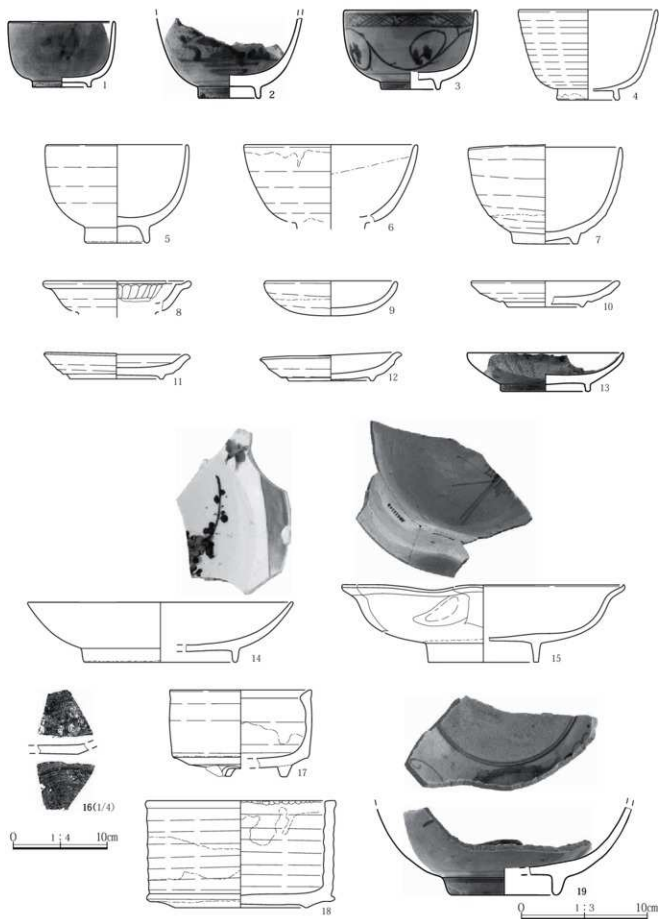


19号溝 A-A'

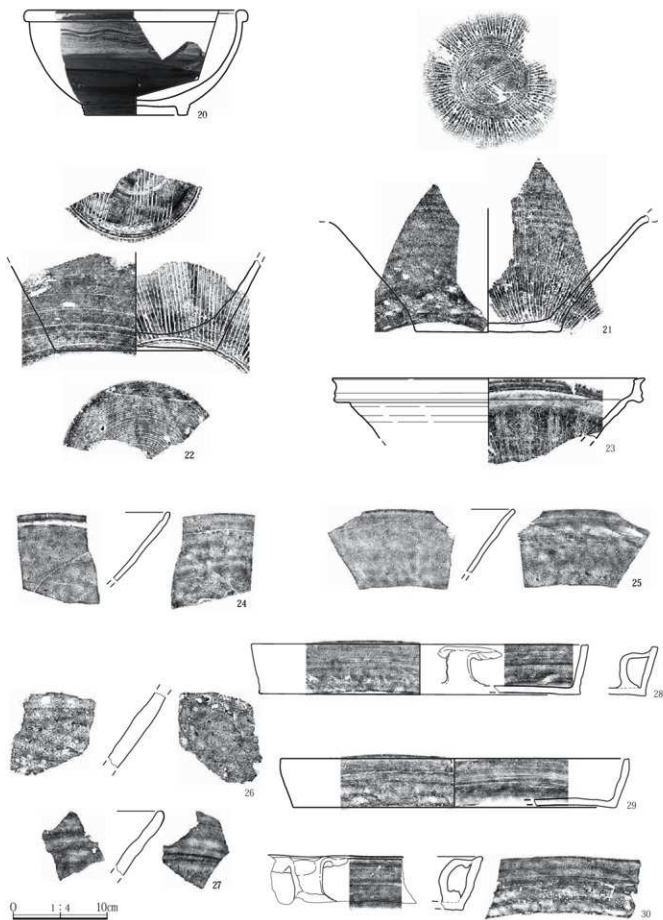
- 1 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子僅か、黄褐色砂粒少量含む。

第52図 C1区2面 9号溝と出土遺物、B5区2面 19号溝

第3章 調査の内容

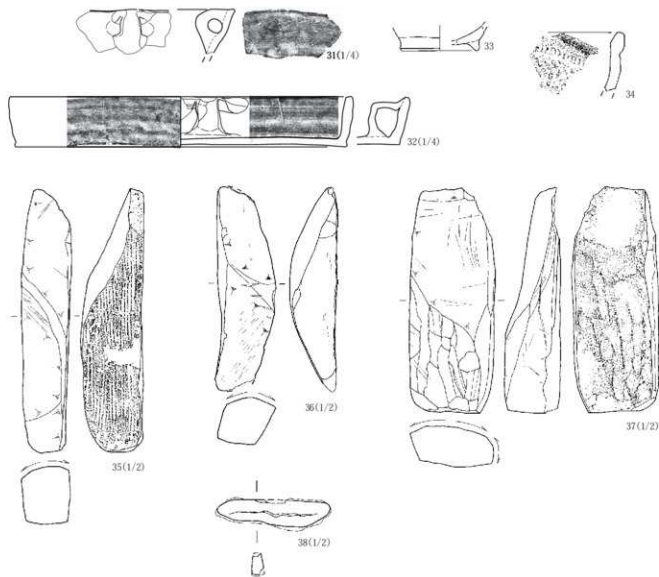


第53図 B5区2面 3・4号溝出土遺物(1)

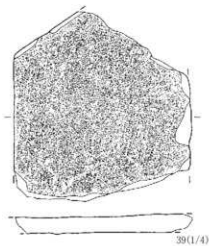


第54図 B5区2面 3・4号溝出土遺物(2)

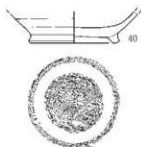
3・4号溝出土遺物



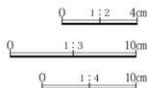
4号溝出土遺物



13号溝出土遺物



15号溝出土遺物



第55図 B5区2面 3・4号溝(3)、13・15号溝出土遺物

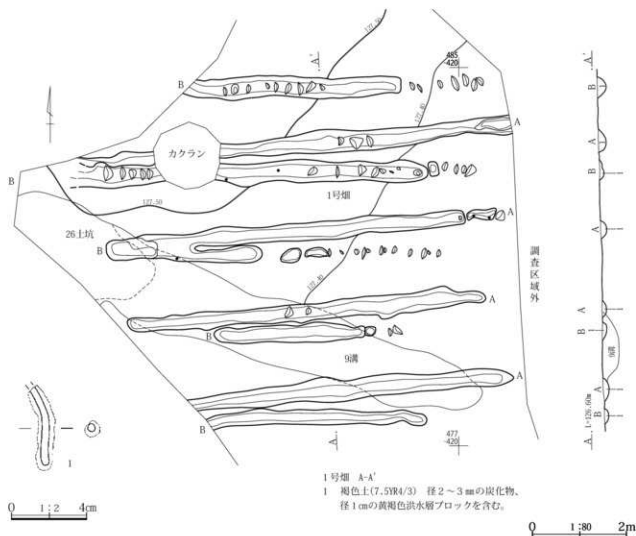
## (2)畑

本調査区北、細ヶ沢川の旧流路左岸の微高地に位置している。周囲には溝や土坑が確認されている。サク間幅などから、2枚の畑が僅かな時間差で重なり合っていると推察される。互いのサク間幅は、ほぼ等しい。同一種類の作物の畑と推察される。検出範囲が狭いため、区画に関しては明瞭でない。また、近接する溝や土坑との関連は明瞭でない。

## 1号畑(第56図 PL.20・51)

位置：477～485・～418～428 C1区にある。サク数：耕作痕A 4条 耕作痕B 5条 規模：耕作痕A：(7.56～9.12)m×(5.72)m 耕作痕B：(3.96～8.44)m×(7.28)m 残存深度：耕作痕A：0.09～0.16m 耕作痕B：0.08～0.09m サク間幅：耕作痕A：1.68～1.86m

耕作痕B：1.70～1.80m サク方位：耕作痕A：N-84°-E 耕作痕B：N-89°-E 遺物：鉄製品1点(1)を掲載した。重複遺構：9号溝及び26号土坑に後出している。所見：本畑は、耕作痕Aと耕作痕Bの2面の耕作痕が重複する。埋没土は、褐色土である。炭化物と黄褐色土の洪水層ブロックを含む。削平が進んでおり出土範囲は狭い。重複している部分の耕作痕の切り合いから、耕作痕Aが耕作痕Bより古いと思われるが、時期差はないと考える。サク方位は、ほぼ東西を示しており、微高地の傾斜方向に垂直に位置している。重複する2面の耕作痕はサク方位がややずれるものの、サク間幅は同じであり、同じ目的の畑であると思われる。9号溝及び26号土坑との関連は明瞭でない。畑の時期は、形状及び埋没土等から中・近世以降に位置付けられる。



第56図 C1区2面 1号畑、出土遺物

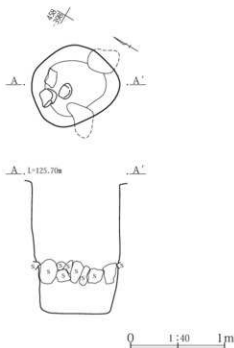


(3)井戸

本調査区、細ヶ沢川の旧流路左岸の微高地の縁辺部に位置している。屋敷跡が想定されるピット群からみて、旧流路方向の限界にある。使用に際して合理的な位置にあると考える。

1号井戸(第57図 PL.21)

位置：457-398 B4区にある。規模：0.89m×0.79m 残存深度：1.40m 遺物：認められない。所見：本井戸は、細ヶ沢川の旧流路による近世洪水層の下面まで掘削している。底面には湧水がみられた。近世洪水層砂層を含むシルト層によって埋没しており、埋没土中層には礫が多数入れられていた。遺構の確認は、上層の近世洪水砂層上面である。1面では、井戸の東側に土坑やピット群等、屋敷と推察される遺構が確認されており、南北方向に6・7号溝が掘削されている。1号井戸は、微高地の西部縁辺部に位置していたと推察される。井戸の途中に確認された配石は、湧水に関連する構築であると考えられ、以前から使用されていた可能性が想定できる。1号井戸の排水は、細ヶ沢の旧流路に関連していると推察される。よって、細ヶ沢の旧流路は近世洪水層の下面の時期までさかのぼると考えられる。



第57図 B4区2面 1号井戸

(4)土坑

B・C区土坑(第58～60図 PL.22・23)

概要：B・C区2面では、9基の土坑を調査した。検出された位置は細ヶ沢川の旧流路の左岸と右岸に分けられる。細ヶ沢川の旧流路右岸の微高地B5区には、屋敷に伴うと推察される溝の内外に観察できる。平面形は楕円形と隅丸長方形が多く、断面形は逆台形を呈している。隅丸長方形の土坑の方位は、互いに一致しているか直交している場合が多い。一方、細ヶ沢川の旧流路左岸の微高地C1区では、1号畑付近に確認できる。(詳細については第4表に記した。)

所見：B5区の土坑の埋没土は、暗褐色土であり、白色粒子、黄褐色砂粒、Hr-FPを僅かに含む。31・32号土坑は、旧流路右岸の屋敷跡と推定される区画にあり、遺物の様相から、関連施設が想定される。30・33・34号土坑は、屋敷跡と推定される区画の溝に重複または近接しており、溝に関わる施設の関連が想定される。C1区の土坑の埋没土は黒褐色土、暗褐色土、褐色土に洪水層のブロック砂が混入していることから、いずれも、周囲の遺構や、B4区の屋敷跡と推定される土坑やピットと時期差がないものであると思われる。26・27号土坑は、畑、溝と重複または近接しており、関連施設の可能性がある。

C1区26号土坑(第58図 PL.22)

位置：481-428 C1区にある。

形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：(3.28)×(1.37)m 深度：0.93m

主軸方位：N-52°-W

埋没土層：黒褐色土、明黄褐色土、暗褐色土、褐色土で埋没している。Hr-FP及び洪水層ブロックを含む。

重複：9号溝、1号畑に前出している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。ただし、9号溝の下に位置する規模の大きな土坑である。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構の関連が想定されるが、明瞭ではない。

## C1区27号土坑(第59・60図 PL.22・51)

位置: 488・-426 C1区にある。

形状: 楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模: 1.44×0.71m 深度: 0.17m

主軸方位: N-34°-W

埋没土層: 暗褐色土で埋没している。白色粒子を含み、砂質である。

重複: なし

遺物: 搬入系土器1点(二朱銀形土製品(1))、鉄製品3点(2・3・4)、銅製品1点(5)、古銭2点(6・7)を図示した。二朱銀形土製品はいわゆる銭形土製品である。群馬県内では、出土例の少ない貴重なものである。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

## B5区30号土坑(第59・60図 PL.23・52)

位置: 440・-441 B5区にある。

形状: 長楕円形である。断面形は半円形を呈する。底面は丸底である。

規模: 5.00×0.87m 深度: 0.49m

主軸方位: N-14°-W

埋没土層: 暗褐色土で埋没している。Hr-FP、小碟を含む。砂質である。

重複: なし

遺物: 須恵器1点(杯(8))、石製品1点(砥石(9))を掲載した。非掲載遺物として、土師器(杯類1片)が出土している。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

## B5区31号土坑(第59・60図 PL.23・52)

位置: 430・-449 B5区にある。

形状: 楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模: 1.77×1.03m 深度: 0.18m

主軸方位: N-79°-W

埋没土層: 暗褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。

重複: なし

遺物: 石製品2点(石臼10・11)を掲載した。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかったが、石臼が出土していることから、作業に関連する施設と思われる。時期は明らかにできなかったが、出土遺物、確認面、埋没土及び形状等から、おおむね近世以降の可能性を有すると思われる。32号土坑等近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

## B5区32号土坑(第59図 PL.23)

位置: 428・-448 B5区にある。

形状: 長楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模: 2.43×0.47m 深度: 0.27m

主軸方位: N-73°-E

埋没土層: 暗褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。

重複: なし

遺物: 認められなかった。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。31号土坑等近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

## B5区33号土坑(第59・60図 PL.23)

位置: 417・-437 B5区にある。

形状: 隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模: 3.37×0.80m 深度: 0.52m

主軸方位: N-2°-W

埋没土層: 暗褐色土で埋没している。Hr-FP、小碟を含む。砂質である。

重複: なし

遺物: 須恵器1点(椀(12))を掲載した。非掲載遺物として、土師器(甕類1片)が出土している。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明

### 第3章 調査の内容

らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

#### B 5 区34a号土坑(第59図 PL.23)

位置：421・-431 B 5区にある。

形状：隅丸長方形である。断面形、底面は不明である。

規模：1.48×1.10m 深度：不明

主軸方位：N-81°-E

埋没土層：不明である。

重複：34b・34c号土坑と重複している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、形状から、おおむね近世以降の可能性を有すると思われる。重複する土坑は掘り直しのものと考えられる。近接する溝との関連が想定されるが、明瞭ではない。

#### B 5 区34b号土坑(第59図 PL.23)

位置：421・-430 B 5区にある。

形状：隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：(2.47)×1.10m 深度：0.32m

主軸方位：N-84°-E

埋没土層：暗褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。

重複：34a号土坑と重複している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね近世以降の可能性を有すると思われる。重複する土坑は掘り直しのものと考えられる。近接する溝との関連が想定されるが、明瞭ではない。

#### B 5 区34c号土坑(第59図 PL.23)

位置：421・-429 B 5区にある。

形状：隅丸長方形である。断面形、底面は不明である。

規模：(0.63)×0.68m 深度：0.14m

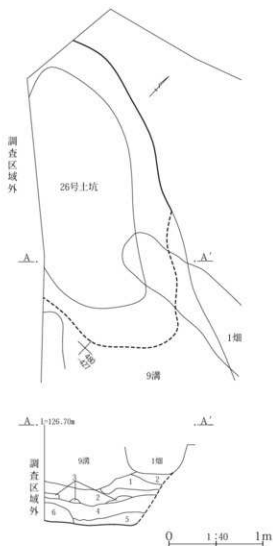
主軸方位：N-85°-E

埋没土層：不明である。

重複：34b号土坑と重複している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、形状から、おおむね近世以降の可能性を有すると思われる。重複する土坑は掘り直しのものと考えられる。近接する溝との関連が想定されるが、明瞭ではない。

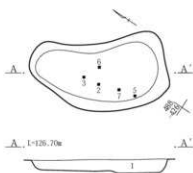


#### 26号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土(7.5YR3/1) 砂粒、Fe-PP含む。
- 2 明黄褐色土(7.5YR5/6) 洪水層ブロック砂混じり。
- 3 明黄褐色土(10.5YR6/6) 洪水層ブロック。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 洪水層ブロック砂混じり、Fe-PP含む。
- 5 褐色土(7.5YR4/3) 砂、洪水層ブロック含む。
- 6 褐色土(7.5YR4/6) 洪水層ブロック多い、若干砂混じる。

第58図 C 1区2面 26号土坑

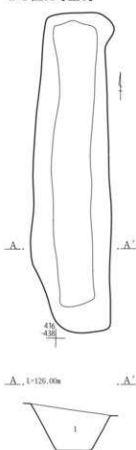
C 1区27号土坑



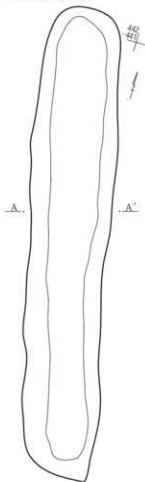
B 5区31号土坑



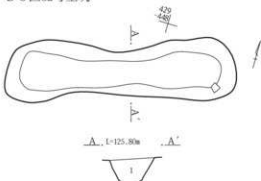
B 5区33号土坑



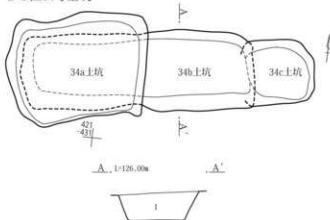
B 5区30号土坑



B 5区32号土坑



B 5区34号土坑



0 1:40 1m

27・31・32・34b号土坑 A-A'

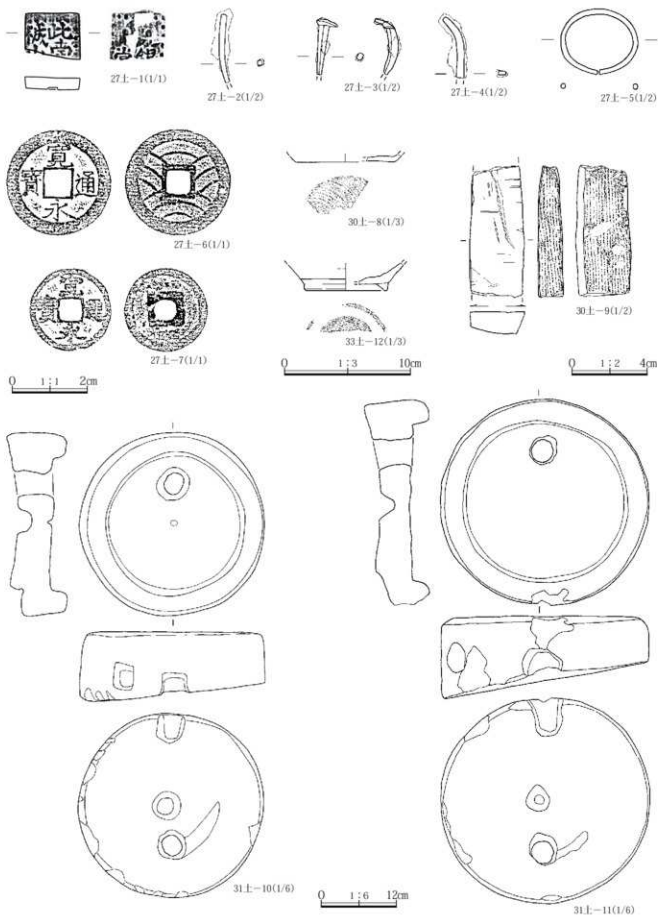
1 暗褐色土(10YR3/4) 白色粘土層に、黄褐色砂粒少量含む。

30・33号土坑 A-A'

1 暗褐色土(10YR3/3) Br-Fe粒少量、少量礫僅かに、黄褐色砂粒少量含む。

第59図 C 1区2面 27号土坑、B 5区2面 30~34号土坑

第3章 調査の内容



第60図 B5・C1区2面 土坑出土遺物

## (5)ピット

## B区ピット群(第47・48・61～63図 PL.24・25)

**概要：**B・C区の2面では、溝8条、畑1枚、井戸1基、土坑9基、ピット112基、石垣1基が検出された。114基のピットはB区から検出された。そのうち80基は、B5区で細ヶ沢川の旧流路の右岸の屋敷堀と推定される溝の内外にある。一方34基は、B4区で細ヶ沢川の旧流路の左岸の微高地の屋敷跡と推定される区画一帯にある。両調査区共に、ピット群の中には、建物の柱穴として可能性を否定できないものもあるが、柱穴の規模形状、柱間、建物全体の形状等、建物を復元するための資料が見つからなかった。また、溝、土坑、石垣等周辺の遺構も微高地において屋敷を構成する要素である可能性が高いと思われる。旧流路右岸のピット群は、屋敷堀が推察される溝の内外に位置しているのに対して、旧流路左岸のピット群は、1面と同様に微高地に集中している。1面同様に旧流路の右岸と左岸で、屋敷の様相が異なっていると思われる。さらに、旧流路右岸の溝は、B4区1面の右岸の溝と関連する可能性があるもの別施設と考える。また、B5区における旧流路右岸の屋敷の構成はB4区まで広がる可能性が指摘できるのである。一方、旧流路左岸の屋敷跡と推定される遺構の近くでは井戸が確認されている。また、C1区の2面では、畑や石垣が検出されており、旧流路左岸の様相が推察される。ただし、屋敷の全体的な構成を具体的に指摘するだけの資料には欠けている。(詳細については第5表に記載した。)

## B4区2面のピット群

**位置：**B4区においては、旧流路左岸の微高地に位置している。調査時には、1面のピットと重複しているものもあり、屋敷と推定される施設に関連があるものと推察できる。また、1面のピット群と同時期である可能性も否定できない。後世の洪水や耕作によって削平されているものの、人の活動が見取れる。

**重複：**80号ピットが79号ピットに後出している。

**規模形状：**多くが小型で楕円形を呈する。これらのピット群は、建物の柱穴である可能性も否定できないが、建物の復元には至らなかった。

**埋没土：**B4区のピット群は、主に明黄褐色土で埋没し

ており、黄褐色砂が主体であり白色粒子を僅かに含む。砂質主体であり、洪水の影響を受けたと推察される。

**その他：**柱穴の可能性が高いという観点から特筆すべきピットについて図示し、その理由を分類した結果を以下の通り解説する。

- ・形状が整っており深さもあることから、柱穴であった可能性が高いものとして、87号ピットがあげられる。
- ・柱痕が推測される形状で、柱穴であった可能性が高いものとして、103号ピットがあげられる。
- ・柱穴を新規に掘り直した様相が伺え、柱穴だった可能性が高いものとして、79・80、102・103号ピットがあげられる。
- ・同じ規模または同じ形状のピットが等間隔で並んでおり、住居に関連する造作の可能性のあるものとして、77・78、99・100、98・101・103、81・84・85、97・87・94号ピットがあげられる。
- ・柱の元を固めた様相が伺え、柱穴であった可能性があるものとして、94号ピットがあげられる。
- ・上部が削平を受けており、底部が形良く残存していると思われ、柱穴の可能性のあるものとして、77・78号ピットがあげられる。

**遺物：**95号ピットにおいて非掲載遺物として、土師器(裏類1片)が出土した。

**所見：**埋没土は砂質であり、洪水の影響を受けていると考えられる。中世から近世にかけて比定される。屋敷の施設に関連する可能性が高い。

74・84・85・87・88・90・95・99・100号ピット A-A'

- 1 に近い黄褐色土(10YR5/4) 黄褐色砂・褐色土少量含む。

75・77～81・97・98号ピット A-A'

- 1 明黄褐色土(10YR7/6) 黄褐色砂主体。

94号ピット A-A'

- 1 明黄褐色土(10YR7/6) 黄褐色砂主体。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子僅か、黄褐色砂少量含む。

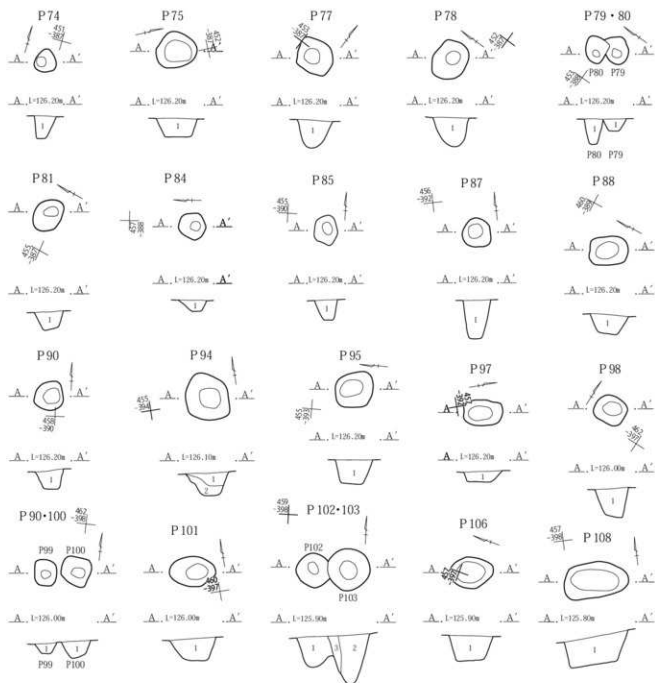
101・106・108号ピット A-A'

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 白色粒子多量、黄褐色砂残少量含む。

102・103号ピット A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 黒褐色土粒少量、白色粒子僅か、黄褐色砂少量含む。(102号ピット)
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒子・黄褐色砂粒僅かに含む。(103号ピット)
- 3 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子僅か、黄褐色砂少量含む。(103号ピット)

### 第3章 調査の内容



第61図 B4区2面 ビット

#### B5区2面のビット群

**位置：**B5区においては、旧流路右岸の微高地に、土坑と共に位置している。屋敷の施設に関連する可能性が高く、堀と推察される溝に囲まれている。後世の洪水や耕作によって削平されているものの、人の活動が見て取れる。

**重複：**120号ビットが121号ビットに、177号ビットが176号ビットに、178号ビットが、177号ビットに188号ビットが16号溝に後出している。

**規模形状：**多くが小型で楕円形を呈する。これらのビット群は、建物の柱穴である可能性も否定できないが、復元には至らなかった。

**埋没土：**主に暗褐色土が主体で埋没しており、黄棕色砂粒、白色粒子を含む。砂質主体であり、洪水の影響を受けたと推察される。

**その他：**柱穴の可能性が高いという観点から特筆すべきビットについて図示し、その理由を分類した結果を以下の通り解説する。

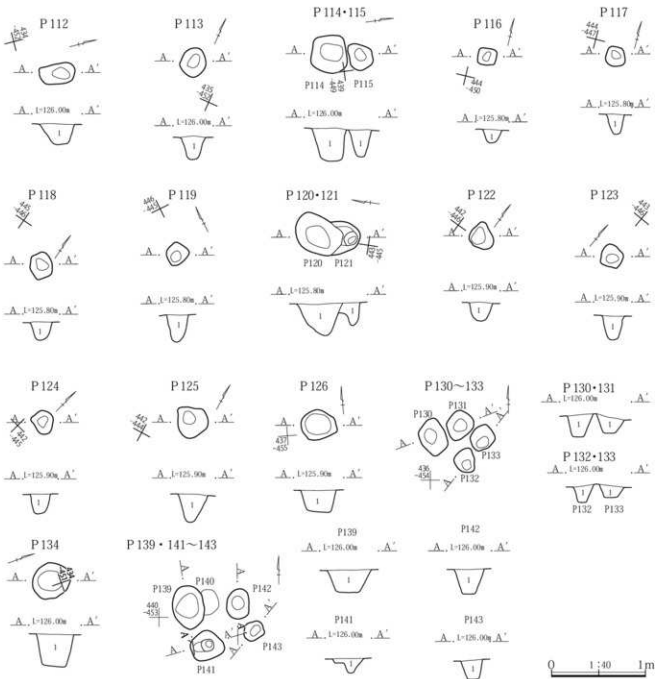
・形状が整っており深さもあることから、柱穴であった可能性が高いものとして、113・119・123・125・146・150・153・172号ピットがあげられる。

・柱穴を新規に掘り直した様相が伺え、柱穴だった可能性が高いものとして、120・121、141、144号ピットがあげられる。

・同じ規模または同じ形状のピットが平行または等間隔で並んでおり、住居に関連する造作の可能性があるものとして、114・115、122・168・166、130・131、132・133、151・152、155・156、158・159、162・163、171・

172、173・174、184・185、186・187号ピットがあげられる。  
 ・上部が削平を受けており、底部が形良く残存していると思われ、柱穴の可能性もあるものとして、112・116・117・118・122・124・143・148・151・167・169号ピットがあげられる。

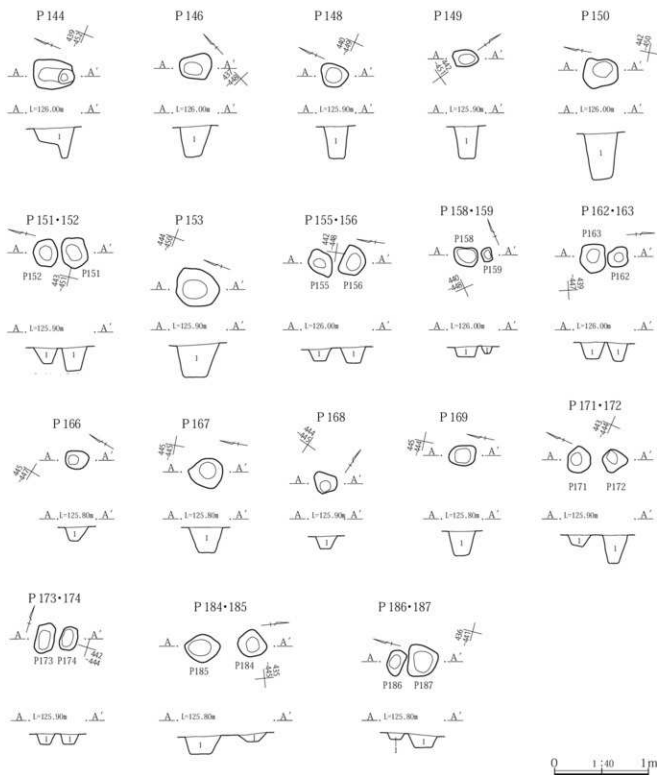
**遺物**：114号ピットから陶磁器1点(皿(1))を図示した。  
**所見**：埋没土は砂質であり、洪水の影響を受けていると考えられる。中世から近世にかけて比定される。屋敷と推定される施設に関連する可能性が高い。



第62図 B5区2面 ピット(1)



第3章 調査の内容



112~114・116・119・124・125・134・149・163・174号ビット A-A'

1 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色砂粒堆かに含む。柱穴か?

115・117・118・121・122号ビット A-A'

1 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒子堆かに、黄褐色砂粒少量含む。

120号ビット A-A'

1 暗褐色土(10YR3/3) 暗褐色土と黄褐色砂の互層。

123・126・130~133・139・141~144・146・148・150・152

・153・155~159・162・166~169・171~173・184~187号ビット A-A'

1 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子堆かに、黄褐色砂粒少量含む。



第63図 B5区2面 ビット(2)、出土遺物

## (6) 石垣

調査区西端ほぼ南北に走行する石垣が検出された。外側に向けて面をそろえて配置しているなど丁寧な所作がなされている。石組の裏込めについては明瞭でない。屋敷の区画の意味があったと考えられる。

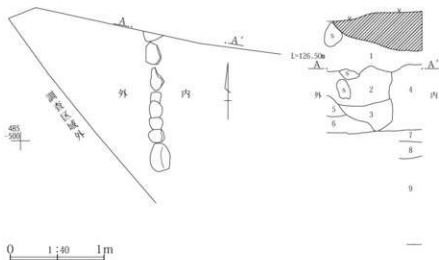
## 1号石垣(第64図 PL.26)

位置: 484~486・498~499

形状: 壁状、1~2段

規模: (1.36)×0.21m 高さ: 不明

方位: N-3°-W



## 1号石垣 A-A'

- 1 褐色土(7.5YR4/3) 現地表面、砂利。
- 2 褐色土(7.5YR4/3) 砂少量含む。
- 3 褐色土(7.5YR4/4) 砂少量含む。
- 4 褐色土(7.5YR4/6) 5層をブロック状に少量含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒子少量含む。
- 6 暗褐色土(10YR3/3) シルト質土。
- 7 暗褐色土(10YR3/3) 砂利と小石の混在。
- 8 暗褐色土(10YR3/4) 砂・砂利主体。川の堆積物。
- 9 灰黄褐色土6(10YR5/2) 砂主体。鉄分付着。川の堆積物

第64図 C4区2面 石垣

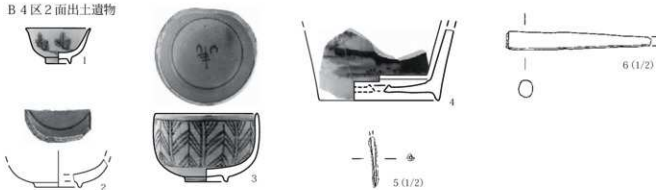
## (7) 遺構外出土遺物(第65・66図 PL.52)

B・C区2面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物が出土した。ここでは出土した遺物のうち、B4区北東から、陶磁器4点(染付杯1点(1)、染付小丸碗2点(2・3)、染付植木鉢1点(4))、銅製品1点(6)、鉄製品1点(5)、B5区から陶磁器・土器11点(肥前磁器染付小碗1点(8)、鉄絵碗1点(9)、柳碗1点(10)、折縁皿1点(11)、灯火皿1点(12)、灯火受皿1点(13)、小香炉1点(14)、すり鉢1点(15)、鍋1点(16)、焙烙1点(17)、前橋藩窯磁器(染付小碗1点(7))、石製品3点(砥石2点(19・20)、碁石1点(21))、銅製品1点(キセル(22))、鉄製品1点(23)、古銭1点(24)、縄文土器1点(深鉢(18))、C1区から土器1点(鉢(25))、C4区から鉄製

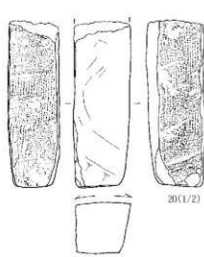
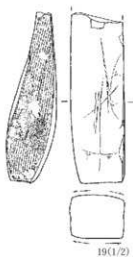
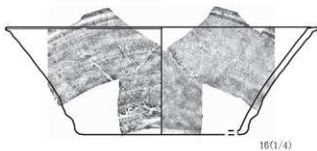
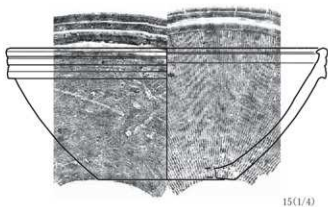
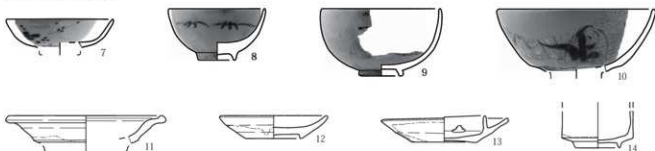
品1点(26)を掲載した。出土遺物は、本調査面の時期におおむね矛盾しない。非掲載遺物として、B4区北東から剥片石器1点(剥片)、土師器(杯類1片、甕類5片)、弥生土器(中期後半1片)が、B5区から、土師器(杯類7片、甕類4片)、須臾器(杯類4片、甕類2片)、石製品4点(砥石)、鉄製品1点、鉄滓1点、縄文土器(焼町土器1片)が、C1区から石製品1点(砥石)、鉄製品1点、木製品1点(櫛)が出土している。ただし、砥石、鉄製品は2面から3面にかけての出土である。

第3章 調査の内容

B 4 区 2 面出土遺物



B 5 区 2 面出土遺物



0 1:2 4cm

0 1:3 10cm

0 1:4 10cm

第65図 B 4・5区 2面 遺構外出土遺物

B 5区2面出土遺物



21(1/2)



22(1/2)

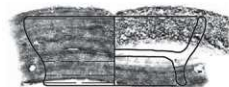


23(1/2)



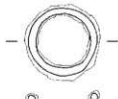
24(1/1)

C 1区2面出土遺物



25(1/4)

C 4区2面出土遺物



26(1/2)

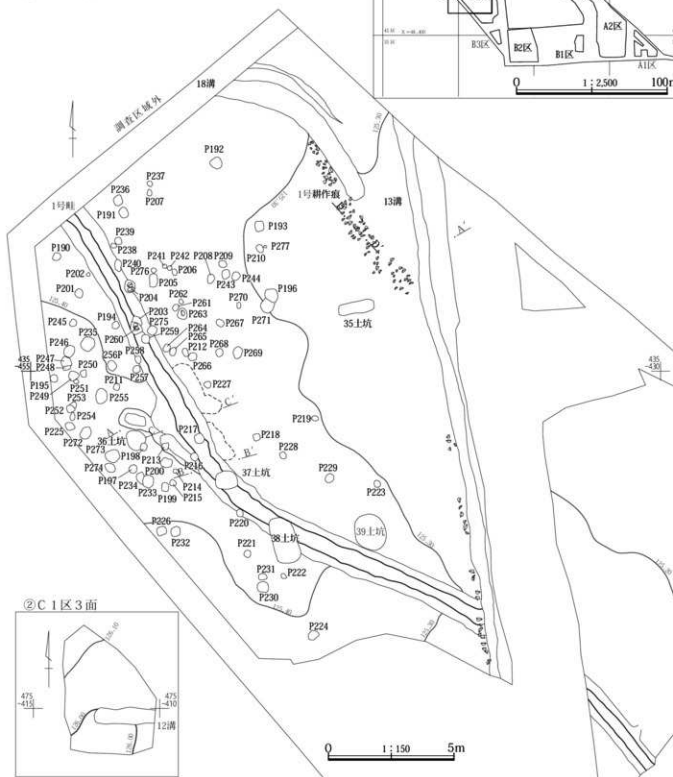
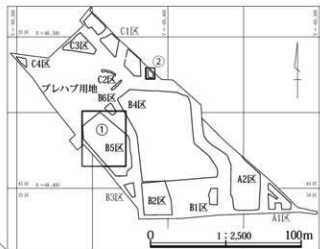


第66図 B 5・C 1・C 4区2面 遺構外出土遺物

2 C 2・3区の遺構と遺物

遺構や遺物は認められなかった。

① B 5区3面



② C 1区3面



第67図 B5・C1区3面 全体図

### Ⅲ 古代〔第3面〕

本項で報告するのは、5世紀洪水層の上、細粒軽石を含む暗褐色土を確認面とした遺構と遺物であり、B・C区の3面として調査を行った。細ヶ沢川の旧流路の左岸と右岸の微高地に位置している、溝3条、水田の畦1条、耕作痕1条、土坑5基、ピット88基が検出された。遺構面の大半は細粒軽石を含む暗褐色土で埋没しており、細ヶ沢川の旧流路の影響を受けていると考えられる。遺構の検出状況から、微高地に耕作の痕跡が残る生産の様相が想定できる。遺物は豊富ではないが、調査面の時期の想定に矛盾はない。

#### 1 B5区、C1区の遺構と遺物

##### (1) 溝

本調査区の溝は、細ヶ沢川の旧流路の右岸と左岸に位置している。右岸の溝は、微高地に位置しており、屋敷が想定されるピット群や複数の土坑の旧流路側に位置している。これらの溝は傾斜方向に垂直に位置している。付近には、畦痕や耕作痕が散見される。左岸の溝は、微高地にあり、低地部へ向かって延びている。13・18号溝は埋没土に、Hr-PPを僅かに含む。古代から中世にかけての溝であると考えられるが、各々の溝の時期及び時期差等について明瞭にするための資料は得られていない。

##### C1区12号溝(第68図 PL.28)

位置：474・-410～-412 C1区にある。規模：長さ(2.40)m×幅0.54～0.68m 残存深度：0.18m 走行方位：N-88°-E 遺物：認められない。重複：認められない。所見：埋没土は、にぶい黄褐色土である。浅黄橙色砂ブロックを含み砂質である。ほぼ直線であり、東西に走行している。傾斜方向に垂直に延びる。東部は調査区域外にあり、西部は途中で消滅しており、その先は確認できない。溝の東西両端部の高低差を見ると、東が高く西が低い。溝の断面形は基本的には半円形で、底面は丸底である。幅はおよそ一定である。残存深度は浅い。同一面では、走行の一致する溝はない。区画の一部を構成していた可能性は低いと推察される。この溝の機能等は、用排水路の一つと考えられる。溝の形状及び埋没土等より、中世以前の溝であると推察される。

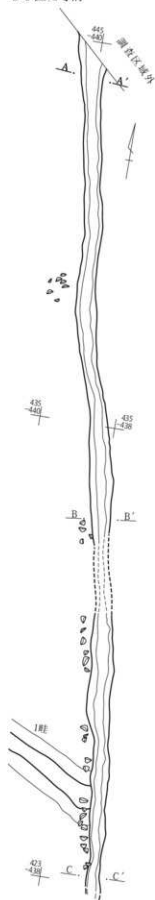
##### B5区13号溝(第68図 PL.28)

位置：422～445・-436～-440 B5区にある。規模：長さ(22.24)m×幅0.28～0.58m 残存深度：0.12～0.18m 走行方位：N-10°-W 遺物：認められない。重複：1号畦と重複している。13号溝が1号畦を壊していることから、1号畦より新しいと考える。所見：暗赤褐色土、暗褐色土で埋没している。Hr-PPを含みシルト質である。ほぼ直線であり、北北西方向から南南東方向に走行している。傾斜のほぼない平地を走行している。18号溝とは近接しているものの交わってはいない。また、18号溝から13号溝にかけてと13号溝の西側南半分は耕作痕が検出された。西側南半分のものは1号畦と関連があると推察される。18号溝の上には14・16号溝(2面)があり、13号溝の北半分は上面からも溝が検出されていることから、長く使用された溝であることが推察される。1号畦との関連は明瞭でないものの、耕作痕に沿って微高地際に位置していることから、時期差が近い可能性は否定できない。溝の南北両端部の高低差はほぼない。溝の断面形は基本的には、逆台形で、底面は平坦である。幅はほぼ一定である。残存深度はやや浅い。南北方向に延びる溝は、3面においては13号溝だけであり、他に明瞭な形で残存している溝はなく、区画を呈していると思われる。溝の形状及び埋没土等より、古代以降の溝であると推察される。

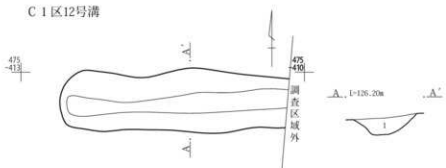
##### B5区18号溝(第68図 PL.28)

位置：441～446・-442～-448 B5区にある。規模：長さ(7.48)m×幅0.74～1.02m 残存深度：0.17m 走行方位：N-75°-W、N-30°-W 遺物：認められない。重複：なし 所見：にぶい橙色土で埋没していた。Hr-PP、小礫を含み、鉄分が付着して粘土質であった。弧を描きながら、北西方向から南東方向に走行しており、傾斜方向に延びる。上面には、14・16号溝があり、古くから使用されていたと推察される。溝の南東半分から13号溝にかけて耕作痕が検出された。耕作痕は、13号溝と1号畦の合流付近でも確認されされている。13号溝、1号畦との関連は明瞭でないが、耕作痕と関連する可能性があると考えられる。溝の北西、南東両端部の高低差を見ると、北西が高く南東が低い。溝の断面形は基本的には、逆台形で、底面はやや中央が落ち込んでいる。幅

B 5区13号溝

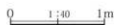


C 1区12号溝

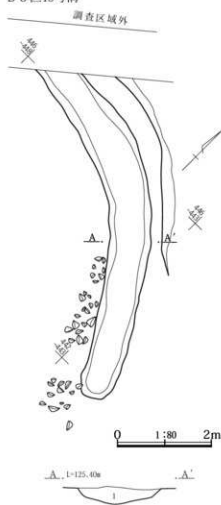


12号溝 A-A'

1 にふい黄褐色土(10YR4/3) 浅黄褐色砂ブロック層かを含む。  
やや砂質。



B 5区18号溝



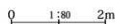
A., l=125.50m A-C'

13号溝 A-A'

1 暗褐色土(7.5YR4/3) H-PP細粒少量、シルト含む。  
2 暗赤褐色土(5YR3/2) シルト含む。

B., l=125.40m B-C'

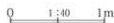
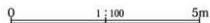
C., l=125.40m C-C'



A., l=125.40m A-C'

18号溝 A-A'

1 にふい褐色土(7.5YR7/3) H-PP粒少量、小礫  
僅か含む。粘性強い、鉄分僅かに付着。



第68図 C 1区3面 12号溝、B 5区3面 13・18号溝

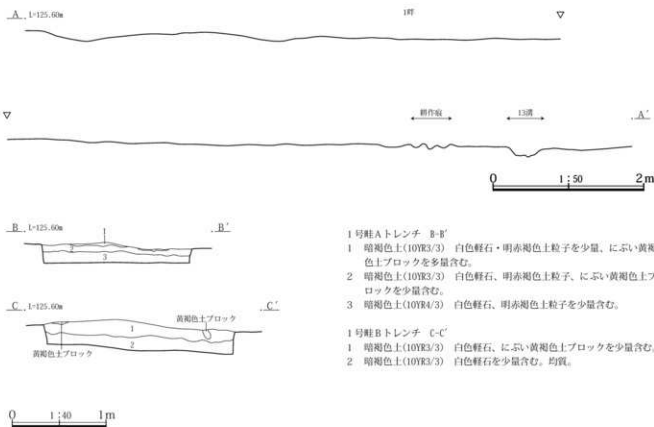
は南東ほど狭く、残存深度はやや浅い。本溝の走行は弧を描きながら13号溝の方向へ伸びている。この面では13号溝以外で明瞭な形で残存している溝はなく、形状から区画を呈しているものではないと考える。この溝の機能等は、13号溝へ向かって、用排水路の一つと考えられる。溝の形状及び埋没土等より、古代以降の溝であると推察される。

## (2) 畦

本調査区の畦痕は、細ヶ沢川の旧流路の右岸の微高地上に位置している。周囲には、屋敷の存在が想定されるピット群や複数の土坑が確認される。畦痕は、S字を呈しており、地形の緩やかな尾根部分に沿っている。検出範囲が微細なため、区画に関しては明瞭でない。また、近接するピット群、土坑、溝等の遺構と関連があるか明瞭でない。

## B5区1号畦(第67・69図 PL.29)

位置：419~441・-430~-453 B5区にある。規模：(32.80)m×0.84~1.24m 残存高さ：0.06~0.08m  
走行方位：N-29°-W, N-66°-W 遺物：認められない。重複遺構：13号溝、37・38号土坑、1号耕作痕、203・204・213・216・217・220・240・259・260・275号ピットに前出している。所見：暗褐色土で構築されている。白色粒子、明赤褐色土粒子、にぶい黄褐色土ブロックを含んでいる。畦を構築する際に、地山のロームブロックを混ぜて盛土をしたと考えられる。削平が進んでおり、出土範囲は限られる。中央やや北西よりに、幅広の部分が確認できる。幅広の部分を中心に土坑やピット群と重複しており、周囲に展開した痕跡が認められる。13・18号溝及び、1号耕作痕との関連は否定できないものの、明瞭でない。形状及び堆積土等から古代以降に位置付けられる。他の遺構との時期差は明瞭でない。



第69図 B5区3面 1号畦断面

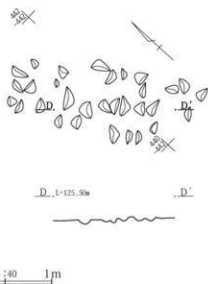


(3) 耕作痕

本調査区B5区3面の耕作痕は、18号溝の南部西岸から13号溝の西岸にかけて及び、13号溝の南半分西側に確認された。ピット群、土坑、畦痕等の遺構との関連は明瞭でない。

B5区1号耕作痕(第67・70図 PL.30・31)

位置：438～444・～439～443 B5区にある。サク数：不明 規模：7.20m×0.75～0.92m 残存深度：0.04～0.06m サク間幅：不明 サク方位：N-31°-W 遺物：認められない。重複遺構：18号溝に後出している。所見：耕作痕の掘削方向は、18号溝から13号溝にかけて、ほぼ一定である。進行方向に向かって掘削胴部の刃を垂直に立てていると推察される。削平が進んでおり、出土範囲は狭い。18号溝西岸から13号溝西岸にかけて位置する。18号溝を13号溝に合流させるための掘削痕である可能性が否定できない。耕作痕は、13号溝南部の西岸にも確認できる。これらの耕作痕も溝の幅を広げるための掘削に関わるものであると推察できる。南部の耕作痕の刃先は、溝側を向いていたり、溝の進行方向を向いていたりして一定ではない。溝に関わる造作として、溝と同時期の古代以降に位置付けられる。他の遺構との時期差は不明である。



第70図 B5区3面 1号耕作痕

(4) 土坑

B5区の土坑(第71・72図 PL.31)

概要：B5区3面では、5基の土坑を調査した。出土した位置は細ヶ沢川の旧流路の右岸の微高地である。細ヶ沢川の旧流路右岸には、屋敷跡と推察されるピット群が集中しており、土坑はそのピット群の南東に位置する。平面形は楕円形と隅丸長方形で、断面形は逆台形を呈している。隅丸長方形の土坑の方位は、互いに一致しているか直交している場合が多い。(詳細については第4表に記した。) 所見：埋没土は主ににぶい黄褐色土である。白色粒子、小礫、黄褐色砂を含むことから、溝と同様に、水流との関連が指摘できる。35・38号土坑は隅丸長方形であり、主軸が互いに直交している。溝等他遺構との関連は明瞭でない。36・37・39号土坑は楕円形であり、1号畦の周囲に位置している。形状から35・38号土坑と36・37・39号土坑の間には、若干の時期差を認められるものの、溝等の遺構と時期が近い可能性が指摘できる。これらの土坑が、近接するピット群に関連する施設である可能性は否定できない。

35号土坑(第71図 PL.31)

位置：437・～442

形状：隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：1.42×0.45m 深度：0.23m

主軸方位：N-78°-E

埋没土層：明褐色土で埋没している。軟質土ロームブロック、黒褐色土を含む。

重複：なし

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中世以前の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連は明瞭ではない。

## 36号土坑(第71図 PL.31)

位置: 432・-450

形状: 楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模: 0.78×0.77m 深度: 0.16m

主軸方位: N-0°

埋没土層: にぶい黄褐色土で埋没している。小礫、白色粒子を含む。砂質である。

重複: 198号ピットに前出している。

遺物: 認められなかった。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中世以前の可能性を有すると思われる。ピット等、近接する遺構との関連は明瞭ではない。

## 37号土坑(第71図 PL.31)

位置: 430・-447

形状: 楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模: 0.87×0.73m 深度: 0.13m

主軸方位: N-90°-E

埋没土層: にぶい黄褐色土で埋没している。小礫、白色粒子を含む。砂質である。

重複: 1号畦に後出している。

遺物: 認められなかった。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中世以前の可能性を有すると思われる。ピット、畦等、近接する遺構との関連は明瞭でない。

## 38号土坑(第72図 PL.31)

位置: 428・-444

形状: 隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模: 1.87×0.97m 深度: 0.12m

主軸方位: N-15°-W

埋没土層: にぶい黄褐色土で埋没している。小礫、白色粒子を含む。砂質である。

重複: 1号畦に後出している。

遺物: 認められなかった。

所見: 本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中世以前の可能性を有すると思われる。ピット、畦等、近接する遺構との関連は明瞭でない。

## 39号土坑(第72図 PL.31)

位置: 428・-441

形状: 楕円形である。断面形はレンズ状を呈する。床面は丸底である。

規模: 1.47×1.23m 深度: 0.10m

主軸方位: N-18°-W

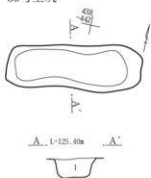
埋没土層: にぶい黄褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。

重複: なし

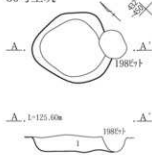
遺物: 認められなかった。

所見: 本土坑の掘削意図は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中世以前の可能性を有すると思われる。ピット、畦等、近接する遺構との関連は明瞭でない。

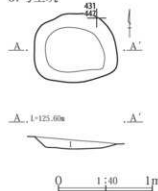
35号土坑



36号土坑

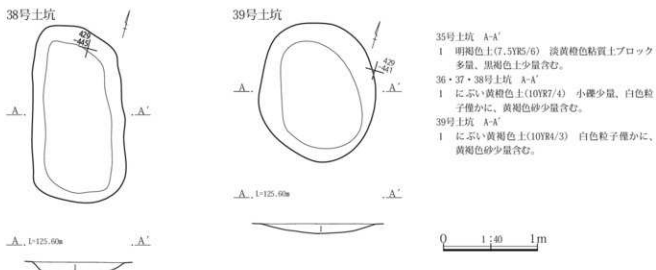


37号土坑



第71図 B5区3面 35~37号土坑

### 第3章 調査の内容



第72図 B 5区3面 38・39号土坑

#### (5)ピット

##### B区のパット群(第73～76図 PL.32・33・52)

**概要：**B・C区3面では、溝3条、畦1条、耕作痕1条、土坑5基、ピット88基が検出された。88基のピットはB5区からの検出である。ピット群は、細ヶ沢川の旧流路右岸の微高地にある。ピット群の中には、建物の柱穴として可能性を否定できないものもあるが、柱穴の規模形状、柱間、建物全体の形状等、建物を復元するための資料が見つからなかった。B5区3面では、1号畦が北西から南東にやや曲線を描いて走行しており、調査区中央を南北に走行する13号溝と交差している。18号溝から13号溝にかけて耕作痕が検出されている。ピット群は、1号畦の両側に集中して検出されている。ピット群の周辺に土坑も確認されたが、関係は明瞭でない。ピット周辺に検出された溝、土坑、畦、耕作痕等は、微高地において屋敷を構成する要素である可能性が高いと思われる。旧流路右岸の2面のピット群は、屋敷堀が推察される溝の内外に位置していたのに対して、3面のピット群は、畦、土坑等周辺の遺構と一体となるように位置している。2面における旧流路右岸の屋敷の様相とは異なっていると思われる。(詳細については第5表に記載した。) **位置：**B5区3面においては、旧流路右岸の微高地に位置している。B5区においては、上面でも旧流路右岸の微高地に、土坑とピット群が検出されている。重複はなく高さも異なることから、時期差があるものとする。また後世の洪水等によって削平されている。古

くから人の活動の痕跡は見取れる。

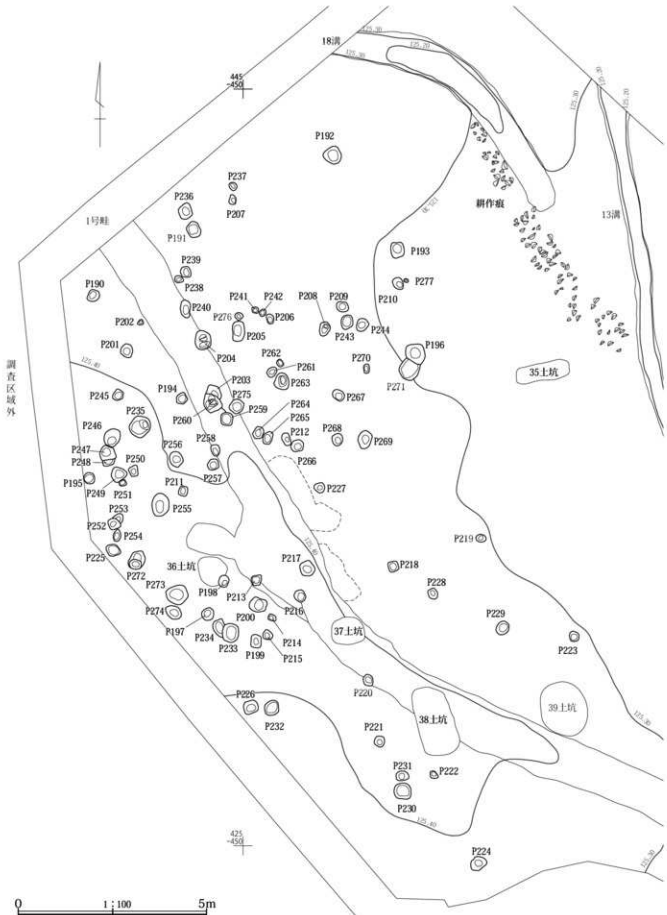
**重複：**196号ピットが271号ピットに、260号ピットが203号ピットに、247号ピットが248号ピットに、252号ピットが、253号ピットに、233号ピットが234号ピットに、198号ピットが36号土坑に、204・240・203・260・259・275・258・217・213・216・220号ピットが1号畦にそれぞれ後出している。

**規模形状：**多くが小型で楕円形を呈する。

**埋没土：**主に暗褐色土で埋没しており、黄褐色砂粒、白色粒子を含む。上面同様砂質であり、洪水等流水の影響を受けたと推察される。

**その他：**柱穴の可能性が高いという観点から特筆すべきピットについて図示し、その理由を分類した結果を以下の通り解説する。

- ・柱痕が推測される形状で、柱穴であった可能性が高いものとして、190・191・192・193・195・197・200・205・206・224号ピットがあげられる。
- ・形状が整っており深さもあることから、柱穴であった可能性が高いものとして、194・199・219・223・236号ピットがあげられる。
- ・柱穴を新規に掘り直した様相が伺え、柱穴だった可能性が高いものとして、208・203・260・271・196・233・234・235・272号ピットがあげられる。
- ・柱穴に礫を伴っており柱穴の可能性のあるものとして、204・260・263号ピットがあげられる。
- ・同じ規模または同じ形状のピットが平行して並んでお



第73図 B5区3面 ピット群

第3章 調査の内容

り、住居に関連する造作の可能性のあるものとして、218・228、226・232、230・231、246・247、273・274号ピットがあげられる。

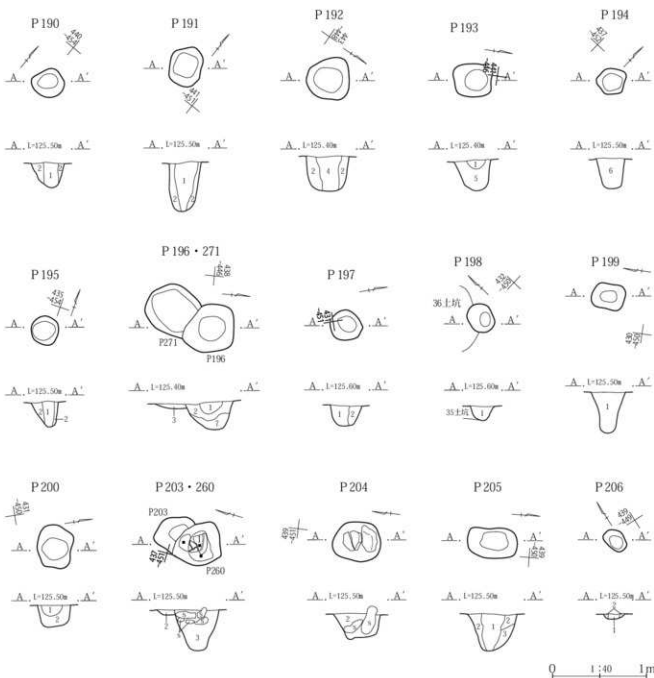
・柱の元を固めた様相が伺え、柱穴であった可能性があるものとして、196号ピットがあげられる。

・上部が削平を受けており、底部が形良く残存していると思われ、柱穴の可能性のあるものとして、194・198・243・266号ピットがあげられる。

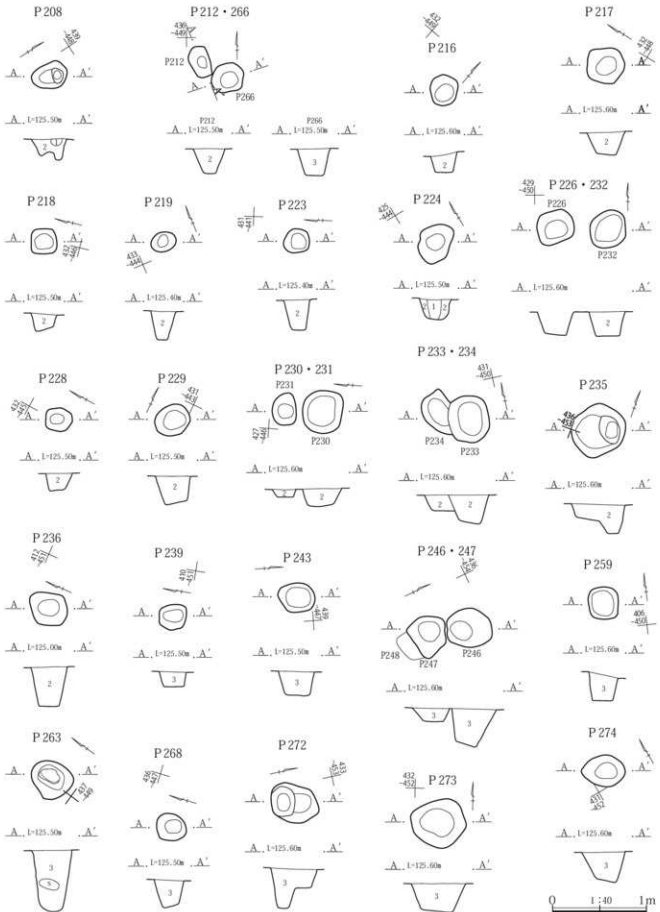
**遺物**：260号ピットから石製品1点(石臼(上臼)(1))を

掲載した。非掲載遺物として260号ピットから鉄滓3点、鉄製品1点、275号ピットから土器片1点が出土した。

**所見**：埋没土は砂質であり、洪水の影響を受けていると考えられる。古代以降に比定される。屋敷と推定される施設に関連する可能性が高い。



第74図 B5区3面 ピット(1)

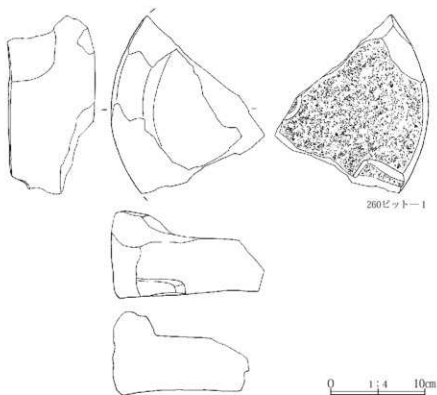


第75図 B5区3面 ピット(2)

### 第3章 調査の内容

#### B5区3面ピット共通土層注記

- |                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| 1 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色砂粒僅かに含む。柱穴か？      | 5 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色砂粒多量含む。             |
| 2 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒子僅かに。黄褐色砂粒少量含む。   | 6 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒子少量、黄褐色砂粒僅かに含む。柱穴か？ |
| 3 灰黄褐色土(10YR4/3) 白色粒子僅かに、黄褐色砂粒少量含む。  | 7 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色砂粒僅かに含む。            |
| 4 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色砂粒、褐色土粒僅かに含む。柱穴か？ |  |

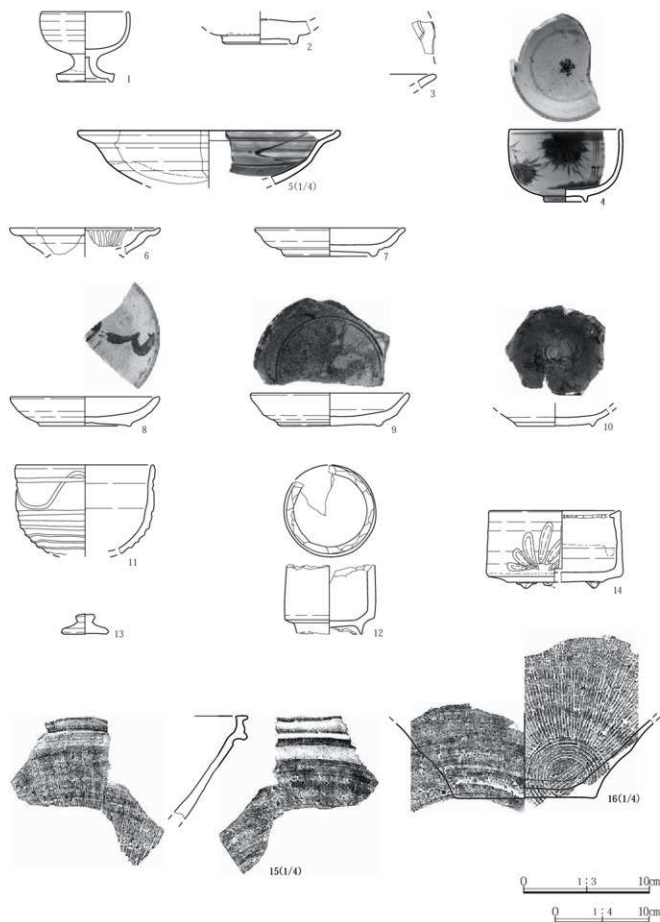


第76図 B5区3面 260号ピット出土遺物

#### (6) 遺構外出土遺物(第77・78図 PL.52・53)

B・C区3面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物が出土した。ここでは出土した遺物のうち、B5区から、須恵器1点(瓶(23))、灰軸陶器1点(皿(22))、陶磁器・土器21点(仏飯器1点(1)、碗1点(2)、稜花皿1点(3)、折縁皿1点(6)、碗か小鉢1点(11)、瀬戸・美濃陶器皿2点(7・10)、鉄絵皿2点(8・9)、灰吹き1点(12)、蓋1点(13)、すり鉢2点(15・16)、在地系土器皿1点(17)、片口鉢1点(18)、内耳鍋1点(19)、焙烙1点(20)、羽口1点(21)、染付小丸碗1点(4)、肥前陶器皿1点(5)、筒形香炉(14)、石製品3点(砥石2点(24・25))、鉄製品1点(26)、古銭(27)、C1区から、陶磁器1点(染付小丸碗(28))、弥生土器1点(甕(29))を図示し

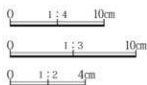
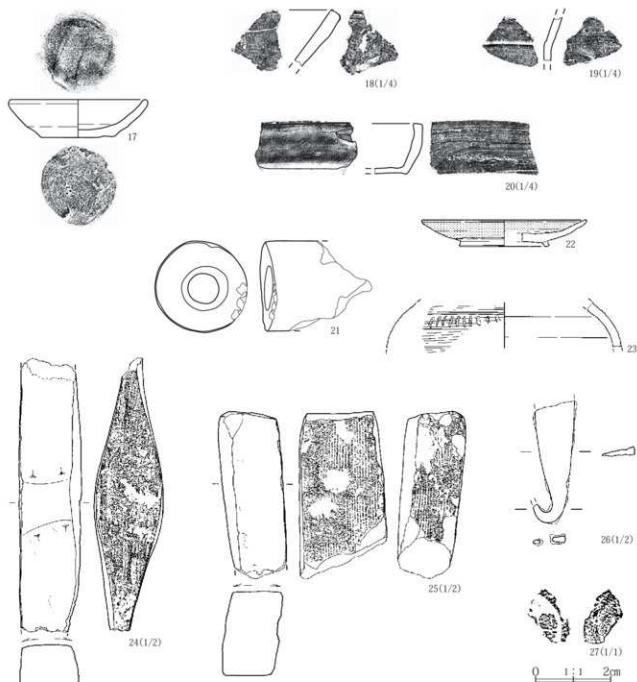
た。ただし、B6区の陶磁器については、2面から3面にかけての出土であった。本調査面の時期におおむね矛盾しない。非掲載遺物として、B4区から土師器(杯類12片、甕類7片)、須恵器(杯類5片、甕類3片)、B5区から剥片石器2点(打製石斧)、石製品2点(砥石)が出土している。また、C1区から弥生土器(中期後半1片)が出土している。下層からの混入であると思われる。



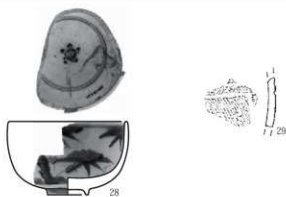
第77図 B 5区3面 遺構外出土遺物



第3章 調査の内容



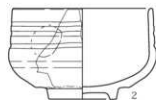
C 1 区 3 面  
出土遺物



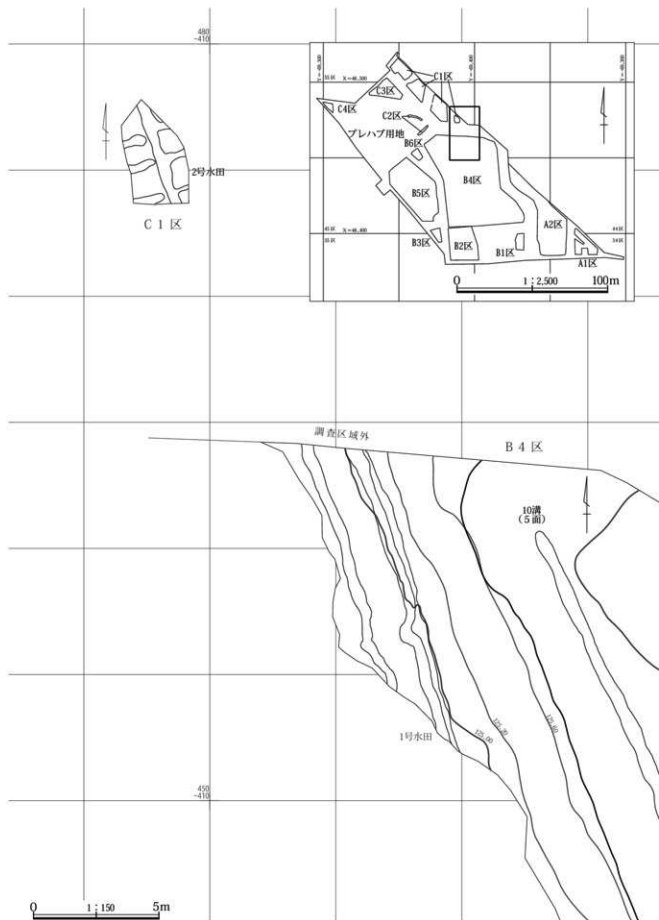
第78図 B 5・C 1 区 3 面 遺構外出土遺物

## 2 B4・61区、C31区の遺構と遺物(第79図 PL.52)

B6区から陶磁器4点(染付端反碗1点(1)、碗1点(2)、陶胎染付碗1点(3)、鉢1点(4))を掲載した。非掲載遺物として鉄製品1点が出土した。その他については、調査面は確認できたものの、遺構や遺物は認められなかった。



第79図 B6区3面 遺構外出土遺物



第80図 B4・C1区4面 全体図

## IV 古墳時代(第4面)

本項で報告するのは、5世紀洪水層の下面を確認面とした遺構であり、B・C区の4面として調査を行った。遺構は、細ヶ沢川の旧流路の左岸の微高地に位置しており、水田2面が検出された。遺構面の大半は、5世紀洪水層で埋没しており、細ヶ沢川の旧流路の影響はないと考えられる。遺構の検出状況から、微高地に耕作の痕跡が残る生産の様相が想定できる。遺物は少ないが、調査面の時期の想定に矛盾はない。

## 1 B4区、C1区の遺構と遺物

## (1) 水田

## B4区4面の水田

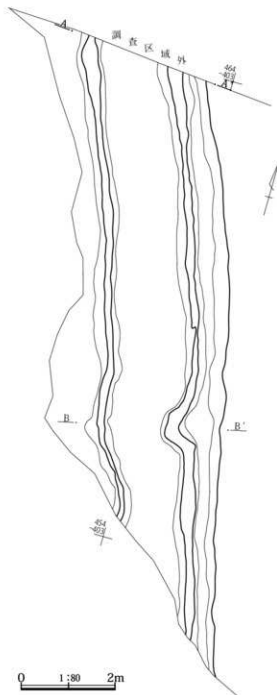
5面で検出が明らかになった10号溝を境に、本調査区低地部に位置する。水田は5世紀洪水層の下から検出されており、10号溝と時期差は少なく10号溝との関連が指摘される。本調査面においては、C1区においても5世紀洪水層の下から水田の畦が検出されている。本水田は、C1区の水田との関連をうかがわせる明確な資料は見つかっていない。古墳時代においては、本遺構周辺は水田を中心とした生産域であった可能性が指摘できる。ただし、検出範囲が微細なため、区画に関しては明確でない。

## 1号水田(第81・82図 PL.34)

位置:451~464・400~406 畦:2条 規模:東畦(12.42)m×0.32~0.47m 西畦(10.38)m×0.28~0.54m 残存高さ:東畦0.05m 西畦0.04m 畦間幅:1.42~1.86m 走行方位:東畦N-17°-W 西畦N-19°-W  
遺物:認められない。 重複遺構:なし

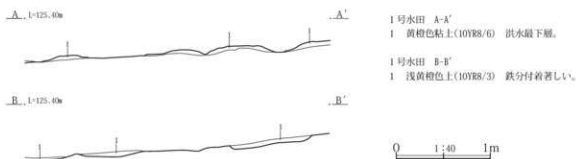
所見:5世紀洪水層の下から水田が検出された。水田面を直接覆っていたのは、浅黄橙色土の洪水砂で鉄分の付着が著しかった。畦の構築土は、堆積土を攪拌したと考えられる黄橙色土の粘質土である。検出範囲が少ないが、微高地から西にかけて緩やかに傾斜しているものと推定される。東に10号溝が畦に並行して走行しており微高地との境界になっている。畦周辺を境に西の低地部に水田が広がっていたと推察される。水口と判断できる畦の途切れは確認できなかった。したがって全体の給排水を

とらえることはできなかった。地形の傾斜から考えると、水源は東にあり、小区画水田の縦方向の畦だけが検出されたと考える。10号溝との関連が想定される所以である。また、西畦の走行方位はC1区2号水田の南北に走行する畦に重なり、同じ低地に位置する水田である可能性が考えられる。水田耕作土は夾雑物の少ない黒褐色土の粘質土である。耕作土中からの遺物の出土は確認できなかったものの、水田の時期は、埋没土等の状況から、古墳時代と推察されるがそれ以上の比定は難しい。



第81図 B4区4面 1号水田

### 第3章 調査の内容



第82図 B 4区4面 1号水田断面

#### C 1区4面の水田

本調査区、細ヶ沢川の旧流路の左岸の微高地際位置している。5世紀洪水層の下から検出された。本調査面においては、B 4区の低地部においても5世紀洪水層の下から水田の畦が検出されている。本水田は、B 4区の水田との関連性をうかがわせるものの、明瞭でない。古墳時代においては、水田を中心とした生産域であった可能性が指摘できる。ただし、検出範囲が微細なため、区画に関しては明瞭でない。

#### 2号水田(第83図 PL. 35)

位置：473～477・～410～413 畦：南北1条 東西3条  
 規模：南北畦(4.32)m×0.32～0.51m 東西畦(1.88～2.30)m×0.14～0.43m 残存高さ：南北畦不明 東西畦0.03m 畦間幅：1.08～1.46m 走行方位：南北畦N—18°—W 東西畦N—67°—E 遺物：認められない。  
 重複遺構：なし 所見：5世紀洪水層の下から小区画の水田が検出された。水田面を直接覆っていたのは、浅黄橙土の洪水砂で鉄分の付着が著しかった。畦の構築土は、堆積土を攪拌したと考えられる黄橙色土の粘質土である。微高地から東にかけて緩やかに傾斜しているものと推定される。検出範囲が少ないため、周囲の状況は明瞭でないが、南北に走行する畦がB 4区1号水田の西畦と走行方位が重なる点を踏まえると、1号水田の属する低地部と同じ範囲内にある可能性について指摘しておきたい。部分的であるが水口と判断できる畦の途切れは確認できた。水田中央南北に走行する畦の西側には、東西に走行する畦との間に隙間があり水口と考えられ、水を回避させていた可能性がある。ただし、全体の給排水をとらえることはできなかった。地形の傾斜から考えると、

水源は西にあったと考えられる。水田耕作土は夾雑物の少ない黒褐色土の粘質土である。耕作土中からの遺物の出土は確認できなかったものの、水田の時期は、形状及び状況から、古墳時代と推察されるが、それ以上の比定は難しい。



第83図 C 1区4面 2号水田

## (2) 遺構外出土遺物(第84図 PL.52)

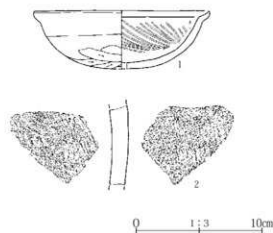
4面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物が出土した。ここでは出土した遺物のうち、B区から、土師器1点(杯(1))を図示した。ただし、B4区からの出土であるか明瞭でない。出土遺物は、本調査面の時期におおむね矛盾しないと考える。非掲載遺物として、B4区から土師器3片(裳類)が出土している。また、B5区から4面相当の確認面において土師器(杯類3片、裳類3片)、須恵器(杯類1片)、石製品3点(砥石)が出土している。

## 2 B1・2区の遺構と遺物

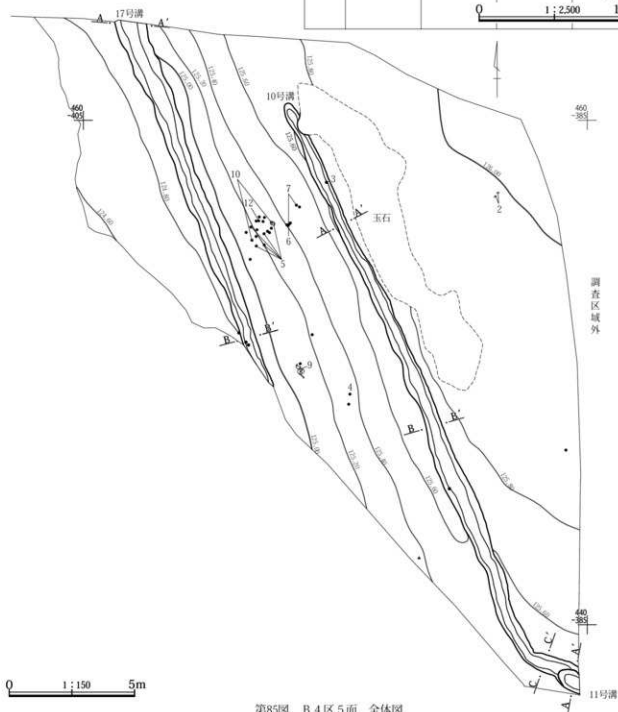
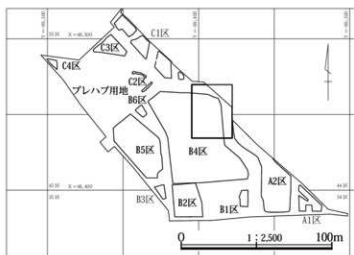
洪水堆積土層に遺物包含層が確認できた。

## 3 B6区、C3・4区の遺構と遺物(第84図)

C4区から須恵器1点(裳(2))を図示した。その他については、調査面は確認できたものの、遺構や遺物は認められなかった。



第84図 B区・C4区4面 遺構外出土遺物



第85図 B4区5面 全体図

## V 古墳時代以前(第5面)

本項で報告するのは、5世紀洪水層下のAs-Cを含む黒褐色土を確認面とした遺構であり、B・C区の5面として調査を行った。細ヶ沢川の旧流路の左岸と右岸の微高地に位置している。溝3条が検出された。遺構の大半は5世紀洪水層下のAs-Cを含む黒褐色土で埋没しており、細ヶ沢川の旧流路の影響はないと考えられる。遺構の検出状況から、微高地における活動が想定できる。遺物は少ないが、調査面の時期の想定に矛盾はない。

## 1 B4区の遺構と遺物

## (1) 溝

本調査区の溝は、傾斜方向に対して垂直に走行する。削平が進んでおり、全容が明瞭でない。微高地と低地の区画をなす流路であると考えられる。調査面はAs-C軽石層下面に相当しており、古墳時代以前の溝であると考えられるものの、時期を明確にするための資料は得られていない。

## 10号溝(第85・86図 PL.36)

位置：437・460・385～396 規模：長さ(25.80)m×幅0.38～0.96m 残存深度：0.08～0.26m 走行方位：N—34°—W 遺物：非掲載遺物として、土師器(甕類1片)が出土している。重複：11号溝に前出している。10号溝掘削の後、11号溝を深く掘り直したと推察される。所見：黄褐色土で埋没していた。白色粒子、浅黄橙砂粒を含む砂質土である。溝の形状はほぼ直線であり、北北西方向から南南東方向に走行しており、傾斜方向に垂直に流れる。11号溝と合流直前に走行を東寄りに変える。溝の南北両端部の高低差を見ると、若干北が高く南が低い。溝の断面形は基本的には、逆台形で、底面は平坦である。幅は中央部分が広く、北部と11号溝との重複部分は狭い。残存深度はやや浅い。南北方向の走行は西にある17号溝と並行するが、本調査面では他に明瞭な形で残存している溝はなく、区画を呈している可能性がある。この溝は、東の微高地の縁辺部に位置しており、西側低地にある17号溝とは異なる機能を持つと考える。微高地における用排水路の一つと考えられる。4面の水田との関連が指摘される。古墳時代以前の溝であると推察され

るが、正確な比定は難しい。

## 11号溝(第85・86図 PL.37)

位置：437・385 規模：長さ(0.96)m×幅0.78m 残存深度：0.34m 走行方位：N—64°—W 遺物：認められない。重複：10号溝に後出している。10号溝掘削の後、11号溝を深く掘り直したと推察される。所見：埋没土は不明である。検出範囲が極めて狭いため形状、走行、傾斜、高低差、幅等は把握できない。ただし、10号溝を引き継ぐように掘削されており、10号溝に準ずるものであると推察される。走行に関しては、10号溝が東より走行を変えた方向に合わせて掘削が始まっている。溝の断面形は基本的には、逆台形で、底面は平坦である。残存深度は10号溝より深い。本調査面では明瞭な形で残存している溝はなく、区画を呈している可能性がある。この溝の機能等は、明瞭ではない。古墳時代以前の溝であると推察されるが、正確な比定は難しい。

## 17号溝(第85・86図 PL.37)

位置：449～463・397～403 規模：長さ(14.88)m×幅0.56～1.16m 残存深度：0.08～0.10m 走行方位：N—21°—W 遺物：認められない。重複：認められない。所見：As-C軽石を多く含む黒褐色土で埋没していた。1号水田(4面)との間には、As-C軽石を含む粘性のある黒褐色土の層がある。溝はほぼ直線であり、北北西方向から南南東方向に走行しており、傾斜方向に垂直に流れる。溝の南北両端部の高低差はない。溝の断面形は基本的には、逆台形で、底面は平坦である。幅は南下するほど狭くなる。残存深度はやや浅い。南北方向の走行は東にある10号溝と並行するが、本調査面では明瞭な形で残存している溝はなく、区画を呈している可能性がある。この溝は、微高地の縁辺部から見て西の低地に位置しており、微高地の縁辺部にある10号溝と異なる機能を持つと考える。微高地と低地の境における用排水路の一つと考えられる。土層から1号水田(4面)より古い。溝の形状及び埋没土等より、古墳時代以前の溝であると推察される。

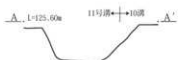


第3章 調査の内容

10号溝



11号溝



17号溝



10号溝 A-A'・B-B'・C-C'

1 黄褐色土(10YR5/6) 白色粒子少量、浅黄褐色砂粒僅か含む。やや砂質。

17号溝 A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) As-C粒多量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) As-C粒多量含む。やや粘性。
- 3 橙色砂層(7.5YR7/6) 下からの浮き上がり?
- 4 黒褐色土(10YR2/2) やや砂質。

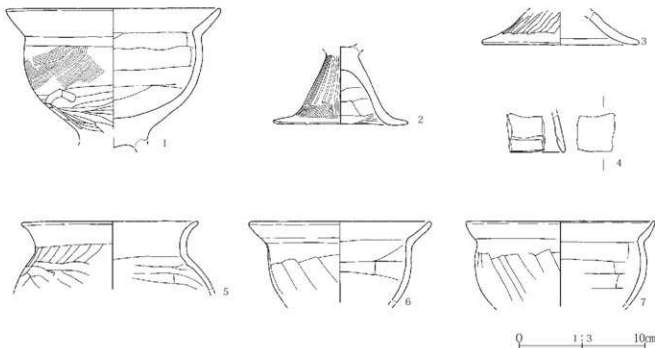


第86図 B4区5面 10・11・17号溝断面

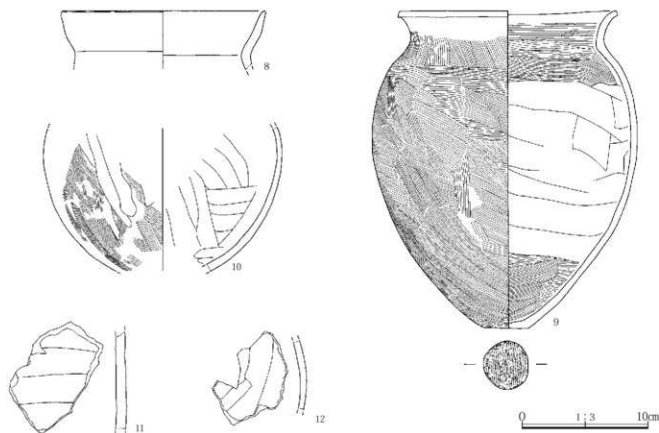
(2)遺構外出土遺物(第87・88図 PL.53)

B4区5面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物が出土した。ここでは出土した遺物のうち、土師器12点(甕5点(5・8・9・11・12)、高杯2点(2・3)、鉢2点(6・7)、壺1点(10)、台付甕1点(4)、台付鉢1点

(1))を掲載した。出土遺物は、本調査面の時期におおむね矛盾しない。非掲載遺物として、B4区から土師器(杯類1片、甕類26片)、須恵器(杯類1片)、剥片石器1点(打製石斧)が出土している。



第87図 B4区5面 遺構外出土遺物(1)



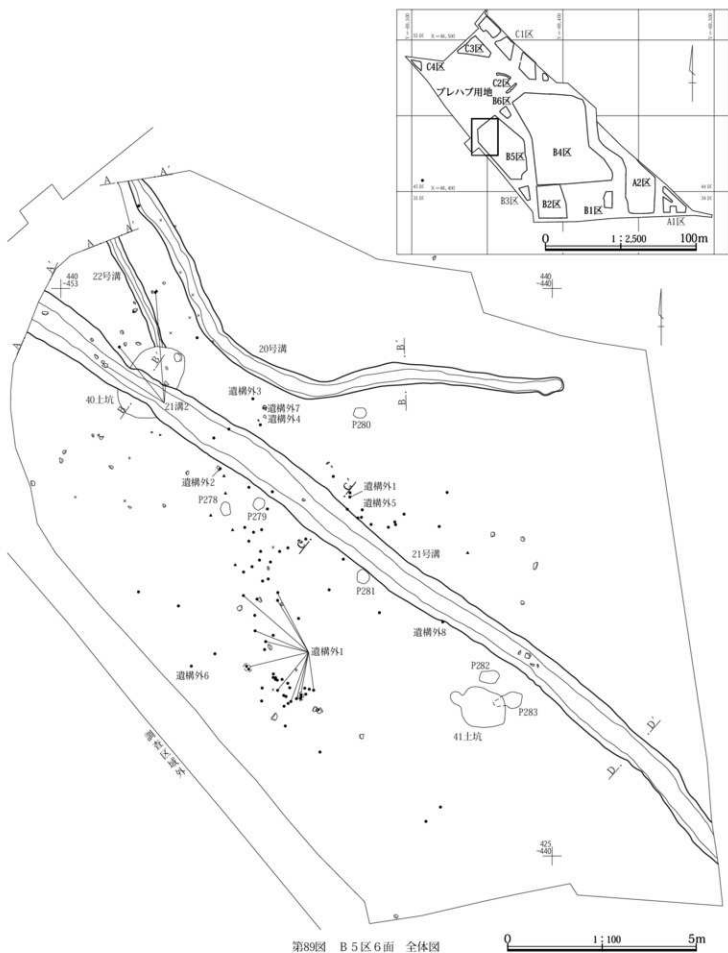
第88図 B4区5面 遺構外出土遺物(2)

## 2 B2・3区の遺構と遺物

As-C軽石層下面に遺物包含層が確認できた。非掲載遺物として土師器(甕類3片)、縄文土器1片が出土している。

## 3 B5区、C1区の遺構と遺物

B5区から土師器59片(甕類)、剥片石器1点(石斧)、剥片石器1点(石鐮)、B5区中央トレンチから土師器(杯類4片、甕類4片)が出土している。C1区から非掲載遺物として土師器1片(甕類)が出土している。



第89図 B5区6面 全体図

## VI 古墳時代以前(第6面)

本項で報告するのは、5世紀洪水層下のAs-Cを含まない黒褐色土を確認面とした遺構である。遺物の中には弥生土器が出土しているものの、遺構に伴う遺物は少ない。土層により明らかにB4区5面より下層であるため、B・C区の6面として調査を行った。細ヶ沢川の旧流路右岸の微高地に位置している、溝3条、土坑2基、ピット6基が検出された。遺構面の大半は5世紀洪水層下のAs-Cを含まない黒褐色土で埋没しており、細ヶ沢川の旧流路の影響はないと考えられる。遺構の検出状況から、微高地における生活が想定できる。遺構の形状及び、弥生土器を含めて遺構に伴う遺物が少ないことから、調査面の時期の正確な比定は難しい。

## 1 B5区の遺構と遺物

## (1) 溝

本調査区の溝は、3条確認できた。調査区西部の微高地にある。全体の傾向として、調査区低地部に向けて流れ込んでいると考えられる。削平が進んでおり、いずれも全容が明瞭でない。その中でも21号溝のように、調査区を横断する溝も確認されている。埋没土の上にAs-C軽石を含む黒褐色土が堆積しており古墳時代以前の溝であると考えられるが、各々の溝の時期及び時期差等について明瞭にするための資料は得られていない。

## 20号溝(第89・90図 PL.40・41・54)

位置：437～442・-439～-451 規模：長さ(14.35)m×幅0.40～0.58m 残存深度：0.06～0.14m 走行方位：N-28°-W、N-89°-E 遺物：弥生土器1点(裏(1))を掲載した。非掲載遺物として、弥生土器(中期9片)が出土している。重複：なし 所見：底面は黄褐色砂で埋没しており、流水の痕跡が見て取れる。その後、にぶい橙色土で埋まっている。南東に走行した後向きを変えて、東へ走行している。地表の傾斜方向に平行に走行している。その先は、調査区域外になっており確認できない。溝の高低差を見ると、東部が高く北西部が低い。溝の断面形は基本的には、逆台形で、底面は平坦である。幅はほぼ一定である。東部がやや狭い。残存深度はやや浅い。北西方向の走行は22号溝と並行する。途

中22号溝と少し並行して、東に行くほど離れていく。本溝が区画を呈しているか明瞭でない。この溝の機能等は、微高地からの水を北西部の低地部に逃がす、用排水路の一つと考えられる。溝の形状及び埋没土等より、古墳時代以前の溝であると推察される。

## 21号溝(第89・90図 PL.40～42・54)

位置：424～439・-435～-453 規模：長さ(23.12)m×幅0.72～1.18m 残存深度：0.36～0.48m 走行方位：N-52°-W 遺物：土師器1点(裏(2)) 重複：40号土坑に後出している。所見：にぶい橙色土で埋没している。溝の両脇に浅黄褐色砂など砂質の堆積もみられ、流水の痕跡が見られる。ほぼ直線であり、南東方向から北西方向に走行しており、地表の傾斜方向に平行に流れる。その先は調査区域外のため明瞭でない。溝の端部の高低差を見ると、南東部が高く北西部が低い。溝の断面形は基本的には、逆台形で、途中ですり鉢状に変化する箇所がある。底面は逆台形の部分は平坦で、すり鉢状の部分は丸底である。幅は南東部が狭く、北西部への流れに従って広がる。残存深度は南東部が深く、北西部に流れるにしたがって浅くなる傾向にある。近接する20・22号溝との走行は基本的には一致していない。この面では他に、明瞭な形で残存している溝は少なく、区画を呈しているか明瞭でない。この溝の機能等は、微高地より北西部の低地に水を逃がす用排水路の一つと考えられる。溝の形状及び埋没土の上層にAs-C粒子を多量に含むことから、古墳時代以前の溝であると推察される。

## 22号溝(第89・90図 PL.40～42)

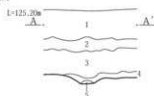
位置：438～441・-450～-451 規模：長さ(3.12)m×幅0.23～0.32m 残存深度：0.05～0.8m 走行方位：N-24°-W 遺物：認められない。重複：40号土坑に後出している。所見：黄粒粒砂を多量に含む浅黄褐色土で埋没していた。流水の痕跡が見て取れる。ほぼ直線であり、南南東方向から北北西方向に走行しており、傾斜方向に平行に流れる。北西部が調査区域外のためその先は明瞭でない。溝の両端部の高低差を見ると、北西が高く南東部が低い。20・22号溝と逆である。溝の断面形は基本的には、すり鉢状で、底面は丸底である。幅は北西部ほど広く、南東部はやや狭い。残存深度はやや浅い。

### 第3章 調査の内容

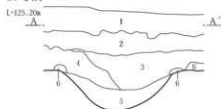
走行は、20号溝の北西部と一致する。区画を呈しているが明瞭でない。本溝の機能等は、用排水路の一つと考えられるが、20・21号溝とは役割が異なると思われる。40

号土坑との関連が推察される。溝の形状及び埋没土等より、古墳時代以前の溝であると推察される。

#### 20号溝



#### 21号溝



#### 22号溝



#### 20号溝 A-A'

- 1 黒褐色土(7.5YR3/1) As-C粒多量含む。(特に下半部)やや粘性。
- 2 黒褐色土(7.5YR2/2) 白色粒子僅か含む。僅かに砂質。
- 3 黒褐色土(7.5YR3/2) 浅黄褐色砂ブロック・カーボン粒僅か含む。やや砂質。
- 4 にぶい棕色土(7.5YR6/3) 浅黄褐色砂ブロック少量含む。
- 5 浅黄褐色砂(7.5YR8/8) 黄褐色砂粒多量含む。砂質。水の流れた痕跡か。

#### 21号溝 B-B'

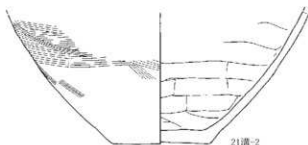
- 1 黒褐色土(7.5YR3/2) 浅黄褐色ブロック僅か含む。やや砂質。
- 2 浅黄褐色土(7.5YR8/6) ブロック状。
- 3 にぶい棕色土(7.5YR6/4) 黄褐色砂粒・カーボン粒僅か含む。

#### 22号溝 A-A'

- 1 黒褐色土(7.5YR3/2) 浅黄褐色砂ブロック・カーボン粒僅か含む。やや砂質。
- 2 浅黄褐色土(7.5YR8/8) 黄褐色砂粒多量含む。砂質。水の流れた痕跡か。

#### 21号溝 A-A'

- 1 黒褐色土(7.5YR3/1) As-C粒多量含む。(特に下半部)やや粘性。
- 2 黒褐色土(7.5YR2/2) 白色粒子僅か含む。僅かに砂質。
- 3 黒褐色土(7.5YR3/2) 浅黄褐色砂ブロック・カーボン粒僅か含む。やや砂質。
- 4 褐色土(7.5YR4/3) 黄褐色砂粒少量含む。
- 5 にぶい棕色土(7.5YR6/3) 浅黄褐色砂ブロック多量含む。
- 6 浅黄褐色土(7.5YR8/6)



第90図 B 5区6面 20～22号溝断面、20・21号溝出土遺物

## (2)土坑

## B5区の土坑(第91図 PL.42・43)

本調査区の土坑は、2基確認できた。調査区西部の微高地にある。周囲に散見できるピットとの関連は明瞭でない。削平が進んでおり、全容が明瞭でない。埋没土にAs-C軽石を含んでいない。古墳時代以前の土坑であると考えられるが、各々の土坑と他の遺構の時期及び時期差等について明瞭にするための資料は得られていない。(詳細については第4表に記した。)

**所見**：埋没土は主に褐色土である。浅黄褐色砂粒、カーボン細粒を含む砂質土である。溝との関連が指摘できる。形状は基本的には楕円形であり、主軸方位は一定でない。40号土坑は楕円形であり、21号溝に前出している。22号溝が重複している。41号土坑は、不整形であるが、基本的には楕円形がもとになっていると推察される。21号溝周辺に位置しており、関連が推察される。40・41号土坑は、若干の時期差を認めるものの、溝等他の遺構と同時期である可能性が指摘できる。

## 40号土坑(第91図 PL.42)

**位置**：437・~450

**形状**：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

**規模**：2.11×1.32m 深度：0.27m

**主軸方位**：N-38°-E

**埋没土層**：褐色土で埋没しており、黄褐色土が浸食している。カーボン細粒を含み、砂質である。

**重複**：21号溝に前出しており、22号溝に後出している。

**遺物**：認められなかった。

**所見**：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね古墳時代以前の可能性を有すると思われる。近接する溝やピットとの関連が明瞭ではないが、用途の違う20・22号溝を連結させる役割の可能性が指摘できる。

## 41号土坑(第91図 PL.43)

**位置**：428・~441

**形状**：不整形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

**規模**：1.53×1.04m 深度：0.25m

**主軸方位**：N-71°-W

**埋没土層**：褐色土で埋没している。にぶい褐色土が入り込んでいる。砂質である。

**重複**：283号ピットに後出している。

**遺物**：認められなかった。

**所見**：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね古墳時代以前の可能性を有すると思われる。近接するピットや溝との関連が想定されるが、明瞭ではない。

## (3)ピット

## B5区のピット(第91図 PL.43)

**概要**：B5区6面では、溝3条、土坑2基、ピット6基が検出された。ピットは、細ヶ沢川の旧流路右岸の微高地にある。20・21号溝の片側に沿うように位置している。本調査面のピットは、建物の柱穴及び柵の柱穴としての可能性を検討したが、柱穴の規模形状、柱間、建物全体の形状等、建物を復元するための資料が見つからなかった。ピットの使用目的は明瞭でない。なお、ピットから遺物の出土は見られなかったが、埋没土、形状、及び重複関係等から、溝、土坑等周囲の遺構と時期差の少ないものであると思われる。また、本調査区では、上面において古代から中世にかけて溝及び建物跡と推察されるピット群が検出されている。この微高地においては、その後も人々の営みが引き続き繰り返り広げられていた痕跡がうかがえる。(詳細については第5表に記載した。)

**位置**：ピットのほとんどは、21号溝に沿って検出されている。溝にかかわる施設の可能性については明瞭でない。

**重複**：283号ピットが41号土坑に前出している。

**規模形状**：多くが小型で楕円形を呈する。これらのピットは、建物の柱穴である可能性は少なく、復元には至らなかった。

**埋没土**：主に極暗褐色土と黄褐色土、灰褐色土に分かれる。白色粒子、カーボン細粒を含むことは共通している。全体的に砂質である。

**その他**：本調査面で出土したピットについて図示し、その特性を以下の通り解説する。

・柱痕が推測される形状で、柱穴であった可能性があるものとして、281・282号ピットがあげられる。

### 第3章 調査の内容

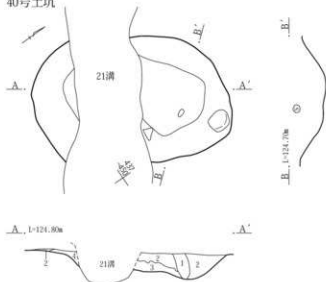
- ・新規に掘り直した様相が何るものとして、283号ビットがあげられる。
- ・同じ規模または同じ形状のビットが平行して並んでいるものとして、278・279号ビットがあげられる。
- ・上部が削平を受けており、底部が形良く残存している

と思われるものとして、278・279・280・281・282号ビットがあげられる。

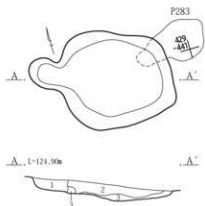
**遺物:** 認められない。

**所見:** 埋没土、形状、及び周囲の遺構等から古墳時代以前の可能性を有すると思われる。

40号土坑



41号土坑



40号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土(7.5YR3/4) 浅黄褐色砂粒少量、カーボン細粒僅かに含む。
- 2 褐色土(7.5YR4/4) 浅黄褐色砂粒、カーボン細粒僅かに含む。
- 3 褐色土(7.5YR4/6) 浅黄褐色砂多量含む。
- 4 黄褐色土(7.5YR3/4) 浅黄褐色砂少量含む。

41号土坑 A-A'

- 1 にぶい褐色土(7.5YR5/4) 砂質。
- 2 褐色土(7.5YR5/4) 砂質。浅黄褐色砂粒少量含む。
- 3 浅黄褐色土(7.5YR8/6) 砂主体。

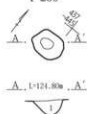
P 278



P 279



P 280



278・279・280号ビット A-A'

- 1 極暗褐色土(7.5YR3/2) 白色粒子・カーボン細粒僅かに含む。やや砂質。

281号ビット A-A'

- 1 黄褐色土(7.5YR8/8) 白色粒子僅かに含む。
- 2 灰褐色土(7.5YR4/2) カーボン細粒僅かに含む。やや砂質。
- 3 浅黄褐色土(10YR4/3) やや砂質。

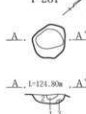
282号ビット A-A'

- 1 灰褐色土(7.5YR4/2) カーボン細粒・黄褐色砂僅かに含む。やや砂質。
- 2 褐色土(7.5YR6/6) 黄褐色砂多量含む。

283号ビット A-A'

- 1 灰褐色土(7.5YR4/2) 黄褐色砂僅かに含む。
- 2 褐色土(7.5YR4/3) 黄褐色砂粒少量含む。
- 3 褐色土(7.5YR4/3) 黄褐色砂粒多量含む。

P 281



P 282



P 283



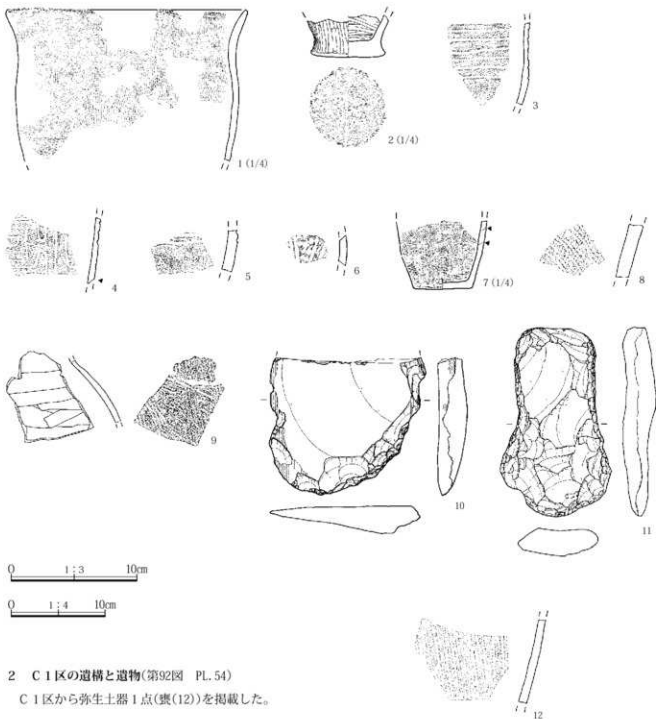
0 1:40 1m

第91図 B 5区6面 40・41号土坑、278-283号ビット

## (4) 遺構外出土遺物(第92図 PL.54)

B 5区6面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物が出土した。ここでは出土した遺物のうち、B 5区から、土師器1点(糞(9))、弥生土器7点(糞5点(1・2・5・6・7)、筒形土器2点(3・4)、縄文土器1点(深鉢(8))、

剥片石器2点(石鎌(10・11))を掲載した。非掲載遺物として、剥片石器2点(石鎌)が出土している。また、弥生土器(中期12片)、縄文土器(堀之内1式1片)が出土している。下層からの混入であると思われる。



## 2 C 1区の遺構と遺物(第92図 PL.54)

C 1区から弥生土器1点(糞(12))を掲載した。

第92図 B 5・C 1区6面 遺構外出土遺物



## 第4章 総括

### 第1節 調査の成果

本報告書で報告する川端山下遺跡で調査した遺構は以下の通りである。A区で調査した遺構は、近世(江戸時代)の溝1条、中世(室町時代)の竪穴状遺構1基、溝2条、地下式土坑2基、土坑2基、古代(平安時代)の竪穴住居1軒、溝1条である。B・C区で調査した遺構は、近世の竪穴状遺構1基、溝8条、土坑26基、ピット78基、中・近世の溝8条、畑1条、井戸1基、土坑9基、ピット112基、石垣1基、古代の溝3条、畦1条、耕作痕1条、土坑5基、ピット88基、古墳時代の水田2面、古墳時代以前の溝6条、土坑2基、ピット6基である。

川端山下遺跡は、前橋市の西北部、前橋市川端町に所在しており、赤城山南西麓の広瀬川低地帯に位置している。これまでの上武道路の建設事業に伴う周辺の調査では、古墳時代の溝、水田、畑、平安時代の住居、溝、製鉄炉、鍛冶痕、畑、土坑、中・近世の竪穴状遺構、掘立柱建物、溝、柵列、道、水田、耕作痕、近世復旧痕、水田などが確認されている。

今回の川端山下遺跡の調査により、周辺遺跡との遺構検出状況に大きな相違はなかった。本遺跡周辺においては、古墳時代から水田耕作が行われ、平安時代にかけて集落が継続的に形成されてきた地域であることが明らかになった。

川端山下遺跡の出土遺物は少なかつたものの、縄文・弥生時代から近世まで時期や種類は多種多様であった。報告書に掲載した遺物は、縄文土器3点、弥生土器11点、縄文時代から中・近世の石器及び石製品など73点、土師器・須恵器など33点、中世から近現代の陶磁器類181点、金属類など48点である。

遺構に伴う遺物ではないが、縄文・弥生時代の土器、土師器・須恵器、石器及び石製品、陶磁器類、金属類など幅広い時代の遺物が表土や埋没土などから出土した。これらについては遺構外出土遺物として掲載した。詳細は遺物観察表(133~145頁)を参照されたい。

今回の調査により、調査面が確認され遺物包含層が想

定された調査区、及び調査面が確認されたものの遺構や遺物が認められなかった調査区があった。ただし、A1区のように人の足跡が検出されている調査区もあり、生活の痕跡がうかがえる。調査区の詳細な区分及び調査区ごとの遺構・遺物の確認状況については第1章第4節2項を参照されたい。

以上のような調査成果の中から本章では、遺構において、B4区からB5区にかけて細ヶ沢川の旧流路右岸の微高地で検出された中・近世の屋敷跡について、遺物では、前橋藩窯によって焼成された陶磁器、及び南鏡二朱銀を模した鉄形土製品について考察する。

### 第2節 旧流路右岸に位置する 中・近世の屋敷跡

#### 1 はじめに

川端山下遺跡は、調査区の中央に細ヶ沢川の旧流路が存在しており、その影響を受けている。また、本遺跡は、カスリン台風による洪水の影響を受けた土地に位置しており、調査区全体がカスリン台風による洪水層で覆われている。洪水層下の堆積状況は調査区内の場所によるが、旧表土、耕作土で埋没している。本遺跡1・2面の調査面における細ヶ沢川の旧流路の両岸の状況を細かく見ると、旧流路左岸にあるA1・2区、B4区北東部、C1区の標高がやや高いのに対して、旧流路右岸にあるB4区南西部、B5区の標高がやや低い傾向が観察される。本節で検討するのは、旧流路右岸に位置するB4区南西部からB5区にかけて検出された中・近世における溝及び溝に囲まれた区画についてである。本報告書においては、B4区南西部検出の遺構は1面で扱ひ、B5区検出の遺構は2面で扱ひている。ただし、第3章1節の調査の概要でも先述したとおり、本遺跡においては、発掘段階では面調査が行われており、本稿の掲載については発掘時の面調査を基準としている。遺構によっては、面が重複して検出されているものがあり、その旨は本文において指摘してきたとおりである。ここでは、B4区南西部とB5区にかけて検出された溝及び溝に囲

まれた区画についての関連を検討するものである。

## 2 屋敷堀と推定される溝について

屋敷堀と推定される溝については、2つに分けて検討する。3・4号溝に関するものと、13・14・15・16号溝に関するものである。3・4号溝は、B4区南西からB5区の東にかけて位置している。13・14・15・16号溝は、B5区の中央から西にかけて位置している。特に、3・4号溝に関しては、コ字状を呈しており、敷地を囲う堀の可能性を示唆している。これらの溝が中・近世における屋敷堀である可能性について検討するものである。

### (1) B4区からB5区にかけての3・4号溝

B4区南西部とB5区における3・4号溝の位置を示したものが第93図である。これによると、B4区南西部の3・4号溝の北とB5区東の3・4号溝が北西隅で曲がり東進する箇所とつながる可能性があることが分かる。4号溝の底部に3号溝が掘削されているところまで一致している。また、B4区南西部の3・4号溝は、南東隅でB5区方向へ曲っており、B5区の3・4号溝の南端につながる可能性を示す。つまり、B4区南西部の3・4号溝とB5区東の3・4号溝に囲まれることにより、一つの区画が生じている可能性があると判断できるのである。ただし、B4区南西部の3・4号溝の南北辺とB5区東の3・4号溝の南北辺は主軸方位が平行ではなく、時期差があり別施設の可能性が強いと判断することもできる。規模、埋没土等詳細に関しては本文を参照されたい。特にB5区東の3・4号溝は、幅が広く深さも十分であり、屋敷堀の可能性を指摘できる。

### (2) B5区の13・14・15・16号溝

第93図によると、B5区の中央から西にかけて13・14・15・16号溝が、これらの溝の西の区画を形成していると判断できる。特に14・16号溝は、B5区北で西へ曲って区画を囲う様相を呈している。また、13号溝に関しては、3面においても検出されており、下面の時代から使用されてきたものである。14号溝は、16号溝と一体となり、途中から13号溝と並走する。15号溝は、3・4号溝の西を並走し3・4号溝の北西隅で合流する。16号溝は、14号溝と一体となり、13号溝と合流したのち、3・

4号溝の北西隅で3・4号溝及び15号溝と合流する。ただし、13・14・15・16号溝は、屋敷堀としては幅が狭く深さも十分でない。規模、埋没土等詳細に関しては本文を参照されたい。しかし、これらの溝の西には、溝によって区画された土地が確認される。そこから検出されたピット群や土坑等が屋敷の存在を想定させる。

## 3 屋敷跡と推定される遺構について

屋敷跡と推定される遺構についても、2つに分けて検討する。3・4号溝によって区画されたものと、13・14・15・16号溝によって区画されたものである。3・4号溝によって区画されたものは、B4区南西からB5区の東にかけて位置している。13・14・15・16号溝によって区画されたものは、B5区の中央から西にかけて位置している。特に、3・4号溝によって区画された土地は、不整形を呈しており、屋敷の敷地としては不自然である。ここでは、中・近世における屋敷の存在について検討するものである。

### (1) 3・4号溝内の屋敷跡と推定される遺構

B4区の3・4号溝とB5区の3・4号溝に囲まれた区画は、北辺より南片が長い台形を呈していると推察される。規模は、北辺15m、南辺22m、東辺21m、西辺21.5m以上と推定される。面積は、400㎡程と推察され、屋敷を構えるのには不自然な形状を呈している。ここでは、B4区南西部の3・4号溝とB5区東の3・4号溝には、時期差があり、別施設と考えるのが妥当であろう。ただし、特にB5区東の3・4号溝は溝の内側の土地は整地されており、敷地が南東方向へ広がる可能性が指摘できる。B4区南西部の3・4号溝はB5区東の3・4号溝が廃絶されたのち、旧流路の変遷に伴って掘削されたものであろう。

建物跡についての資料は乏しい。B5区の西辺際に34号土坑が、B4区南西部には、1・2号土坑、1・2・3・4・5・6・7・8・40号ピット、及び3・4号溝の東際に3号土坑、35・36・37・38・39号ピットが検出された。特に、P2・5・6・7については、辺P2・5と辺P5・6・7が直行しており、建物の一部の可能性を示唆している。さらに、互いの距離も2m程の等間隔で一定している。また、3・4号溝東に位置するP



24・27・31は約2mの等間隔で柱穴列の可能性があり、溝の区画内の屋敷と推察される遺構との関連が考えられる。特に、P5・6・7の柱穴列の走行方位とB5東の3・4号溝南北辺の走行方位がほぼ合っており、これらのピット群は、B4区南東部の3・4号溝に伴う施設より、B5区東の3・4号に伴う施設の可能性のほうが高いと考えられる。しかしながら、建物や柱穴列を明確に形成するためには資料に不足していると言わざるをえない。ただし、ピット群の頁でも先述したが、柱穴と推察されるピットも複数あり、屋敷の一部を構成する資料として否定できないものである。

#### (2)13・14・15・16号溝内の屋敷跡と推察される遺構

13・14・15・16号溝の西には、これらの溝によって区画された土地が確認できる。区画の範囲は、調査区域外に続いたため、南北・東西とも不明である。区画の南北は、土地の有効利用の範囲は明瞭でないが、区画北東隅から南限の33号土坑まで約30mを測る。また、ピット群のまとまりから考えると、調査区の北から32号土坑まで約20mを測る。区画の東西は、14号溝から調査範囲内までで約14mを測る。調査区内の区画の面積は、検出範囲だけでおよそ300m以上と考えられ、屋敷を構えるのには十分な広さがある。また、19号溝によって、本区画が南北に分けられており、屋敷に関連する仕切りの可能性がある。この区画で確認された遺構は、土坑4基、ピット78基を数える。これら溝の西に位置するピット群や土坑は、建物は検出できなかったものの、ピット群の頁でも報告したように、柱穴と推察されるピットも複数あり、屋敷の一部を構成する資料として否定できないものである。

### 4 旧流路左岸に位置する中・近世の 屋敷跡と推察される遺構について

ここでは比較の意味で、B4区1画における旧流路左岸に位置する中・近世の屋敷跡と推察される遺構にふれておきたい。

第3章第33図によると、B4区北東部にも、土坑、ピット、溝等が複数検出されており、屋敷跡が想定できる。この屋敷跡は旧流路左岸に位置している。対岸にある旧流路右岸の屋敷跡と異なるのは、周囲に堀と想定さ

れる溝がないことである。遺構の要素は、竪穴状遺構1基、土坑21基、ピット32基、溝3条である。特に、1号竪穴状遺構、6・8・14・22号土坑、6・7号溝は主軸方位や走行方位が合っていることが観察される。ピット群の頁でも先述したが、柱穴と推察されるピットも複数ある。資料不足で具体的な建物は検出できなかったものの、屋敷の一部を構成する資料として否定できないものである。また、旧流路右岸に位置する3・4号溝に関連する屋敷跡、13・14・15・16号溝に関連する屋敷跡との関連性については、具体的な資料は見つかっていない。屋敷堀と推察される溝の有無が異なることと、土層より旧流路右岸の屋敷跡と推察される遺構より旧流路左岸の屋敷跡と推察される遺構のほうが新しく若干の時期差があること以外は明瞭でない。ただし、旧流路を挟んで屋敷が存在していた可能性を指摘する。

## 5 まとめ

本遺跡における旧流路兩岸の建物跡に関して検討することに関して、本遺跡周辺における歴史的な環境を振り返る必要があるだろう。

関東地方が戦国時代に入るところ、本遺跡周辺にもこの時期の城館が存在している。『富士見村誌』続編によると、陣場(前橋市0596遺跡)は、文明9(1477)年に太田道灌が長尾景春と対陣した際の陣跡としている。また、本遺跡周辺には、関根の寄居(前橋市0010遺跡)、横室寄居(前橋市0741遺跡)・青柳寄居(前橋市0943遺跡)などの寄居が分布している。寄居は、当時の統御組織に関する呼称であり、長尾氏や桐生氏関係に限定して用いられていた。ただし、本遺跡周辺のものは長尾氏に関するものである。その他、本遺跡周辺には八幡山の砦(前橋市0036遺跡)・田島城(前橋市0755遺跡)・森山城(引田城)(前橋市0756遺跡)・九十九山の砦(前橋市0765遺跡)・金山城(前橋市0766遺跡)などの城館が存在している。

本遺跡周辺には、上記のとおり城、館、砦などの他に地域的な傾向として長尾氏や桐生氏に関連する寄居が分布しており、その一部と本遺跡の屋敷跡に関連する可能性があると考えられる。しかし、区画の西側が調査区域外であることや各調査区の間が現道や水路のため未調査であること、区画内の土坑、ピット群等の遺構の残存

状態が良好でないことなどから、全容を把握することは困難である。

### 第3節 前橋藩窯によって 焼成された陶磁器

本遺跡において、A2区1面1号溝及びB5区2面遺構外から、前橋藩窯で焼成された陶磁器が出土した。前橋藩窯製品は、前橋藩域内の高浜焼窯及び現在の前橋市富士見町の皆沢焼窯で焼かれていたとされている。本遺跡は、群馬県庁の北約5km、前橋市富士見町皆沢の南西6kmに位置している。双方の窯場の間の地域に位置していると考えてよい。そもそも前橋藩直営の窯で焼成された陶磁器は、2つの窯場のどちらで焼かれたのか判断するのは難しい。まして本遺跡の陶磁器は、それらの窯場の間の地域のほぼ中間点で見つかっており、どちらの窯で焼かれて、どのような経路を辿って流通してきたものなのか、その判断は困難である。

ところで、前橋藩窯で陶磁器が焼成されることになった経緯は何であったのだろうか。それには、当時の前橋藩の財政状況についてその背景を考慮する必要がある。

文政6(1823)年の藩財政収支表によると、文政期の領内農村の荒地没入地、不斗出(風斗出)等その疲弊が顕在化し、藩は文政2(1819)年勤農付属を任命して興農政策に積極的に取り組み始めた。家中に対する振作も強化され、年貢収支に依存する藩財政の危機が高まった時期に重なる。

当時の前橋藩では、この藩財政を打開するために殖産興業策が講じられたのである。従来の産業開発では藩の収入を増やすことには至らず、検討の結果、逼迫する藩財政を打開するため各種の殖産興業を行い、その一つとして陶磁器の焼物業が選ばれたのである。幸いなことに、前橋領内には赤城山に良質の陶土と、燃料の薪材が豊富にあり、原材料にはどこかかなかったようである。

前橋藩直営当時の藩窯には皆沢焼窯と高浜焼窯があり、2か所において生産をはじめた。皆沢焼窯は赤城山中腹の皆沢村にあった。現在の前橋市富士見町皆沢の山林にその一部が残っており、今では「皆沢焼窯跡」として前橋市の史跡に指定されている。高浜焼窯は、前橋城内の一郭である高浜曲輪、現在の群馬県庁北側にあったと

されている。

藩営はそう長い期間ではなかったようで民間に貸与した文政5年までの足かけ8年の操業期間になる。前橋藩窯は前橋藩直営の藩窯として始まったものの、8年という短い操業期間で民営に移管されたのち天保末期まで陶磁器を焼いていたと考えられている。土は利根の白土とよばれた利根郡利根村利根にある山の土を採掘して運んだとされている。高浜曲輪の原料も利根山のものであったとされる。焼いた品目については日用雑器類が主であった。職人の中には美濃土岐郡一ノ倉村の者がおり、瀬戸の本場の者であったことを物語っている。

本遺跡から出土した前橋藩窯で焼かれた陶磁器の具体的な出土場所と器種は以下の通りである。

A2区1面、近世に比定される1号溝からは前橋藩窯製品のすり鉢1点、土瓶3点が、B5区2面、中・近世に比定される面の遺構外からは前橋藩窯製品の染付小碗1点が出土した。詳細は第3章第2節1項・第3節2項、写真図版PL.48・52、及び口絵を参照されたい。本遺跡から出土した前橋藩窯製品は、江戸時代に存在した前橋藩直営の陶磁器窯に由来して焼かれたものの一部であると考えられる。

この窯場は関東地方では数少ない磁器を焼いた窯としても重要である。前橋領内には赤城山に良質の陶土があるとのことであったが、「焼物土」は利根山と赤城山から採っていた。前橋藩窯製品の種類は主に日常什器で、磁器と陶器を同じ窯で生産していた。皆沢焼窯からは、磁器では湯飲み、飯茶碗、椀、皿、小鉢、徳利などが、陶器では皿、こね鉢、徳利、土瓶、銅、行平、灯火具、すり鉢、水瓶などの日用品が見つかっている。

前橋藩窯である皆沢焼窯及び高浜焼窯で焼成された陶磁器には、焼成時の状況から特徴が表れている。前橋藩窯製品の陶器の多くには短時間で鉄釉が融けた際に生じる「あだびかり」という独特の強い光沢が認められる。本遺跡で出土した前橋藩窯製品と推察される陶磁器は、磁器では染付小碗、陶器ではすり鉢や土瓶であった。すり鉢や土瓶の表面には、「あだびかり」と思われる光沢が認められており、前橋藩窯製品の特徴に一致するものである。

前橋藩窯製品が、本遺跡から出土した意味はどこにあるのだろうか。主に、本遺跡が2つの窯場の間の地域に

位置していたこと、前橋藩窯製品が日用雑器類であり日常的に流通していたことが考えられるだろう。本遺跡から出土した陶磁器は、当時、日用雑器類として前橋藩領内を流通していたものの一部であることが推察されている。さらに、前橋藩窯製品は前橋城の曲輪内や前橋藩領以外の地域でも見つかっており、それらの出土状況についても確認する必要があるだろう。

これまでに前橋藩窯製品においては、以下の遺跡からの出土が報告されている。

後田遺跡Ⅱ(みなかみ町)では、磁器色絵染付碗1点、磁器染付碗1点、磁器染付広東型碗2点が、表採や埋没土から出土している。五目牛南組遺跡(伊勢崎市)では、磁器広東型碗1点が、3号屋敷跡の遺構外から出土している。前橋藩が拠点とする前橋城の遺跡に関して、前橋城跡(前橋市)では、染付広東碗、染付端反碗、小林等の磁器製品、行平鍋、片口鉢、灯火受皿等、棚板、匣鉢、支柱等の窯道具、合わせて59点が、3号遺物集中や3号溝等から出土している。さらに、前橋北曲輪遺跡(前橋市)では、窯部材2点、棚板1点等の窯道具が、1・2号溝から出土している。前橋城外曲輪内では、前橋藩窯製品の陶磁器のみならず、窯道具が見つかっている。

これらの遺跡における前橋藩窯製品の出土状況から、前橋藩領内にとどまらず、北は沼田藩領内から南及び東は伊勢崎藩領内・岩鼻代官所(天領)までと、比較的広い範囲で前橋藩窯製品が流通していたことがうかがえる。それに加え、本遺跡からの前橋藩窯製品の出土は、遺跡が双方の窯の中間点に位置していたという観点から、前橋藩窯製品の流通範囲について貴重な事例となる。

本遺跡においては江戸時代に前橋藩窯で焼かれた陶磁器が発見されたものの、皆沢焼窯で焼かれたものなのか、高浜焼窯で焼かれたものなのか明確にする資料は見つからなかった。ただし、今回前橋藩窯で焼成された陶磁器が、赤城山中腹に位置する皆沢焼窯と前橋城内の一郭にある高浜焼窯の間の地域から出土したということは、材料となる陶土と燃料の薪材の近くにある窯場と殖産興業を支配する中心地となった前橋藩城内の窯場の間で出土したという観点からも興味深い。

川端山下遺跡において前橋藩窯で焼かれた陶磁器が発見されたことにより、当時の幕藩体制における地方都市の殖産興業の状況、それに関わった職人たち、当時の人々

の生活の様相などの解明につながる資料が提供できたと考える。今後、さらなる調査例の増加に期待したい。

## 第4節 南鐘二朱銀を模した銭形土製品

C1区27土坑から南鐘二朱銀を模した銭形土製品が出土した。(口絵写真4、PL.51参照、第3章第3節2項)

南鐘二朱銀を模した銭形土製品は、当事業団が調査した遺跡では、これまでに2点出土しており、出土例は極めて少ない。具体的には成塚石橋遺跡と高林三八遺跡(いずれも太田市所在)において1点ずつ出土しており、本遺跡からの出土が3例目である。成塚石橋遺跡では9号土坑から1点(第94図左上)が、高林三八遺跡では15号溝から1点(第94図右上)が出土している。いずれも南鐘二朱銀を模した銭形土製品である。

南鐘二朱銀は、明和9(1772)年江戸幕府によって発行された。「南鐘」は良質の銀(上銀)を示す美称である。南鐘二朱銀は、表面に「以南鐘八片 換小判一両」の文字が、裏面の上部に分銅の図案と下部に「銀座 常是」の文字が極印されている。南鐘二朱銀は、古南鐘の明和南鐘二朱銀と形態が小型である新南鐘の文政南鐘二朱銀がある。明和南鐘二朱銀の鑄造期間は、前期が明和9(1772)年から天明8(1788)年、後期が寛政12(1800)年から文政6(1823)年である。ただし、実際には前期・後期の区別なく使用されていたようである。文政南鐘二朱銀の鑄造期間は、文政7(1824)年から文政12(1829)年である。明和南鐘二朱銀と文政南鐘二朱銀は、品格・形式・極印など同じである。ただし、文政南鐘二朱銀の目方は2匁に減ぜられ、形態はやや小型である。先に出土した2つの銭形土製品は、形態の大きさから文政南鐘二朱銀を模したものであると考えられている。

本遺跡で出土した銭形土製品(第94図右下)は形態がやや小型であり、先に出土した2例と同様に文政南鐘二朱銀を模したものであると考えられる。上部片が残存しており、表面には「此南〜、城小〜」の文字が、裏面には図案の一部及び「銀〜、常〜」の文字が読み取れる。図案の器表は一部剥離している。また、「此」や「城」など、本来の南鐘二朱銀に極印されている文字と部分的に異なった文字が使用されているところがある。文字の形は3例と

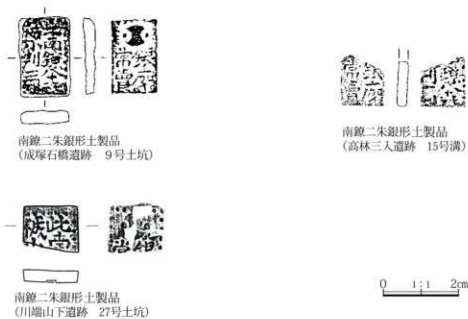
にも似ているところがあるものの、細部を比較すると極印は同じものではないと思われる。

南鐘二朱銀を模した銭形土製品は、北は福島県から、東京都、群馬県、静岡県、長野県、岐阜県、石川県、南は福岡県まで、広範囲で出土が報告されている。銭形土製品は、製品自体や習俗に地域差がないため、広域を対象に製造販売していた業者の存在が推定されるところである。ただし、生産と流通に関する検討は慎重を要するものであり今後の課題でもある。

南鐘二朱銀を模した銭形土製品は、城郭、城館跡、陣屋跡、館跡、屋敷跡、城下町、墓、集落など出土場所が多様であること、本来の南鐘二朱銀に極印された文字の一部が、銭形土製品の鑄造過程で変化していくことなど不明な点が多く、調査例の増加が待たれている。

参考文献

- 北橋村誌編纂委員会1975『北橋村誌』  
 勢多郡誌編纂委員会1958『勢多郡誌』  
 群馬県史編さん委員会1989『群馬県史』通史編3  
 富士見村誌編纂委員会1979『富士見村誌』続編  
 前橋市史編さん委員会1973『前橋市史 第2巻』  
 前橋市史編さん委員会1975『前橋市史 第3巻』  
 群馬県史編さん委員会1990『群馬県史』通史編4  
 前橋市教育委員会2011『前橋城(三の丸門東地点)』  
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『後田遺跡Ⅱ』  
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1992『五日市南組遺跡』  
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1996『成塚石橋遺跡Ⅲ』  
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『前橋城北山輪遺跡』  
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『高林三人遺跡』  
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『前橋城三の丸遺跡』  
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『前橋城跡』  
 兵庫埋蔵銭調査会 1997『近世の出土銭Ⅰ』—論考篇—  
 兵庫埋蔵銭調査会 1998『近世の出土銭Ⅱ』—分類図版篇—  
 三上隆三 1996『江戸の貨幣物語』  
 出土銭貨研究会 2001『出土銭貨』第16号  
 大西雅広 2013『誰のお金？江戸時代の銭形土製品』—歴史を撮る—『群馬県土産』Vol.112 群馬出版センター  
 上毛新聞社2016『“幻”の「菩提院」を求めて』『上州風』32号



第94図 南鐘二朱銀を模した銭形土製品の群馬県内出土例

第4表 土坑計測表

番号	区	面	グリッド	形状	主軸方位	長軸×短軸×深さ(m)	出土遺物	備考(重複)
1	A	2	X=403 Y=-350	楕丸長方形	N-6°-W	1.67×0.96×0.46		1 竪穴
2	A	2	X=403 Y=-356	楕丸長方形	N-78°-E	(2.12×1.35×0.43)		4溝
1	B	4	X=419 Y=-417	楕円形	N-34°-E	0.95×0.91×0.13		P40
2	B	4	X=417 Y=-410	楕円形	N-49°-W	1.08×(0.94)×0.37	陶磁器、土師器片	2溝
3	B	4	X=423 Y=-411	不明	不明	(1.23)×(0.91)×0.35		4溝
4	B	4	X=425 Y=-405	不整形	N-24°-W	1.08×0.81×0.20		
5	B	4	X=427 Y=-407	楕円形	N-10°-E	1.38×1.15×0.25		
6	B	4	X=457 Y=-395	長楕円形	N-14°-E	1.99×0.57×0.30		P41
7	B	4	X=455 Y=-394	楕円形	N-82°-E	0.77×0.43×0.14		P47
8	B	4	X=454 Y=-394	楕円形	N-77°-W	0.84×(0.50)×0.16		P58
9	B	4	X=458 Y=-389	楕円形	N-43°-W	1.56×1.28×0.32		P56
10	B	4	X=453 Y=-392	楕円形	N-70°-W	(0.73)×0.66×0.21	土師器片	6溝、19上
11	B	4	X=452 Y=-392	楕円形	N-71°-W	1.53×1.36×0.33	陶磁器、鉄製品、礫石器	19・25上
12	B	4	X=455 Y=-388	不明	N-65°-W	(1.50)×0.86×0.25		1 竪穴、13上、P68・71
13	B	4	X=454 Y=-388	楕円形	N-55°-W	0.60×(0.40)×0.28		12上
14	B	4	X=456 Y=-390	楕丸長方形	N-10°-E	2.11×0.84×0.74		1 竪穴
15	B	4	X=450 Y=-393	楕円形	N-75°-E	1.22×(1.10)×0.19		16・20上
16	B	4	X=450 Y=-392	楕円形	N-56°-E	1.37×(0.88)×0.15	陶磁器	15上
17	B	4	X=460 Y=-389	不整形	不明	(0.99)×1.38×0.22		
18	B	4	X=454 Y=-393	不明	N-12°-E	3.03×(0.51)×0.19		6溝、P70
19	B	4	X=453 Y=-392	不明	不明	-x-x×0.24		6溝、10・11上
20	B	4	X=452 Y=-393	楕丸長方形	N-13°-W	2.05×0.14×0.14	陶磁器	6溝、15上
21	B	4	X=449 Y=-387	不明	N-11°-E	1.19×(0.42)×0.29		22上
22	B	4	X=449 Y=-387	楕丸長方形	N-9°-E	(3.08)×0.70×0.48	土師器片	21上
23	B	4	X=447 Y=-386	楕円形	N-9°-E	1.53×0.81×0.08		
24	B	4	X=449 Y=-385	不整形	N-7°-E	1.76×(0.85)×0.29		
25	B	4	X=451 Y=-392	不整形	N-0°	(0.76)×0.78×0.14		11上
26	C	1	X=481 Y=-428	楕円形	N-52°-W	(3.28)×(1.37)×0.93		9溝、1棚
27	C	1	X=488 Y=-426	楕円形	N-34°-W	1.44×0.71×0.17	土製品、鉄製品、銅製品	
28	B	4	X=451 Y=-389	楕円形	N-49°-W	0.77×0.48×0.22		7溝
29								※1号井戸に変更
30	B	5	X=440 Y=-441	長楕円形	N-14°-W	5.00×0.87×0.49	須恵器、石製品、土師器片	
31	B	5	X=430 Y=-449	楕円形	N-79°-W	1.77×1.03×0.18	石製品	
32	B	5	X=428 Y=-448	長楕円形	N-73°-E	2.43×0.47×0.27		
33	B	5	X=417 Y=-437	楕丸長方形	N-2°-W	3.37×0.80×0.52	須恵器、土師器片	
34a	B	5	X=421 Y=-431	楕丸長方形	N-81°-E	1.48×1.10×-		
34b	B	5	X=421 Y=-430	楕丸長方形	N-84°-E	(2.47)×1.10×0.32		
34c	B	5	X=421 Y=-429	楕丸長方形	N-85°-E	(0.63)×0.68×0.14		
35	B	5	X=437 Y=-442	楕丸長方形	N-78°-E	1.42×0.45×0.23		
36	B	5	X=432 Y=-450	楕円形	N-0°	0.78×0.77×0.16		P198
37	B	5	X=430 Y=-447	楕円形	N-90°-E	0.87×0.73×0.13		1 棚
38	B	5	X=428 Y=-444	楕丸長方形	N-15°-W	1.87×0.97×0.12		1 棚
aze	B	5	X=428 Y=-441	楕円形	N-18°-W	1.47×1.23×0.10		
40	B	5	X=437 Y=-450	楕円形	N-38°-E	2.11×1.32×0.27		21・22溝
41	B	5	X=428 Y=-441	不整形	N-71°-W	1.53×1.04×0.25		P283



ビット計測表

第5表 ビット計測表

番号	区	画	グリッド	形状	長軸×短軸×深さ(m)	備考(重複)
1	B 4	1	418 - 417	楕円形	0.36×0.35×0.18	
2	B 4	1	420 - 417	楕円形	0.34×0.31×0.33	
3	B 4	1	421 - 416	楕円形	(0.42)×0.43×0.03	1溝
4	B 4	1	420 - 416	楕円形	0.28×0.23×0.09	
5	B 4	1	420 - 415	楕円形	0.33×0.31×0.29	
6	B 4	1	418 - 415	楕円形	0.34×0.32×0.19	
7	B 4	1	416 - 415	楕円形	0.34×0.22×0.14	
8	B 4	1	416 - 415	楕円形	0.42×0.41×0.07	1溝
9	B 4	1	420 - 406	楕円形	0.35×0.27×0.17	
10	B 4	1	417 - 404	楕円形	0.38×0.28×0.26	
11	B 4	1	416 - 404	楕円形	0.37×0.32×0.36	
12	B 4	1	416 - 403	楕円形	0.40×0.31×0.28	
13	B 4	1	418 - 403	楕円形	(0.36)×0.37×0.34	P14
14	B 4	1	418 - 403	楕円形	0.39×0.31×0.45	P13
15	B 4	1	419 - 403	楕円形	0.34×0.24×0.05	
16	B 4	1	421 - 403	楕円形	0.45×0.41×0.23	
17	B 4	1	417 - 401	楕円形	0.75×0.56×0.06	
18	B 4	1	416 - 401	楕円形	0.36×0.30×0.39	
19	B 4	1	415 - 401	楕円形	0.24×0.22×0.27	P20
20	B 4	1	415 - 400	楕円形	(0.22)×0.23×0.21	P19
21	B 4	1	414 - 402	楕円形	0.30×0.28×0.08	
22	B 4	1	421 - 404	楕円形	0.34×0.22×0.16	
23	B 4	1	421 - 404	楕円形	0.22×0.20×0.07	
24	B 4	1	422 - 404	楕円形	0.23×0.20×0.17	
25	B 4	1	422 - 404	楕円形	0.34×0.28×0.54	
26	B 4	1	423 - 407	楕円形	0.38×0.27×0.30	
27	B 4	1	423 - 405	楕円形	0.33×0.31×0.09	
28	B 4	1	424 - 405	不整形	0.65×0.49×0.20	
29	B 4	1	423 - 405	楕円形	0.69×0.48×0.13	
30	B 4	1	423 - 417	円形	0.82×0.80×0.09	1溝
31	B 4	1	425 - 406	楕円形	0.26×0.26×0.12	P32
32	B 4	1	425 - 407	楕円形	(0.20)×0.17×0.08	P31
33	B 4	1	427 - 408	楕円形	0.76×0.59×0.23	
34	B 4	1	425 - 410	楕円形	0.45×0.34×0.17	
35	B 4	1	424 - 412	楕円形	0.33×0.26×0.37	4溝
36	B 4	1	425 - 412	楕円形	0.29×0.23×0.13	
37	B 4	1	427 - 413	楕円形	0.28×0.18×0.17	
38	B 4	1	428 - 413	楕円形	0.34×0.28×0.16	
39	B 4	1	428 - 414	楕円形	0.43×0.22×0.18	4溝
40	B 4	1	419 - 415	楕円形	0.23×0.23×0.09	1上
41	B 4	1	457 - 394	不明	0.67×(0.27)×0.28	6上
42	B 4	1	461 - 392	楕円形	0.47×0.34×0.15	
43	B 4	1	458 - 392	楕円形	0.28×0.25×0.11	
44	B 4	1	459 - 393	楕円形	0.51×0.42×0.52	
45	B 4	1	458 - 393	楕円形	0.33×0.31×0.22	
46	B 4	1	457 - 393	楕円形	0.34×0.29×0.59	
47	B 4	1	455 - 394	楕円形	0.29×0.20×0.27	7上
48	B 4	1	454 - 395	楕円形	0.48×0.40×0.17	
49	B 4	1	454 - 395	楕円形	0.39×0.37×0.20	
50	B 4	1	454 - 393	楕円形	(0.55)×0.57×0.23	P58
51	B 4	1	459 - 393	楕円形	0.44×0.35×0.40	
52	B 4	1	457 - 394	楕円形	0.42×0.38×0.13	P72
53	B 4	1	456 - 393	楕円形	0.35×0.27×0.07	
54	B 4	1	450 - 394	不明	(0.86)×(0.68)×0.33	6溝
55	B 4	1	453 - 391	楕円形	0.51×0.46×0.20	18穴付
56	B 4	1	458 - 390	不明	×(0.28)×0.10	9上
57	B 4	1	455 - 395	楕円形	0.48×0.35×0.23	7上
58	B 4	1	454 - 393	楕円形	0.58×0.48×0.20	P50
59	B 4	1	452 - 389	楕円形	0.57×0.44×0.55	
60	B 4	1	454 - 394	楕円形	0.35×0.31×0.09	
61	B 4	1	455 - 387	楕円形	0.54×0.39×0.09	
62	B 4	1	452 - 388	楕円長方形	0.64×0.43×0.20	8溝
63	B 4	1	452 - 387	楕円形	0.41×0.37×0.30	
64	B 4	1	451 - 388	楕円形	0.51×0.30×0.15	
65	B 4	1	450 - 387	楕円形	0.40×0.38×0.60	
66	B 4	1	452 - 385	楕円形	(0.44)×0.42×0.68	
67	B 4	1	456 - 391	楕円形	0.58×0.43×0.46	
68	B 4	1	455 - 388	楕円形	0.86×0.75×0.27	12上

番号	区	画	グリッド	形状	長軸×短軸×深さ(m)	備考(重複)
69	B 4	1	451 - 387	楕円形	0.51×0.29×0.08	
70	B 4	1	454 - 393	楕円形	0.45×0.34×0.41	18上
71	B 4	1	455 - 388	楕円形	0.42×0.28×0.14	12上
72	B 4	1	457 - 394	楕円形	0.49×0.46×0.30	P52
73	B 4	2	449 - 386	楕円形	0.30×0.25×0.18	
74	B 4	2	450 - 387	楕円形	0.25×0.23×0.24	
75	B 4	2	451 - 387	楕円形	0.44×0.39×0.20	
76	B 4	2	453 - 386	楕円形	0.32×0.25×0.20	
77	B 4	2	452 - 386	楕円形	0.39×0.35×0.30	
78	B 4	2	452 - 387	楕円形	0.42×0.35×0.32	
79	B 4	2	452 - 387	楕円形	0.30×(0.22)×0.13	P80
80	B 4	2	453 - 387	楕円形	0.27×0.23×0.27	P79
81	B 4	2	455 - 386	楕円形	0.37×0.28×0.18	
82	B 4	2	454 - 388	楕円形	0.36×0.30×0.22	
83	B 4	2	454 - 388	楕円形	0.27×0.21×0.18	
84	B 4	2	454 - 388	楕円形	0.28×0.27×0.14	
85	B 4	2	454 - 389	楕円形	0.32×0.25×0.27	
86	欠番					
87	B 4	2	455 - 391	楕円形	0.31×0.31×0.45	
88	B 4	2	459 - 389	楕円形	0.41×0.31×0.23	
89	欠番					
90	B 4	2	458 - 393	楕円形	0.32×0.30×0.21	
91	B 4	2	457 - 394	楕円形	0.36×0.21×0.14	
92	欠番					
93	B 4	2	457 - 392	楕円形	0.36×0.25×0.15	
94	B 4	2	455 - 393	楕円形	0.49×0.45×0.28	
95	B 4	2	454 - 392	楕円形	0.41×0.37×0.27	土師磁片
96	欠番					
97	B 4	2	457 - 391	楕円形	0.41×0.27×0.12	
98	B 4	2	462 - 397	楕円形	0.33×0.29×0.34	
99	B 4	2	461 - 398	楕円形	0.27×0.23×0.12	
100	B 4	2	461 - 398	楕円形	0.31×0.30×0.19	
101	B 4	2	460 - 397	楕円形	0.50×0.32×0.24	
102	B 4	2	458 - 397	楕円形	0.36×0.28×0.34	
103	B 4	2	458 - 397	楕円形	0.44×0.38×0.53	
104	B 4	2	455 - 395	楕円形	0.27×0.22×0.16	
105	B 4	2	459 - 392	楕円形	0.27×0.25×0.25	16上
106	B 4	2	456 - 396	楕円形	0.47×0.34×0.28	
107	欠番					
108	B 4	2	456 - 397	楕円形	0.68×0.38×0.28	
109	B 4	2	460 - 396	楕円形	0.37×0.28×0.06	
110	B 4	2	459 - 396	楕円形	0.21×0.21×0.13	
111	B 4	2	460 - 398	楕円形	0.37×0.21×0.07	
112	B 5	2	434 - 451	楕円形	0.38×0.21×0.23	
113	B 5	2	435 - 452	楕円形	0.32×0.27×0.34	
114	B 5	2	438 - 449	楕円形	0.41×0.37×0.36	陶磁器
115	B 5	2	439 - 449	楕円形	0.31×0.27×0.28	
116	B 5	2	444 - 449	楕円形	0.20×0.18×0.15	
117	B 5	2	443 - 446	楕円形	0.21×0.21×0.22	
118	B 5	2	444 - 445	楕円形	0.26×0.24×0.18	
119	B 5	2	445 - 445	楕円形	0.25×0.21×0.31	
120	B 5	2	443 - 444	楕円形	0.52×0.38×0.38	P121
121	B 5	2	443 - 444	楕円形	(0.18)×0.35×0.27	
122	B 5	2	442 - 445	楕円形	0.28×0.26×0.21	P142
123	B 5	2	442 - 445	楕円形	0.23×0.23×0.26	
124	B 5	2	442 - 444	楕円形	0.26×0.27×0.24	
125	B 5	2	442 - 444	楕円形	0.34×0.33×0.32	
126	B 5	2	437 - 453	楕円形	0.39×0.33×0.27	
127	B 5	2	436 - 454	楕円形	0.32×0.27×0.23	
128	B 5	2	436 - 453	楕円形	0.69×0.40×0.18	
129	B 5	2	436 - 454	楕円形	0.36×0.29×0.16	
130	B 5	2	436 - 453	楕円形	0.34×0.27×0.24	
131	B 5	2	436 - 453	楕円形	0.29×0.26×0.20	
132	B 5	2	436 - 453	楕円形	0.25×0.21×0.19	
133	B 5	2	436 - 453	楕円形	0.27×0.24×0.14	
134	B 5	2	433 - 451	楕円形	0.43×0.36×0.33	
135	B 5	2	434 - 449	楕円形	0.25×0.19×0.05	
136	B 5	2	436 - 450	楕円形	0.25×0.17×0.17	

番号	区	画	グリッド	形状	長軸×短軸×深さ(μm)	備考(重視)
137	B 5	2	435 - 448	楕円形	0.24×0.16×0.12	
138	B 5	2	435 - 448	楕円形	0.21×0.16×0.09	
139	B 5	2	440 - 452	楕円形	0.46×0.34×0.24	P140
140	B 5	2	440 - 452	楕円形	0.16]×0.27×0.23	P139
141	B 5	2	439 - 452	楕円形	0.34×0.29×0.17	
142	B 5	2	440 - 452	楕円形	0.32×0.24×0.28	
143	B 5	2	439 - 451	楕円形	0.23×0.20×0.21	
144	B 5	2	439 - 451	楕丸長方形	0.44×0.31×0.34	
145	B 5	2	439 - 450	楕丸長方形	0.37×0.28×0.23	
146	B 5	2	437 - 448	楕円形	0.33×0.26×0.33	
147	B 5	2	439 - 448	楕円形	0.22×0.17×0.24	
148	B 5	2	440 - 449	楕円形	0.30×0.24×0.26	
149	B 5	2	442 - 450	楕円形	0.27×0.18×0.35	
150	B 5	2	442 - 450	楕円形	0.38×0.28×0.50	
151	B 5	2	442 - 450	楕円形	0.33×0.27×0.27	
152	B 5	2	443 - 450	楕円形	0.30×0.26×0.17	
153	B 5	2	443 - 450	楕円形	0.45×0.39×0.36	
154	B 5	2	443 - 450	楕円形	0.46×0.30×0.20	
155	B 5	2	442 - 448	楕円形	0.26×0.22×0.14	
156	B 5	2	441 - 448	楕円形	0.30×0.25×0.17	
157	B 5	2	441 - 448	楕円形	0.30×0.18×0.11	
158	B 5	2	440 - 447	楕円形	0.25×0.20×0.12	
159	B 5	2	440 - 447	楕丸長方形	0.15×0.11×0.08	
160	B 5	2	439 - 447	楕円形	0.31×0.24×0.20	
161	B 5	2	440 - 447	楕丸長方形	0.20×0.16×0.13	
162	B 5	2	439 - 447	楕円形	0.21×0.20×0.20	
163	B 5	2	439 - 447	楕円形	0.31×0.26×0.17	
164	B 5	2	438 - 444	楕円形	0.35×0.19×0.14	
165	B 5	2	444 - 446	楕円形	0.37×0.32×0.21	
166	B 5	2	444 - 446	楕円形	0.25×0.19×0.15	
167	B 5	2	444 - 445	楕円形	0.35×0.33×0.28	
168	B 5	2	443 - 444	楕円形	0.27×0.22×0.16	
169	B 5	2	444 - 444	楕円形	0.28×0.22×0.27	
170	B 5	2	443 - 444	楕円形	0.17×0.14×0.06	
171	B 5	2	443 - 444	楕円形	0.28×0.24×0.12	
172	B 5	2	442 - 444	楕円形	0.27×0.25×0.34	
173	B 5	2	441 - 444	楕円形	0.32×0.20×0.11	
174	B 5	2	442 - 444	楕円形	0.25×0.19×0.11	
175	B 5	2	442 - 445	楕円形	0.25×0.20×0.18	
176	B 5	2	442 - 445	楕円形	0.21×(0.15)×0.07	P177・178
177	B 5	2	442 - 445	楕円形	(0.19)×0.23×0.09	P176・178
178	B 5	2	442 - 445	楕円形	0.25×0.19×0.09	P176・177
179	B 5	2	441 - 445	楕円形	0.26×0.23×0.09	
180	B 5	2	441 - 445	楕円形	0.19×0.15×0.21	
181	B 5	2	440 - 446	楕円形	0.24×0.24×0.09	
182	B 5	2	431 - 451	楕円形	0.37×0.32×0.22	
183	B 5	2	432 - 450	楕円形	0.49×0.43×0.17	
184	B 5	2	434 - 445	楕円形	0.31×0.30×0.10	
185	B 5	2	434 - 445	楕円形	0.38×0.30×0.21	
186	B 5	2	436 - 441	楕円形	0.27×0.16×0.07	
187	B 5	2	436 - 441	楕円形	0.32×0.30×0.14	
188	B 5	2	436 - 440	楕円形	0.51×0.41×0.09	16溝
189	B 5	2	436 - 449	楕円形	0.30×0.25×0.04	
190	B 5	3	409 - 453	楕円形	0.35×0.31×0.26	
191	B 5	3	411 - 451	楕円形	0.43×0.35×0.53	
192	B 5	3	443 - 447	楕円形	0.45×0.42×0.38	
193	B 5	3	440 - 445	楕円形	0.39×0.35×0.31	
194	B 5	3	406 - 451	楕円形	0.30×0.28×0.32	
195	B 5	3	434 - 454	楕円形	0.31×0.29×0.26	
196	B 5	3	437 - 445	楕円形	0.53×0.50×0.32	P271
197	B 5	3	431 - 450	楕円形	0.35×0.33×0.23	
198	B 5	3	431 - 450	楕円形	0.32×0.26×0.17	36上
199	B 5	3	430 - 449	楕円形	0.35×0.26×0.45	
200	B 5	3	431 - 449	楕円形	0.43×0.36×0.25	
201	B 5	3	408 - 453	楕円形	0.38×0.33×0.14	
202	B 5	3	408 - 452	楕円形	0.16×0.14×0.13	
203	B 5	3	406 - 450	楕円形	(0.25)×0.41×0.13	P260
204	B 5	3	408 - 451	楕円形	0.52×0.42×0.28	
205	B 5	3	408 - 450	楕円形	0.53×0.33×0.41	

番号	区	画	グリッド	形状	長軸×短軸×深さ(μm)	備考(重視)
206	B 5	3	438 - 449	楕円形	0.27×0.20×0.07	
207	B 5	3	412 - 450	楕円形	0.25×0.18×0.09	
208	B 5	3	438 - 447	楕円形	0.39×0.26×0.23	
209	B 5	3	439 - 447	楕円形	0.35×0.28×0.12	
210	B 5	3	439 - 445	楕円形	0.34×0.26×0.21	
211	B 5	3	434 - 451	楕丸方形	0.26×0.24×0.09	
212	B 5	3	435 - 448	楕円形	0.34×0.21×0.27	
213	B 5	3	432 - 449	楕丸方形	0.26×0.26×0.10	
214	B 5	3	431 - 449	楕円形	0.22×0.16×0.10	
215	B 5	3	430 - 449	楕円形	0.27×0.27×0.15	
216	B 5	3	431 - 448	楕円形	0.33×0.28×0.22	
217	B 5	3	432 - 448	楕円形	0.40×0.38×0.27	
218	B 5	3	432 - 446	楕丸方形	0.27×0.27×0.20	
219	B 5	3	433 - 443	楕円形	0.27×0.21×0.31	
220	B 5	3	429 - 446	楕円形	0.31×0.26×0.11	
221	B 5	3	427 - 446	楕円形	0.28×0.27×0.12	
222	B 5	3	426 - 445	楕円形	0.21×0.18×0.04	
223	B 5	3	430 - 441	楕円形	0.27×0.25×0.33	
224	B 5	3	424 - 443	楕円形	0.44×0.32×0.32	
225	B 5	3	432 - 453	楕円形	0.41×0.33×0.12	
226	B 5	3	428 - 449	楕円形	0.40×0.33×0.25	
227	B 5	3	434 - 447	楕円形	0.28×0.27×0.18	
228	B 5	3	431 - 444	楕円形	0.28×0.25×0.20	
229	B 5	3	430 - 443	楕円形	0.38×0.33×0.31	
230	B 5	3	426 - 445	楕円形	0.46×0.42×0.20	
231	B 5	3	426 - 445	楕円形	0.34×0.26×0.08	
232	B 5	3	428 - 449	楕円形	0.43×0.40×0.28	
233	B 5	3	430 - 450	楕円形	0.49×0.44×0.31	P234
234	B 5	3	430 - 450	楕円形	0.34]×0.32×0.17	P233
235	B 5	3	436 - 452	楕円形	0.57×0.50×0.31	
236	B 5	3	411 - 451	楕円形	0.38×0.35×0.42	
237	B 5	3	412 - 450	楕円形	0.23×0.19×0.12	
238	B 5	3	409 - 451	楕円形	0.24×0.19×0.08	
239	B 5	3	410 - 451	楕円形	0.29×0.27×0.17	
240	B 5	3	409 - 451	楕円形	0.48×0.26×0.09	
241	B 5	3	439 - 449	楕円形	0.20×0.18×0.09	
242	B 5	3	439 - 449	楕円形	0.20×0.17×0.24	
243	B 5	3	438 - 447	楕円形	0.40×0.31×0.26	
244	B 5	3	438 - 446	楕円形	0.36×0.29×0.27	
245	B 5	3	406 - 453	楕円形	0.30×0.27×0.10	
246	B 5	3	435 - 453	楕円形	0.47×0.42×0.41	
247	B 5	3	435 - 453	楕円形	0.39×0.39×0.18	P248
248	B 5	3	435 - 453	楕円形	(0.16)××0.11	P247
249	B 5	3	434 - 453	楕円形	0.42×0.40×0.15	
250	B 5	3	434 - 452	楕円形	0.27×0.22×0.28	
251	B 5	3	434 - 453	楕円形	0.18×0.16×0.07	
252	B 5	3	433 - 453	楕円形	0.36×0.31×0.11	P253
253	B 5	3	433 - 453	楕円形	0.19×0.26×0.07	P252
254	B 5	3	433 - 453	楕円形	0.33×0.20×0.08	
255	B 5	3	434 - 452	楕円形	0.60×0.45×0.24	
256	B 5	3	435 - 451	楕円形	0.43×0.35×0.18	
257	B 5	3	435 - 450	楕円形	0.30×0.29×0.15	
258	B 5	3	435 - 450	楕円形	0.30×0.23×0.13	
259	B 5	3	406 - 450	楕円形	0.34×0.31×0.31	
260	B 5	3	406 - 450	楕円形	0.51×0.44×0.45	石製品
261	B 5	3	437 - 449	楕円形	0.29×0.24×0.12	
262	B 5	3	437 - 449	楕円形	0.20×0.16×0.14	
263	B 5	3	437 - 448	楕円形	0.46×0.41×0.61	
264	B 5	3	435 - 449	楕円形	0.34×0.26×0.09	
265	B 5	3	435 - 449	楕円形	0.34×0.25×0.13	
266	B 5	3	435 - 448	楕円形	0.36×0.31×0.29	
267	B 5	3	436 - 447	楕円形	0.34×0.27×0.17	
268	B 5	3	435 - 447	楕円形	0.33×0.28×0.30	
269	B 5	3	435 - 446	楕円形	0.48×0.36×0.24	
270	B 5	3	437 - 446	楕円形	0.25×0.15×0.19	
271	B 5	3	437 - 445	楕円形	(0.51)×0.52×0.09	P196
272	B 5	3	432 - 452	楕円形	0.53×0.39×0.43	
273	B 5	3	431 - 451	楕円形	0.60×0.51×0.34	
274	B 5	3	431 - 451	楕円形	0.47×0.33×0.33	

ビット計測表

番号	区	面	グリッド	形状	長軸×短軸×深さ(m)	備考(重複)
275	B 5	3	406・-450	楕円形	0.41×0.37×0.21	
276	B 5	3	408・-450	楕円形	0.20×0.18×0.08	
277	B 5	3	439・-445	楕円形	0.13×0.10×0.11	
278	B 5	6	434・-448	楕円形	0.35×0.26×0.20	
279	B 5	6	434・-447	楕円形	0.32×0.29×0.14	
280	B 5	6	436・-445	楕円形	0.33×0.27×0.19	
281	B 5	6	432・-444	楕円形	0.35×0.34×0.10	
282	B 5	6	429・-441	楕円形	0.49×0.32×0.20	
283	B 5	6	429・-441	不整形	0.79×0.44×0.18	
284	B 5	2	445・-446	楕円形	0.53×0.52×0.15	
285	B 5	2	438・-448	楕円形	0.36×0.28×0.30	

## 遺物観察表

## A2区1面1号溝出土遺物

種別 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第13期 PL.48	1	製作地不詳 陶器 ミニチュア (徳利)	完形	口 底	1.0 2.2	高 —	5.5 —	—/浅黄橙/—	横断面6角形。平坦面には放射状の文様を2段に配す。口縁部内面から体部外面下位縁輪。型作り。1面に直径1.5mmの焼成後小円孔1カ所。
第13期	2	肥前磁器 染付丸碗	— 口縁部1/4	口 底	(9.6) —	高 —	—	—/白/—	外面梅と竹文か。内面無文。
第13期 PL.48	3	瀬戸・美濃 磁器 染付小丸碗	— 口縁部1/4、 底部1/2	口 底	(8.6) (3.0)	高 —	5.1 —	—/白/—	口縁部歪む。外面植物文。内面無文。
第13期	4	肥前磁器 染付碗	— 体部一部、 底部3/4	口 底	— 3.4	高 —	—	—/白/—	腰部染付。残存部体部外面無文。見込み2重圏線内に五弁花。
第13期 PL.48	5	肥前磁器 染付小丸碗	— 口縁部1/4、 底部1/2底部完	口 底	(8.5) 2.9	高 —	5.9 —	—/白/—	外面植物文。口縁部内面四方禪文。見込み2重圏線内に五弁花。
第13期	6	肥前磁器 青磁染付筒形碗	— 体部一部、 底部完	口 底	— 3.6	高 —	—	—/白/—	体部外面から高台内青磁輪。口縁部内面四方禪文。見込み2重圏線内にコンニャク判による五弁花。
第13期 PL.48	7	肥前磁器 染付筒形碗	— 1/3	口 底	(8.0) (4.0)	高 —	6.8 —	—/白/—	外面矢羽根文下に鬚筒状文。口縁部内面四方禪文。見込み2重圏線。腰部外面無文。
第14期	8	肥前磁器 染付碗	— 体部下位1/4、 底部完	口 底	— 3.5	高 —	—	—/白/—	外面雪輪梅樹文か。内面無文。
第14期 PL.48	9	肥前磁器 染付碗	— 1/3	口 底	(9.6) (3.8)	高 —	5.2 —	—/白/—	外面雪輪梅樹文；高台内不明跡。内面無文。
第14期	10	肥前磁器 染付碗	— 口縁部一部、 底部完	口 底	(9.5) 4.0	高 —	5.2 —	—/灰白/—	外面雪輪梅樹文。高台内不明跡。内面無文。
第14期 PL.48	11	肥前磁器 染付碗	— 口縁部1/4、 底部完	口 底	(9.8) 3.6	高 —	5.3 —	—/白/—	焼成不良で内面や外面の一部淡黄色を帯びる。貫入入る。外面二重編目文、内面と高台内無文。
第14期	12	瀬戸・美濃 磁器 染付広底碗	— 下半1/4	口 底	— (4.6)	高 —	—	—/白/—	外面山水文。見込み1重圏線内に不明文様。
第14期	13	京・信楽系 陶器 小杉碗	— 下半1/4	口 底	— (3.4)	高 —	—	—/淡黄/—	高台脇水平に削る。体部外面下位鉄粒。内面から体部外面下端灰輪。
第14期	14	京・信楽系 陶器 碗	— 口縁部1/4、 底部完	口 底	8.8 3.0	高 —	5.1 —	—/淡黄/—	口縁部外反。内面から高台脇透明輪。貫入入る。
第14期	15	肥前陶器 京焼風碗	— 体部下位1/4、 底部1/2	口 底	(5.5) —	高 —	—	—/黄灰/—	外面の山水文不明跡。山水文は染付。内面から高台脇透明輪。腿かい貫入入る。高台内中央に篆書体「雲」字押印跡。
第14期 PL.48	16	肥前陶器 陶胎染付碗	— 1/4	口 底	(9.4) (4.0)	高 —	7.0 —	—/灰/—	口縁部外面2重圏線。体部外面山水文。内面無文。高台端部を除き透明輪。貫入入る。
第14期 PL.48	17	肥前陶器 陶胎染付碗	— 1/3	口 底	(9.9) (4.6)	高 —	6.3 —	—/灰/—	口縁部外面簡略化した四方禪文。体部外面簡略化した山水文か。内面無文。高台端部を除き透明輪。貫入入る。腰部外面擦れにより赤地露出。
第14期 PL.48	18	肥前陶器 陶胎染付碗	— 1/3	口 底	(10.2) (4.8)	高 —	7.5 —	—/灰/—	口縁部外面2重圏線。体部外面簡略化した唐草文。内縁無文。高台端部を除き透明輪。貫入入る。
第14期 PL.48	19	肥前陶器 刷毛目碗	— 口縁部1/4、 底部1/3	口 底	(12.2) (4.4)	高 —	5.5 —	—/にぶい黄橙/—	口縁部歪む。外外面白土刷毛目。高台端部を除き透明輪。貫入入る。
第14期	20	瀬戸・美濃 陶器 鉄筋碗	— 体部以下	口 底	— 5.0	高 —	—	—/灰白/—	外面口縁部下4条の螺旋状凹輪。内面灰輪。外面錆色の鉄輪。高台端部無輪。灰輪に貫入入る。
第14期	21	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	— 口縁部～ 体部1/3	口 底	(10.8) —	高 —	—	—/浅黄/—	外面口縁部以下回転削り。内面から体部外面下位底輪。口縁部に墓灰輪薄く掛かる。
第14期	22	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗か	— 体部下位以下	口 底	— 4.3	高 —	—	—/浅黄/—	高台径小さい。内面から体部外面下位付近底輪。見込みに墓灰輪掛かる。
第14期	23	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗か	— 体部下位1/2、 底部完	口 底	— 4.9	高 —	—	—/黄灰/—	外面回転削り。内面から体部外面下位付近底輪。高台部鉄化粧。
第14期	24	肥前磁器 染付鉢	— 体部下位以下 1/3	口 底	— (5.8)	高 —	—	—/白/—	体部外面から高台外面にかけて植物文。残存部内面無文。貫入入る。
第14期	25	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿	— 1/4	口 底	(10.6) (5.0)	高 —	2.4 —	—/淡黄/—	口縁部外面以下回転削り。筋輪軸輪後、体部外面下位以下の輪を扱う。

遺物観察表

持 図 PL.No.	No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第14図 PL.48	26	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿	— 口縁部1/3、 底部1/2	口 底 (9.8) 4.0	高 — 2.2 —	—/灰白/—	口縁部外面以下回転施り。踏輪面輪後、体部外面中位以下の輪をたう。底部外面周縁と見込み輪の重ね焼き直。
第14図 PL.48	27	志戸内陶器 灯火皿	— 2/3	口 底 10.5 4.8	高 — 2.1 —	—/に、赤い濁/—	口縁部外面以下回転施り。内面から口縁部外面踏輪。
第14図 PL.48	28	京・信楽系 陶器 灯火皿	— 1/2	口 底 (10.3) 3.6	高 — 2.3 —	—/灰白/—	底部外面回転施り。内面から口縁部外面踏輪。貫入入。内面目皿2箇所残存。
第14図	29	京・信楽系 陶器 灯火皿	— 1/4	口 底 (10.4) (4.0)	高 — 2.5 —	—/灰白/—	内面3本一単位の様目1箇所。口縁部外面以下回転施り。内面から口縁部外面透明釉。細かい貫入入。内面目皿1箇所。
第14図	30	瀬戸・美濃 陶器 灯火受皿	— 1/3	口 底 (10.2) (4.6)	高 — 2.3 —	—/灰/—	横に「U」字状の浅り。内面から体部外面下位踏輪。口縁部内面に黒色物付着。
第14図	31	肥前磁器 白磁皿か	— 口縁部1/8、 底部1/3	口 底 (10.3) (3.9)	高 — 2.8 —	—/灰白/—	残存部無文。内面から高台胎透明釉。見込み蛇の目輪割ぎ。
第14図	32	肥前陶器 青緑釉皿	— 口縁部欠	口 底 4.4	高 — —	—/灰オリーブ/—	高台胎以下回転施りて施りて境をなす。内面青緑釉。外面高台胎以下を除き透明釉。見込み蛇の目輪割ぎ。輪割ぎ部と高台端部に目皿4箇所。
第14図	33	肥前陶器 青緑釉皿	— 1/4	口 底 (13.0)	高 — —	—/灰白/—	内面から口縁部外面青緑釉。口縁部外面以下透明釉。
第14図 PL.48	34	肥前陶器 京焼風皿	— 体部下位以下 1/2	口 底 (10.4)	高 — —	—/灰白/—	見込み山水文。内面から高台胎透明釉。細かい貫入入。
第14図	35	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 1/4	口 底 (10.9) (6.0)	高 — 2.8 —	—/浅黄/—	体部から口縁部内湾。外面口縁部以下回転施り。内面から高台胎付近灰釉。見込み輪状の重ね焼き直。
第14図	36	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 1/3	口 底 (12.7) (6.0)	高 — 2.4 —	—/灰白/—	口縁部外面の器厚を減じ、外面が外反するように見える。口縁部上面面取りに近い形状。外面口縁部下回転施り。内面から口縁部外面付近灰釉。見込み輪状の重ね焼き直。
第14図 PL.48	37	瀬戸・美濃 陶器 鉄絵皿	— 1/3	口 底 (10.8) (6.4)	高 — 2.4 —	—/灰白/—	口縁部小さく外反。見込み鉄絵。内外面灰釉。貫入入。高台内目皿1箇所。
第15図	38	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 1/3	口 底 (13.8) (7.2)	高 — 3.2 —	—/淡黄/—	口縁部小さく外反。外面口縁部下回転施り。内面から体部中位付近灰釉。見込み輪状の重ね焼き直。
第15図	39	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 口縁部1/3、 底部2/3	口 底 (13.1) 6.6	高 — 3.1 —	—/浅黄/—	口縁部外面の器厚を減じて外反するように見える。内面から体部外面下位付近灰釉。見込み目皿2箇所残存。
第15図 PL.48	40	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 口縁部1/3欠	口 底 10.7 5.6	高 — 2.3 —	—/浅黄/—	器壁やや厚い。口縁部外面の器厚を減じて外反するように見える。外面中位以下回転施り。内面から体部外面下位付近灰釉。見込み輪状の重ね焼き直。
第15図 PL.48	41	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 1/2	口 底 (12.8) 7.0	高 — 2.5 —	—/灰白/—	口縁部外面の器厚を減じて外反するように見える。外面中位以下回転施り。高台薄い。内面から外面中位灰釉。
第15図 PL.48	42	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 口縁部1/3、 底部1/2	口 底 (12.9) 7.4	高 — 3.0 —	—/灰白/—	底部器壁厚い。体部から口縁部直線的に立ち上がる。内面から体部外面下位付近灰釉。輪の殆どは白濁。見込み目皿2箇所残存。
第15図 PL.48	43	瀬戸・美濃 陶器 輪光皿	— 口縁部1/2、 底部完	口 底 12.5 7.2	高 — 2.8 —	—/灰白/—	口縁部小さく外反。内面から高台胎灰釉。見込み輪状の輪割ぎ。
第15図	44	瀬戸・美濃 陶器 菊皿	— 底部完	口 底 7.6	高 — —	—/黄灰/—	体部内面菊花文。内面から体部外面下位灰釉。貫入入。胎付高台。
第15図 PL.48	45	瀬戸・美濃 陶器 菊皿	— 完形	口 底 12.8 7.3	高 — 3.3 —	—/淡黄/—	内面は中心部まで花卉を入れるが外面は無文。内面から体部外面中位付近まで灰釉。内面踏輪輪流す。見込み目皿3箇所。
第15図 PL.48	46	製作地不詳 陶器 ミニチュア か(徳利)	— 口縁部、 体部上位1/4欠	口 底 2.4	高 — —	—/橙/—	備前風徳利。3方を凹ませ、1箇所に人形？を胎付。
第15図	47	瀬戸・美濃 陶器 小香炉	— 口縁部～体部 1/4	口 底 (5.0)	高 — —	—/灰白/—	口縁部内側に突き出る。口縁部内面から体部外面灰釉。貫入入。
第15図	48	瀬戸・美濃 陶器 小香炉	— 体部下位以下 1/2	口 底 2.8	高 — —	—/灰白/—	体部外面灰釉。内面と高台端以下無釉。
第15図 PL.48	49	瀬戸・美濃 陶器 筒形香炉	— 1/3	口 底 (8.4) (6.5)	高 — 4.3 —	—/灰白/—	外面輪縁目皿部。底部円錐状の胎付脚。脚1箇所残存。口縁部内面から体部外面灰釉。
第15図	50	瀬戸・美濃 陶器 筒形香炉	— 体部下位以下 1/3	口 底 (8.3)	高 — —	—/浅黄/—	体部外面下縁をなす。底部外面胎付脚2箇所残存。体部外面踏色の鉄輪。

採 掘 PL. No.	No.	種 類 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/灰成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第15層 PL. 48	51	瀬戸・美濃 陶器 不詳	— 1/3	口 底 — — — — (16.0)	高 — — — — — / 淡黄 / —	口縁部と体部外面下位に凹線。残存部内外面灰釉。部分的に副縁輪車らす。貫入入る。	
第15層 PL. 48	52	前橋窯窯か 土瓶か	— 一部破片	口 底 — — — — (8.0)	高 — — — — — / にぶい橙 / —	胎土やや粗い。外面ビンホール状の凹部が残る鉄軸。釉に強い光沢。内面と体部下位無軸。	前橋窯窯製品か。
第15層 PL. 48	53	前橋窯窯か 土瓶か	— 一部破片	口 底 — — — — (8.0)	高 — — — — — / にぶい橙 / —	胎土やや粗い。外面ビンホール状の凹部が残る鉄軸。釉に強い光沢。内面無軸。	前橋窯窯製品か。
第15層 PL. 48	54	前橋窯窯か 土瓶か	— 一部破片	口 底 — — — — (8.0)	高 — — — — — / にぶい橙 / —	胎土やや粗い。外面ビンホール状の凹部が残る鉄軸。釉に強い光沢。内面と体部下位無軸。	前橋窯窯製品か。
第15層 PL. 48	55	古瀬戸陶器 平腹	— 一部破片	口 底 — — — — (10.6)	高 — — — — — / 灰白 / —	外面縦樋口。内面から体部外面下位灰釉。	中世。
第15層 PL. 48	56	瀬戸・美濃 陶器 瓶	— 口縁部1/2、 頸部完	口 底 — — — — (13.0)	高 — — — — — / 淡黄 / —	頸部に耳貼付。内外面磨軸。	
第15層 PL. 48	57	瀬戸・美濃 陶器 不詳	— 口縁部1/8	口 底 — — — — (8.0)	高 — — — — — / 灰白 / —	口縁部内湾。内外面磨軸の鉄軸。	
第15層 PL. 48	58	瀬戸・美濃 陶器 不詳	— 体部下位～ 底部1/4	口 底 — — — — (12.0)	高 — — — — — / 淡黄 / —	体部外面下位磨軸。内面無軸。	
第15層 PL. 48	59	瀬戸・美濃 陶器 耳壺	— 口縁部～ 体部下位1/3	口 底 — — — — (12.0)	高 — — — — — / 淡黄 / —	肩部の耳は2箇所か3箇所。肩部内面から体部外面下段鉄軸。	
第15層 PL. 48	60	前橋窯窯陶器 すり鉢	— 口縁部片	口 底 — — — — (10.6)	高 — — — — — / 淡黄緑 / —	口縁部縁帯をなし、口縁部内面と口縁部下各1条の凹線。すり目は口縁部横溝後に施す。体部外面上位以下凹線附り。	前橋窯窯製品。
第15層 PL. 48	61	丹波陶器か すり鉢	— 口縁部片	口 底 — — — — (8.0)	高 — — — — — / 褐灰 / —	口縁部肥厚し、断面三角形を呈する。内面口縁部下段灰。内外面薄く鉄軸。	
第16層 PL. 48	62	堺陶器 すり鉢	— 口縁部片	口 底 — — — — (8.0)	高 — — — — — / 橙 / —	体部外面凹転流附り。口縁部内面の凸部明瞭。無軸。	
第16層 PL. 48	63	丹波陶器か すり鉢	— 口縁部片	口 底 — — — — (10.6)	高 — — — — — / 黄灰 / —	口縁部から内面鉄泥薄く掛ける。内面すり目の後口縁部凹転横溝。	
第16層 PL. 48	64	瀬戸陶器 すり鉢	— 口縁部片	口 底 — — — — (10.6)	高 — — — — — / 灰白 / —	口縁部外面に折り返し肥厚。内外面磨軸。	
第16層 PL. 48	65	常滑陶器 費か	— 口縁部片	口 底 — — — — (9.0)	高 — — — — — / 灰褐色 / 橙 / —	断面灰褐色から橙色。器表面灰褐色。口縁部「N」字状。外面押印。	中世。
第16層 PL. 48	66	常滑陶器 費か	— 一部破片	口 底 — — — — (9.0)	高 — — — — — / 灰白 / —	断面灰白色。内面器表にぶい黄褐色。外面自然輪掛かる。	中世。
第16層 PL. 48	67	常滑陶器 費か	— 肩部片	口 底 — — — — (9.0)	高 — — — — — / 黄灰 / —	断面から内面器表灰褐色。外面器表面褐色。外面押印。	中世。
第16層 PL. 48	68	常滑陶器 費か	— 肩部片	口 底 — — — — (9.0)	高 — — — — — / 褐灰 / —	断面灰色。内面器表面褐色。外面器表面灰白色。外面自然輪剥落。	中世。
第16層 PL. 48	69	常滑陶器 費か	— 体部下位片	口 底 — — — — (4.8)	高 — — — — 0.8 — / 橙 / — (3.4)	断面中央褐色。器表付近褐色。外面器表にぶい赤褐色。内面器表灰黄褐色。	中世。
第16層 PL. 48	70	在地系土器 片口鉢	— 一部下位～ 底部片	口 底 — — — — (9.0)	高 — — — — 2.2 — / にぶい橙 / — (6.0)	小型品で胎土精良。底部回転系切無調整。体内内湾。底部回転系切無調整。	
第16層 PL. 48	71	在地系土器 片口鉢	— 口縁部片	口 底 — — — — (9.0)	高 — — — — — / 灰 / — (6.0)	器壁厚く口縁部短い。口縁部内湾。還元炎焼成。	中世。
第16層 PL. 48	72	在地系土器 内耳鍋	— 口縁部片	口 底 — — — — (9.0)	高 — — — — — / 灰 / — (6.0)	器壁厚く口縁部短い。口縁部内湾。還元炎焼成。	中世。
第16層 PL. 48	73	在地系土器 内耳鍋	— 口縁部片	口 底 — — — — (9.0)	高 — — — — — / 灰 / — (6.0)	還元炎焼成。片口鉢か内耳鍋の体部片。	中世。
第16層 PL. 48	74	在地系土器 片口鉢か	— 一部破片	口 底 — — — — (9.0)	高 — — — — — / にぶい黄橙 / — (6.0)	器表灰色。内面すり目。器表厚黄。	中世。
第16層 PL. 48	75	在地系土器 片口鉢	— 一部下位～ 底部片	口 底 — — — — (9.0)	高 — — — — — / 灰白 / — (6.0)	断面中央灰白色。器表付近にぶい黄褐色。器表黒色。器壁厚く口縁部短い。内耳は粘土紐を器壁に通して接合。	中世。
第16層 PL. 48	76	在地系土器 内耳鍋	— 口縁部片	口 底 — — — — (9.0)	高 — — — — — / 灰黄 / — (6.0)	器表厚黄。器壁薄く。口縁部長い。還元炎焼成。	中世。
第16層 PL. 48	77	在地系土器 内耳鍋	— 口縁部片	口 底 — — — — (9.0)	高 — — — — — / にぶい黄橙 / — (6.0)	断面にぶい黄褐色。器表黒色。口縁部強い横溝。口縁部端部小さく外反。端部内面明瞭な線をなす。外面煤付着。	
第16層 PL. 48	78	在地系土器 内耳鍋	— 口縁部片	口 底 — — — — (9.0)	高 — — — — — / 黒 / — (6.0)	断面中央黒色。器表付近から内面器表灰白色。口縁部外反し。内面は内湾状となる。外面煤付着。口縁部外面接合痕残る。	
第16層 PL. 48	79	在地系土器 内耳鍋	— 口縁部片	口 底 — — — — (9.0)	高 — — — — — / にぶい黄橙 / — (6.0)	断面中央黒色。断面から器表付近淡黄褐色。器表黒色。底部から体部外面煤付着。	
第16層 PL. 48	80	在地系土器 内耳鍋	— 一部下位～ 底部片	口 底 — — — — (9.0)	高 — — — — — / 褐灰 / — (6.0)	断面褐色。器表黒色。外面煤付着。体部外面下位指押さえ状の凹凸多い。内面調整丁寧。口縁部屈曲して開く。屈曲部内面線をなす。口縁部上面窪む。	
第17層 PL. 48	81	在地系土器 内耳鍋	— 口縁部～ 一部破片	口 底 — — — — (9.0)	高 — — — — — / 黒 / — (6.0)	断面中央黒色。器表付近にぶい黄褐色。器表黒褐色。口縁部内外面1条の凹線。口縁部内面から見込目周縁幅位の耳貼付。	
第17層 PL. 48	82	在地系土器 内耳鍋	— 口縁部～ 一部破片	口 底 — — — — (9.0)	高 — — — — — / 黒 / — (6.0)		

遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考				
第17図	83	在地系土器 焙烙	— 口縁部～ 底部片	口 底	— — — —	—/黒・淡黄/—	断面中央黒色。器表付近灰白色。器表黒色。器壁やや厚い、 外面中位接合痕残る。外面下位の型痕撫で消す。				
第17図	84	在地系土器 焙烙	— 口縁部～ 底部片	口 底	— — — —	—/褐灰/—	断面中央褐灰色。器表付近橙色。器表褐灰色。口縁部内面 から見込み周縁細線の耳貼付。				
第17図	85	在地系土器 焙烙	— 底部片	口 底	— — — —	—/褐灰/—	断面中央褐灰色。器表付近橙色から淡黄色。内面器表灰白色。 外面器表にぶい黄褐色。内面菊花状の印文。				
第17図 PL.48	86	在地系土器 焙烙	— 2/3	口 底	36.3 34.0	高 —	5.4 —	—/黒/—	断面中央黒色。器表付近灰白色。器表黒色から灰白色。外 面下位の型痕部凸あり。口縁部内面から見込み周縁の2 箇所に幅広い耳貼付。		
第17図	87	在地系土器 焙烙	— 1/3	口 底	38.0 33.6	高 —	5.4 —	—/黒/—	断面黒色。器表付近灰白色。器表灰白色から青灰色。口縁 部外面接合痕残る。体部外面下位型痕撫で消す。口縁部内 面から見込み周縁に幅広い耳貼付。耳貼付直上箇所残存。		
第17図	88	在地系土器 鉢	— 1/6	口 底	28.0 (25.5)	高 —	9.7 —	—/にぶい黄褐色/—	外面器表厚薄。口縁部内面回転痕撫。体部内面丁寧な調整。 口縁部の器壁が厚い部分の断面中央のみ青灰色。他はにぶ い黄褐色。		
第17図	89	須臾器 鏝	— 胴部小片	口 底	— —	— —	— —	— —	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	外面は平行叩き直。内面は同心円状ツギ具痕が残る。	
第17図 PL.49	90	石製品 砥石	— 2/3	長 幅	(7.8) 2.2	厚 重	1.2 36.3	—	—	研沢石/—/—	正面に砥面が認められる。裏面と内側面には磨面タガネ痕 が明瞭に残る。上部及び下部欠損。
第17図 PL.49	91	石製品 砥石	— 完形	長 幅	10.9 3.2	厚 重	2.4 101.3	—	—	研沢石/—/—	正面に砥面が認められ研ぎ減りにより山形を呈する。裏面 と内側面には磨面タガネ痕が残る。
第17図 PL.49	92	石製品 砥石	— 完形	長 幅	11.1 3.0	厚 重	2.8 160.7	—	—	研沢石/—/—	正面に砥面が認められる。裏面と内側面及び下部小口面 には磨面タガネ痕が僅かに残る。
第18図 PL.49	93	石製品 砥石	— 1/2	長 幅	(7.9) 2.5	厚 重	6.0 200.6	—	—	研沢石/—/—	正面に砥面が認められる。裏面と内側面及び上部小口面 には磨面タガネ痕が明瞭に残る。
第18図 PL.49	94	石製品 砥石	— 完形	長 幅	13.7 2.9	厚 重	2.0 98.7	—	—	研沢石/—/—	正面に砥面が認められ研ぎ減りにより山形を呈する。
第18図 PL.49	95	石製品 砥石	— 2/3	長 幅	(10.6) (3.2)	厚 重	3.6 139.2	—	—	研沢石/—/—	正面に砥面が認められ上方に向かい研ぎ減りする。裏面と 内側面には磨面タガネ痕が残る。
第18図 PL.49	96	石製品 砥石	— 4/5	長 幅	(6.8) 5.0	厚 重	(3.3) 67.5	—	—	二ツ岳粘土/—/—	多孔質な石質である。ほぼ全面がいくつかの滑らかな作面 で構成でき、それぞれの面が砥面である可能性を想定し た。
第18図 PL.48	97	銅製品 キセル・ 雁首	— 一部欠損	長 幅	3.4 1.1	厚 重	0.9 3.91	—	—	—/—/—	火皿部分を欠くキセルの雁首。断面は変形のためかやや楕 円形で表面も劣化し荒れている。端部に雁首の木質が一部 残存する。
第18図 PL.48	98	銅製品 キセル・ 雁首	— ほぼ完形	長 幅	5.1 1.1	厚 重	2.0 7.81	—	—	—/—/—	火皿の一部を劣化破損するほぼ完形のキセルの雁首。咬い 口側端部から7.5mmに本体を一周する内径が16本施され ているとみられるが表面が劣化しているために不明瞭。雁 首の木質が一部残存する。
第18図 PL.49	99	鉄製品 小刀	— 一破片	長 幅	11.6 2.6	厚 重	1.7 39.58	—	—	—/—/—	刃側に明瞭な面を持つ小刀。茎の大部分と刃先部分を劣化 破損する。表面は硬い鋼に厚く覆われ本体脆弱なため木質 等の痕跡は確認できない。
第18図 PL.49	100	鉄製品 鏝	— 一破片	長 幅	16.0 4.1	厚 重	1.8 123.80	—	—	—/—/—	踏躰と見られる鉄製品破片で。破断面は破損後錆化してい る。木質等の痕跡は見られない。
第18図 PL.48	101	鉄製品 火打ち金	— 一部欠損	縦 横	6.7 2.5	厚 重	1.3 17.91	—	—	—/—/—	ねじり形の火打ち金と見られるが、表面は硬い鋼に覆われ 本体は脆弱なため接合部分等の詳細な形状は不明。

A 2 区 1 面遺構外出土遺物

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考			
第19図	1	瀬戸・美濃 陶器 陶器	— 1/4	口 底	(12.0) (6.2)	高 —	2.4 —	—/黄灰/—	—	体部から口縁部外反。内面から高台付近灰釉。

A 2 区 2 面 2 号溝出土遺物

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考				
第24図 PL.49	1	在地系土器 か 灯台	— 口縁部、脚部欠	口 底	— —	— —	— —	—/暗灰/—	—	器部外面縦位鹿脊き。上段器部内面に小孔1箇所。上段器 部内面の一部に油痕付着。胎土・焼成から中世と考えられ る。中世。	
第24図	2	灰釉陶器 椀	— 一体部下半小片	口 底	— —	— —	— —	— —	—	微砂粒/還元焰/灰 黄褐色	ロコロ整形。残存片では輪軸断面はみられない。
第24図	3	灰釉陶器 椀	— 底部片	口 底	— 7.0	— —	— —	— —	—	微砂粒/還元焰/灰 白	ロコロ整形。回転器回りか。底部は回転ヘラナデ。高台は 厚。
第24図 PL.49	4	土師器 羽釜	— 口縁部～ 胴部上半片	口 底	23.6 —	高 跨	— 26.8	—	—	—	外面胴部に輪軸痕が残る。跨は貼付。口縁部から跨下は横 ナデ。胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。
第24図	5	土師器 羽釜	— 底部～ 胴部下位片	口 底	— 13.0	— —	— —	—	—	—	底部は砂底か。胴部はヘラ削り。内面は底部・胴部ともヘ ラナデ。
第24図 PL.49	6	須臾器 鏝	— 胴部小片	口 底	— —	— —	— —	—	—	—	外面は平行叩き直が残る。内面は残存辺の上半に無文のア ズ具痕が残るが、下半はナデ消されている。
第24図 PL.49	7	鉄製品 不詳	— ほぼ完形	長 幅	17.0 2.1	厚 重	2.2 93.78	—	—	—/—/—	両端に向かい細くなる棒状の鉄製品。表面全体を上砂をま き込んだ跡が厚く多い。詳細な形状は不明。

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 別	出 上 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考			
第24図 PL.49	8	銅製品 銭貨	— 完形	縦 横	2.472 2.46	厚 重	0.15 3.01	—/—/—	成平元貨。表側は外縁・文字・郭とも形深く明瞭。裏側は やや平坦だが外縁・郭とも明瞭。	

A 2区 2面 4号溝出土遺物

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 別	出 上 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考			
第24図 PL.49	9	在地系土器 甕	— 口縁部1/2、 底部3/4	口 底	(7.3) 5.4	高 —	2.0 —	—/黒/—	器表灰白色。体部丸みを帯びる。底部左回転糸切無調整。	

A 2区 2面 1号地下式土坑出土遺物

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 別	出 上 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考			
第28図 PL.49	1	石製品 石臼(上)	— 1/6	長 幅	(8.3) (9.0)	厚 重	(11.2) 10.3	粗粒輝石安山岩/ —/—	側面に挽き手孔の一部が残る。底面には挽目の痕跡が認め られる。供給孔は上面から底面に向かい広くなっており、 縦方向の棒状工具痕が認められる。	

A 2区 2面 2号地下式土坑出土遺物

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 別	出 上 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考			
第28図	2	製作地不詳 陶器か 皿か	— 底部1/4	口 底	(8.0) (8.0)	高 —	—	—/ぶい赤褐/—	素地に細かい砂少量含む。内面から高台外面青磁釉のよ うな釉を厚めに掛ける。焼成不良なか種は失透性。	
第28図	3	在地系土器 甕	— 1/2	口 底	(7.5) (5.3)	高 —	2.0 —	—/ぶい黄褐/—	口縁部内溝。口縁端部油付着。底部左回転糸切無調整。	
第28図 PL.49	4	銅製品 すり金具	— ほぼ完形	長 幅	3.1 1.3	厚 重	2.2 7.41	—/—/—	上部に長方形の窓状の穴を持つ銅製品。穴を穿るように長 方形の金具が一段にはめ込まっている。下部に穴・リベット 等の構造は見られない。	

A 2区 3面 3号溝出土遺物

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 別	出 上 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考				
第30図 PL.49	1	在地系土器 甕	— 1/2	口 底	(8.0) 6.4	高 —	2.0 —	—/黒/—	器表浅黄褐色。底部器表薄黒。糸切痕不明。内面底部と 体部境不明瞭。		
第30図	2	常滑陶器 土師器 費	— 一部片	口 底	— —	高 —	—	—/褐灰/—	外面底状工具による撫で。外面器表にぶい赤褐色。内面器 表にぶい褐色。	中世。	
第30図	3	土師器 費	— 口縁部～ 胴部上位片	口 底	19.6 —	高 —	—	—	細砂粒/良好/灰褐	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第30図 PL.49	4	土師器 費	— 底部～ 胴部下位片	口 底	— 7.0	高 —	—	—	細砂粒/良好/ぶ い黒	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第30図 PL.49	5	須恵器 羽釜	— 口縁部～ 胴部上位片	口 底	23.8 —	高 跨	— 28.3	—	細砂粒/酸化塩/ ぶい黄褐	ロクロ整形。罫は貼付。胴部はヘラ削り。	
第30図 PL.49	6	銅製品 銭貨	— 一部欠損	縦 横	2.365 2.450	厚 重	0.124 1.97	—/—/—	劣化が著しく銭種不明。上部に3箇所の跡欠け有り。表側 の外縁は明瞭だが文字は輪郭のみで不明瞭。裏側はきわめて 平坦。		

A 2区 3面 遺構外出土遺物

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 別	出 上 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考				
第31図	1	土師器 高杯	— 杯身部下半片	口 底	— —	高 —	—	—	細砂粒/良好/赤褐	杯身底部には脚部への差し込み状の突起をもつ。外面は ナデ、内面はヘラナデ。	
第31図 PL.49	2	鉄製品 銭貨	— ほぼ完形	長 幅	2.9 2.8	厚 重	1.8 11.67	—/—/—	鉄製の銭貨と見られるが、劣化が著しいため文字は判読 できない。		
第31図 PL.49	3	銅製品 銭貨	— 一部欠損	縦 横	2.294 2.491	厚 重	0.192 2.31	—/—/—	元貨通貫。全体に劣化が著しく外輪の多くは破損する。形 は深く文字は明瞭だが一部は銷化変形する。裏側は外輪・ 郭とも明瞭。		

B 4区 1面 1号壑穴状遺構出土遺物

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 別	出 上 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考				
第34図 PL.50	1	石製品 砥石	— 4/5	長 幅	(9.7) 3.8	厚 重	2.1 86.2	—/—/—	研石/—/—	正面に砥面が認められ崩れ減りにより山形を呈する。裏面と 内面側には磨面タガメ痕が認められる。上部及び下部欠損。	
第34図 PL.50	2	銅製品 銭貨	— 破片	縦 横	— 2.339	厚 重	0.105 0.78	—/—/—	寛永通寶と見られるが破損により上下を欠く。表側は外輪・ 文字・郭とも形深く明瞭。裏側は平坦だが外縁・郭とも明瞭。		

B 4区 1面 2号溝出土遺物

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 別	出 上 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考			
第37図 PL.50	1	龍泉窯系青 磁 輪蓋弁文甕	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	—	—/灰白/—	外面輪蓋弁文。口縁部縁く外反。内外面青磁釉。貫入入る。	中世。
第37図 PL.50	2	中国白磁 口甕	— 口縁部一部、 底部1/4	口 底	(11.0) 6.0	高 —	3.1 —	—/灰白/—	体部外面下端回転削り。器表灰白色。内外面透明 釉で口縁端部上面と端部内面の釉取り。底部外面の釉 薄い。	中世。



遺物観察表

種目 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第37図 PL.50	3	石製品 石鉢	— 1/3	長幅 (14.6) (29.0) 厚 (13.8) 379.7	—/—/—	平ノミ状の工具痕が内面に数多く認められ外面には僅かに残る。内面は細かな凹凸で構成され滑らかでない。底面は平坦で非常に滑らかである。	
第37図 PL.50	4	鉄製品 釘	— 破片	長 6.3 厚 1.8 幅 2.0 重 15.68	—/—/—	断面はほぼ正方形でなだらかに曲がり内端は劣化破損する。厚く錆に覆われ本体は脆弱なため詳細は不明。	

B 4区 1面 4号溝出土遺物

種目 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第38図 PL.50	5	石製品 砥石	— 2/3	長幅 (10.0) (29.0) 厚 2.8 90.7	—/—/—	正面と裏面に砥面が認められ左面は研ぎ減りにより山形を呈する。右側面には磨面タガネ痕が僅かに残る。下部欠損。	
第38図 PL.50	6	鉄製品 不詳	— 破片	長 3.5 厚 1.7 幅 2.7 重 23.03	—/—/—	鑄造鉄製品の破片。全体に鉛化放射線が見られる。	

B 4区 1面 6号溝出土遺物

種目 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第38図	7	肥前陶器 青緑釉軸 口縁部～ 底部1/4	— 口底	(12.0) — 高 — —	—/灰黄/—	内面青緑色釉。口縁部外面から体部外面下位通明軸。	
第38図	8	在地系土器 磨製 口縁部～底部片	— 口底	— 高 — —	—/にぶい橙/—	酸化炭焼成で丸底。	
第38図 PL.50	9	銅製品 小柄	— 一部欠損	長 10.1 厚 0.8 幅 1.4 重 19.49	—/—/—	銅製の小柄で小方部分は小口直で欠損する。地板には鑄製による文様が施されている。	
第38図 PL.50	10	鉄製品 鎌	— 破片	長 8.9 厚 0.9 幅 2.8 重 20.87	—/—/—	鎌の柄部分破片。おは破損し破断面は鉛化は劣化破損する。茎部は？形に曲がり釘穴を形成する。表面は硬く錆に覆われ柄の木質等は確認できない。	

B 4区 1面 2号土坑出土遺物

種目 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第42図 PL.50	1	常滑陶器か 山茶碗	— 底部1/4	口底 (8.5)	— 高 — —	—/灰/—	高台に歪みがあり端正性は正確でない。貼付高台。見込み磨面目なく平坦。高台端部は押されて砂や礫状の圧痕残る。	中世。

B 4区 1面 11号土坑出土遺物

種目 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第42図 PL.50	2	在地系土器 器底 口縁部～体部片	— 口底	— 高 — —	—/褐灰/—	断面中央黒色。器表付近灰白色。器表黒色。口縁部外反し水平に開く。内面耳貼付。	
第42図 PL.50	3	鉄製品 釘	— 一部欠損	長 4.1 厚 0.9 幅 1.9 重 4.16	—/—/—	断面はほぼ正方形でへの字形に曲がり先端は劣化破損する。厚く錆に覆われ本体は脆弱なため詳細は不明。	

B 4区 1面 16号土坑出土遺物

種目 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第42図 PL.50	4	瀬戸・美濃 陶器 碗	— 体部下位以下	口底 6.2	— 高 — —	—/灰白/—	大型品。体部外面回転施附り。内面から体部外面下位灰釉。	

B 4区 1面 20号土坑出土遺物

種目 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第42図	5	瀬戸陶器 すり鉢	— 口縁部片	口底 — 高 — —	—/浅黄/—	口縁部外方に折り返す。内外面磨輪。口縁部厚減して平滑。	

B 4区 1面 遺構外出土遺物

種目 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第46図 PL.50	1	瀬戸・美濃 陶器 片口鉢	— 体部中位一部、 底部完	口底 7.4	— 高 — —	—/灰/—	高台内の挟り浅い。内面から高台輪灰釉。見込み目皿3箇所。	
第46図 PL.50	2	石製品 火打石	— 完形	長 3.3 厚 1.9 幅 2.5 重 14.4	—/—/—	表面の右側縁につぶれが集中する。裏面の棱上にも部分的なつぶれが認められる。左側面には自然面が多く残り円礫を利用する。裏面には剥片段階の主要剥離面が大きく残り厚手の剥片を素材とする。		
第46図 PL.50	3	銅製品 キセル・ 吸い口	— 破片	長 5.3 厚 0.4 幅 1.5 重 4.08	—/—/—	キセルの吸い口部分で平たくつぶれ。一部は接合部が開き穴が開いている。表面は劣化のためメッキ・装飾等は確認できない。		

C 1区 1面 遺構外出土遺物

種目 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第46図 PL.50	4	赤生土器 鏝	— 製部片	口底 — 高 — —	—/—/—	平截竹青または複数本単位の掘削具で平行波線文を施す。内面被熱割断。	赤生中期

## C 1区 2面 9号溝出土遺物

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第528 PL.50	1	鉄製品 轡	— ほぼ定形	長 幅	21.3 7.4	厚 重	5.4 132.30	—/—/—	輪状の轡板を持つ轡で、ほみは二造でやや六角形に近い断面を持つ。ほみ中央の接続部分は一部厚減し細くなっている。

## B 5区 2面 3・4号溝出土遺物

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第538 PL.50	1	肥前陶器 京焼風瓶	— 1/2	口 底	(8.3) 4.6	高 —	5.2 —	—/淡黄/—	焼成不良で素地の焼き締まり弱い。体部外面の文様不鮮明。内面から高台外面透明釉。釉が購入入る。
第538 PL.50	2	肥前陶器 陶胎染付碗	— 口縁部欠	口 底	— 4.8	高 —	— —	—/灰白/—	外面東屋山水文。高台端部を除き透明釉。釉は部分的に白濁。購入入る。
第538 PL.50	3	肥前陶器 染付碗	— 1/2	口 底	10.4 (4.5)	高 —	6.3 —	—/灰白/—	口縁部外面四方障文。体部外面唐草文。内面無文。
第538 PL.50	4	肥前陶器か 底部分1/3	— 口縁部1/6、 底部1/3	口 底	(11.0) (4.8)	高 —	7.2 —	—/褐灰〜にぶい 黄緑/—	外面は雜雑目顯著。内面から高台外面、部分的に白濁する透明釉。高台内面下半内削ぎ。
第538 PL.50	5	肥前陶器 貝器手碗	— 口縁部1/4、 底部完	口 底	(11.2) 4.8	高 —	7.8 —	—/淡黄/—	見込みの抉りは深い。高台端部を除き透明釉。購入入る。
第538 PL.50	6	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	— 口縁部1/3、 体部1/2	口 底	(13.7) —	高 —	— —	—/淡黄/—	口縁部平面形にやや歪みあり。内面から体部外面下位鉄軸に近い胎輪。口縁部端部付近胎輪に半透明で部分的に白濁部がある。
第538 PL.50	7	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	— 口縁部〜 体部1/2欠	口 底	12.0 5.2	高 —	7.9 —	—/灰白/—	器高高い。内面から体部外面下位胎輪で墨灰輪を掛ける。胎輪部鉄軸整。
第538 PL.50	8	瀬戸・美濃 陶器 折縁皿	— 口縁部〜 体部1/8	口 底	— —	高 —	— —	—/灰白/—	体部内面菊花状に削ぐ。口縁部外反し端部上方に小さく立ち上げる。内外面灰輪。
第538 PL.50	9	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿か	— 1/2	口 底	(1.3) —	高 —	2.7 —	—/淡黄/—	外面口縁部以下丁寧な回転施削り。丸底。内面から口縁部外面胎輪。
第538 PL.50	10	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 1/4	口 底	(11.7) (6.0)	高 —	2.0 —	—/灰白/—	体部外面下半回転施削り。内面から高台内周縁長石輪。
第538 PL.50	11	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 口縁部1/3欠	口 底	11.5 7.4	高 —	2.1 —	—/灰白/—	器壁やや厚く口縁部小さく外反。内面から高台内灰輪。見込みと高台内目皿3箇所。
第538 PL.50	12	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 口縁部1/4欠	口 底	11.0 6.8	高 —	1.8~ 2.3	—/灰白/—	口縁部小さく外反。内面外面施輪。焼成不良で輪白濁。
第538 PL.50	13	瀬戸・美濃 陶器 菊皿	— 口縁部1/6、 底部2/3	口 底	(12.5) 7.0	高 —	3.1 —	—/灰白/—	内面布着残る。内面から体部外面中位付近灰輪。内面に割縁輪状に流す。口縁部小割縁上端付着。
第538 PL.51	14	肥前陶器 染付皿	— 口縁部1/8、 底部1/3	口 底	(21.2) (12.0)	高 —	4.8 —	—/白/—	内面釉に贅文。外面唐草文。高台内1重圓縁。
第538 PL.51	15	肥前陶器 京焼風皿	— 口縁部1/6、 底部1/3	口 底	(22.5) (8.8)	高 —	6.2 —	—/灰白/—	高台高く丁寧な作り。口縁部下を外面から覆ませ形に変化をつける。見込み山水文か。内面から高台脇透明釉。購入入る。高台内示富次字銘。
第538 PL.51	16	古瀬戸陶器 盤類	— 底部片	口 底	— —	高 —	— —	—/青灰/—	内面灰輪刷毛塗。底部外面回転施削り。
第538 PL.51	17	瀬戸・美濃 陶器 筒形香炉	— 1/4	口 底	(11.2) (8.2)	高 —	7.0 —	—/淡黄/—	残存部外面無文。口縁部内径しやや窪む。内面中位付近から体部外面下端胎輪。胎付の脚1箇所残存。口縁部端の小割縁は認められない。
第538 PL.51	18	瀬戸・美濃 陶器 筒形香炉か 鉢	— 口縁部1/2、 底部完	口 底	(15.0) 10.5	高 —	8.5 —	—/灰白/—	底部回転施削りで縁筒状を呈す。口縁部内面から体部外面下端胎輪。体部中位2箇所胎輪。口縁部内面明りによると推定される小割縁多い。
第538 PL.51	19	肥前陶器 陶胎染付鉢	— 体部一部、 底部1/3	口 底	— (8.4)	高 —	— —	—/灰白/—	内外面染付。高台端部を除き透明釉。購入入る。
第548 PL.51	20	肥前陶器 鉢	— 口縁部1/8、 底部1/3	口 底	(22.6) (10.6)	高 —	11.2 —	—/赤褐/—	内面白土掛け。口縁部外面白土波状に塗る。内面から体部外面中位透明釉。口縁部端部上面と体部外面中位の一部、高台外面下位から高台内無釉。体部外面中位から高台外面上平鉄流。
第548 PL.51	21	丹波陶器 すり鉢	— 体部一部、 底部完	口 底	— 15.0	高 —	— —	—/にぶい 橙/—	体部外面下位指押さえ状の凹み多い。底部外面砂付着。体部外面鉄流。外面鉄泥流れた跡残る。
第548 PL.51	22	瀬戸陶器 すり鉢	— 体部下位以下 1/3	口 底	— (17.0)	高 —	— —	—/灰白/—	底部外反し切り無調整。内面幅広のすり目。内外面胎輪。
第548 PL.51	23	丹波陶器か すり鉢	— 口縁部1/4	口 底	(30.3) —	高 —	— —	—/黄灰/—	口縁部外反して縁帯をなす。鉄泥層掛ける。内面細く浅いすり目。



種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第60図 PL.51	3	鉄製品 釘	一部欠損	長 幅	3.0 1.1	厚 重	1.4 1.78	-/-/-	断面正方形の角釘破片。頭は薄く広げ折り曲げる角形で先端側は劣化破損する。木質等の痕跡は確認できない。
第60図 PL.51	4	鉄製品 釘	一部欠損	長 幅	3.5 1.5	厚 重	0.9 4.02	-/-/-	断面長方形でしず子に曲がる角釘。頭は角形で先端側は劣化破損する。
第60図 PL.51	5	鉄製品 不詳	ほぼ完形	長 幅	4.1 3.5	厚 重	0.3 4.67	-/-/-	断面円形の輪状銅製品。一部開口するが劣化破損によるもので本来は閉じた輪状の製品と考えられる。
第60図 PL.51	6	鉄製品 銭貨	完形	縦 横	2.823 2.816	厚 重	0.131 4.31	-/-/-	寛永通寶(表裏)。表側は外縁・文字・郭とも彫深く明確、裏側も外縁・波・郭とも彫深く明確。
第60図 PL.51	7	銅製品 銭貨	ほぼ完形	縦 横	2.216 2.220	厚 重	0.137 2.95	-/-/-	寛永通寶。表側は外縁・文字・郭とも明瞭だが表面はすり減ったように文字がつかず。裏側は郭は浅いが外縁・郭とも明瞭。裏と背との間の外縁側面は潰れたように変形する。

## B5区2面30号土坑出土遺物

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第60図 PL.52	8	須恵器 杯	底部片	口 底	8.0 7.0	高 厚	- 1.4	- 黄	口ク口整形、回転糸回り。底部は回転糸切り無調整。
第60図 PL.52	9	石製品 砥石	1/2	長 幅	(7.0) 3.0	厚 重	1.4 40.6	-/-	正面に砥面が認められ断面V字状の縦糸痕がある。裏面と内側面には磨面タガネ痕が明瞭に残る。上部及び下部欠損。

## B5区2面31号土坑出土遺物

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第60図 PL.52	10	石製品 石臼(上)	完形	径 幅	29.5 11.1	高 重	11.1 1090.0	-/-	底面は摩滅し片減りする。側面に矩形の挽き手孔が2ヶ所に認められる。底面が摩滅したことで挽き手孔まで摩滅が及び、別の挽き手孔を設置したと考えられる。
第60図 PL.52	11	石製品 石臼(上)	完形	径 幅	33.0 13.0	高 重	13.0 1190.0	-/-	底面は摩滅し片減りする。側面に挽き手孔が2ヶ所に認められる。底面が摩滅したことで挽き手孔まで摩滅が及び、別の挽き手孔を設置したと考えられる。底面の中央には軸受孔が認められる。

## B5区2面33号土坑出土遺物

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第60図 PL.52	12	須恵器 機	底部～ 体部下片	口 底	6.5 6.5	高 台	- 6.2	- 黄	口ク口整形、回転糸回り。底部回転糸切り後高台を削付。

## B5区2面114号ヒット出土遺物

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第63図 PL.52	1	瀬戸・美濃 陶器	口縁部1/4、 底部2/3	口 底	(11.5) 7.6	高 重	2.2 -	-/灰白/-	器壁やや厚く、体部から口縁部直線的に開く。内面から高台内周縁灰輪。内面円縁ヒン2箇所残存。貫入入る。

## B4区2面遺構外出土遺物

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第65図 PL.52	1	製作地不詳 磁器 染付杯	完形	口 底	5.1 1.8	高 重	2.8 -	-/白/-	ゴムによる染付。三つの若松文を不均等に配置。	近現代。
第65図 PL.52	2	瀬戸・美濃 陶器 染付小丸碗	体部下位以下 1/4	口 底	(3.6) -	高 重	- -	-/灰黄/-	体部外面染付。見込み周縁1重圈縁。	
第65図 PL.52	3	肥前磁器 染付小丸碗	口縁部1/3欠	口 底	8.2 3.2	高 重	5.4 -	-/灰白/-	外面矢羽根文。口縁部内面2重圈縁。見込み1重圈縁内に不明筋。焼成不良で透明輪や白濁。	
第65図 PL.52	4	肥前磁器 染付榎木鉢	体部下位以下 1/3	口 底	(9.4) -	高 重	- -	-/白/-	体部外面染付。外面は高台端部を除き透明釉。内面無釉。底部中央に焼成前の円孔。焼き継ぎ。	
第65図 PL.52	5	鉄製品 不詳	破片	長 幅	2.3 0.5	厚 重	0.4 0.46	-/-/-	断面円形の鉄製品で一端は細くなり尖る。他の端部は劣化破損する。	
第65図 PL.52	6	銅製品 キセル・ 吸い口	ほぼ完形	長 幅	7.7 0.8	厚 重	0.9 6.70	-/-/-	キセルの吸い口部分で吸い口側端部はやや破損する。断面はほぼ円形だが表面全体に変形と見られる凹凸が見られる。	

## B5区2面遺構外出土遺物

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第65図 PL.52	7	前橋窯窯磁 器か 染付小碗	口縁部～ 体部1/3	口 底	(8.4) -	高 重	- -	-/灰白/-	外面植物文。口縁部内面輪相する。	

遺物観察表

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考				
第65図 PL.52	8	肥前磁器 染付小碗	— —	口径 底径	(7.5) 2.8	高 —	4.1 —	—/灰白/—	口縁部外面に二つの篋文。高台端部を除き透明釉。		
第65図 PL.52	9	京・信楽系 陶器 鉄絵碗	— —	口径 底径	(9.3) 3.2	高 —	5.4 —	—/灰白/—	半球状の碗で口縁部外面に鉄絵。内面から高台磁器透明釉。貫入入る。		
第65図 PL.52	10	瀬戸・美濃 陶器 磨盤	— —	口径 —	(12.2) —	高 —	—	—/灰/—	口縁部から体部外面の1箇所の鉄絵具による簡略化した柳文。内面から高台磁器釉。貫入入る。		
第65図 PL.52	11	瀬戸・美濃 陶器 折縁皿	— —	口径 —	(12.0) —	高 —	—	—/灰白/—	口縁部外反し、端部は上方に小さく折り曲げる。内面から体部外面下端灰釉。	大窯附。	
第65図 PL.52	12	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿	— —	口径 —	(8.4) (4.3)	高 —	1.8 —	—/淡黄/—	底部移行状。内面から口縁部外面施釉。		
第65図 PL.52	13	志戸呂陶器 灯火受皿	— —	口径 —	10.0 5.1	高 —	1.8 2.1	—/にぶい赤褐/—	椀部にアーチ状外れ2箇所。内面から口縁部外面鉄絵。底部回転糸切り後、外面下半以下回転削り。		
第65図 PL.52	14	瀬戸・美濃 陶器 小香炉か	— —	口径 —	— 3.5	高 —	—	—/灰白/—	体部外面灰釉。高台胎曲曲。		
第65図 PL.52	15	堺陶器 すり鉢	— —	口径 —	(9.0) (14.0)	高 —	13.9 —	—/橙/—	無釉。体部外面削削り。内面すり目の後口縁部回転削削。		
第65図 PL.52	16	在地系土器 鉢	— —	口径 —	(32.6) (21.0)	高 —	11.4 —	—/灰白/—	断面灰白色。器表黒色。外面厚肉着。口縁部上面やや窪む。体部外面下端以下型痕。		
第65図 PL.52	17	在地系土器 始塔	— —	口径 —	— —	高 —	5.7 —	—/黄灰/—	断面灰白色。器表黒褐色。口縁部内傾し、上面窪む。外面下半から底部外面型痕。		
第65図 PL.52	18	薩土器 深鉢	— —	口径 —	— —	高 —	—	—/—/D	面縁線文に沿って平内筋の平行沈線文を重層的に施す。内面やや粗い。底で状の横位型着。	焼町式	
第65図 PL.52	19	石製品 砥石	— —	長 幅	(9.0) 3.0	厚 重	2.6 89.1	—/—/—	研沢石/—/—	正面と裏面に砥面が認められ上方に向かい研ぎ減りする。内側面と下部小口面には歯歯タガネ痕が認められる。上部欠損。	
第65図 PL.52	20	石製品 砥石	— —	長 幅	(8.8) 3.1	厚 重	2.8 128.3	—/—/—	研沢石/—/—	正面に砥面が認められる。裏面と内側面及び下部小口面には歯歯タガネ痕が認められる。上部欠損。	
第66図 PL.52	21	石製品 砂石	— —	長 幅	2.2 2.2	厚 重	0.4 3.3	—/—/—	桂貫頁岩/—/—	全体的に非常に滑らかであり薄形である。	
第66図 PL.52	22	銅製品 半セウ・磨首	— —	長 幅	6.2 0.9	厚 重	2.4 5.07	—/—/—	—/—/—	火皿部分に欠くキセルの磨首。全体に劣化が著しく、中央部で劣化破損により変形する。	
第66図 PL.52	23	鉄製品 釘	— —	長 幅	2.5 1.3	厚 重	0.7 2.48	—/—/—	—/—/—	断面はほぼ正方形の角釘。くの字形に曲がり頭部分は劣化破損する。	
第66図 PL.52	24	銅製品 鉄貨	— —	縦 横	2.554 2.515	厚 重	0.111 2.47	—/—/—	—/—/—	秤符元章。表側は外縁・文字・郭とも形深く明確、裏側は平坦だが外縁・郭とも明確。	

C 1 区 2 面遺構外出土遺物

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考			
第66図 PL.52	25	在地系土器 鉢	— —	口径 底径	(18.4) 14.4	高 —	7.3 —	—/黒/—	断面中央黒色。器口付近灰白色。器表黒色。内面器表剥離。高台2ヶ所に小円穴。	

C 4 区 2 面遺構外出土遺物

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考			
第66図 PL.52	26	鉄製品 不詳	— —	長 幅	4.0 4.0	厚 重	0.8 10.11	—/—/—	断面円形の輪状の鉄製品。全体に錆覆われ本体は脆弱なため詳細は不明。	

B 5 区 3 面260号ヒット出土遺物

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考				
第76図 PL.52	1	石製品 石臼(上)	— —	径 —	(32.0) 14.4	高 重	9.2 2147.0	—/—/—	粗粒輝石安山岩/—/—	底面は摩滅し片減りする。側面に断面形状の挽き手孔の痕跡が2ヶ所に認められる。底面に摩滅したことで挽き手孔まで摩滅が及び、別の挽き手孔を設置したと考えられる。	

B 5 区 3 面遺構外出土遺物

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考			
第77図 PL.53	1	瀬戸・美濃 陶器 仏飯器	— —	口径 —	6.8 4.2	高 —	5.6 —	—/灰白/—	内面から脚柱部灰釉。貫入入る。	
第77図 PL.53	2	龍泉京系青 磁碗	— —	口径 —	— 5.4	高 —	— —	—/灰白/—	底部器壁厚い。内面から高台外面付近磁釉。貫入入る。内面目皿2カ所。	中世。

種 別 PL.No.	No.	種 類	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第778回 PL.3	3	龍泉京系青磁 椀 縁花皿	— 口縁部片	口 底 — — — — 高 — — — — — 灰 — — — —	—/灰/—	口縁部内面施文。青磁釉。貫入入る。	中世。
第778回 PL.53	4	肥前磁器 染付小丸碗	— 口縁部1/4、 底部完	口 底 (8.7) 3.2 高 — — — — — 白 — — — —	—/白/—	外面竹文。口縁部内面四方障文。見込み2重圓縁内に五弁花。	
第778回 PL.53	5	肥前陶器 —	— 口縁部～ 体部1/8	口 底 (27.5) — 高 — — — — — 赤黒 — — — —	—/にぶい赤黒/—	内面白土刷毛塗り後鉄託による施文。内面から体部外面透明釉。	
第778回 PL.53	6	瀬戸・美濃 陶器 折縁皿	— 1/8	口 底 (12.0) — 高 — — — — — 灰白 — — — —	—/灰白/—	体部内面整型工具による菊花状の削ぎ。内外面灰釉。	大窯期。
第778回 PL.53	7	瀬戸・美濃 陶器 —	— 口縁部1/6、 底部1/3	口 底 (11.8) (7.0) 高 — — — — — 灰白 — — — —	—/灰白/—	口縁部小さく外反。内面から高台内周縁長石釉。貫入入る。高台内円縁ビシ追残る。	
第778回 PL.53	8	瀬戸・美濃 陶器 鉄絵皿	— 1/4	口 底 (11.7) (7.2) 高 — — — — — 灰白 — — — —	—/灰白/—	体部から口縁部内湾。内面鉄絵。内面から高台外面薄く施釉。	
第778回 PL.53	9	瀬戸・美濃 陶器 鉄絵皿	— 口縁部1/4、 底部1/2	口 底 (12.0) 7.8 高 — — — — — 灰白 — — — —	—/灰白/—	口縁部外反。体部外面下位、回転施削り。内面鉄絵。高台端部を除き薄い灰釉。	
第778回 PL.53	10	瀬戸・美濃 陶器 —	— 底部完	口 底 — — — — 高 — — — — — 白 — — — —	—/白/—	大窯。見込み印花文。高台端部を除き灰釉。貫入入る。高台内輪状の窯道具痕。	大窯。
第778回 PL.53	11	瀬戸・美濃 陶器 細か小鉢	— 口縁部～ 体部1/4	口 底 (10.8) — 高 — — — — — 灰 — — — —	—/灰/—	口縁部外面に波状の凹線を描いた後に横線を廻らす。内外面鉄絵。部分的に灰釉をかけたためか、白濁部分が認められる。	
第778回 PL.53	12	瀬戸・美濃 陶器 吹きか	— 1/6欠	口 底 7.0 高 — — — — 5.2 — — — —	—/灰白/—	口縁部人為的打ち欠きで欠損。高台端部も細い打ち欠きがある。見込み布直。高台端部を除き灰釉。	
第778回 PL.53	13	瀬戸・美濃 陶器 蓋	— 完形	口 底 3.4 高 — — — — 1.9 横 — — — —	—/浅黄/—	縁一部に灰釉がかかるが、無釉製品。天井部から口縁部外面の1/4ほどは焼成前に焼で削られている。	
第778回 PL.53	14	瀬戸・美濃 陶器 圓形香炉	— 1/2	口 底 (10.3) (7.4) 高 — — — — — 淡黄 — — — —	—/淡黄/—	体部外面の1カ所に整型工具による松か平菊文。口縁部内面から体部外面黄釉。口縁端部内面印打による小欠けあり。	
第778回 PL.53	15	丹波陶器か すり鉢	— 口縁部～体部片	口 底 — — — — 高 — — — — — 赤黒 — — — —	—/にぶい赤黒/灰/—	外面輪縁目。口縁部は片口縁残存。胎土に確含む。すり目は細い。	
第778回 PL.53	16	丹波陶器か すり鉢	— 体部以下1/2	口 底 — — — — 高 — — — — — 灰白 — — — —	—/灰白/—	胎土に小確含む。体部外面輪縁目。内面下部使用により器表面摩滅。底部外面砂付着。	
第78回 PL.53	17	在地系土器 —	— 完形	口 底 10.6 高 — — — — 5.8 — — — —	—/浅黄橙/—	底部右回転糸切無調整。見込み指摺。体部外面下位輪縁目明瞭。	中世。
第78回 PL.53	18	在地系土器 片鉢	— 口縁部片	口 底 — — — — 高 — — — — — 灰 — — — —	—/灰/—	還元炎焼成。内面丁寧な調整。口縁端部内面小さく欠損。	中世。
第78回 PL.53	19	在地系土器 内耳銅	— 口縁部下位片	口 底 — — — — 高 — — — — — 灰黒 — — — —	—/灰黒/—	口縁部下位内面明瞭な段差。	中世。
第78回 PL.53	20	在地系土器 焙烙	— 口縁部～底部片	口 底 — — — — 高 — — — — 5.2 — — — —	—/濁灰・灰白/—	断面中央黒色。器表付近灰白色。器表黒色。体部外面下半型痕を施削り。口縁部内面耳貼付。	
第78回 PL.53	21	在地系土器 割口	— 基部	外 径 7.1 長 — — — — 内 径 2.5 — — — —	—/黒濁/—	断面黒褐色。器表付近にぶい褐色。器表黒色。基部片で装着時に端部内面を擦って調整する。	
第78回 PL.53	22	灰釉陶器 —	— 1/4	口 底 12.8 高 — — — — 7.0 6.8 台 — — — —	微砂粒/還元焼/灰 白	ロウ口整形。回転右回り。底部は回転ヘラナゲ。高台は貼付。施釉方法は刷毛塗るか。	
第78回 PL.53	23	須恵器 瓶	— 胴部片	口 底 — — — — 高 — — — — — 灰 — — — —	— 細砂粒/還元焼/灰 白	ロウ口整形。胴部はカキ目後2条の凹縁によって区画され、その内を割文が通る。	
第78回 PL.53	24	石製品 破石	— ほぼ完形	(14.0) 厚 3.7 重 226.2	— 研沢石/—/—	正面と裏面に砥面が認められともに研ぎ減りにより山形を呈する。内無面には磨面タガネ痕が僅かに残る。	
第78回 PL.53	25	石製品 破石	— 1/2	(8.8) 厚 4.0 重 200.1	— 研沢石/—/—	正面に砥面が認められる。裏面と内無面及び上部小口面には磨面タガネ痕が認められる。下部欠損。	
第78回 PL.53	26	鉄製品 鎌	— —	長 6.5 厚 0.6 幅 2.4 重 17.11	—/—/—	鉄製鎌の柄部分破片。某の先端を細くして折り目付。目釘で固定する構造。刃側は破損後磨滅する。	
第78回 PL.53	27	銅製品 銭貨	— 破片	厚 0.127 重 0.43	—/—/—	銅銭の1/5ほどの破片で文字の一部が残るが判読不明。	

## C1区3面遺構外出土遺物

種 別 PL.No.	No.	種 類	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第78回 PL.52	28	肥前磁器 染付小丸碗	— 口縁部1/5、 底部完	口 底 (9.2) 3.2 高 — — — — — 白 — — — —	—/白/—	外面帯持ち文。口縁部内面不明文様。見込み2重圓縁内に五弁花。	
第78回 PL.52	29	弥生土器 甕	— 胴部片	口 底 — — — — 高 — — — — — B — — — —	—/—/—	方形形の沈降入組文内にLR施文を充填施文。内面縦位埋磨き。	弥生中期

遺物観察表

B 6区 3面遺構外出土遺物

採 掘 PL.No.	No.	種 類 種 類	出 上位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第798	1	瀬戸・美濃 磁器 染付埋戻灰	— 1/4	口 底 (10.6) (3.8)	高 — 5.7 —	—/白/—	口縁部と腰部外面縦線。外面中心唐草文状。口縁部と見込み周縁2重縦線。
第798	2	瀬戸・美濃 陶器 碗	— 口縁部～腰部一 部、底部1/2	口 底 (11.1) 5.4	高 — 7.2 —	—/灰白/—	口縁部外面3状の凹線。凹線部分を外面から押して窪ませる。残存部が少なく窪みの数は不明。内面から高台陥入の入る灰軸。
第798 PL.52	3	肥前陶器 陶胎染付碗	— 口縁部1/3、 底部1/2	口 底 (10.0) (5.0)	高 — 7.3 —	—/灰/—	外面植物文。軸は貫入入る。
第798	4	瀬戸・美濃 陶器 鉢	— 腰部下位以下完	口 底 6.2	高 — — —	—/灰白/—	内面錆色の鉄軸。残存部外面無軸。腰部外面回転窪削り。

B 4区 4面遺構外出土遺物

採 掘 PL.No.	No.	種 類 種 類	出 上位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第848 PL.52	1	土師器 杯	— 1/3	口 底 13.8	高 — 4.6 —	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は横ナデ。腰部上半はナデ。下半から底部はへう削り。内面は体部に斜放射状へう磨き。

C 4区 4面遺構外出土遺物

採 掘 PL.No.	No.	種 類 種 類	出 上位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第848	2	須恵器 甕	— 胴部小片	口 底 —	高 — — —	細砂粒・粗砂粒/還元 灰	外面はヘラナデか、内面は同心円状アテ具痕が残る。

B 4区 5面遺構外出土遺物

採 掘 PL.No.	No.	種 類 種 類	出 上位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第878 PL.53	1	土師器 台付鉢	— 鉢身部1/3	口 底 16.8	高 — — —	細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	脚部は貼付。口縁部から頸部は横ナデ。腰部は上半がハケ目(1cmあたり7本)、下半はへう削り。内面は底部から体部がへうナデ。
第878 PL.53	2	土師器 高杯	— 胴部	口 底 —	高 — 10.5 —	細砂粒/良好/明黄 褐色	脚部は杯身底部中央まで一体で成型。これに杯身部を接合。脚部はへう磨き。裾部との意向部にハケ目(1cmあたり7本)が残る。裾部は横ナデ。内面は脚部がへうナデ。裾部はハケ目後横ナデ。
第878	3	土師器 高杯	— 胴部片	口 底 —	高 — 12.2 —	細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	脚部はへう削り、裾部は横ナデ。内面は脚部がへうナデ。裾部は横ナデ。
第878	4	土師器 台付甕	— 胴部小片	口 底 —	高 — — —	細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	口縁部は折り返し、整形は器面厚減のため不鮮明。
第878 PL.53	5	土師器 甕	— 口縁部～ 胴部上位片	口 底 13.9	高 — — —	細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	口縁部は横ナデ。頸部から胴部あへう削り。内面は胴部がへうナデ。
第878 PL.53	6	土師器 鉢	— 口縁部片1/4	口 底 14.2	高 — — —	細砂粒/良好/にぶ い褐色	口縁部は横ナデ。頸部はナデ。体部はへうナデ。
第878 PL.53	7	土師器 鉢	— 口縁部片	口 底 15.0	高 — — —	細砂粒/良好/にぶ い褐色	口縁部は横ナデ。頸部はナデ。体部はへうナデ。
第888	8	土師器 甕	— 口縁部～胴部片	口 底 16.0	高 — — —	細砂粒/良好/にぶ い褐色	口縁部から頸部は横ナデ。内面は胴部がへうナデ。
第888 PL.53	9	土師器 甕	— 胴部一部欠損	口 底 17.0	高 — 25.0 20.9	25.0 好	口縁部は横ナデ。頸部から胴部と底部はハケ目(1cmあたり7本)。内面は口縁部が横ナデ。口縁部から胴部と底部から胴部下位にハケ目が残る。胴部はへうナデ。
第888	10	土師器 壺	— 胴部片	口 底 —	高 — 18.8 —	細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	胴部はハケ目(1cmあたり8～9本)後、一部にナデ。内面胴部はへうナデ。
第888	11	土師器 甕	— 胴部片	口 底 —	高 — — —	細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	外面はハケ目。内面はへうナデ。
第888	12	土師器 甕	— 胴部片	口 底 —	高 — — —	細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	外面はハケ目。内面はへうナデ。

B 5区 6面20号溝出土遺物

採 掘 PL.No.	No.	種 類 種 類	出 上位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第908 PL.54	1	赤生土器 甕	— 胴部片	口 底 —	高 — — —	—/—/—A	細密な紅襷文を散列に横位施文し、単沈線の曲線文を施す。外面やや被熱風化。内面無軸の横位施磨き。

B 5区 6面21号溝出土遺物

採 掘 PL.No.	No.	種 類 種 類	出 上位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第908 PL.54	2	土師器 甕	— 底部～ 胴部下位1/2片	口 底 7.8	高 — — —	細砂粒/粗砂粒/良 好/にぶい黄褐色	底部はへう削り。器面厚減のため単位不鮮明。胴部は中にハケ目(1cmあたり6本)が残るが大部分は器面厚減のため整形不明。内面は底部から胴部がへうナデ。

## B5区6面遺構外出土遺物

採 取 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考						
第92図 Pl.54	1	弥生土器 甕	— 口縁～胴部中位 1/2	口 底	25.0 —	高 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	カナムグラの疑似縄文を横位・多段に施文。外面煤状炭化物付着。内面横位段磨き。	弥生中期	
第92図 Pl.54	2	弥生土器 甕	— 底部完存	口 底	— 7.5	高 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	外底面に木葉痕。外面縦位段磨き。内面横位段磨き・煤状炭化物付着。	弥生中期	
第92図 Pl.54	3	弥生土器 筒形土器	— 胴部片	口 底	— —	高 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	方形状の沈線入組文内や胴部下位にやや細密なL縄文を充填施文。内外面共にやや被熱風化。一部に煤状炭化物付着。	弥生中期	
第92図 Pl.54	4	弥生土器 筒形土器	— 胴部片	口 底	— —	高 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	方形状の沈線入組文内やや細密なL縄文を充填施文。外面煤状炭化物付着。内面縦位段磨き・やや被熱風化。	弥生中期	
第92図 Pl.54	5	弥生土器 甕	— 胴部片	口 底	— —	高 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	単沈線の横線文を施し。やや細密なL縄文を充填施文。内面横位段磨き。	弥生中期	
第92図 Pl.54	6	弥生土器 甕	— 胴部片	口 底	— —	高 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	縦位単沈線の空欄部に刺突文を充填施文。外面横位段磨き・斜位段磨き。一部に煤状炭化物付着。	弥生中期	
第92図 Pl.54	7	弥生土器 甕	— 胴部下位～底部 完存	口 底	— 6.4	高 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	細密なL縄文を横位・多段に施文。外面縦位段磨き。内面縦・斜位段磨き。一部に煤状炭化物付着。	弥生中期	
第92図 Pl.54	8	縄文土器 深鉢	— 胴部片	口 底	— —	高 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	L縄文を横位・多段に施文。内外面共にやや被熱風化。	中期後半	
第92図 Pl.54	9	土師器 甕	— 胴部片	口 底	— —	高 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	細砂粒/良好/明赤 濁	外面はハケ目後ナデ。内面はヘラナデ。	
第92図 Pl.54	10	割片石器 石眼	— 1/3	長 幅	10.9 12.4	厚 重	2.4 337.2	砂岩/—/—					表面に自然面を大きく残し大形片断を利用する。表面には主要剥離面が認められ大形割片を素材とする。表面の先端部を中心に摩滅が認められ使用痕の可能性が高い。その摩滅より新しい刃部方向からの剥離面が認められ刃部の再加工が想定される。		
第92図 Pl.54	11	割片石器 石眼	— 完形	長 幅	14.9 8.8	厚 重	2.7 348.0	砂岩/—/—					表裏面の先端付近に摩滅が認められ使用痕の可能性が高い。両側面の中央から上方にかけてつぶれが認められ角磨の可能性がある。		

## C1区6面遺構外出土遺物

採 取 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考					
第92図 Pl.54	12	弥生土器 甕	— 胴部片	口 底	— —	高 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	細面状具の条痕文を縦位に施文。内面横位段磨き後、やや粗い横位段磨き。	弥生中期

## 縄文・弥生土器の胎土分類

分類	特 徴
A	多量の円磨度の進んだ灰白色岩片礫・粗砂や輝石粗・細砂と少量の珪質乳白色岩片粗・細砂及び赤色岩片礫を含むやや緻密な胎土。
B	中量の円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色岩片や石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。
C	少量の珪質乳白色・灰白色岩片や輝石の細砂を含む緻密な胎土。
D	多量の円磨度の進んだ灰白色岩片礫・粗砂や中量の輝石粗・細砂と少量の珪質乳白色岩片及び石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。
E	多量の長石・石英や少量の角閃石・黒色岩片・雲母の粗・細砂を含む緻密な胎土。

※各分類は肉眼観察による相対的なものである。





# 写真図版





1. A 2区全景(南東から)



2. B 4区2面全景(南から)



1. B 4区1面調査風景(南東から)



2. B 5区2面全景(南から)



1. B 5区3面全景(南東から)



2. B 5区6面全景(北西から)



1. B・C区調査区全景(北から)



2. C1区2面調査風景(南から)



1. A 2区1面1号溝全景(南から)



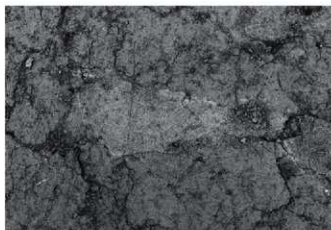
2. A 2区1面1号溝土層断面(南から)



3. A 1区調査区全景(北から)



4. A 1区調査区確認面(北から)



5. A 1区調査区確認面(北から)





1. A 2区2面2号溝全景(西から)



2. A 2区2面2号溝全景(東から)



3. A 2区2面2号溝遺物出土状態(東から)



4. A 2区2面2号溝土層断面(西から)



5. A 2区2面2号溝遺物出土状態(西から)



1. A 2区2面2号溝全景(南東から)



2. A 2区2面2号溝調査風景(西から)



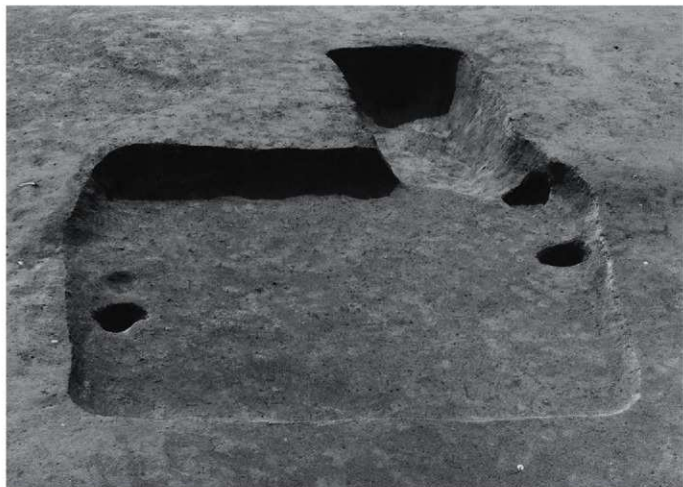
3. A 2区2面4号溝全景(南西から)



4. A 2区2面4号溝全景(北から)



5. A 2区2面2・4号溝全景(南から)



1. A 2区2面1号堅穴状遺構、1号土坑全景(北から)



2. A 2区2面2号土坑全景(西から)



4. A 2区2面2号地下式土坑全景(南から)



3. A 2区2面1号地下式土坑全景(南から)



1. A 2区3面1号住居全景(南西から)



2. A 2区3面3号溝全景(北から)



1. B4区1面旧流路左岸全景(南から)



2. B4区1面調査区北東部全景(南から)



3. B4区1面調査区北東部全景(西から)



4. B4区1面6号溝全景(南から)



5. B4区1面1号堅穴状遺構土層断面(南から)



1. B4区1面旧流路右岸全景(南から)



2. B4区1面1号溝全景(北から)



4. B4区1面1～4号溝全景(北から)



3. B4区1面1号溝全景(南から)



1. B 4区1面1～4号溝全景(南から)



2. B 4区1面2号溝、2号土坑土層断面(南から)



3. B 4区1面3・4号溝土層断面(南から)



4. B 4区1面4号溝土層断面(東から)



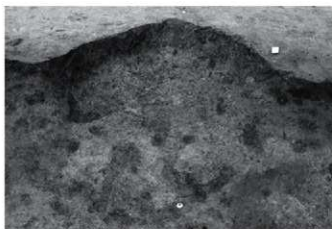
5. B 4区1面5号溝土層断面(南から)



1. B 4区1面1号土坑全景(南から)



2. B 4区1面2号土坑全景(西から)



3. B 4区1面3号土坑全景(西から)



4. B 4区1面4号土坑全景(東から)



5. B 4区1面5号土坑全景(南西から)



6. B 4区1面6号土坑全景(西から)



7. B 4区1面7号土坑全景(南から)



8. B 4区1面8号土坑全景(西から)





1. B 4区1面9号土坑土層断面(南から)



2. B 4区1面10号土坑全景(南から)



3. B 4区1面11号土坑全景(南から)



4. B 4区1面12号土坑土層断面(東から)



5. B 4区1面13号土坑土層断面(東から)



6. B 4区1面14号土坑全景(東から)



7. B 4区1面15号土坑全景(南東から)



8. B 4区1面16号土坑全景(南東から)



1. B 4区1面16号土坑遺物出土状態(南東から)



2. B 4区1面28号土坑全景(南から)



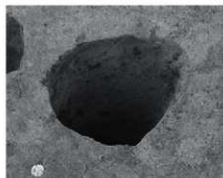
3. B 4区1面2号ピット全景(南から)



4. B 4区1面14号ピット全景(南から)



5. B 4区1面18号ピット全景(南から)



6. B 4区1面25号ピット全景(南から)



7. B 4区1面30号ピット全景(東から)



8. B 4区1面33号ピット全景(南から)



9. B 4区1面44号ピット全景(南から)



10. B 4区1面46号ピット全景(南から)



11. B 4区1面50号ピット全景(南から)



12. B 4区1面51号ピット全景(南から)



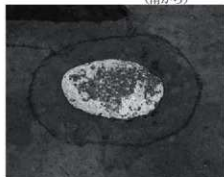
1. B 4区1面51号ピット土層断面  
(南から)



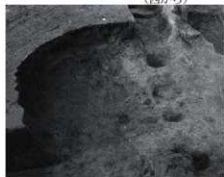
2. B 4区1面52号ピット土層断面  
(西から)



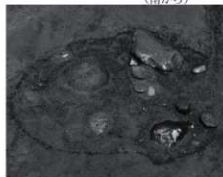
3. B 4区1面53号ピット土層断面  
(南から)



4. B 4区1面53号ピット礎石検出状況  
(南から)



5. B 4区1面54号ピット全景(南から)



6. B 4区1面54号ピット礎石検出状況  
(南から)



7. B 4区1面55号ピット全景(南から)



8. B 4区1面58号ピット全景(西から)



9. B 4区1面59号ピット全景(南から)



10. B 4区1面65号ピット土層断面  
(南西から)



11. B 4区1面65号ピット全景(南西から)



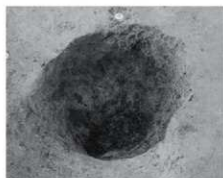
12. B 4区1面67号ピット全景(南から)



13. B 4区1面70号ピット全景(東から)



14. B 4区1面70号ピット土層断面  
(東から)



15. B 4区1面72号ピット全景(南から)



1. B5区2面全景(西から)



2. B5区2面溝(北西から)



3. B5区2面溝とピット群(北から)



4. B5区2面ピット群(西から)



5. B5区2面ピット群(北から)



1. B 5区2面3・4号溝全景(西から)



2. B 5区2面3・4号溝土層断面(西から)



3. B 5区2面3・4・15号溝土層断面(南から)



4. C 1区2面9号溝全景(北から)



5. C 1区2面9号溝土層断面(南東から)



1. B 5区2面13号溝全景(南から)



2. B 5区2面13号溝土層断面(北から)



3. B 5区2面14号溝土層断面(北から)



4. B 5区2面15号溝、33号土坑土層断面(北から)



5. B 5区2面16号溝全景(北から)



6. B 5区2面19号溝全景(東から)



7. B 5区2面19号溝全景(北西から)



8. B 5区2面3・4・15号溝全景(南から)



1. C 1区2面1号畑全景(西から)



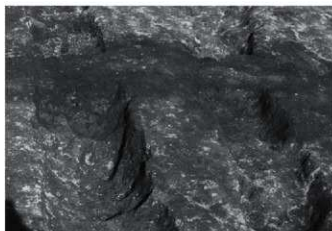
2. C 1区2面1号畑全景(北から)



3. C 1区2面1号畑全景(南から)



4. C 1区2面1号畑土層断面(西から)



5. C 1区2面1号畑土層断面(西から)



1. B4区2面1号井戸全景(南から)



2. B4区2面1号井戸上部全景(西から)



3. B4区2面1号井戸上部土層断面(西から)



4. B4区南部旧流路(西から)



5. B4区南部旧流路(東から)





1. C 1区2面26号土坑全景(北から)



2. C 1区2面26号土坑全景(北から)



3. C 1区2面27号土坑遺物出土状態(西から)



4. C 1区2面27号土坑遺物出土状態(東から)



5. C 1区2面27号土坑遺物出土状態(東から)



1. B 5区2面30号土坑全景(北から)



2. B 5区2面31号土坑全景(北から)



3. B 5区2面31号土坑遺物出土状態(南から)



4. B 5区2面31号土坑遺物出土状態(東から)



5. B 5区2面32号土坑全景(北から)



6. B 5区2面31・32号土坑全景(北西から)



7. B 5区2面34a・b・c号土坑全景(南から)



8. B 5区2面34a・b・c号土坑全景(西から)



1. B 4区2面旧流路左岸全景(南から)



2. B 4区2面77号ピット全景(南西から)



3. B 4区2面78号ピット全景(南から)



4. B 4区2面94号ピット全景(南から)



5. B 4区2面102・103号ピット全景(南から)



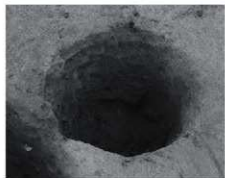
1. B 5区2面112号ピット全景(南から)



2. B 5区2面113号ピット全景(南から)



3. B 5区2面114号ピット全景(南から)



4. B 5区2面115号ピット全景(南から)



5. B 5区2面116号ピット全景(南から)



6. B 5区2面117号ピット全景(南から)



7. B 5区2面118号ピット全景(南から)



8. B 5区2面119号ピット全景(南から)



9. B 5区2面120・121号ピット全景(南から)



10. B 5区2面122号ピット全景(南から)



11. B 5区2面123号ピット全景(南から)



12. B 5区2面124号ピット全景(南から)



13. B 5区2面125号ピット全景(南から)



14. B 5区2面ピット群全景(南から)



15. B 5区2面調査区全景(南から)



1. C 4区2面1号石垣全景(東から)



2. C 4区2面1号石垣断面(南東から)



3. C 4区2面1号石垣上部(南から)



4. C 4区北壁土層断面(南から)



5. C 4区2面調査風景(南東から)



1. B 5区3面調査区全景(南から)



2. B 5区3面全景(北から)



3. B 5区3面全景(南から)



4. B 5区3面調査区北西ピット群(南西から)



5. B 5区3面調査区北西ピット群(西から)



1. C 1区3面12号溝全景(南から)



2. C 1区3面12号溝全景(西から)



3. B 5区3面13号溝全景(南西から)



4. B 5区3面13号溝全景(北東から)



5. B 5区3面13号溝土層断面(南から)



6. B 5区3面18号溝全景(東から)



7. B 5区3面18号溝全景(北東から)



8. B 5区3面18号溝土層断面(南から)



1. B 5区3面1号畦全景(南東から)



2. B 5区3面1号畦全景(北から)



3. B 5区3面1号畦全景(南東から)



4. B 5区3面1号畦全景(北から)



5. B 5区3面1号畦土層断面(南から)





1. B5区3面耕作痕全景(北東から)



2. B5区3面耕作痕検出状況(東から)



3. B5区3面耕作痕検出状況(南から)



4. B5区3面耕作痕検出状況(南から)



5. B5区3面耕作痕検出状況(西から)



6. B5区3面耕作痕検出状況(南から)



7. B5区4面耕作痕検出状況(南から)



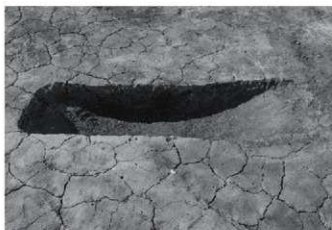
8. B5区3面耕作痕検出状況(西から)



1. B 5区3面耕作痕検出状況(西から)



2. B 5区3面耕作痕検出状況(東から)



3. B 5区3面35号土坑全景(南から)



4. B 5区3面35号土坑土層断面(西から)



5. B 5区3面36号土坑全景(南から)



6. B 5区3面37号土坑全景(南から)



7. B 5区3面38号土坑全景(東から)



8. B 5区3面39号土坑全景(南から)



1. B 5区3面ビット群(南から)



2. B 5区3面190号ビット全景(南から)



3. B 5区3面191号ビット全景(南から)



4. B 5区3面192号ビット全景(南から)



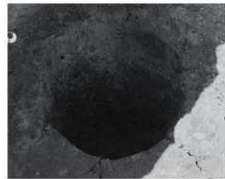
5. B 5区3面193号ビット全景(南から)



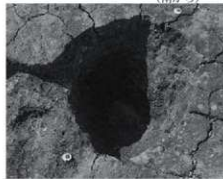
6. B 5区3面194号ビット土層断面  
(南から)



7. B 5区3面195号ビット土層断面  
(南から)



8. B 5区3面195号ビット全景(南から)



9. B 5区3面196号ビット全景(南から)



10. B 5区3面197号ビット全景(南から)



11. B 5区3面199号ビット全景(南から)



12. B 5区3面200号ビット全景(南から)



1. B 5区3面203・260号ピット全景  
(東から)



2. B 5区3面260号ピット礎石出土状態  
(東から)



3. B 5区3面260号ピット礎石出土状態  
(西から)



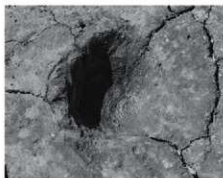
4. B 5区3面204号ピット全景(南から)



5. B 5区3面204号ピット礎石出土状態  
(南から)



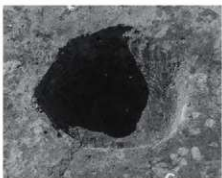
6. B 5区3面205号ピット全景(南から)



7. B 5区3面206号ピット全景(南から)



8. B 5区3面208号ピット全景(南から)



9. B 5区3面224号ピット全景(南から)



10. B 5区3面263号ピット礎石出土状態  
(南から)



11. B 5区3面263号ピット全景(南から)



12. B 5区3面ピット群(東から)



1. B4区4面1号水田全景(西から)



2. B4区4面1号水田全景(南から)



3. B4区4面1号水田畦土層断面(南から)



4. B4区4面北壁土層断面(南から)



1. C 1区4面2号水田全景(北から)



2. C 1区4面2号水田畦検出状況(東から)



3. C 1区4面2号水田畦検出状況(西から)



4. C 1区4面2号水田畦検出状況(南から)



5. C 1区土層断面(北から)



1. B 4区5面全景(北から)



2. B 4区5面全景(南から)



3. B 4区5面全景(西から)



4. B 4区5面10号溝全景(南から)



1. B 4区5面11号溝全景(南から)



3. B 4区5面17号溝全景(北から)



2. B 4区5面11号溝土層断面(西から)



4. B 4区5面17号溝全景(南から)



5. B 4区5面調査区北東部全景(西から)



6. B 4区5面17号溝土層断面(西から)



7. B 4区5面北壁土層断面(南から)





1. B 4区5面遺物出土状態(南から)



2. B 4区5面遺物出土状態(西から)



3. B 4区5面遺物出土状態(北西から)



4. B 4区5面遺物出土状態(西から)



5. B 4区5面遺物出土状態(東から)



1. B 4区5面遺物出土状態(西から)



2. B 4区5面遺物出土状態(南から)



3. B 4区5面遺物出土状態(西から)



4. B 4区5面遺物出土状態(南から)



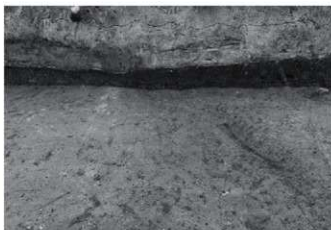
5. B 4区5面遺物出土状態(西から)



6. B 4区5面遺物出土状態(東から)



7. B 4区5面全景(南から)



8. B 4区5面北壁土層断面(南から)



1. B 5区6面全景(北西から)



2. B 5区6面全景(北から)



3. B 5区6面全景(西から)



4. B 5区6面全景(南東から)



5. B 5区6面全景(南から)



1. B 5区6面20～22号溝全景(北西から)



2. B 5区6面20号溝全景(東から)



3. B 5区6面20号溝全景(北西から)



4. B 5区6面20号溝土層断面(南から)



5. B 5区6面21号溝全景(北西から)



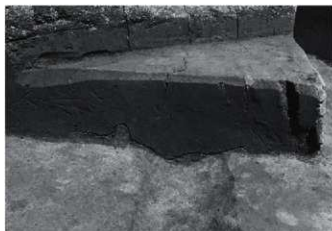
6. B 5区6面21号溝土層断面(南から)



7. B 5区6面21号溝、40号土坑土層断面(北から)



1. B 5区6面22号溝全景(北西から)



2. B 5区6面22号溝土層断面(南西から)



3. B 5区6面遺物出土状態(西から)



4. B 5区6面遺物出土状態(南から)



5. B 5区6面遺物出土状態(北西から)



6. B 5区6面遺物出土状態(南東から)



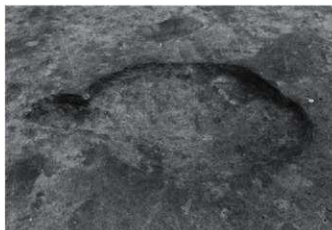
7. B 5区6面21号溝、40号土坑遺物出土状態(北西から)



8. B 5区6面40号土坑全景(南から)



1. B 5区6面41号土坑全景(南から)



2. B 5区6面41号土坑全景(西から)



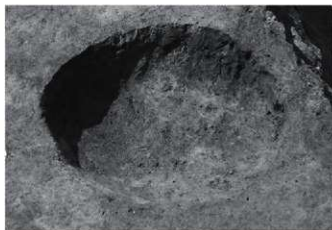
3. B 5区6面278号ピット全景(南から)



4. B 5区6面279号ピット全景(南から)



5. B 5区6面280号ピット全景(南から)



6. B 5区6面281号ピット全景(南から)



7. B 5区6面282号ピット全景(南から)



8. B 5区6面283号ピット全景(南から)



1. B5区トレンチ全景(南から)



2. B5区東トレンチ(南から)



3. B5区中央トレンチ(北から)



4. B5区西トレンチ(北から)



5. B5区東トレンチ遺物出土状態(南西から)



6. B5区西トレンチ遺物出土状態(東から)



7. B5区西トレンチ遺物出土状態(南から)



1. B 5区6面東トレンチ遺物出土状態(南東から)



2. B 5区6面東トレンチ遺物出土状態(南から)



3. B 5区6面東トレンチ遺物出土状態(東から)



4. B 5区6面東トレンチ遺物出土状態(東から)



5. B 5区6面西トレンチ遺物出土状態(東から)



6. B 5区6面西トレンチ遺物出土状態(東から)



7. B 5区6面調査風景(北西から)



8. B 5区土層断面(南から)





1. A 1区調査区全景(南から)



2. B 1区調査区全景(北から)



3. B 2区調査区全景(北東から)



4. B 6区調査区全景(北から)



5. C 1区調査区全景(南から)



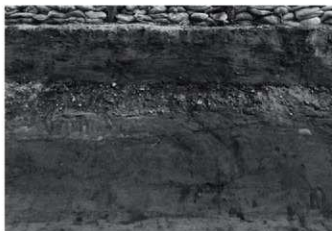
6. C 2区調査区全景(南西から)



7. C 3区調査区全景(西から)



8. C 4区調査区全景(南東から)



1. B 4区土層堆積状況No.2



2. B 4区土層堆積状況No.4



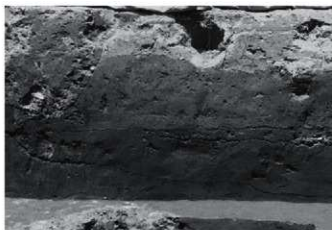
3. B 4区土層堆積状況No.5



4. C 1区土層堆積状況No.9



5. C 1区土層堆積状況No.10



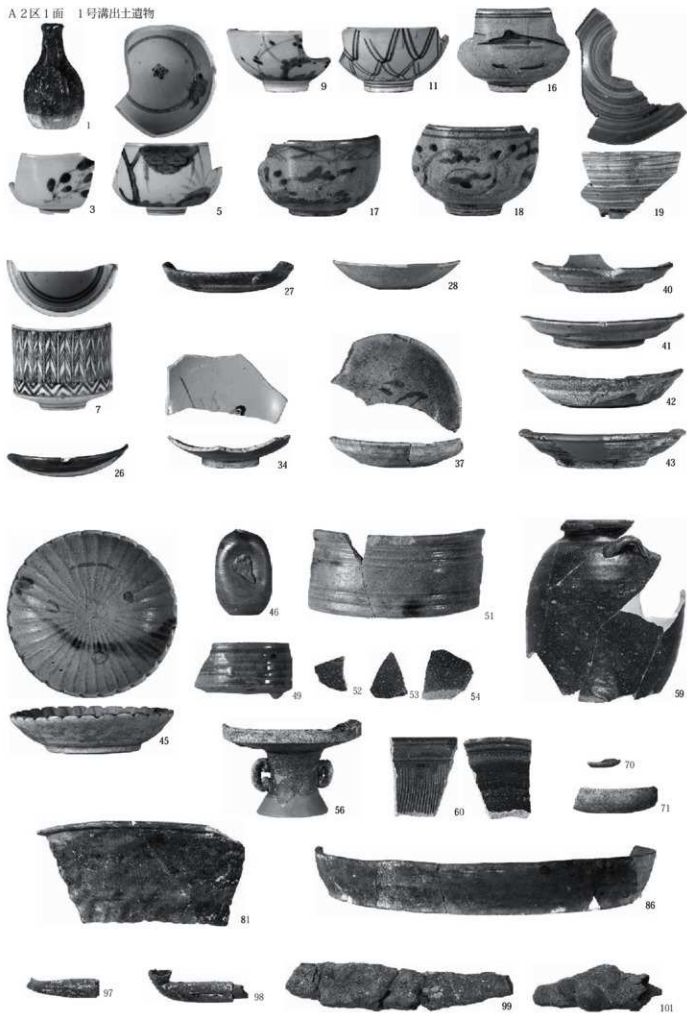
6. C 3区土層堆積状況No.12



7. C 4区土層堆積状況No.13

# PL.48

A 2区 1面 1号溝出土遺物





A 2区 2面 2号溝



A 2区 2面 4号溝出土遺物



1号地下式土坑



2号地下式土坑



A 2区 3面 遺構外出土遺物



A 2区 3面 3号溝



B 4区1面 1号整穴状遗物出土物



B 4区1面 4・6号溝出土物



B 4区1面 2号溝出土物



B 4区1面 2・11・20号土坑出土物



B 4・C 1区1面 遺構外出土物

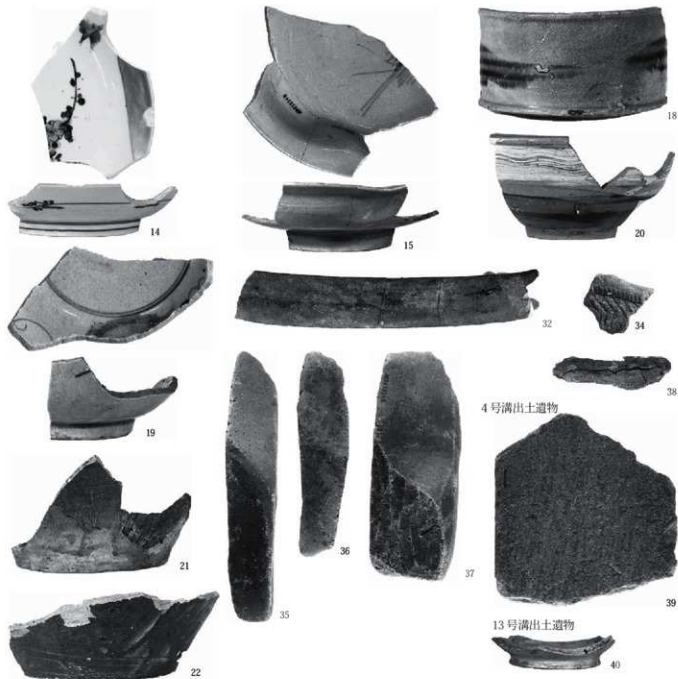


C 1区2面 9号溝出土物



B 5区2面 3・4号溝出土物





B 5・C 1区2面 土坑出土遺物



C 1区2面 1号畑出土遺物





31上-10



31上-11

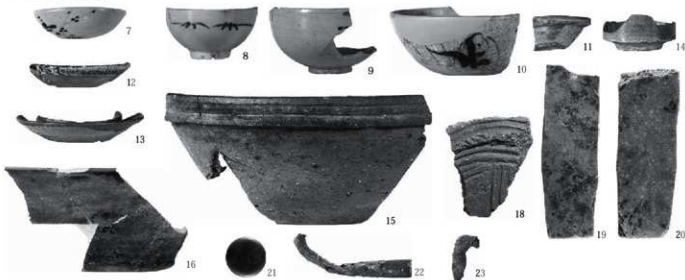


30上-9

B 4区2面出土遺物



B 5区2面出土遺物



24

C 1区2面出土遺物



C 4区2面出土遺物

B 5区3面 260号ピット出土遺物



260ピット-1

C 1区3面遺構外出土遺物



B 6区3面遺構外出土遺物



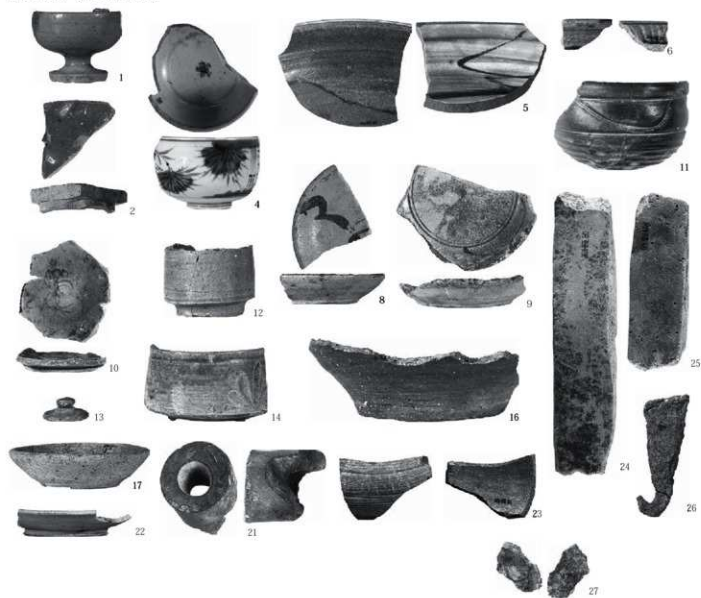
3

B 区4面遺構外出土遺物



1

B 5区3面 道橋外出土遺物



B 4区5面 道橋外出土遺物



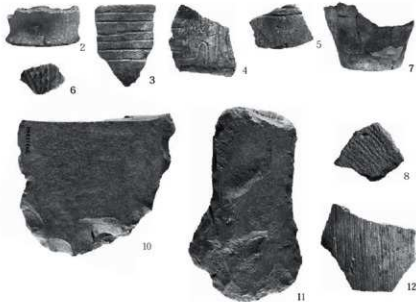


# PL.54

B 5区6面 20号溝出土遺物



B 5・C 1区6面 遺構外出土遺物



## 発掘調査報告書抄録

書名ふりがな	かわばたやましたいせき
書名	川端山下遺跡
副書名	一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	626
編著者名	都木直人
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20170310
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	かわばたやましたいせき
遺跡名	川端山下遺跡(前橋市0903遺跡)
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばししかわばたまち
遺跡所在地	群馬県前橋市川端町
市町村コード	10201
遺跡番号	0903 (旧番号00808)
北緯 (世界測地系)	362603
東経 (世界測地系)	1403627
調査期間	20121201-20130630
調査面積	8031.76
調査原因	道路建設
種別	包蔵地/集落/生産
主な時代	縄文/弥生/古墳/奈良/平安/中世/近世
遺跡概要	縄文時代・弥生時代-溝3+土坑2+ピット6-土器+石器/古墳時代前-溝3-土器/古墳時代-水田2-土器/古代-竪穴住居1+溝4+畦1+耕作痕1+土坑5+ピット88-土器+石器+陶磁器+金属器/中・近世-竪穴状遺構1+溝10+畑1+井戸1+地下式土坑2+土坑11+ピット112+石垣1-土器+石器+陶磁器+金属器+通貨/近世-竪穴状遺構1+溝9+土坑26+ピット72-土器+石器+陶磁器+金属器+鉄滓
特記事項	A区の2号溝から在地系土器の灯台台、2号地下式土坑から吊り金具、A区の1号溝及びB区から前橋藩窯で焼成された陶磁器、C1区27号土坑から南鍔二朱銀形土製品が出土した。
要約	本遺跡は赤城山南西麓の広瀬川低地帯に位置している。細ヶ沢川、大堰川、桃ノ木川などの河川が密集しており、それらの後背湿地上にある。細ヶ沢川旧流路右岸の微高地から中・近世の溝による区画が見つかり屋敷跡と推定される。5世紀洪水層下では水田の畦が確認された。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第626集

## 川端山下遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

---

平成29(2017)年3月3日 印刷

平成29(2017)年3月10日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／朝日印刷工業株式会社

---